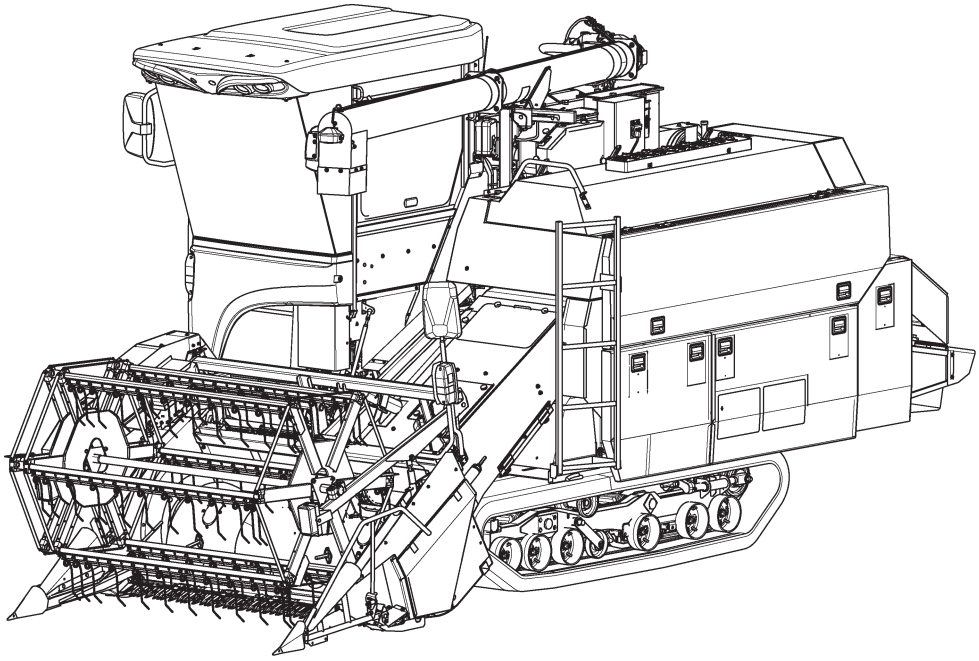
コンバイン

取扱説明書

VCH750A



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

このたびは，コンバインをお買いあげいただき，誠にありがとうございます。

●はじめに

この取扱説明書は，機械の正しい取扱いかたと簡単なお手入れのしかた，また，守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。

ご使用まえに，この取扱説明書をよくお読みいただき，安全で快適な作業をしてください。

・お読みになった後も身近な所に保管し，いつでも読めるようにしてください。（保管場所は５ページ参照）
・また，この機械を貸与または譲渡される場合は，この取扱説明書を機械といっしょにお渡しください。

・本書では，安全上重要な事項を⚠で示し，つぎのように表示しています。必ず守ってください。

⚠危険	**その警告に従わなかった場合は，死亡または重傷を負うことになるものを示します。**
⚠警告	**その警告に従わなかった場合は，死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。**
⚠注意	**その警告に従わなかった場合は，ケガを負うおそれのあるものを示します。**

・なお，この機械の品質・性能向上あるいは安全のために，使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容，およびイラストなどの一部が機械と一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ねがいます。

●機械の使用目的について

・機械は稲・麦の他に，大豆・小豆・そばなど適応作物（作物別調整表（Aページ）参照）収穫作業に使用してください。
・上記作業以外には，使用しないでください。
・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造した場合は，保証の対象になりません。（詳細は，保証書をご覧ください。）

作物別調整表

	稲	麦	大豆	そば	なたね	はと麦	飼料用トウモロコシ
ロータ回転数	高速(710rpm)	高速(710rpm)	低速(310rpm)	低速(310rpm)	低速(310rpm)	高速(500rpm)	高速(500rpm)※
ロータ拡散板	閉	開	開	閉	閉	閉	閉
トウミファン回転数	950rpm(内側ライナ3枚)	950rpm(内側ライナ3枚)	900rpm(内側ライナ2枚)	900rpm(内側ライナ2枚)	850rpm(内側ライナ1枚)	950rpm(内側ライナ3枚)	950rpm(内側ライナ3枚)
送じんガイド角度	4	4	7	8	8	6	4
チャフシーブ開度	5	3	4～6	4	3	7	10
揺動グレンシーブ	18Pクリンプ網	18Pクリンプ網	パンチングφ12	パンチングφ9	パンチングφ9	18Pクリンプ網	パンチングφ12
受網	クリンプ18P+25P	クリンプ18P+25P	格子網(標準)	格子網(そば)	前：クリンプ25P 後：格子網(標準)	クリンプ18P+25P	前：格子網(標準)+コーンキット 後：格子網(標準)
一番底板掃除フタ	スリット無し	スリット無し	スリット有り	スリット無し	スリット無し	スリット無し	スリット無し
二番底板掃除フタ	スリット無し	スリット無し	スリット有り	スリット無し	スリット無し	スリット無し	スリット無し
一番タッチ部掃除フタ	スリット無し	スリット無し	スリット有り	スリット無し	スリット無し	スリット無し	スリット無し
二番タッチ部掃除フタ	スリット無し	スリット無し	スリット有り	スリット無し	スリット無し	スリット無し	スリット無し
グレンタンク底板掃除フタ	スリット無し	スリット無し	スリット有り	スリット無し	スリット無し	スリット無し	スリット無し
排出縦パイプフタ	スリット無し	スリット無し	スリット有り	スリット無し	スリット無し	スリット無し	スリット無し
プラットホームオーガと底板のスキマ	6～8	6～8	12～15	6～8	6～8	8～10	6～8
プラットホームオーガ回転数	182rpm(スプロケット歯数38)	182rpm	182rpmまたは141rpm(スプロケット歯数49)※	182rpm	182rpm	182rpm	182rpm
フィーダハウス底板	スリット無し	スリット無し	スリット有り	スリット無し	スリット無し	スリット無し	スリット無し
プラットホーム底板	スリット無し	スリット無し	スリット有り	スリット無し	スリット無し	スリット無し	スリット無し
ビーンスラット	無	無	有※	無	無	無	無
刈刃	3インチ	3インチ	3インチまたは2インチ※	3インチ	3インチ	3インチ	3インチ
フロートセンサ	作業	作業	収納	収納	収納	収納	収納
延長フィン開度	ー	ー	中間	閉	ー	ー	閉

[注意]

・上表は調整の目安です。実際の刈取り条件に合わせて微調整を行ってください。

・大豆，そば，なたね，はと麦，飼料用トウモロコシの収穫には専用キットが必要になります，その場合には各キット付属の取扱説明書を参照してください。

・２番還元位置については，作物の損傷粒が多い場合，ビール麦，大麦など発芽率を高めたい場合には２番還元を揺動還元にします。(50ページ参照)

・※は別売キット品です。

こんなとき，こんなことが知りたいとき，ここを見てください！

この取扱説明書は，つぎのように構成されています。まず，**安全作業のために**からお読みいただき，基本事項から操作，点検まで機械の正しい取扱いかたを理解してください。

安全作業のために　安全な作業をするための注意事項は？

安全な作業をしていただくために，安全に関する基本事項，表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）について説明しています。よく読んで必ず守ってください。

ご使用まえに　使用前に知っておかなければならないことは？

機械の概要「**仕様（装備）**」などについて説明しています。

各部のはたらき　各部のはたらきを知るには？

各部の主な名称，操作レバー，装置の取扱いを説明しています。

運転のしかた　コンバインを動かすには？

運転前の点検：作業前の点検項目と内容について説明しています。必ず実施してください。
運転操作のしかた：エンジンの始動，走行のしかた，自動車への積込み・積降ろしのしかたなどを説明しています。

作業のしかた　収穫作業を行うには？

コンバイン作業の基本操作を説明しています。作物の条件やほ場条件にあった機械の調整をして，上手な収穫作業をしてください。

自動装置について　自動装置を使用して作業するには？

各自動装置の取扱いについて説明しています。

キャビンについて　キャビン仕様機の取扱いは？

各装置の取扱いについて説明しています。

手入れのしかた　機械を長もちさせるには？

機械をいつも正常な状態に保つために，手入れのしかたについて説明しています。
「**定期点検整備表**」に従って保守，点検してください。

長期格納のしかた　機械を３ケ月以上格納するときは？

機械を長期に格納するときの手入れのしかたについて説明しています。

不調時の処置　故障かなと思ったら？

作業中のトラブルや不調，異常を感じたときはすぐ原因を調べ処置してください。

付　　表　諸元・関連部品は？

機械に係る諸元表・消耗部品などを一覧表で説明しています。

もくじ

安全作業のために……(安-1)～(安-24)

（安全作業説明編）

ご使用まえに……1

1．保証とサービスについて…… 1
2．仕様（装備）について…… 2
3．用語について…… 3
4．小型特殊自動車について…… 4
1．小型特殊自動車の届出…… 4
5．公道走行について…… 4
1．運転免許…… 4
2．公道を走行するとき…… 4

各部のはたらき……5

1．各部の名称…… 5
2．運転装置の取扱い…… 6
1．スイッチ・計器関係…… 6
2．ペダル・レバー・ステップ関係……19
3．アクティブタッチパネルについて……27
4．スライドタッチ操作について……27
5．機能について……28
6．モニタの取扱い……32

運転のしかた……34

1．運転まえの点検……34
2．エンジンの始動と停止……36
1．エンジン始動のしかた……36
2．エンジン停止のしかた……36
3．DPF（ディーゼル・パティキュレート・フィルタ）装置のはたらきと取扱い……37
3．走行・停車のしかた……40
1．走行のしかた……40
2．停車のしかた……42
4．自動車への積込み・積降ろし……42
1．自動車・アユミについて……43
2．機械の積込み要領……44
3．４ｔトラックへの積込み……44
5．ほ場への出入り……44
1．ほ場への出入りのしかた……44

作業のしかた……45

1．作業まえの準備……45
1．作物の条件について……45
2．ほ場の条件について……45
3．ほ場の準備……45
4．機械の準備……46
2．刈取り作業のしかた……52
1．刈取り操作の手順……52
2．刈取り手順……53
3．強制かき込みスイッチの取扱い……58
4．倒伏刈スイッチの取扱い……58
5．リフトシャットの取扱い……59
6．こく粒の排出操作方法……59
7．グレンタンク補助樋口の取扱い……64
8．夜間作業……64
9．エンジン自動停止の取扱い……65
10．刈取り作業終了後の取扱い……66
11．警報装置について……68

自動装置について……70

1．刈高さポジションコントロール……70
1．運転装置……70
2．自動での作業のしかた……70
3．手動での作業のしかた……71
2．水平自動制御……72
1．運転装置……72
2．自動での作業のしかた……72
3．リール回転自動制御……73
1．運転装置……73
2．自動での作業のしかた……73
4．選別自動制御……73
1．運転装置……73
5．排出オーガ自動制御……75
1．運転装置……75
6．送じん量自動調節……76

キャビンについて……78

1．各部の名称……78
2．各部の取扱い……79

1．ドア・ウインドウの開閉のしかた……79
2．スイッチ類の取扱い……81
3．室内装備の取扱い……82
4．エアコン……82
5．格納のしかた……85

手入れのしかた……86
1．定期点検整備……86
「定期点検整備表」……86
2．給油・注油・給水のしかた……88
「給油・注油・給水表」……89
1．燃料の補給……90
2．エンジンオイル・オイルフィルタの点検・交換…91
3．ラジエータ冷却水の点検・交換……93
4．トランスミッションケースのオイル点検・交換…95
5．油圧作動油の点検・交換および油圧オイルフィルタ・HST(走行)オイルフィルタの交換…96
6．ロータギヤケースのオイル点検・交換…98
7．刈刃駆動ケースのオイル交換……98
8．グレン入力ギヤケースのオイル点検……99
9．ウォッシャタンク……99
10．冷媒（ガス）……99
11．給脂箇所…… 100
12．各部の注油…… 101
3．各部の点検と掃除のしかた…… 103
1．ラジエータ吸気部の掃除…… 103
2．エアクリーナの掃除…… 104
3．排気装置（DPF・排気管）の掃除…… 104
4．エアコンフィルタの掃除…… 105
5．燃料フィルタ・セジメンタの掃除・交換・エア抜き…… 106
6．ヒューズの交換…… 108
7．電気配線の点検と掃除…… 111
8．バッテリの点検と充電…… 111
9．各部の開閉と脱着のしかた…… 116
10．各部の掃除のしかた…… 129
11．各部の点検と整備のしかた…… 134
12．チョッパスプレッダの点検・整備のしかた… 140
「レバー・ペダルの点検・調整」
1．走行クラッチペダル・駐車ブレーキ… 141
2．脱こく・刈取クラッチ…… 142
「各部チェンの点検・調整」
3．リール変速入力チェン…… 143
4．プラットホームオーガ駆動チェン…… 143
5．リール駆動チェン…… 144
6．ヘッダ駆動チェン…… 144
7．フィーダチェン調整…… 145
8．１番バケットコンベアチェン・２番スラットコンベアチェン…… 146
「ベルトの点検・調整」
9．走行ベルト…… 147
10．コンプレッサ…… 147
11．エンジンファンベルト（オルタネータ）… 148
12．エンジンファンベルト…… 148
13．リール変速ベルト…… 149
14．刈刃駆動ベルト…… 150
15．脱こく駆動ベルト…… 150
16．脱こくカウンタベルト…… 150
17．１番上方横ラセン駆動ベルト…… 151
18．ロータ駆動ベルト…… 151
19．トウミ駆動ベルト…… 151
20．セレクションファン駆動ベルト…… 152
21．１番ラセン駆動ベルト…… 152
22．選別ベルト…… 152
23．グレン入力ベルト…… 153
24．グレンタンク横ラセン駆動ベルト…… 153
25．スプレッダ駆動ベルト…… 154
「クローラの点検・調整」
26．クローラ…… 155

長期格納のしかた……156
1．機械の掃除と洗浄…… 156
2．錆止めと注油…… 156
3．エンジンの手入れ…… 156
4．点検・整備…… 156
5．格納…… 157
6．再使用にあたって…… 158

不調時の処置……159
1．エンジン部…… 159

２．走行・運転操作部…… 161
３．電気・自動制御部…… 163
４．ヘッダ部（刈取部）…… 164
５．脱こく部…… 165
６．グレンタンク部…… 169
７．キャビン部…… 170

付　　表 ……171
１．主要諸元…… 171
２．ベルト一覧表…… 172
３．主な消耗部品…… 173
４．付属品一覧表…… 175
５．アタッチメント（別売り）…… 175
６．潤滑油について…… 176
　１．エンジンオイル…… 176
　２．油圧作動油…… 176
　３．ギヤオイル…… 176
　４．グリス…… 176
　５．防錆・潤滑油…… 176
７．専門用語…… 177

（安全作業説明編）

安全作業のために

ページ

1．安全作業のしかた……（安-1）

⚠作業前につぎのことを守りましょう！……（安-1）

⚠安全作業のポイント……（安-2）

⚠作業前の一般的な注意事項……（安-4）

⚠点検・整備および掃除をするときは……（安-5）

⚠エンジンを始動するときは……（安-9）

⚠路上走行をするときは……（安-10）

⚠自動車への積込み・積降ろしをするときは……（安-12）

⚠ほ場で作業をするときは……（安-14）

⚠１日の作業が終わったら……（安-17）

⚠長期格納するときは……（安-18）

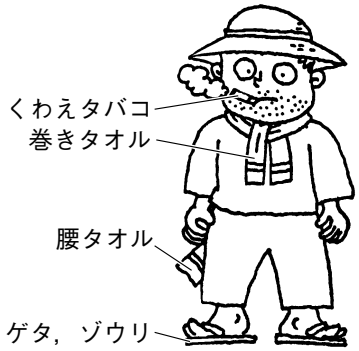
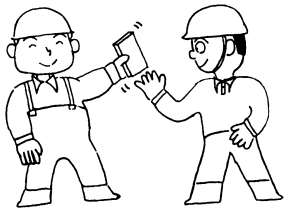
2．表示ラベルについて……（安-19）
（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）

安全作業のために

1．安全作業のしかた

・安全上の重要な事項を，⚠危険 ⚠警告 ⚠注意 の３段階に分類して説明していますので，よく読んで理解し，安全作業に努めてください。
・なお，この項の安全作業の説明は，**コンバイン全般**についてのものです。これ以外にも本文の中でも同様に説明していますので，よく読んで必ず守ってください。
・本書およびラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。

⚠ 作業前につぎのことを守りましょう！

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆このような人は，運転しないでください。 ●酒気を帯びた人 ●妊娠している人 ●16才未満の人 ●指導者のいない運転未熟練者 ●過労・病気・薬物の影響，その他の理由により，正常な運転操作ができない人 ◆運転する人は，健康に気をつけて適当な睡眠と休憩をとってください。	誤操作しやすく思わぬ事故を起こすことがあります。  V001
⚠警告 ◆作業に合ったキチンとしたものを着用してください。  V002	このような服装は，衣服が回転部に巻込まれたり，足を滑らせたりして，思わぬ事故を起こすことがあります。  V003
⚠警告 ◆機械を他人に貸す場合は，取扱説明書も合わせて貸して，安全な作業ができるよう説明してください。  V004	借りた人が不慣れなため，思わぬ事故を引起こすことがあります。

⚠安全作業のポイント


V005

●取扱説明書，機械のラベルをよく読んでから運転をする。

始業・点検　準備点検

●平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する。
●機械に貼ってあるラベルがなくなったり，汚れたりして読めなくなったら，新しいラベルに貼り替える。
●エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲を掃除する。
●バッテリコードや電気配線，燃料ホースを点検する。
●給油，冷却水の点検は，エンジンが冷えているときに行う。
●燃料補給時は，エンジンを停止し，火気を近づけない。
●方向指示器などの保安部品およびランプ，液晶ディスプレイの作動を確認する。
●ヘッダ部を上げて掃除や点検をするときは，油圧を固定してヘッダ部の下に固定脚を置く。
●機械は改造しない。
●機械の制御系に影響を与える可能性があるので，業務用無線やアマチュア無線などの無線機器を設置しない。

エンジン始動

●始動前にすべてのカバーを取付ける。
●駐車ブレーキをかけ，各操作レバーを《中立》または《切》にする。
●屋内で始動するときは，窓や戸を開けて換気をする。
●機械の周囲から人を遠ざける。
●エンジンの始動は，シートに座って行う。
●始動のときは，周囲の人に「合図」をする。

走行・運転

●ヘッダ部のデバイダを取外す。
●ナローガイド，排出オーガを収納する。
●機械に子供など，人や物を乗せない。
●走行する前に，グレンタンク内のこく粒をすべて排出する。
●発進時は，周囲を確かめる。
●走行時の旋回は，低速で行う。
●後進時は，後方を確認する。
●急発進，急ブレーキ，急旋回はしない。
●わき見運転や手放し運転をしない。
●パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《切》にする。
●運転中は子供など，人を機械に近づけない。

道路（公道）走行

●運転免許証を携帯し，交通法規を守る。
●取扱説明書で指定された作業機以外は取外す。
●前後左右を確認し，低速車線を走る。
●夜間走行は，前照灯をつける。（作業灯は消す）
●走行中に飛び乗り，飛び降りはしない。

狭い農道・凸凹道・坂道の走行

●速度を落として走行する。
●対向車を避けるとき，端に寄りすぎない。
●軟弱な路肩や草が生い茂っている所は，走行しない。
●急な坂道でのギヤ変速操作はしない。
●下り坂では，速度を下げて走行する。
●急傾斜地は，走行しない。
●坂道での旋回は，低速で行う。

停車・駐車

●平坦な場所でヘッダ部を下げて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する。
●副変速レバーを《標準》に入れる。
●傾斜地では，駐車しない。
（やむを得ず駐車するときは，車止めをする）
●機械を離れるときは，スタータスイッチよりキーを抜取る。

自動車への積込み・積降ろし

- アユミはじゅうぶんな強度，長さ（荷台の高さの４倍以上），幅（クローラが外れない幅）すべり止め，フック付きを使用する。
- アユミは自動車の荷台に平行にかけ，フックが外れないことを確認する。
- 周囲を確認し，機械の周囲には人を近づけない。
- パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチは《切》にする。
- 積込みは前進，積降ろしは，後進で低速で行う。
- アユミの上では，進路変更や変速操作をしない。

ほ場作業　ほ場の出入り

- グレンタンク内のこく粒を排出して行う。
- 副変速は，《標準》であぜに対して直角に行う。
- あぜ，溝，急傾斜を越すときはアユミを使用して行う。
- あぜがくずれないことを確認しゆっくり行う。

ほ場での作業

- エンジン始動，クラッチ《入》の前には周囲を確認する。
- 刈取り作業は，機械の周囲に子供など，人を近づけない。
- 旋回時は，周囲の状況を確認し，低速で行う。
- 排出オーガの排出口内に手を入れない。
- 排出オーガの操作は，運転席から周囲の安全をよく確認してから行う。
- 運転走行中の乗り降りはしない。
- 過労にならぬようゆとりをもって，作業の間に休憩を入れる。
- あぜ際での旋回時は周囲を確認する。

手こぎ作業

- 手刈りしたものは，プラットホームに投げ込まない。

作業途中の点検

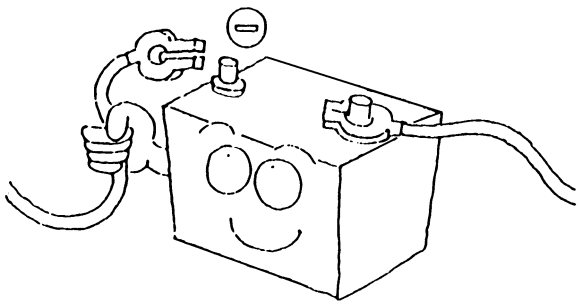
- 平坦な場所でヘッダ部を下げ，駐車ブレーキをかけてエンジンを停止する。
- 詰まりなどの異常時には，エンジンを停止して行う。
- グレンタンクを回動したときは，ストッパをかける。
- ハシゴを使用するときは，エンジンを停止して各部の回転が止まったことを確認してから使用してください。
- 走行中および作業中には，ハシゴは使用しないでください。
- ハシゴを使用しているときは，ロータサイドカバーを開閉しないでください。
- ハシゴを使用するときに，靴底に泥がついていますと滑り易くなりますので、注意して使用してください。
- ハシゴを使用し，ロータカバー上部で作業をするときは，保護具を着用し，必要に応じて，安全帯，転落防止などの処置をしてください。
- チョッパスプレッダをオープンしたときは，ストッパをかけ，安全カバーを装着します。
- 取外したカバー類は，すべて取付けて作業を始める。

終業・格納　１日の作業が終わったら

- 平坦な場所に置き，ヘッダ部を下げ，駐車ブレーキをかけて車止めをする。
- スタータスイッチよりキーを抜取る。
- エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲を掃除する。
- マフラやラジエータなどは冷えるまで直接触れない。
- シートカバーはエンジンが冷えてからかける。

長期格納

- １シーズンごとに定期点検をする。
- 燃料コックを閉じる。
- バッテリコードの「㊀側」を外すか，バッテリを取外す。
- 平坦な場所でヘッダ部を下げ，駐車ブレーキをかけて，クローラに車止めをする。



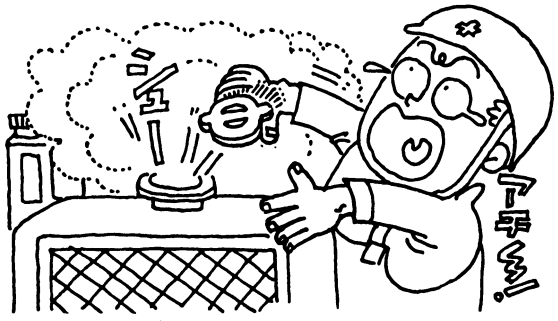
V008

⚠ 作業前の一般的な注意事項

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆機械を適応作物（稲，麦，大豆など）の収穫作業以外の用途には，使用しないでください。	思わぬ傷害事故を引起こす原因になります。
⚠警告 ◆機械は，改造しないでください。	機械の機能に悪影響を与えるだけでなく，人身事故の原因となることがあります。
⚠警告 ◆毎日の運転まえには，「運転まえの点検表」の項目を点検し，異常があれば整備してから運転してください。 ◆1年ごとに定期点検整備を行い，各部の保守を行ってください。	整備不良のまま使用すると，思わぬ事故を引起こす原因となります。
⚠警告 ◆屋内での始動は，窓や戸を開けて換気してください。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠状態になって脳障害になったり死亡することがあります。

⚠ 点検・整備および掃除をするときは……

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆燃料補給時は，くわえタバコなど火気を近づけないでください。 ◆燃料を補給したときは，燃料キャップを確実に締め，こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。 ◆エンジン回転中や，エンジンが熱い間は給油，注油をしないでください。 ◆燃料ホースの破損や燃料漏れがないか，点検してください。 ●燃料ホースは２年ごとに交換してください。	燃料などに引火し，火傷や火災の原因となることがあります。
⚠警告 ◆平坦な場所で駐車ブレーキをかけて，エンジンを停止し，各部の回転が止まってから行ってください。	機械が動き出し，思わぬ事故を起こすことがあります。
⚠警告 ◆ラジエータが熱いときは，ラジエータキャップを開けないでください。 ●ラジエータキャップを開ける場合は，エンジンを停止しエンジンが冷えてからラジエータキャップを開ける。 ●冷却水の点検は，補助タンクで行う。	熱湯が吹きだし，火傷することがあります。  V016
⚠警告 ◆ヘッダ部を上げて，作業をするときは，油圧を固定してヘッダ部の下に固定脚を置く。 ●作業前にエンジンを必ず停止して，駐車ブレーキをかけてください。	機械にはさまれて，思わぬ傷害事故を起こすことがあります。

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠危険 ◆バッテリの点検時，火気（タバコ・ライターなど）を近づけないでください。	バッテリから水素ガスが出ますので，引火により爆発して死亡するおそれがあります。  V017
⚠危険 ◆バッテリ液を身体や服に付けないようにしてください。 ◆バッテリ液が，目，皮ふ，衣服，物についたときは，すぐに多量の水で洗い，飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲んでください。目に入ったときや飲み込んだときは医師の診断を受けてください。	バッテリ液（希硫酸）で服が破れたり，死亡するおそれがあります。  V018
⚠危険 ◆バッテリ端子からコードを取外すときは，㊀側を先に取外してください。取付けは㊉側を先に取付けてください。 ●バッテリは，指定されたバッテリを使用してください。 ◆㊉，㊀を逆に接続しないでください。	ショートして，火傷や火災の原因となります。
⚠警告 ◆ハシゴを使用するときは，エンジンを停止して各部の回転が止まったことを確認してから使用してください。 ◆走行中および作業中には，ハシゴは使用しないでください。 ◆ハシゴを使用しているときは，ロータサイドカバーを開閉しないでください。 ◆ハシゴを使用するときに，靴底に泥がついていますと滑り易くなりますので，注意して使用してください。 ◆ハシゴを使用し，ロータカバー上部で作業をするときは，保護具を着用し，必要に応じて，安全帯，転落防止などの処置をしてください。	思わぬ傷害事故を引起こす原因になります。

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆電気配線が他の部品に接触していないか，剥れや接合部のゆるみやガタがないかを点検してください。 ◆クランプや固定金具のゆるみがないか点検してください。	火災事故を引起こすことがあります。
⚠警告 ◆エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲にワラクズやゴミなどが付着していないか，作業前に点検して，付着していれば取除いてください。 ◆ベルトカバー内のワラクズを取除いてください。	火災の原因となることがあります。
⚠警告 ◆方向指示器などの保安部品の作動確認は機械を動かす前に行ってください。	交通事故を引起こす原因となります。 
⚠警告 ◆マルチステアリングレバーの効き具合や，片効きなどがないか点検し，異常であれば「お買いあげ先」で整備を受けてください。	正常な走行ができず，事故を引起こす原因となります。 V013

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆油圧関係の部品を点検したり取外す前に，エンジンを停止し，油圧リフト部をいっぱい下げた状態にして，残圧を抜いてから作業をしてください。 ◆もし，高圧噴油に触れたら，直ちに医師の診断を受けてください。	圧力がかかって噴出した油は，皮ふに浸透し傷害の原因になります。 油が皮ふに浸入した場合，取除かないと壊疽（えそ）になるおそれがあります。
⚠警告 ◆刈刃やチョッパスプレッダの切断刃・受刃を調整・交換するときは，厚手の手袋を着用し，直接刃先に触らないでください。	刃先で傷害事故を起こすことがあります。
⚠注意 ◆点検・整備などで外したカバーなどは，すべて取付けてください。	機械に巻込まれたりして，傷害事故を起こすことがあります。
⚠注意 ◆排出オーガの作動確認は，周囲にゆとりのある広い場所で行ってください。 ●屋外では電線などに引っかけないでください。	屋内などの狭い場所で旋回すると，排出オーガの先端で電灯などを引っかけて損害事故を起こすことがあります。

⚠ エンジンを始動するときは……

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気をしてください。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠状態になって脳障害になったり死亡することがあります。
⚠警告 ◆駐車ブレーキをかけてください。 ◆変速を《中立》にしてください。 ●変速レバーが《中立》になっているか手で動かして確認してください。 ●周囲を確認し，合図してから始動してください。 ◆取外したカバーなどは，すべて取付けてください。 ◆パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《切》にしてください。	変速やクラッチが入っていると機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。
⚠警告 ◆始動は，運転席のシートに座って行ってください。	機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。
⚠警告 ◆暖機運転は，駐車ブレーキをかけ，主変速，副変速を《中立》，パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《切》にして行ってください。	急に発進したりして思わぬ事故の原因となります。

⚠ 路上走行をするときは……

必 ず 守 っ て く だ さ い	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆路上走行時は，交通法規を守り，ヘルメットを着用してください。 ●夜間の走行は，前照灯をつけ，作業灯は消してください。	思わぬ傷害事故の原因となります。  V029
⚠警告 ◆子供など，人や物を機械に乗せないでください。 ●荷物は，別の自動車（運搬車）などで運んでください。	思わぬ事故を引起こす原因となります。
⚠警告 ◆発進するときは，機械の周囲から人を遠ざけて，低速で発進してください。 ●前後，左右の確認をし，わき見運転はしないでください。	傷害事故を引起こす原因となります。
⚠注意 ◆路上走行するときは，ヘッダ部のデバイダを取外し，ナローガイド，排出オーガを収納してください。 ◆パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチが《切》になっていることを確認してください。 ●急発進，急ブレーキ，急旋回はしないでください。 ◆取扱説明書で指定された作業機以外は，取外してください。 ◆ヘッダ部先端を40㎝程度上げます。 ◆グレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。	思わぬ事故を引起こす原因となります。

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆道路の端には，寄りすぎないようにしてください。 ◆対向車を避けるとき，端に寄りすぎないでください。 ◆軟弱な路肩や草が生い茂っている所は，走行しないでください。 ◆雨天，雨あがりのときは，低速で慎重に走行してください。 ◆凸凹道路，下り坂は速度を落とし，慎重に走行する。	路肩が崩れ，横転事故を引起こすことがあります。
⚠警告 ◆坂道の途中で走行クラッチを切ったり変速レバーを操作しないでください。 ●坂の手前で一旦停止して，副変速を《標準》に入れ変えてから，登り降りしてください。 ◆坂道での斜め走行や旋回はしないでください。 ◆急傾斜地を走行しないでください。	エンジンブレーキがきかず思わぬ事故を引起こすことがあります。
⚠警告 ◆坂道では駐車しない。やむを得ず坂道の途中で駐車するときは駐車ブレーキをかけて，エンジンを停止し，木片などで車止めをしてください。 ●ヘッダ部は下げておいてください。 ●機械から離れるときは，スタータスイッチからキーを抜取ってください。	機械が動き出し，事故の原因となることがあります。
⚠警告 ◆業務用無線やアマチュア無線などの無線機器は機械の制御系に影響を与える可能性がありますので機械に設置しないでください。	思わぬ事故を引起こすことがあります。

⚠ 自動車への積込み・積降ろしをするときは……

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆積載重量が自動車の最大積載量を超えない車で，かつ荷台から機械がはみ出さない車を使用してください。 ●自動車は駐車ブレーキをかけエンジンを停止し変速を１速か後進に入れ，タイヤに車止めをしてください。 ◆アユミはじゅうぶんな強度，長さ，幅のある基準に合ったすべり止め，フック付きを使用してください。 ●アユミの幅は，クローラ幅に合ったものを使用してください。	アユミが折れたりして，転倒事故を起こすことがあります。
⚠警告 ◆アユミを機械のクローラ間隔に合わせ，自動車の荷台に平行に真っ直ぐにかけてください。 ●荷台にアユミのフックをかけ，外れないことを確認してください。	
⚠警告 ◆グレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。 ◆積込みは前進，積降ろしは後進で副変速は《標準》で行ってください。 ◆水平切替スイッチを「切」にして，機械を一番下げた状態で行ってください。	転倒のおそれが増し，傷害事故の原因となります。
⚠警告 ◆アユミの上では，進路変更や変速操作をしないでください。 ●機械をアユミに対して真っ直ぐに止め，左右のクローラがアユミの中央にあることを確認し，アユミの途中で機械を止める必要がないようにしてください。	急旋回したり，急降下したりして転倒事故を起こすことがあります。

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆補助者立合誘導のもとに行ってください。機械の周囲に子供など，人を近づけないでください。	転倒事故に巻込まれるおそれがあります。
⚠警告 ◆自動車の荷台の上では，ヘッダ部を床に当たるまで降ろして駐車ブレーキをかけてください。 ●副変速レバーを《標準》位置にしてください。 ◆所定の［ロープ掛けフック（４箇所)］にロープをかけてしっかり固定してください。 ●車止めをしてください。	機械が動き出し，事故の原因となることがあります。
⚠警告 ◆自動車での輸送時には機械の各カバーを固定してください。 ●カバー類などは風圧で破損，脱落のおそれがありますので，確実に固定するか，外して荷台に置いてください。	輸送中にカバー類が脱落し，思わぬ事故の原因となることがあります。
⚠警告 ◆輸送中の急発進，急ブレーキ，急旋回はしないでください。	輸送中に機械が動き，思わぬ事故の原因となることがあります。

⚠ほ場で作業をするときは……

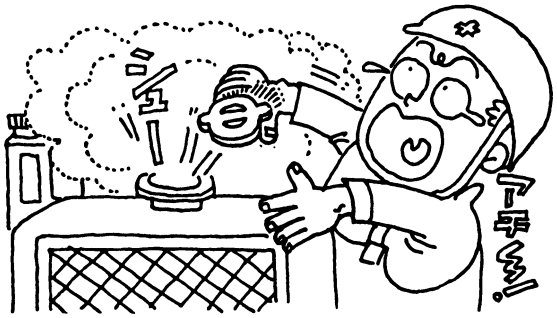
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆10㎝以上のあぜ，溝，10度以上の急傾斜のあるほ場への出入りはアユミを使ってください。 ●アユミ上では，進路変更しない。 ●グレンタンク内のこく粒を排出して行う。	バランスを崩して，転倒事故を引起こすことがあります。
⚠警告 ◆あぜ越えは，副変速を《標準》にして，あぜに直角に横切るようにしてください。 ●あぜが崩れないことを確認して行ってください。	転倒事故を引起こすことがあります。
⚠警告 ◆補助者との共同作業が多いので，作業前によく打合わせをしてください。 ●エンジン始動や発進するとき，パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを入れるときは，ホーンで合図してください。 ◆作業時の旋回は，低速で行ってください。 ●旋回するときは，周囲を確認し，低速で行ってください。 ●機械の周囲に人を近づけない。	傷害事故の原因となります。
⚠警告 ◆手刈りしたものをプラットホームに投げ込まないでください。	回転する刃やリールに巻込まれ，傷害事故を引起こすことがあります。
⚠警告 ◆ヘッダ部の下にもぐったり，手足を突っ込まないでください。	機械にはさまれて，思わぬ傷害事故を起こすことがあります。
⚠警告 ◆夜間作業をするときは，作業灯を使用してください。 ●夜間作業をするときは，作業灯を点灯し周囲が確認できる状態で作業してください。	周囲の状況がわかりにくく，思わぬ事故を引起こす原因となります。

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆詰まりの除去をするときは，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行ってください。 ◆ロータやチョッパスプレッダに詰まったワラなどを取除くときは，厚手の手袋を着用して少しずつ取除いてください。 ◆素手で刃先には触らないでください。	傷害事故を引起こすことがあります。
⚠警告 ◆補助者は作業中にワラの巻付き，詰まりを取除かないでください。 ◆補助者は，機械に近づくとき運転者に合図をして，確認を取ってください。 ◆人が機械の近くにいないことを確認してからエンジン始動，パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ操作をしてください。 ◆チョッパスプレッダでの事故が一番多く発生していることを，作業者は認識しておいてください。 ◆エンジンが作動中は，チョッパスプレッダのそばに手・足・衣服を近づけないでください。 ◆補助者に，機械の機構，運転や操作のしかたをよく知らせておいてください。 ◆作業中は機械に人を近づけないでください。 ◆運転者は，常に補助者の状態を確認しながら作業をしてください。 ●特に，チョッパスプレッダや搬送部・脱こく部・ヘッダ部付近には作業中は近づかない。 ◆ワラなどの巻付き・詰まりなどが発生しても，作動中は手を出さないでください。 ◆運転者と補助者は常に「合図」し合いながら作業をしてください。	傷害事故を引起こすことがあります。

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆作業中にカマなどを使って，脱こく部やチョッパスプレッダの掃除をしないでください。 ●チョッパスプレッダにワラが巻付いても，回転中は掃除をしないでください。チョッパスプレッダのカバーを開閉するときはエンジンを停止してください。 ◆チョッパスプレッダをオープンしたときは，ストッパをかけ，安全カバーを装着してください。	カマなどが跳ね飛ばされて，傷害事故の原因となります。
⚠警告 ◆ワラクズの近くには，機械を止めないでください。 ●エンジン排気による火災を防ぐため，ワラのないところに機械を止めてください。	マフラの排気で火災になることがあります。
⚠警告 ◆エンジンやマフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲，ベルトカバーにワラクズが溜まった場合は，エンジンを停止して掃除をしてください。	火災の原因となることがあります。
⚠注意 ◆排出オーガの排出口内には，手を入れないでください。 ◆排出オーガの操作は運転席から周囲の安全を確認してから行ってください。 ◆走行の前に，排出オーガがオーガレストに収納され，固定されているか確認してください。	ラセンに巻込まれたりして，負傷することがあります。排出オーガが周囲の人に当り，負傷したりすることがあります。

⚠ 1日の作業が終わったら……

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆作業が終了したら，平坦な場所でエンジンを停止して点検を行い，掃除をしてゴミなどを取除いてください。 ●高温部が冷えてから，エンジン・マフラ・バッテリ・燃料タンクの周囲のワラクズを除去・掃除してください。	火災の原因となることがあります。
⚠警告 ◆ラジエータが熱いときは，ラジエータキャップを開けないでください。 ●ラジエータキャップを開ける場合は，エンジンを停止し，エンジンが冷えてからラジエータキャップを開けてください。 ●冷却水の点検は，補助タンクで行ってください。	熱湯が吹きだし，火傷することがあります。  V016
⚠警告 ◆保管は，平坦な場所に置き，ヘッダ部を下げて，駐車ブレーキをかけて車止めをしてください。 ●副変速レバーを《標準》に入れ，駐車ブレーキをかけてください。 ●スタータスイッチからキーを抜取っておいてください。	機械が動き出し，思わぬ事故の原因となります。
⚠警告 ◆エンジンが熱いときは，シートカバーをかけないでください。	火災の原因となることがあります。

⚠ 長期格納するときは……

必 ず 守 っ て く だ さ い	→	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆バッテリコードの「⊖側」を外すか，バッテリを取外してください。 ●１ケ月に１回程度補充電をしてください。 ◆燃料コックを閉じてください。		思わぬ火災事故を起こす場合があります。
⚠警告 ◆平坦な場所に置き，ヘッダ部を下げて，駐車ブレーキをかけて車止めをしてください。 ●副変速を《標準》に入れ，クローラに車止めをしてください。 ●スタータスイッチよりキーを抜取っておいてください。		機械が動き出し，思わぬ傷害事故を起こすことがあります。
⚠警告 ◆シーズン終了後には，定期点検を受けてください。 ●１年ごとに定期点検・整備を**「お買いあげ先」**で，純正部品を使用して行って，各部の保安を確保してください。  V054		整備不良のまま使用すると，思わぬ事故を引起こす原因となります。

2. 表示ラベルについて

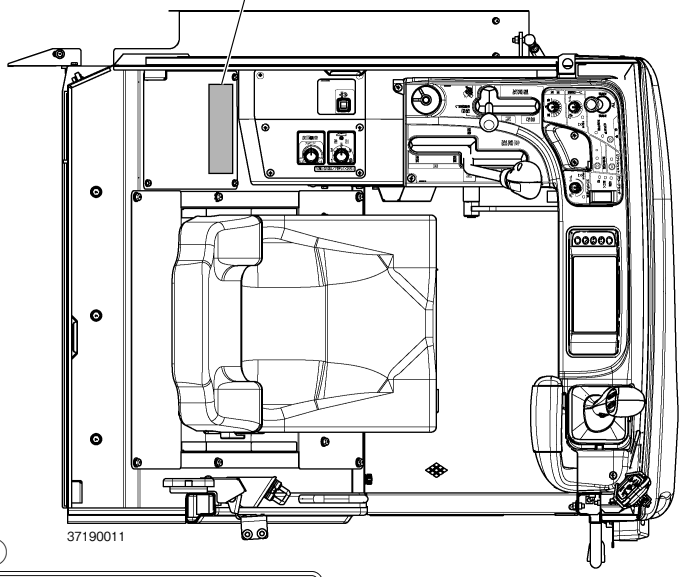
この機械には各運転装置の近くやカバーに各々の安全な取扱いかたについて説明している表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）が貼り付けてあります。各々のラベルの説明をよくお読みいただき守ってください。

また，機械に貼ってあるラベルが破損したりして読めなくなった場合やラベルの貼ってある部品を交換する場合は新しいラベルを「**お買いあげ先**」に注文して購入し貼り替えてください。

①

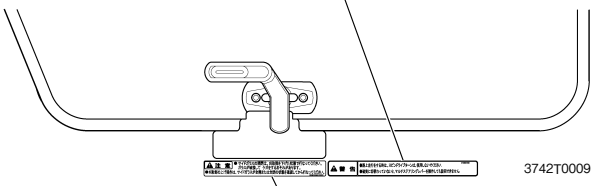
⚠ 注 意 09603100031

☐ 路上走行する時は
- ●デバイダを取外してください。
- ●ナローガイドを収納してください。
- ●脱こく・刈取クラッチ,自動スイッチを《切》にしてください。
- ●オーガレストを格納位置にセットして、オーガを収納してください。
- ●マルチステアリングレバーでデバイダ取付部前端を40cm程度上げてください。
- ●リールを後端、最下げ位置にしてください。
- ●油圧固定スイッチを《油圧固定》にして、フックをかけてください。
- ●急発進,急ブレーキ,急旋回はしないでください。
- ●デコボコ道,下り坂では速度を落して走行してください。
- ●公道では作業機など突起物となるものは装着しないでください。


37190011

②

⚠ 警 告 37428531900
- ●路上走行をする時は、スピンドライブターンは,使用しないでください.
- ●確実に切替わっていないと,マルチステアリングレバーを操作しても旋回できません.


3742T0009

③

⚠ 注 意
- ● サイドガラスの開閉は、刈取部を下げた状態で行なってください。ガラスが破損して ケガをするおそれがあります。
- ●刈取部の上げ操作は、サイドガラスが全開または全閉の状態を確認してから行なってください。

35833804500

④

⚠ 警 告
- ●中立《N》位置でも動く場合がありますので、**機械から離れる時**は、平坦な場所で駐車ブレーキをかけ**エンジンを停止**してください。

09603200052

⑤



⚠ 警 告
- ●排気ガスによる中毒のおそれがあるので、換気の悪い所で使用しないでください。 09603200029

⑦

⚠ 注 意
- ■走行，あぜ越え，自動車への積込み，積降ろしの時は，グレンタンクを空にし，排出オーガは収納位置にしてください。
- ■排出オーガを上げた状態での刈取作業，路上走行はしないでください。
- ■傾斜地でエンジンを停止する時は，排出オーガを収納してください。
- ■排出オーガの操作は、周囲を確認し、作動範囲内に頭や手を近づけないで行なってください。

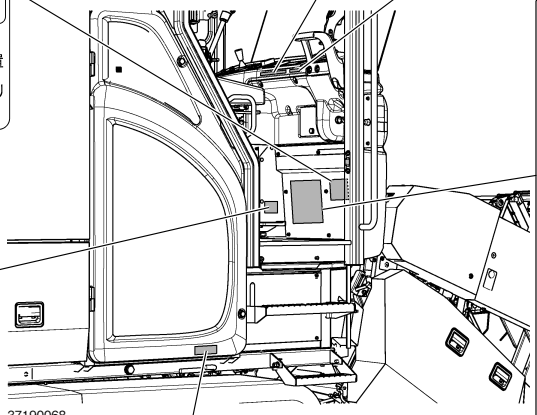
■オーガ旋回自動の取扱い
- ■排出位置を選択してオーガ旋回スイッチを押すと選んだ排出位置まで自動的に旋回します。
- ■収納位置以外でオーガ旋回スイッチを押すと収納位置へ戻ります。

36598555100

⑧

⚠ 警 告
- ● マルチステアリングレバー又はジャストディレクタで旋回（左右）操作をする時は走行クラッチペダルに足を乗せないでください。
- ● ペダルに足を乗せていると旋回後も直進に戻らないことがあります。

355685250011


37190068

⑨

⚠ 警 告

ケガや死亡事故を起さないために

■エンジンを始動する前に
- ●機械の周囲から人を遠ざけてください。
- ●各部のカバーをすべて取付けてください。
- ●座席に座り、駐車ブレーキをかけてください。
- ●変速レバーを《中立》、脱こく・刈取クラッチは《切》にしてください。
- ●屋内での始動は、窓や戸を開けて換気してください。

■正しい操作方法で
- ●機械に運転者以外の人や物をのせないでください。
- ●エンジン回転中は、カバーの中へ手を入れたり、回転物に手・足・衣服を近づけたりしないでください。
- ●発進及び旋回する時は、機械から人を遠ざけてください。
- ●緊急停止が必要なときは、ブレーキペダルをすみやかに、いっぱい踏み込んでください。
- ●刈取作業時以外（特に、あぜ越え時・移動走行時・運搬時・格納時）は「こく粒」はすべて排出、あるいは降ろしてください。
- ●詰まりを取除く時は、各クラッチを《切》にし、エンジンを停止し、各部の動きが止まってから行なってください。

■転倒防止
- ●発進、旋回操作、荒地での運転は低速で行なってください。
- ●傾斜地及び急な坂道では旋回しないでください。

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください。
- ●軟弱な路肩、草の生い茂っている所は転倒・転落の恐れがあるので走行しないでください。
- ●あぜを横切る時は、低速であぜに対して直角に走行してください。

■停止する時は
- ●平坦な場所で駐車ブレーキをロックし、刈取部を下げ、変速レバーを《中立》、脱こく・刈取クラッチは《切》にした後、エンジンを停止してください。
- ●機械から離れるときは「始動キー」を抜いてください。また、止むを得ず坂道で駐車するときは車止めをして暴走を防いでください。

■清掃・点検・整備・燃料補給
- ●エンジン停止後、各部の動きが止まってから行なってください。
- ●火災防止のためエンジン、マフラ、燃料タンク、バッテリ周囲のワラクズ等を掃除してください。
- ●刈取部が不意に下降してはさまれる危険があるので、刈取部を上げて点検・調整するときは油圧固定スイッチを《油圧固定》位置にしフックを掛けてください。
- ●火災の危険があるので燃料補給時は必ずエンジンを停止してください。
- ●燃料補給時はタバコなど一切の火気は厳禁です。
- ●こぼれたディーゼル軽油は必ずふき取ってください。

3588525102

⚠ 警 告

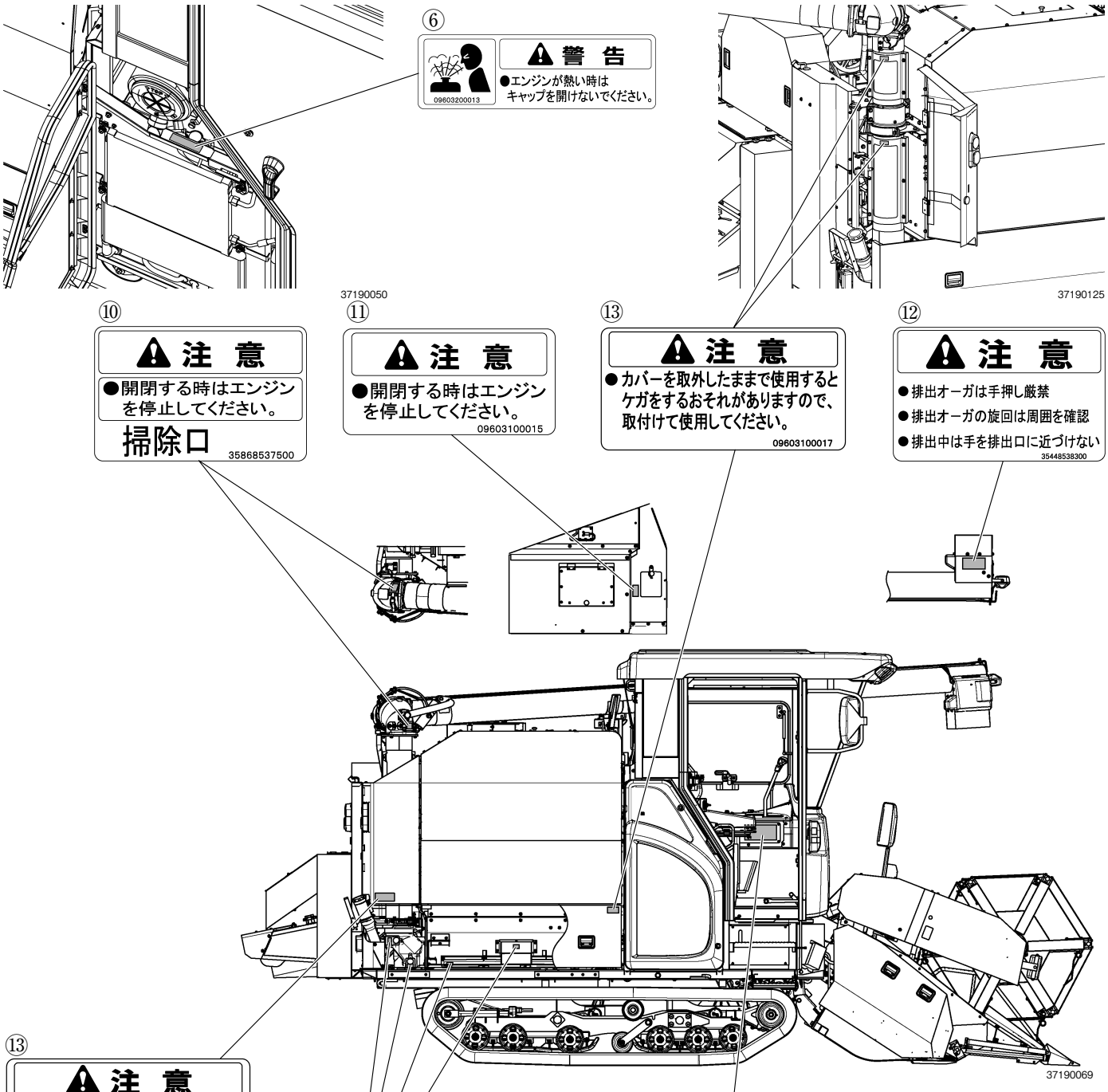
■ 自動車への積込み・積降ろしをする時は
- ●平坦な場所を選んで、補助者の立会誘導のもとに行なってください。また、機械の周囲に人を近づけないでください。
- ●積込む前にグレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。
- ●アユミは機械の重量に耐えられる強度で、長さは自動車荷台高さの4倍以上のものを使用してください。
- ●アユミの上では進路変更、変速操作を行なわないでください。旋回（左右）操作をすると転倒する危険があります。左右のクローラをアユミの中央にまっすぐにセットしてください。
- ●車への積込みやあぜ越えは前進で、車から降ろすときは後進で、低速で移動してください。
- ●自動車への積込み・積降ろしは、主変速《低速》、副変速を《車両積降ろし》の位置で操作します。
- ●自動車への積込みは、マルチステアリングレバーを《上げ》に操作し、刈取部を上げます。
- ●積込みが終ったらマルチステアリングレバーを《下げ》にして刈取部を一杯下げます。



⑮


09603100027

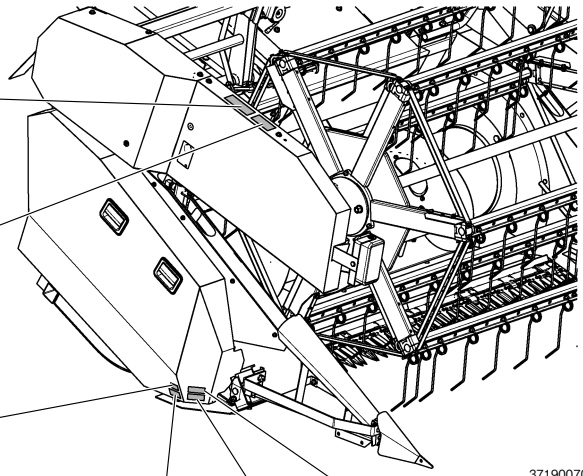
⚠ 注 意
- ●やけどをするのでマフラー、フィンなどの高温部にふれないでください。


⑥
警 告
●エンジンが熱い時は
キャップを開けないでください。
09603200013
37190050
37190125
⑩
注 意
●開閉する時はエンジン
を停止してください。
掃除口
35868537500
⑪
注 意
●開閉する時はエンジン
を停止してください。
09603100015
⑬
注 意
●カバーを取外したままで使用すると
ケガをするおそれがありますので、
取付けて使用してください。
09603100017
⑫
注 意
●排出オーガは手押し厳禁
●排出オーガの旋回は周囲を確認
●排出中は手を排出口に近づけない
35448538300
37190069
⑬
注 意
●カバーを取外したままで使用すると
ケガをするおそれがありますので、
取付けて使用してください。
09603100017
⑩
注 意
●開閉する時はエンジン
を停止してください。
掃除口
35868537500
⑭
警 告
傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して
正しい取扱いをしてください。
DPF再生中はDPF及び排気管周辺、排気ガスが高温になります。
■DPF再生処理を行う際は、以下のことを守ってください。
●納屋や倉庫など囲まれた場所で再生処理を行わないでください。
●排気管周辺から人や動植物が離れている事を確認してください。
●DPF及び排気管周辺にワラなどの燃えやすいものがないことを確認してください。
DPF手動再生操作手順
①DPFインジケータランプが点滅したら脱こくクラッチを《切》にし、機械を安全な場所に停車してください。
②変速レバーを中立にし、駐車ブレーキをかけてください。
③エンジンを始動し、暖機運転をしてください。
④暖機運転後、エンジン回転ダイヤルを《左一杯》、エンジン回転自動を《切》(ランプ消灯)にしてください。
⑤DPF手動再生スイッチを長押しするとスイッチが点灯し、手動再生が始まります。
⑥手動再生が終わるとランプが消灯します。
36878538101

⑯
⚠ 警 告
● 手刈りした作物を、プラットホームに投げこんで処理しないでください。刈刃やリールに巻き込まれケガをするおそれがあります。
09603200072

⑰
⚠ 警 告
● 掃除をするときや、つまりを取除くときはケガをするおそれがありますので、エンジンを停止してください。
09603200071

⑬
⚠ 注 意
● カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。
09603100017



37190070

⑳
⚠ 警 告
● ワラ屑のまきつき、つまりを取除くときはケガをするおそれがありますので、必ずエンジンを停止してください。
09603200073

⑯
⚠ 警 告
● 手刈りした作物を、プラットホームに投げこんで処理しないでください。刈刃やリールに巻き込まれケガをするおそれがあります。
09603200072

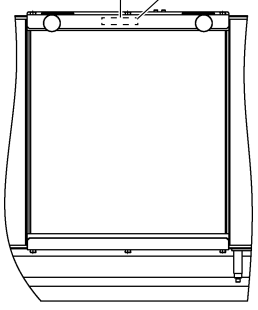
⑰
⚠ 警 告
● 掃除をするときや、つまりを取除くときはケガをするおそれがありますので、エンジンを停止してください。
09603200071

⑱
⚠ 注 意
デバイダ
● 路上走行するときは、デバイダを取りはずしてください。
09603100028

⑲
⚠ 危 険
● 刃部に手をかけないでください。
● 着脱作業時は手袋をしてください。
09603000019

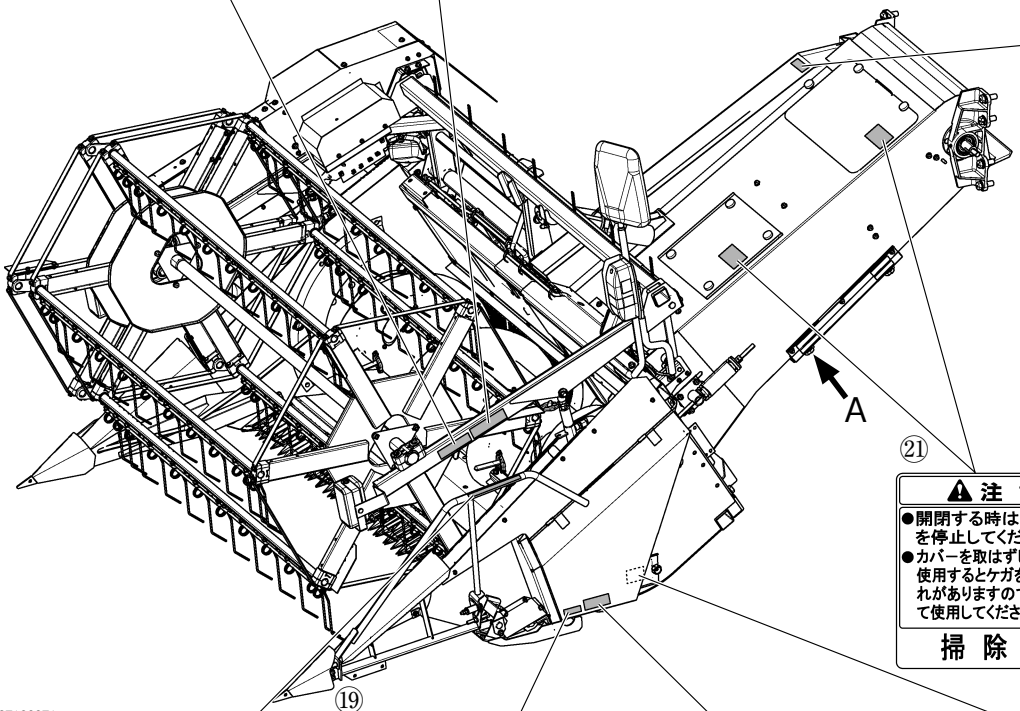
⑬
⚠ 注 意
● カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。
09603100017

カバーの内側



37110035

A 矢視



37190071

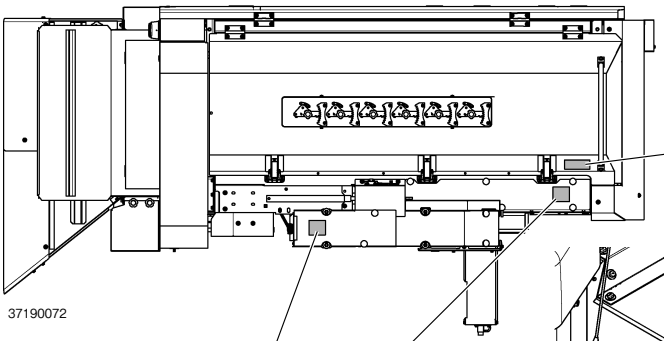
㉑
⚠ 注 意
● 開閉する時はエンジンを停止してください。
● カバーを取はずしたままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。
掃 除 口
35868527100

⑲
⚠ 危 険
● 刃部に手をかけないでください。
● 着脱作業時は手袋をしてください。
09603000019

⑱
⚠ 注 意
デバイダ
● 路上走行するときは、デバイダを取りはずしてください。
09603100028

⑩
⚠ 注 意
● 開閉する時はエンジンを停止してください。
掃除口
35868537500

㉒
⚠ 注 意 路上走行時は収納してください。
09603100024



37190072

⑳

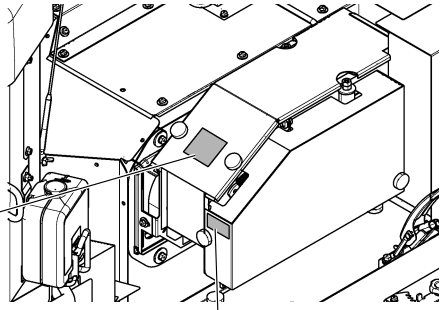


⚠ 警 告

●エンジン停止または脱こくクラッチを切っても脱こく部はすぐに止まりません。脱こく部 が完全に停止するまではカバーを開けないでください。
●まもらないとケガをするおそれがあります。

3711852900 1

A 矢視



37190113

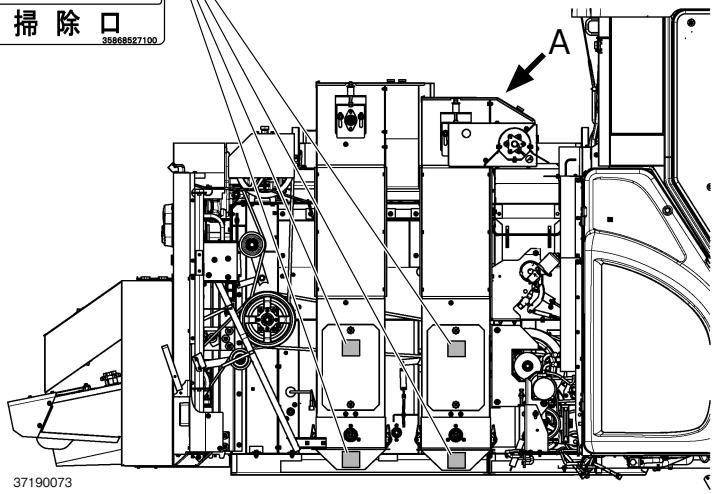
㉑

⚠ 注 意

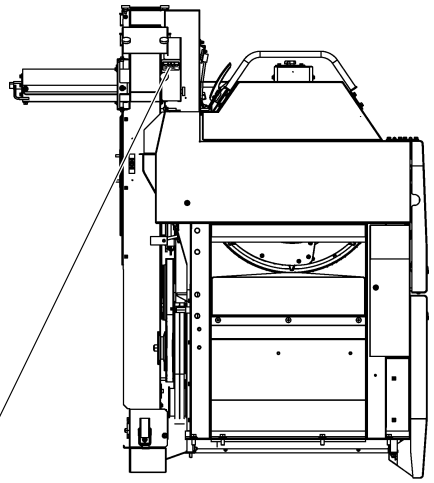
●開閉する時はエンジンを停止してください。
●カバーを取はずしたままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

掃 除 口

35868527100



37190073



37140018

⑬

⚠ 注 意

●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

09603100017

㉙

⚠ 危 険



● チョッパの点検・調整・部品交換、わら、雑草などの巻付きや詰りを取除く時は、各クラッチを切り、エンジンを停止し、各部の作動が完全に停止した事を確認してから行ってください。
● 回転中はカバーの中に手を入れないでください。
● 危険ですので回転刃にはふれないでください。

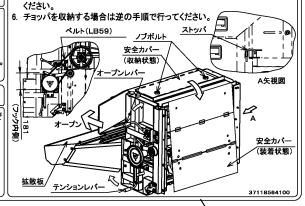
⚠ 注 意

● チョッパの上面部及び拡散板の上に乗らないでください。破損して転倒する恐れがあります。
● チョッパをオープンした後は安全カバーを装着してください。ケガをする恐れがあります。
● チョッパを作業状態にする時は、安全カバーを収納状態にし、ノブボルトで固定してください。装着したままでチョッパを閉じると破損します。

チョッパオープンの手順

作業の仕方については取扱説明書をご覧ください。

1. ロータサイドカバーを開き、脱こく左後カバーとチョッパカバー（左・右）を外します。
2. テンションレバーを矢印方向に上げて、ベルト（LB59）を外します。
3. オープンレバーを矢印方向に上げて、固定を解除しチョッパを後方へオープンします。
4. チョッパ回動防止のため、ストッパで固定します。（A矢視図）
5. チョッパをオープンした後は、上部にある安全カバーを下図の様に装着してください。
6. チョッパを収納する場合は逆の手順で行ってください。



37118584100

㉔

⚠ 警 告

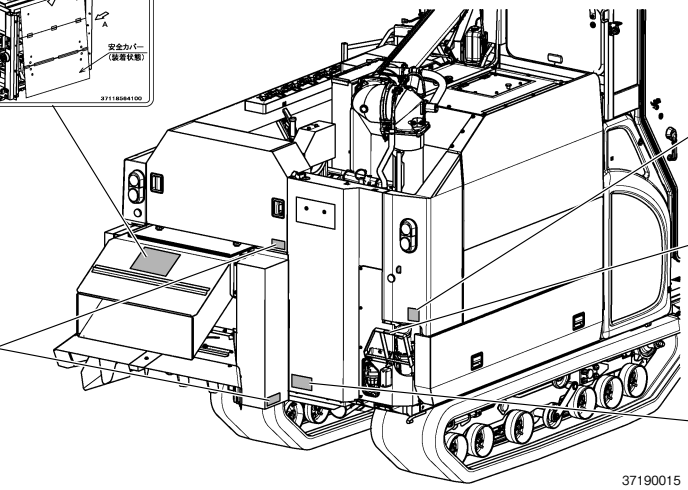


火気厳禁

●火災のおそれがあるので給油するときはエンジンを止めてください。

ディーゼル軽油

35878542000



37190015

㉕

35598523500

⚠ 注 意 乗らないでください

⑬

⚠ 注 意

●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

09603100017

⑮



09603100027

⚠ 注 意

●やけどをするのでマフラー、フィンなどの高温部にふれないでください。

㉖

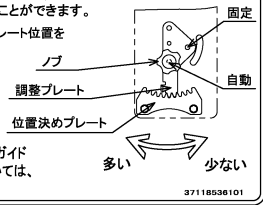
⚠ 注 意 調節時は、各クラッチを切りエンジンを停止し、各部の作動が停止してから行ってください。

送じん量調節取扱のポイント

ノブボルトのしめつけ位置を変えることにより送じんガイドを「固定」あるいは「自動」に切りかえることができます。

作業状態により、下記の場合は調整プレート位置を調整します。

- ロータ負荷が高く、能率が悪い時 →《多い》方向へ調節
- スレッシングロスが多い時 →《少ない》方向へ調節



詳細 ■ 作物の条件、種類に応じたガイド初期位置の設定範囲については、取扱説明書をご覧ください。

37118536101

㉗

⚠ 注 意 ハシゴにのぼる時はエンジンを停止してください。

37118683100

㉘



09603100029

⚠ 注 意

●脱こくクラッチを切ってもロータはすぐに止まらないので、ロータが完全に停止するまではカバーを開けないでください。

㉚

⚠ 注 意 37118532400

●脱こく部を開閉する時はエンジンを停止してください。
●脱こく部で手や体をはさまれて，ケガをするおそれがあります。
●脱こく部を開閉する時は人を近づけないでください。
●脱こく部の開閉はゆっくり行なってください。

㉑

⚠ 注 意

●開閉する時はエンジンを停止してください。
●カバーを取はずしたままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

掃 除 口 35868527100

⑬

⚠ 注 意

●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

09603100017

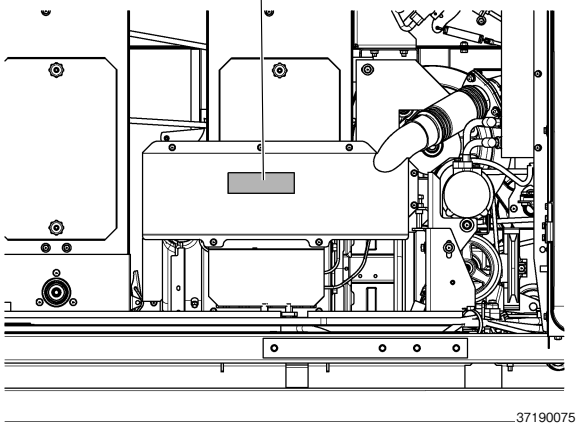
⑮



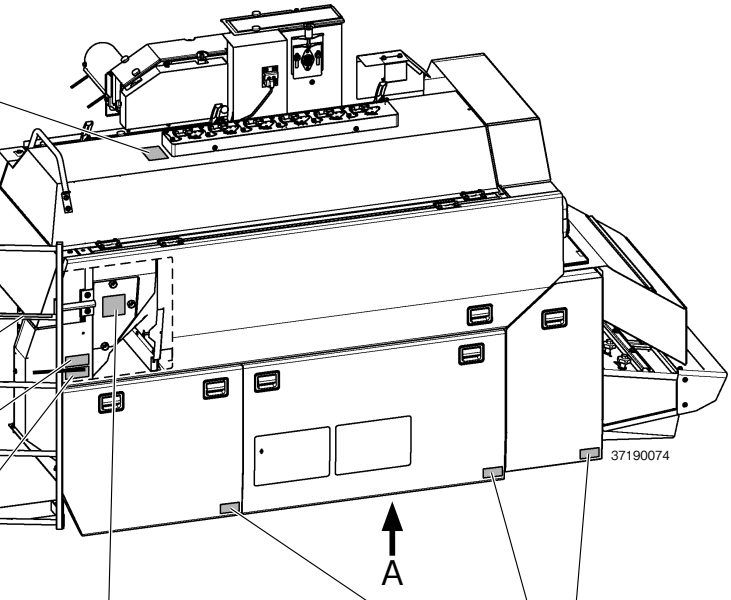
09603100027

⚠ 注 意

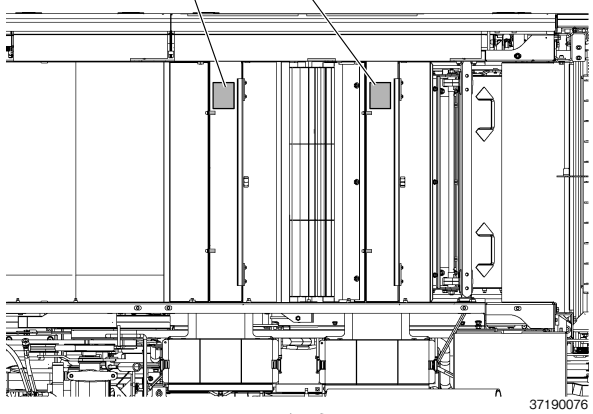
●やけどをするのでマフラー、フィンなどの高温部にふれないでください。



37190075



37190074



37190076

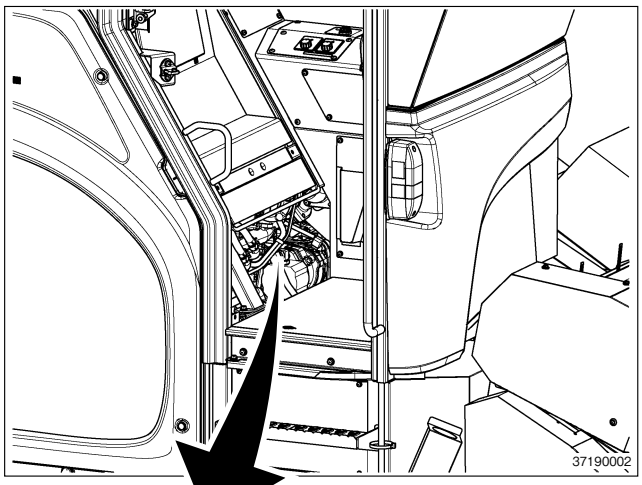
A 矢視

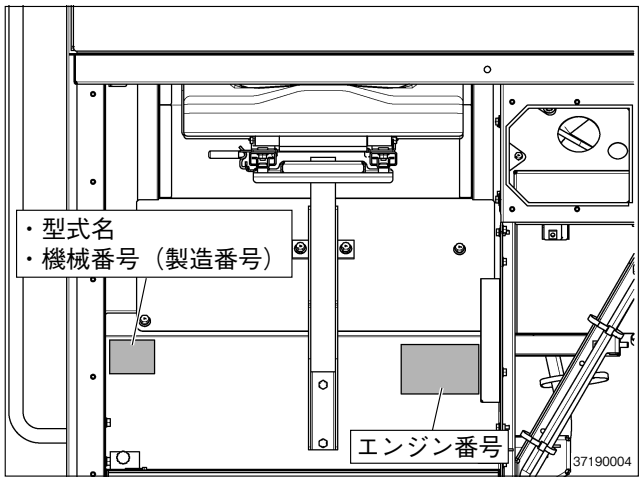
No.	部品名称	部品番号	備考
①	LABEL C, ROAD	0960 3100 031	
②	LABEL CAUTION SPIN	3742 8531 900	
③	チュウイラベル	3583 3804 500	
④	ケイコクラベルストップ	0960 3200 052	
⑤	ケイコクラベルハイキ	0960 3200 029	
⑥	ケイコクラベルラジエータ	0960 3200 013	
⑦	LABEL CAUTION	3659 8555 100	
⑧	LABEL WARNING	3556 8525 001 1	
⑨	LABEL CAUTION	3711 8525 101	
⑩	LABEL CAUTION	3586 8537 500	
⑪	チュウイラベル　カイヘイ	0960 3100 015	
⑫	LABEL CAUTION	3544 8538 300	
⑬	チュウイラベルカバー	0960 3100 017	
⑭	LABEL CAUTION, DPF	3687 8538 101	
⑮	LABEL C, MUFFLER	0960 3100 027	
⑯	LABEL W, reel	0960 3200 072	
⑰	LABEL W, reel	0960 3200 071	
⑱	LABEL C, divider	0960 3100 028	
⑲	LABEL D, KNIFE	0960 3000 019	
⑳	LABEL W, ROTOR	0960 3200 073	
㉑	LABEL CAUTION	3586 8527 100	
㉒	チュウイラベルシュウノウ	0960 3100 024	
㉓	LABEL, warning	3711 8529 001	
㉔	LABEL W, DIESEL	3587 8542 000	
㉕	チュウイラベル	3559 8523 500	
㉖	LABEL	3711 8536 101	
㉗	LABEL CAUTION	3711 8563 100	
㉘	LABEL C, ROTOR	0960 3100 029	
㉙	LABEL chopper	3711 8564 100	
㉚	LABEL	3711 8532 400	

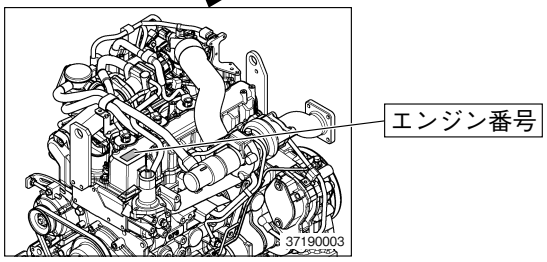
ご使用まえに

1．保証とサービスについて

・この機械には，保証書が添付されていますので，ご使用前によくお読みください。
・この機械のサービスについてのお問い合わせや，部品などのご用命のときは，「**お買いあげ先**」にご相談ください。その際「**型式名**」・「**機械番号（製造番号）**」と「**エンジン番号**」をお知らせください。







・補修用部品の供給年限について

・この製品（機械）の補修用部品の供給年限（期間）は，製造打ち切り後11年といたします。
但し，エンジン部品については，製造打ち切り後９年といたします。
※供給年限内でも特別な事情により供給できない部品も一部ございます。詳しくは三菱農業機械取扱店までお問い合わせください。
・補修用部品の供給は，原則的には，上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても，部品供給のご要請があった場合には，納期および価格についてご相談させていただきます。

・機械の使用目的について

・この機械は，**稲・麦・大豆など，適応作物以外の収穫作業**以外には使用しないでください。
・この機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造した場合は，保証の対象となりませんのでご注意ください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆機械を使用目的以外の作業に，使用しないでください。
◆機械を改造しないでください。
◆使用目的以外の作業や改造すると，本来の機能を発揮できないばかりか，人身事故の原因になることがあります。

2. 仕様（装備）について

・主な仕様（装備）は，つぎのようになっています。

名称	仕様（装備）／区分	主な仕様と型式記号																							
		エンジン					走行部							操作部				刈取部							
		型式	出力	DPF	コモンレール	防塵逆転ファン	HST+副変速2段	舟形ハイラグクローラ450㎜	一体スプロケット	フルモードターン	旋回ダイヤル	転輪（グリスアップ）	可動転輪	マルチステアリング	アクティブタッチパネル	運転操作集中配置（バックライト付き）	クイックアップ・クイックセット	標準ヘッダ 1・7m	ワイドヘッダ2・1m	リール回転車速同調	倒伏刈スイッチ	強制掻き込みスイッチ	FH自動テンション	
三菱 VCH750A	XS	V3307	75.3PS	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	
	XWS			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	

主な仕様と型式記号																																					
脱こく部							籾処理部											自動化		キャビン					その他												
セレクションファン	揺動流板スライドオープン	撥水揺動流板	送塵量自動調節	軸流式スクリューロータ	スクリューロータ変速 2速	バケットコンベア（1番揚穀）	籾満杯予告シグナル	グレンサイドオープン	オーガ運転席有線リモコン（前方配置）	オーガ電動排出クラッチ	オーガフラップ	オーガ無線リモコン	オーガ長4100㎜	オーガ自動旋回・収納	オーガ未収納警報	タンク容量（1300L）	エンジン回転自動制御	揺動フロートセンサ（稲・麦選別自動）	ユニットキャビン	後方カメラ	オーガ先端カメラ	オーガ先端・後方カメラ専用モニタ	主変速連動モニタ（カメラ共着時）	内外気切替エアコン	燃料タンク60L	ハシゴ	個別キー	燃料満タンお知らせ機能	チョッパスプレッダ	ものさしラベル	セジメンタ水溜まりお知らせ機能	燃料消費量表示機能						
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	OP	○	○	○	○	○	○	○	○	OP	OP	OP	○	○	○	○	○	○	○	○	○				
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	OP	○	○	○	○	○	○	○	○	OP	OP	OP	○	○	○	○	○	○	○	○	○				

・型式記号の説明

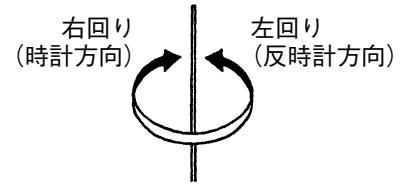
S＝チョッパスプレッダ　　X＝キャビン，バックモニタ　　W＝ワイドヘッダ（2.1m）

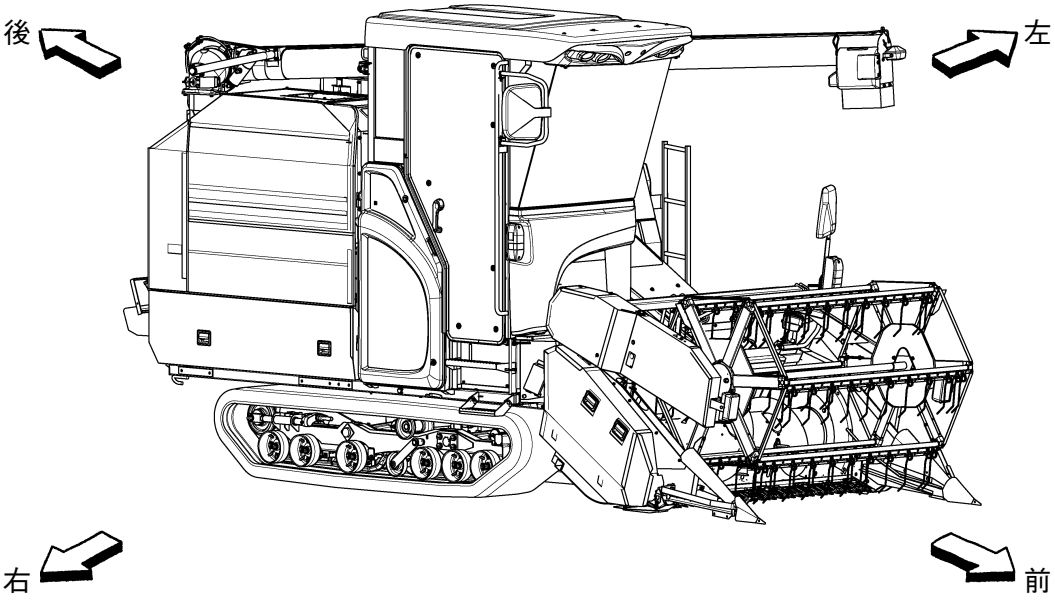
取扱いのポイント

- **これらの機械は工場から出荷のときは，「稲作業セット」に調整してあります。**
  他の作物については，「作物別調整表」の項を参考に調整し，ご使用ください。
- **大豆などを収穫する際は，専用キットに交換し，各部の調整を必ず行ってください。（詳細は専用キットの取扱説明書をご覧ください）**

3．用語について

⑴ この取扱説明書に使用している**「前後・左右・右回り・左回り」**などの用語は，図示のとおりです。





⑵ 型式表示

・この取扱説明書は，VCH750AXS仕様を基本に説明しています。

・区分により仕様（装備）が異なるため，取扱い方法が変わる点は，そのつど［**W仕様**］などで表示し，追加説明しています。

⑶ マークの説明

この取扱説明書では，その都度守っていただきたい事柄を，つぎのマークを使用して説明しています。

・危険 警告 注意 ……安全上重要な事項を，３段階に分けて説明していますので，必ず読んでください。

・**取扱いのポイント** ……機械の機能・性能上に関する説明です。守らないと，故障の原因になることがあります。

4. 小型特殊自動車について

このコンバインは，道路運送車両法の小型特殊自動車に該当します。

1. 小型特殊自動車の届出

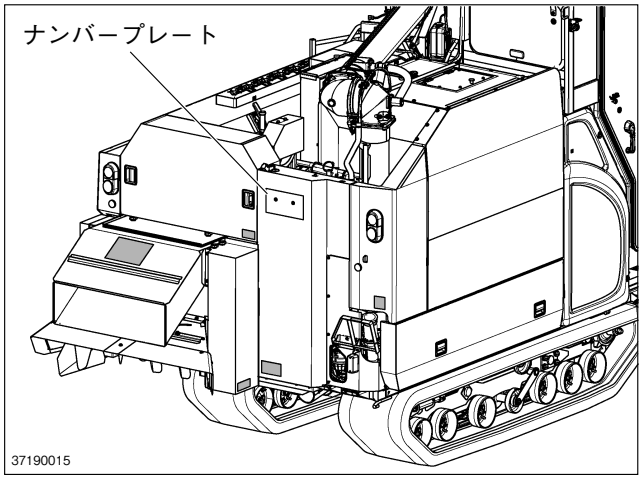
❶ 小型特殊自動車取得の届出とナンバープレートの取付け

新たにコンバインを購入されたかたまたは，所有者となられたかたは，市（町・村）条例により，その取得を市（町・村）役所に届出し，ナンバープレートの交付を受けなければなりません。

・手続きは，市（町・村）により多少異なりますので，詳しいことは**「市（町・村）役所」**または**「お買いあげ先」**に相談してください。

小型特殊自動車の取得証明書，または売渡・販売証明書など（**「お買いあげ先」**で準備します）を添えて，市（町・村）役所に届出し，ナンバープレートの交付を受けます。

ナンバープレートは，機械の指定された位置に取付けます。



5. 公道走行について

このコンバインは，道路交通法（運転免許）では大型特殊自動車に該当します。

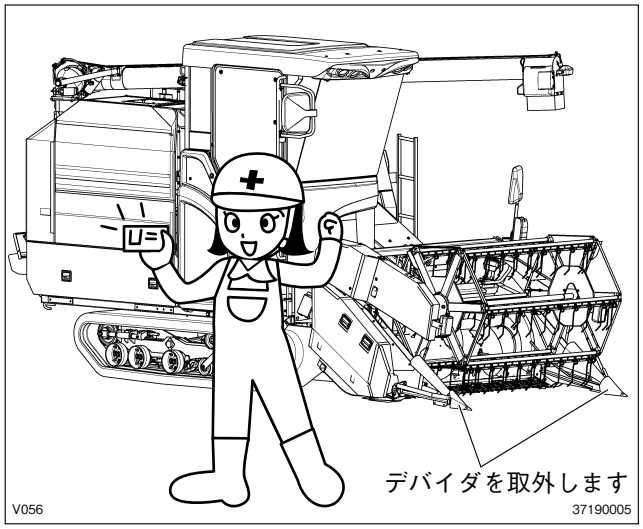
1. 運転免許

公道を走行するときは，**「大型特殊自動車」**の運転免許が必要です。**「小型特殊自動車」**の運転免許では運転できません。

2. 公道を走行するときは

公道を走行するときは，道路交通法など関係法規を守りつぎの注意事項に従って，**「安全速度」**で走行してください。

❶ 作業灯は点灯しない。



❷ 指定の作業機（チョッパスプレッダ）以外の作業機を取付けた状態では，公道走行はできません。

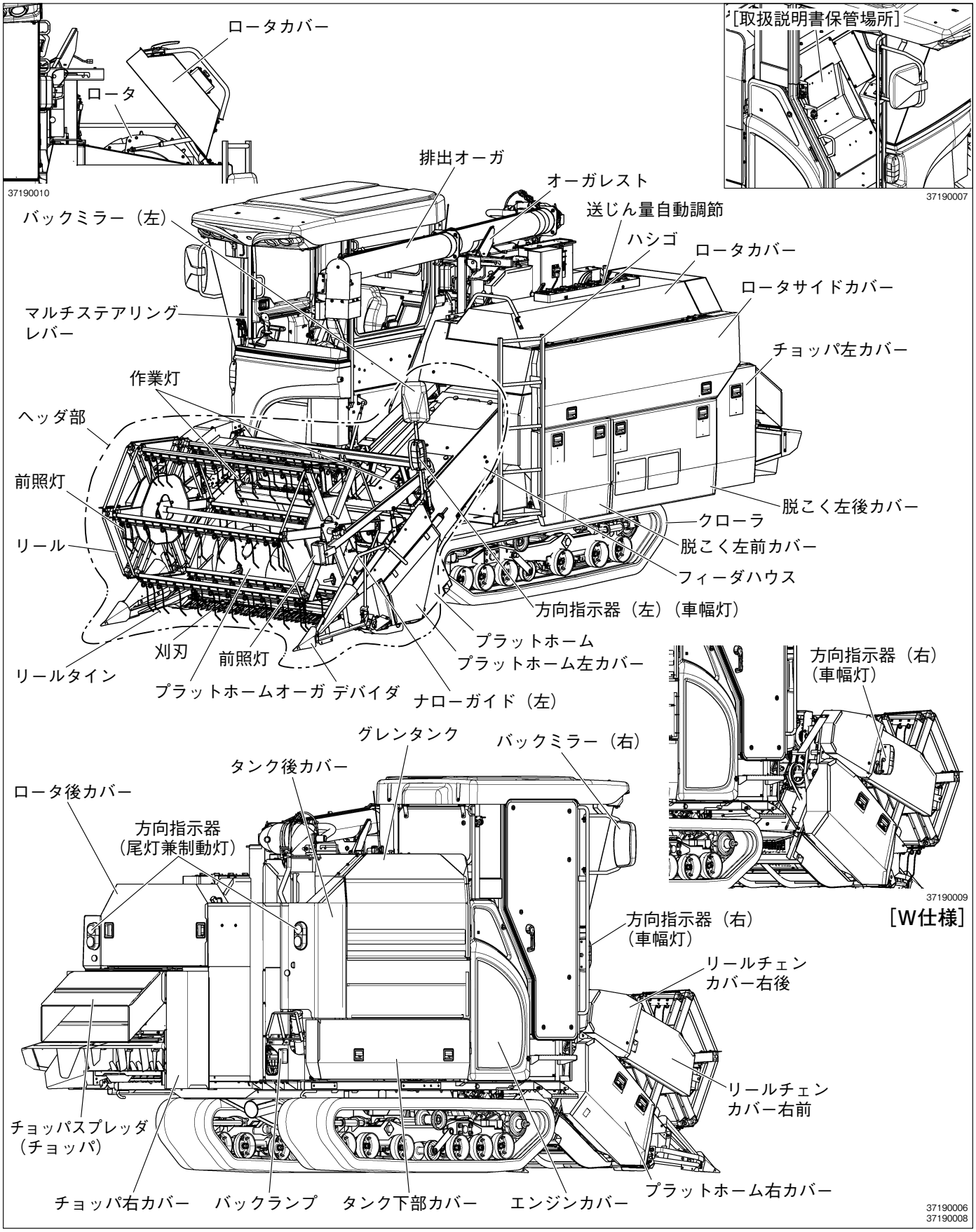
詳細については，アタッチメントの取扱説明書をご覧ください。

❸ 任意保険のお勧め

万一の交通事故に備え，任意保険に加入されるようお勧めします。

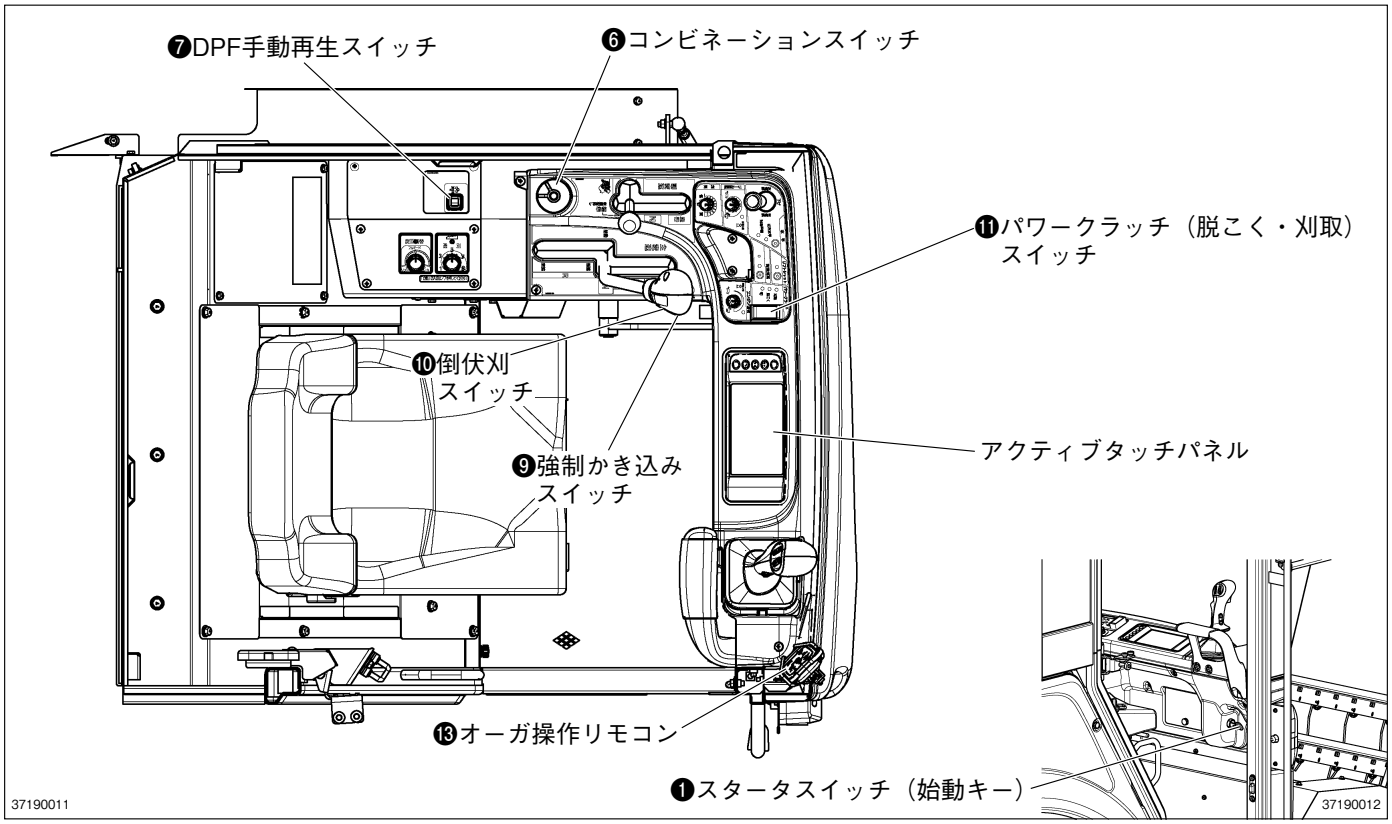
各部のはたらき

1．各部の名称



2. 運転装置の取扱い

1. スイッチ・計器関係



❶　スタータスイッチ（始動キー）

《切》……電源切（エンジン停止）

スタータスイッチを**《切》**にするとエンジンが停止します。

《ＡＣＣ》……アクセサリ

カーステレオとシガレットライタが使用できます。

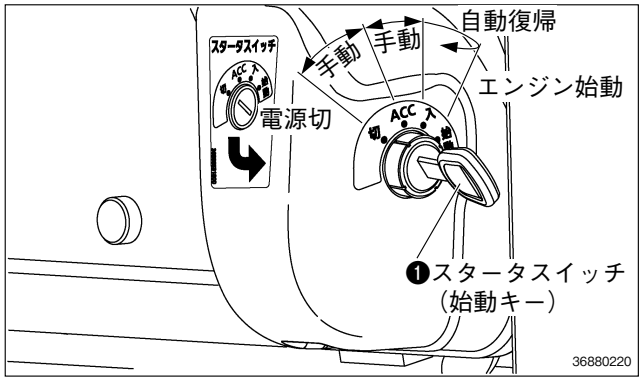
《入》……電源入（運転中）

電気（電装）装置が使用できます。

《始動》……エンジン始動

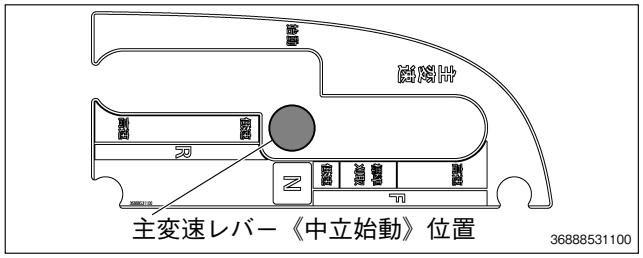
スタータスイッチを**《始動》**位置に回すと，エンジンが始動します。

手を放せば，自動的に**《入》**位置に戻ります。

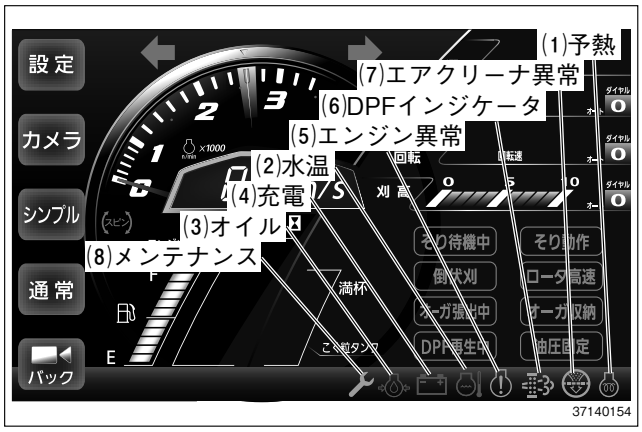


取扱いのポイント

●主変速レバーを《中立始動》（前進側中立位置）位置にし，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとエンジンは始動しません。



❷ 警報インジケータ



⑴ 予熱


V200

スタータスイッチを《**入**》位置にすると，点灯してエンジンの予熱の状態を示します。予熱の時間は外気温により異なります。

⑵ 水温


V201

エンジンの冷却水温度が異常に上昇（**オーバーヒート**）すると，「**点灯**」し，警報ブザーが鳴ります。

取扱いのポイント

- **運転中に水温が点灯し警報ブザーが鳴ったら直ちに作業を中止し，温度が下がるまでエンジンのみ「低速運転」してください。（警報ブザーは連続音から断続音になります）**
- **冷却水温度が下がり，水温が消灯したら，エンジンを停止し，エンジンが冷えてからエンジンカバー，ラジエータフィン，オイルクーラフィンなどのラジエータ吸気部のゴミ付着（103ページ参照）・エンジンファンベルトの張り（148ページ参照），および冷却水（補助タンク）の水量などを点検してください。**

⑶ オイル


V202

エンジン運転中，エンジンの潤滑系統に異常があれば「**点灯**」し警報ブザーが鳴ります。

取扱いのポイント

- **運転中に点灯し警報ブザーが鳴ったら，直ちにエンジンを停止しエンジンオイル量を点検してください。（91ページ参照）**
- **オイル量が適量であれば，ほかに異常があります。「お買いあげ先」にて点検を受けてください。**

⑷ 充電


V203

エンジン運転中，充電系統に異常があると点灯します。

正常なときは，スタータスイッチを《**入**》位置にすると「**点灯**」し，エンジンが始動すると消灯します。

取扱いのポイント

- **エンジンの運転中に連続点灯するときは，エンジンを停止し，エンジンファンベルトの張りを点検し，調整してください。（148ページ参照）**
- **エンジンファンベルトが正常であれば，ほかに異常があります。直ちに「お買いあげ先」にて点検を受けてください。**

⑸ エンジン異常


V204

このインジケータは，２つの機能を持っています。もしエンジン異常が点灯した場合，原因がどちらにあるか調べ，適切な処置を行ってください。

［エンジン・コントロールシステムの異常］

運転中，水温インジケータは消灯しているが，エンジン異常インジケータが点灯した場合，いったんエンジンを止め，再始動を行ってください。エンジン異常インジケータが消灯しない場合，直ちに「**お買いあげ先**」にて点検を受けてください。

取扱いのポイント

エンジン異常インジケータが点灯時，エンジンの故障箇所により下記現象が現れます。

- **エンジンが突然止まった。**
- **エンジンが再始動できない。または始動してもすぐ止まる。**
- **エンジン出力が充分でない。**
- **エンジン出力は充分あるがエンジン異常インジケータが点灯する。**
- **エンジン出力が充分でない場合，直ちに作業を中断し，安全な場所にコンバインを移動し，エンジンを止めてください。**

［エンジンのオーバーヒート］

水温インジケータが点灯し，エンジン異常インジケータが点灯した場合，エンジンのオーバーヒートが予測されます。

「不調時の処置」のエンジン部項（159～160ページ）を参照し，コンバインを点検してください。

⑹ DPF（ディーゼル・パティキュレート・フィルタ）インジケータ


V189

このインジケータは２つの機能を持っています。

［手動再生要求］

DPF内に一定量のＰＭ（ススなど粒子状物質）が堆積しDPFの手動再生処理が必要なとき，インジケータが点滅します。インジケータが点滅した場合は，手動再生処理を行って堆積したＰＭを除去してください。（再生手順の詳細は37～38ページ参照）

［再生処理中表示］

自動再生処理および手動再生処理を開始すると点灯し，自動再生処理または手動再生の手順が終了すると消灯します。

⑺ エアクリーナ異常


V193

エアクリーナの汚れを知らせるインジケータです。

エンジン運転中，エアクリーナが汚れるとインジケータの点灯と警報ブザーの連続音で異常を知らせます。警報ブザーは警報切ボタンを押しても鳴り止みません。（掃除の詳細は104ページ参照）

取扱いのポイント

- **運転中にインジケータが点灯し警報ブザーが鳴ったら直ちにエンジンを停止しエアクリーナを掃除してください。**

⑻ メンテナンス


V272

エンジン異常以外の本機側での不調時に点灯することがあります。メンテナンスランプが「**点灯**」した場合，いったんエンジンを止め，再始動を行ってください。メンテナンスランプが消灯しない場合，直ちに「**お買いあげ先**」にて点検を受けてください。

❸ 機能ボタン



(1) 設定

設定画面を表示し，手動・自動の設定やメンテナンス情報の切替えができます。

(2) カメラ

パネル内にカメラ画像を表示できます。カメラ画面は，大・小を切替表示できます。

(3) 通常

通常画面を表示します。選別やリール回転などの状態を確認しながら作業できます。

(4) シンプル

回転計とエンジン負荷インジケータがメインとなった画面になります。

(5) カメラ切替（ディーラーオプション）

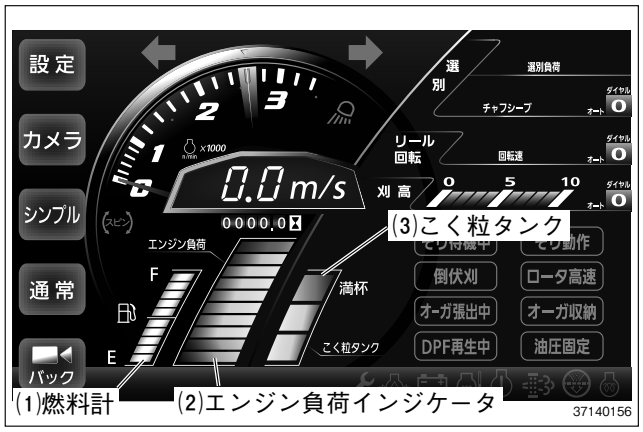
パネル内にカメラ画面を表示しているときに 自動 をタッチすることによって，オーガ先端カメラとバックカメラを切替えることができます。

取扱いのポイント

●丸型スイッチと画面内のボタンは連携していますので手袋などをして画面でタッチできない場合は丸型スイッチを使用してください。



❹ インジケータ



(1) 燃料計

スタータスイッチが《**入**》位置のとき作動し，タンク内の燃料の量を示します。《**F**》は満量（約60Ｌ），《**E**》（レベル下限）では約10Ｌの油量を示します。燃料が少なくなるとゲージ全体が赤くなります。

(2) エンジン負荷インジケータ

エンジンの負荷状態を知らせるインジケータです。パワークラッチ《**刈取**》位置のときエンジン負荷の状態が表示されます。刈取り作業中，過負荷運転でエンジン回転が下がると，エンジン負荷インジケータが上がり点滅と警報ブザーの断続音で異常を知らせます。エンジン回転が下がり，インジケータが点滅し警報ブザーの断続音が鳴ったら，主変速レバーで走行速度を下げます。

取扱いのポイント

●エンジン回転負荷の警報ブザーは，警報切ボタンを押しても鳴り止みません。走行速度を下げて，エンジンの負荷を軽くすると，ブザーは鳴り止みます。

⑶ こく粒タンクインジケータ

グレンタンク内のこく粒量を表示するインジケータで，こく粒量が増していくと，インジケータが緑①→緑②→赤の順に点灯します。

緑②インジケータが点灯すると，方向指示器全てが点滅します。

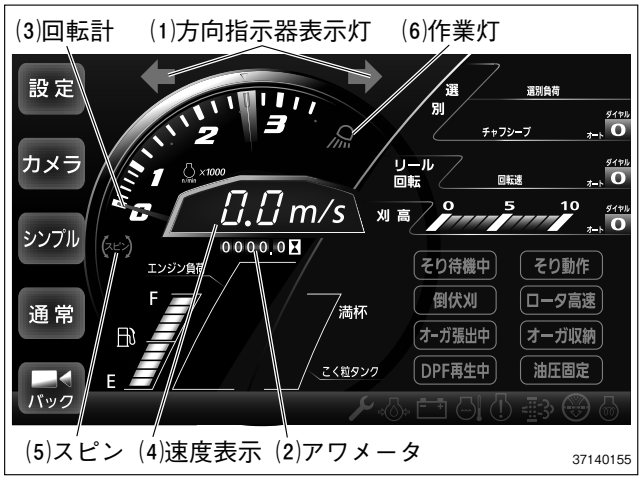
満杯時には，インジケータの点灯と警報ブザーの断続音で知らせます。

そのまま作業を続けると，オーバーフローセンサが作動し，エンジンが停止します。

取扱いのポイント

- **最初の警報ブザーが鳴ったら，刈取り作業を中止し，グレンタンク内のこく粒を排出してください。**
- **最初の警報ブザーは，警報切ボタンを押すと鳴り止みます。**
- **エンジンが停止した場合は，主変速レバーを《中立始動》位置にし，走行クラッチペダルをいっぱい踏込むと，エンジンを再始動できます。その後，こく粒を排出してください。**

❺ 表示メーター



⑴ 方向指示器表示灯

方向指示器が点滅すると同時に点滅します。

⑵ アワメータ

0000.0

機械の運転の積算時間を示します。

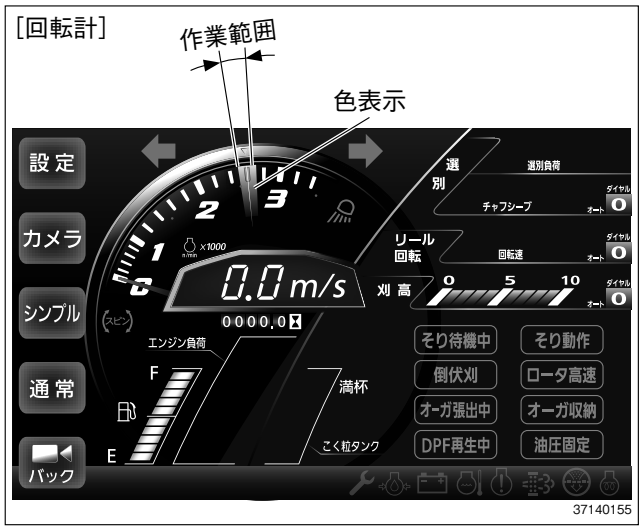
積算時間を目安に定期点検整備を行います。

⑶ 回転計

１分間のエンジン回転数を示します。

こく粒の排出も色別表示の回転数で行います。

・イネ・ムギ（大麦・小麦・ビール麦・裸麦）の場合……黄色：作業範囲



⑷ 速度表示

走行時，作業時の車速をm/sで表示します。

⑸ スピンインジケータ

副変速レバーをスピン位置にするとインジケータが点灯し，マルチステアリングレバーを左，右にいっぱいに倒した状態にするとスピンターンが作動します。

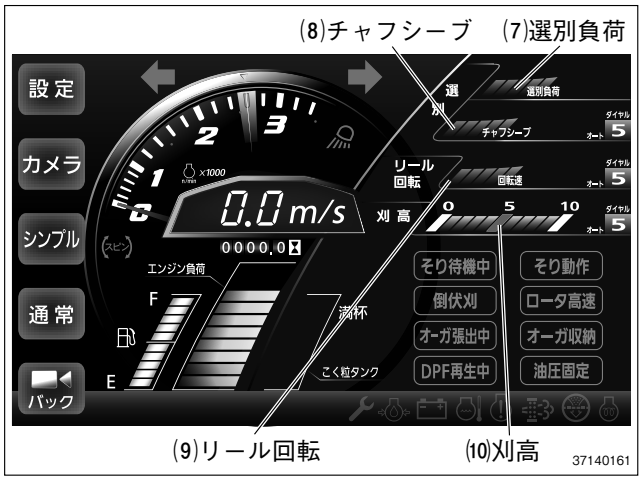
V199

⑹ 作業灯

スタータスイッチを《入》位置にし，コンビネーションスイッチを２段回すと作業灯表示が点灯し，作業灯が点灯します。

V195

・路上走行時は，作業灯を消灯します。



(7) 選別負荷

刈取中，脱こくの負荷状態を表示します。

(8) チャフシーブ

刈取中，チャフシーブの開き量を表示します。

(9) リール回転

刈取中，リールの回転速度状態を表示します。

(10) 刈高

刈高調整ダイヤル位置を表示します。



(11) そり待機中

対地平行・刈高さ自動キット（ディーラーオプション）の，ストッパを外し，センサブラケットが下に下がった状態で点灯します。

対地平行・刈高さ自動キットが装着されていないとランプは点灯しません。

(12) そり動作

対地平行・刈高さ自動キット（ディーラーオプション）の，センサブラケットが地面に接し動作した状態で点灯します。

対地平行・刈高さ自動キットが装着されていないとランプは点灯しません。

(13) 倒伏刈

主変速グリップの倒伏刈スイッチを押して《**入**》にすると，倒伏刈灯が点灯し，リールの回転速度が通常より速くなります。またリール位置が下がり，前方へ出ます。

(14) ロータ高速

ロータ変速を高速側へ切替え刈取作業をすると点灯します。

(15) オーガ張出中

排出オーガを動かしたときに点灯します。

(16) オーガ収納

オーガレストが収納位置にあり，排出オーガがオーガレストに収納されたら点灯します。

(17) DPF再生中

DPFを再生しているときに点灯します。

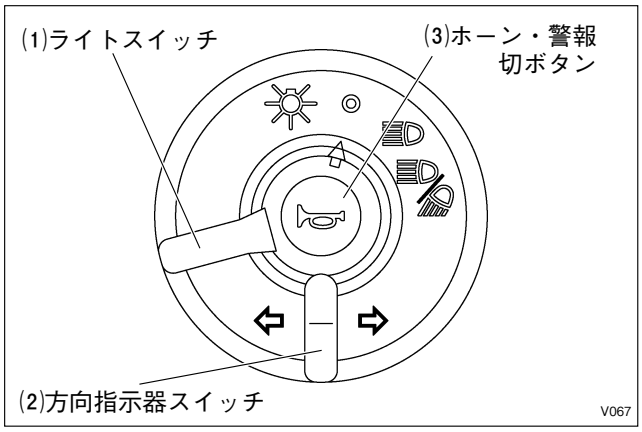
(18) 油圧固定

油圧固定スイッチが固定位置になっているときに点灯します。

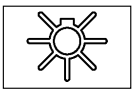
取扱いのポイント

●通常の刈取りでリール速度が最高速に達しているときは倒伏刈スイッチを《入》としても，それ以上は速くなりません。

❻ コンビネーションスイッチ



(1) ライトスイッチ

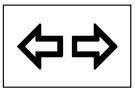


《 ◎ 》……消灯

《 ≣D 》……前照灯が点灯します。

《 ≣D% 》……前照灯およびすべての作業灯が点灯します。

(2) 方向指示器スイッチ



方向指示器（左），（右）を点滅させます。

右折，左折のときに使用します。

(3) ホーン・警報切ボタン



・スタータスイッチを《**入**》の位置にして，ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。走行するときの警報，作業時の合図に使用します。

・こく粒タンクランプの点灯（タンク満杯），および警報ブザーが鳴ったとき，このボタンを押すと警報ブザーが鳴り止みます。

取扱いのポイント

●つぎの場合は，警報切ボタンを押しても鳴り止みません。右記の方法で警報音が止まります。

●警報時の点検と処置については，68〜69ページをご参照ください。

警報機能	警報音停止方法
水温点灯 （オーバーヒート） 注意メッセージ表示	水温が下がるまでエンジンを「低速運転」し，スタータスイッチを《切》位置にする。
エンジン負荷 注意メッセージ表示	作業速度を下げる。
１番，２番詰まり 注意メッセージ表示	パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《切》にする。
チョッパ回転低下 注意メッセージ表示	パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《切》にする。
１番，２番回転低下 注意メッセージ表示	パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《切》にする。
エアクリーナ異常点灯 注意メッセージ表示	エンジンを停止し，エアクリーナの詰まりを取除きます。

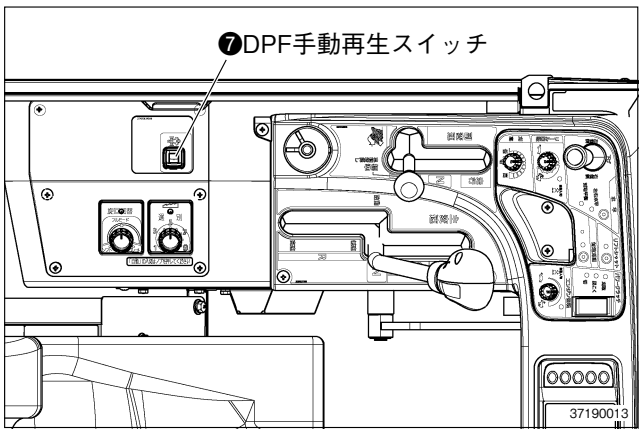
❼ DPF（ディーゼル・パティキュレート・フィルタ）手動再生スイッチ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆DPF再生中は，排気管やマフラなどが高温状態になり，火傷や火災が発生する原因になると共に排気ガスによる中毒になるおそれがあります。下記の事項を遵守してください。

- ●納屋や倉庫など換気の悪い場所では，再生処理を行わないでください。
- ●再生処理を行う前には，排気管やマフラおよび周辺部に，発火する原因となる燃えやすいゴミなどがあれば取除いてください。
- ●DPF再生中は，排気管やマフラおよび周辺部に人を近付けないでください。また，コンバインからは離れないでください。
- ●一日の作業終了後は排気管やDPFおよびその周辺にワラなどの燃えやすいものが溜まっていないか点検し，溜まっていたら掃除して取除いてください。
- ●DPF再生中とその直後は排気管やマフラが高温になっています。シートをかけたり保管する場合は冷えてから行ってください。

ＰＭ（ススなど粒子状物質）がDPF内に一定量堆積すると，DPFインジケータが点滅すると同時に警報ブザーが鳴ります。その際にＰＭを除去するため，手動再生処理を行うスイッチです。



手動再生処理を行うとき，手動再生条件にセットしてDPF手動再生スイッチを長押し（１秒以上）すると，DPFインジケータランプが点滅から点灯に切換わり手動再生処理が始まります。再生の手順が終わると，DPFインジケータは消灯します。（再生手順の詳細は37～38ページ参照）

❽ 油圧固定スイッチ

⚠警告 傷害事故防止のために

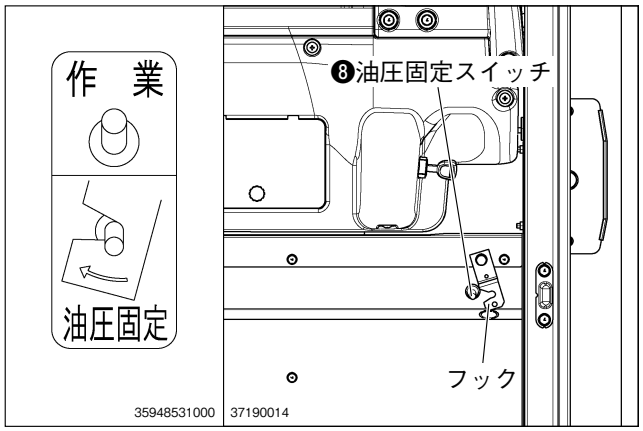
◆ヘッダ部を上げて，その下で整備などするときは，エンジンを停止し，油圧固定スイッチを《油圧固定》の位置にし，フックをかけてください。さらにヘッダ部が下がらないようにヘッダ部の下に固定脚などをおいて作業してください。

◆油圧固定スイッチを操作するときは，ヘッダ部付近に人がいないことを確認してください。

ヘッダ部を固定します。

・《**油圧固定**》位置にすると，マルチステアリングレバーを操作しても作動しません。《**油圧固定**》位置にしたときはフックをかけてください。路上を走行するときは，《**油圧固定**》位置で使用します。

・作業時には，油圧固定スイッチを《**作業時**》の位置で使用します。



・リール上下および前後も油圧固定にしたときには，作動しません。

❾ 強制かき込みスイッチ

パワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチが《**刈取**》位置のとき,走行停止状態時または後進時に刈取搬送を作動させたいときは，強制かき込みスイッチを押してください。押している間リールが最下限位置まで下がり，リール回転速度が最高回転で固定され作動します。(詳細は58ページ参照)

スイッチを放すと，リールは元の位置（ボタンを押す前の位置）に戻り，リール回転速度の最高回転固定が解除されます。

取扱いのポイント

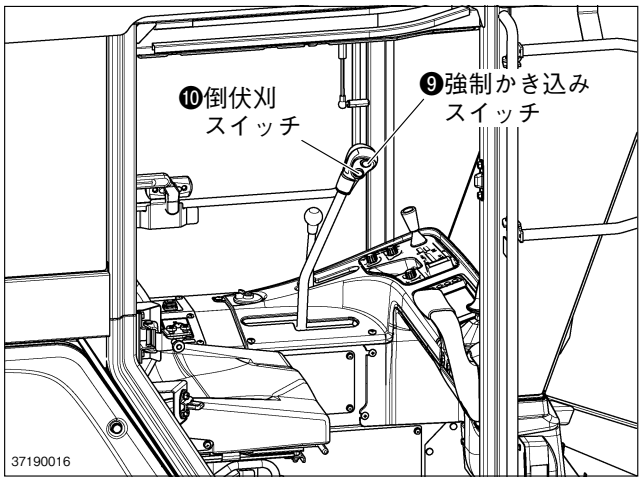
●あぜ際や，四隅刈りを除く刈取作業中はスイッチを操作しないでください。ヘッダ部，脱こく部の詰まりなどの原因になることがあります。

❿ 倒伏刈スイッチ

倒伏刈取作業などで，リール回転の速度を通常より速くしたいときは，倒伏刈スイッチを押してください。前パネルの倒伏刈インジケータが点灯します。

また，リール位置が下がり前方へ出ます。

もう一度スイッチを押すとインジケータが消灯し，リールはボタンを押す前の位置，速さに戻ります。



取扱いのポイント

●作物の状態に応じて，使用してください。

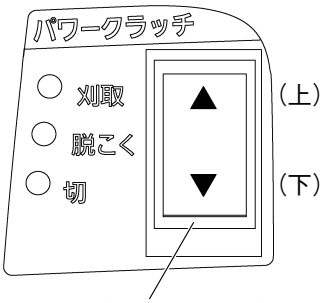
⓫ パワークラッチ（脱こく･刈取）スイッチ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《脱こく》,《刈取》に操作するときは，コンバインの周囲から人を遠ざけてください。

・パワークラッチ(脱こく･刈取)スイッチの▲(上)を１回押すと《**脱こく**》インジケータが点灯し脱こく部が作動します。

・パワークラッチ(脱こく･刈取)スイッチの▲(上)をさらにもう１回押すと《**脱こく**》と《**刈取**》インジケータが点灯し前進時にヘッダ部が作動します。



⓫パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ

36880219

・パワークラッチ(脱こく･刈取)スイッチの▼(下)を１回押すと《**刈取**》インジケータが消灯し《**脱こく**》インジケータのみ点灯し、脱こく部のみが作動します。

・パワークラッチ(脱こく･刈取)スイッチの▼(下)をさらにもう１回押すと《**切**》インジケータが点灯し脱こく部が停止します。

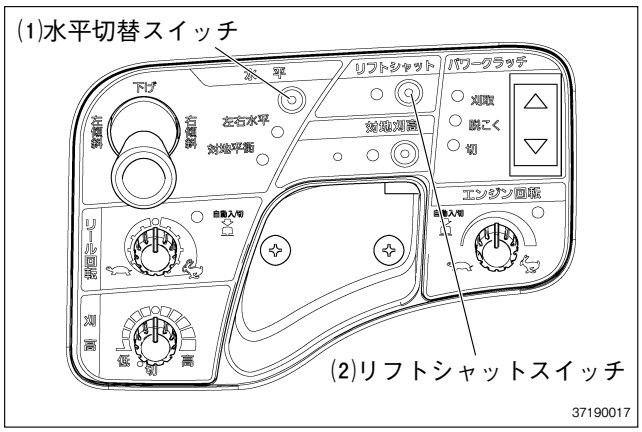
・パワークラッチ(脱こく･刈取)スイッチの▲(上)▼(下)スイッチを長押しするとインジケータが連続して切り替わります。

取扱いのポイント

●刈取り作業を行うとき，回転計の「色表示」(作業範囲）以下では《刈取》位置にしないでください。脱こく部の詰まりの原因となります。

●停止時のパワークラッチ（刈取・脱こく）の位置により再始動時にスタータスイッチ《入》で２～３秒の準備時間がかかることがあります。ブザー音でお知らせしますが，異常ではありません。

⑫ 自動スイッチ



(1) **水平切替スイッチ**

押す度に水平自動制御を「**左右水平**」→「**切**」→「**左右水平**」の順に切替わり，ランプが点灯し，「**切**」のときはランプが消灯します。対地平行ランプは点灯しません。

・対地平行（ディーラーオプション）が装着されている場合のみ，ランプは点灯します。

(2) **リフトシャットスイッチ**

ヘッダ部を上げるとヘッダ部が停止する機構がリフトシャットです。スイッチを押してリフトシャットの《**入**》《**切**》の切替を行います。リフトシャット《**入**》時はランプが点灯します。

取扱いのポイント

●**あぜぎわや枕地刈りのときは，リフトシャットを《切》にして行ってください。**

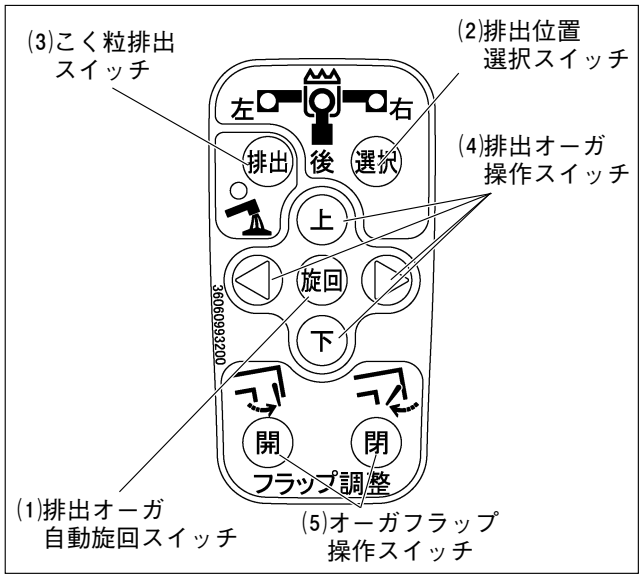
●**刈取り作業をする前に，リフトシャットの作動を確認してから，作業を始めてください。**

⑬ オーガ操作リモコン

⚠警告 傷害事故防止のために

◆排出オーガを操作するときは，排出オーガ固定ワイヤをフックから外して周囲の障害物と衝突しないように行ってください。

◆排出オーガを上げたままでの路上走行や，ほ場の移動はしないでください。上げたままで走行しますと，障害物との衝突により事故となることがあります。また，故障の原因にもなります。



(1) **排出オーガ自動旋回スイッチ**

・排出オーガ収納位置で，自動スイッチを押すと，排出オーガが排出位置まで，自動旋回します。

・排出オーガ収納位置以外で，自動スイッチを押すと，排出オーガ収納位置へ戻ります。

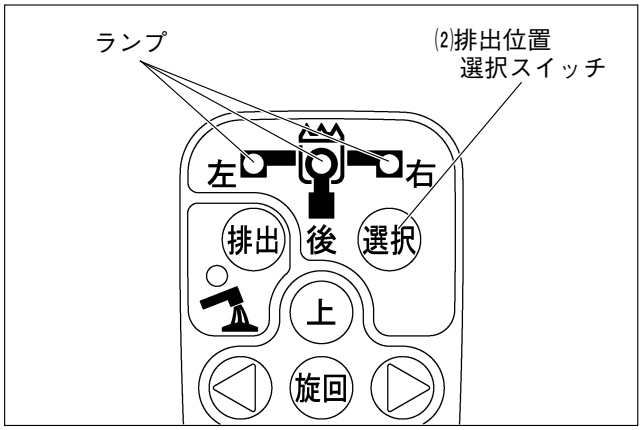
・排出オーガ自動旋回中，または自動収納途中で旋回停止を行う場合は，再度，自動スイッチを押すと停止します。(詳細は，75～76ページ参照)

・オーガレスト格納状態でリールが上がっているときに，自動収納をすると，警告音が鳴り排出オーガ自動収納は動作しません。

(2) **排出位置選択スイッチ**

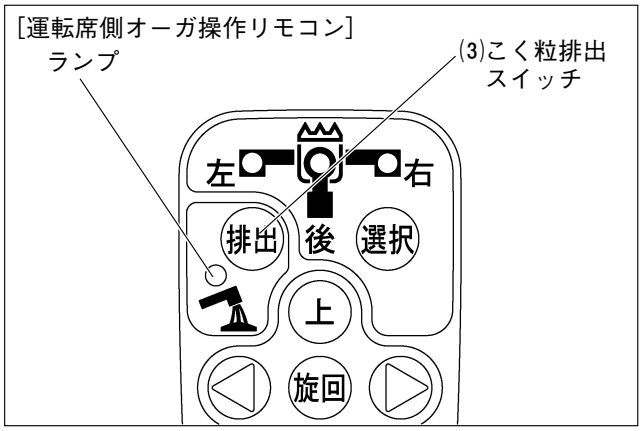
・自動スイッチを押すと排出オーガが自動旋回し，停止する排出位置（「後」「右」「左」の３方向）の選択を行うスイッチです。

・排出位置選択スイッチを押すと
「後」→「右」→「左」→「後」の順に切換り，ランプが点灯します。



⑶ こく粒排出スイッチ

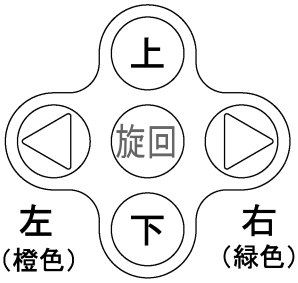
・このスイッチを押すとランプが点灯し，グレンタンク内のこく粒を排出します。再度スイッチを押すとランプが消灯し，排出を停止します。



⑷ 排出オーガ操作スイッチ

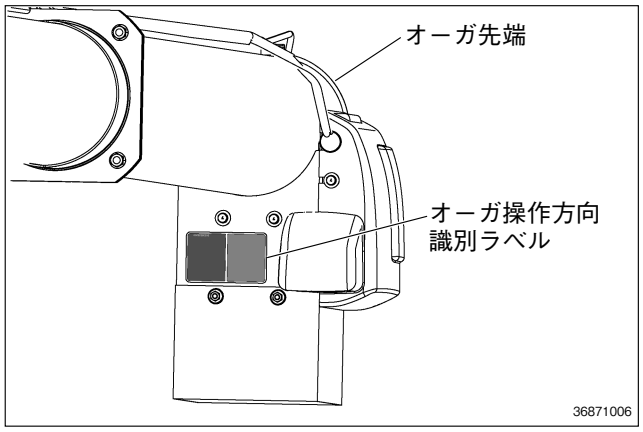
・排出オーガの旋回および上昇・下降の操作を行うスイッチです。

・排出オーガを旋回するときは，排出オーガを上限まで上げてから行います。

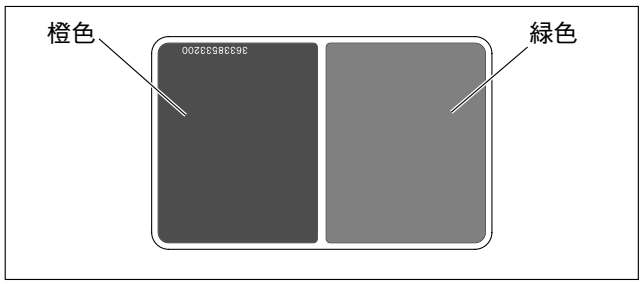


スイッチの操作方向	オーガの動き
上	上昇
下	下降
左	左回り（反時計方向）に旋回
右	右回り（時計方向）に旋回

オーガ操作方向識別ラベル貼付位置



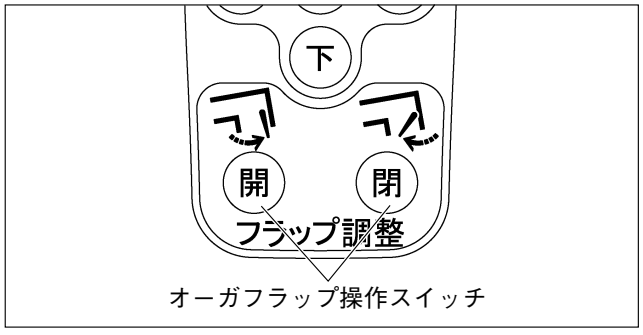
オーガ操作方向識別ラベル

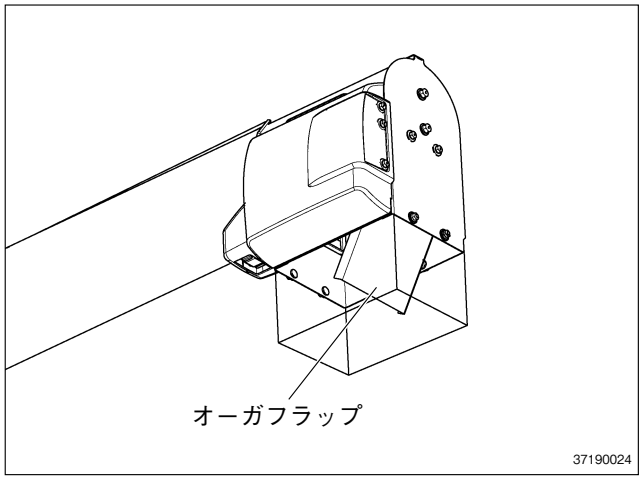


⑸ オーガフラップ操作スイッチ

・オーガフラップの開閉操作を行うスイッチです。

・オーガフラップを開閉操作し，こく粒排出位置の微調整ができます。
（こく粒排出範囲は60ページ参照）

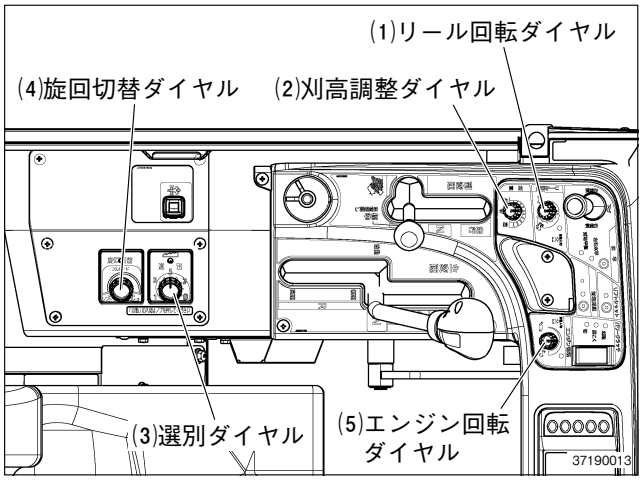




取扱いのポイント

- **排出オーガを動かすときはフックから排出オーガ固定ワイヤを外してください。**
- **水平位置より下げた状態で排出オーガを旋回しないでください。**
- **こく粒を排出する場合は，エンジン回転を回転計の「作業の上限」に合わせてください。回転が低いと詰まりの原因となります。**

⑭ 調整ダイヤル



(1) リール回転ダイヤル（スイッチ一体型）

リール回転をコントロールするダイヤルです。リール回転自動を使用するときは，ダイヤルを押してランプ点灯で使用します。リール回転自動**《入》**のときは，刈取速度に応じて自動的にリールの回転数を保ちます。

・ランプが点灯状態からダイヤルを押すと，ランプが消灯し，自動は働きません。
・作物の刈取方向や倒伏状態に応じて調整を行うことができます。「🐢」側に回すとリール回転が遅くなり，「🐇」側に回すとリール回転が速くなります。

(2) 刈高調整ダイヤル

・刈高さの調節は，刈高調整ダイヤルの操作によって，希望する**「刈高さ位置」**を設定することができます。
・刈高調整ダイヤルは，通常**《標準》**位置（●印位置）で使用します。

取扱いのポイント

- **刈高さポジションコントロールを使用しないときは，ダイヤルを《切》位置で使用します。**
- **ほ場の凹凸が多い場合には，マルチステアリングレバーで手動操作してください。**
- **刈高調整ダイヤルをどの位置にセットしても，刈高さポジションコントロールが設定できないときは，エンジンを停止して，ヒューズの点検・配線接続部の外れなどがないか確認してください。**

(3) 選別ダイヤル

刈取る作物に合わせて，選別ダイヤルをいずれかの位置にセットします。

(4) 旋回切替ダイヤル

ダイヤル操作によって，希望する**「旋回モード」**を設定することができます。

・**《フルモード》**位置（●印位置）およびその左右３ノッチ位置がフルモード旋回（マルチステアリングレバー倒し角度により，ソフト旋回→ブレーキ旋回）となります。
・**《ソフト》**位置（最左およびその手前位置）がソフト旋回になります。
・**《ブレーキ》**位置（最右およびその手前位置）がブレーキ旋回になります。



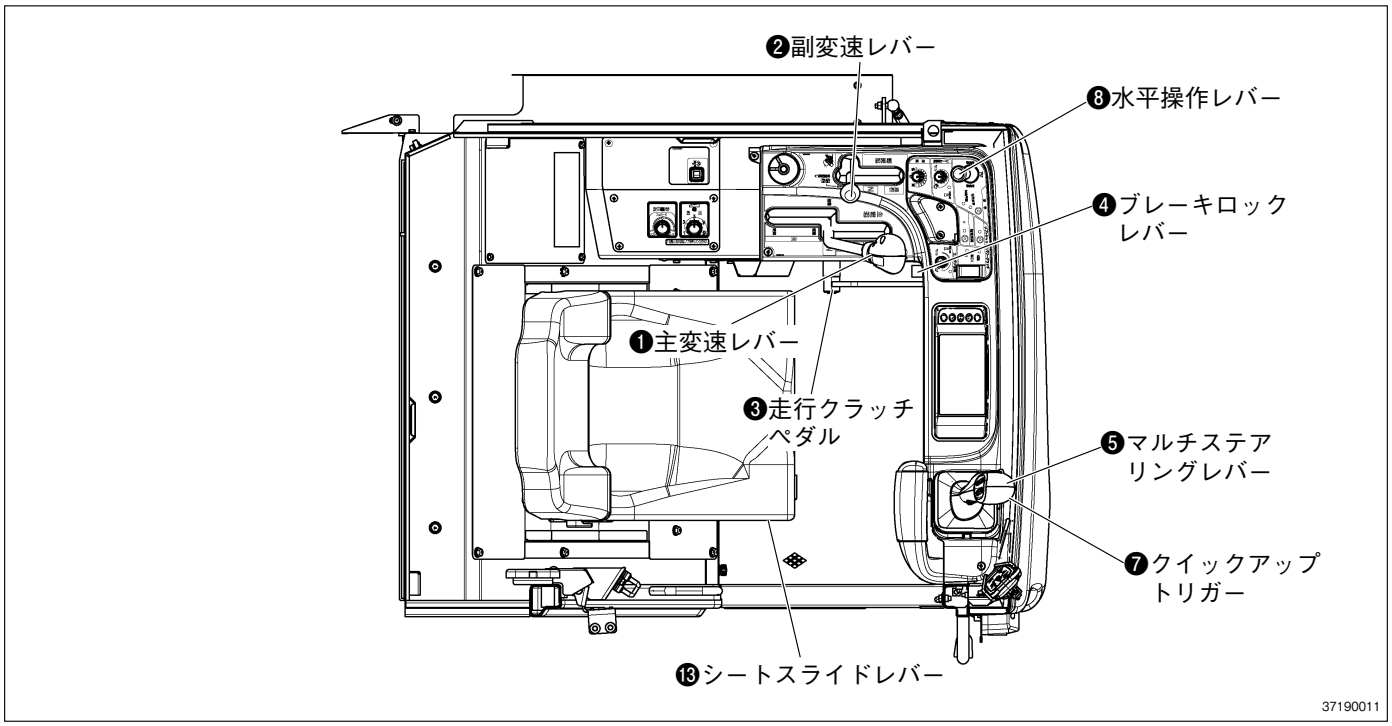
取扱いのポイント

- **フルモード旋回は通常《フルモード》位置で使用します。ダイヤルは，マルチステアリングレバーの操作角度に対して右に回すと旋回動作が速くなり，左に回すと遅くなります。**
- **フルモード旋回，あるいはソフト旋回を設定していても，路上走行時には自動的にブレーキ旋回となります。**

⑸ エンジン回転ダイヤル（スイッチ一体型）

・エンジン回転をコントロールするダイヤルです。ダイヤルを右に回すと回転数が上がります。
・エンジン回転自動を使用するときは，ダイヤルを押してランプ点灯で使用します。
・ランプが点灯状態からダイヤルを押すか，回したときは，ランプが消灯し，自動は働きません。

2. ペダル・レバー・ステップ関係



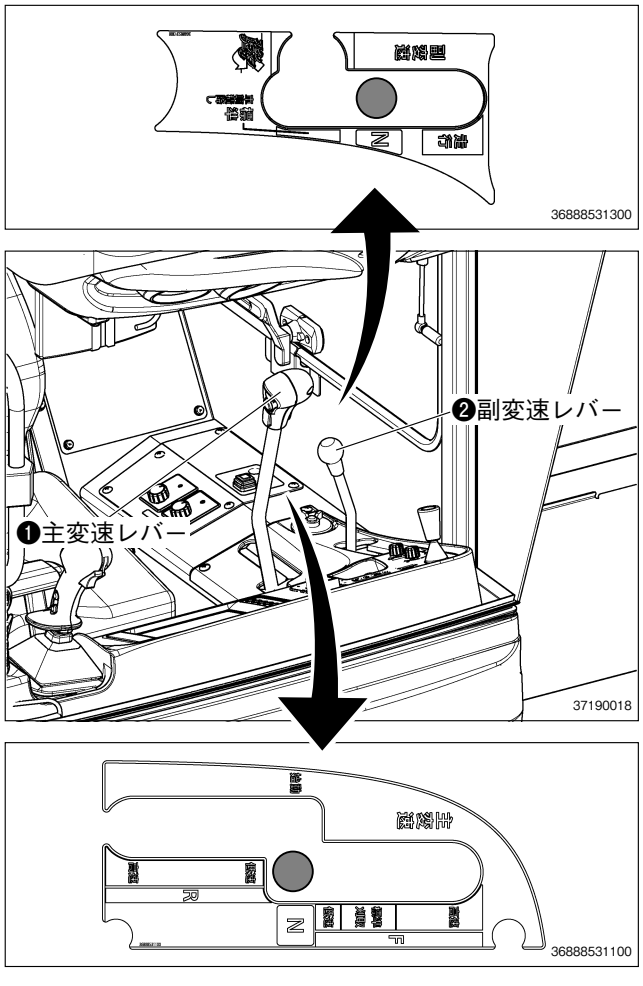
❶ 主変速レバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆走行中，主変速レバーを急激に増速・減速の操作をしないでください。
◆前後進の切替えは，機械が停止してから行ってください。
◆自動車などへの積込み・積降ろしのときは，アユミの上で変速操作，クラッチ操作をしないでください。
◆機械から離れるときは，《中立》(N) でも動く場合があるので，平坦な場所で駐車ブレーキをかけエンジンを停止してください。

走行クラッチペダルを踏まないで走行速度の変速ができます。前進・後進いずれも任意の位置に操作するだけで，作業に適した速度が得られます。

エンジンの始動は，主変速レバーを**《中立始動》（前進側中立位置）**位置にし，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとできません。



作業内容	副変速	主変速
積込み，あぜ越え	車両積降し 標準	[中立]から[前進・低速]
積降ろし		[中立]から[後進・低速]
路上，ほ場走行(前進)	標準 走行	［中立］から発進し，その場の状況に応じ順次速度を上げる。
路上，ほ場走行(後進)	標準	
刈取時の後進		
標準刈取り	標準	[中立]から[標準刈取]
倒状刈取り	標準	[中立]から[低速]または[標準刈取]

取扱いのポイント

- **エンジン回転自動スイッチが《入》の場合，主変速レバーの発進操作と共にエンジン回転が上昇します。**
- **副変速レバー《走行》で急旋回すると，主変速レバーが戻ることがありますので，《走行》では急旋回しないでください。**

❷ 副変速レバー

> ⚠警告 傷害事故防止のために
>
> ◆スピンドライブターンの「入」，「切」は，ゆっくり前進走行しながら副変速レバーを左右に確実に切替えてください。確実に切替わっていないと，マルチステアリングレバーを操作しても旋回できません。
>
> ◆路上走行するときはスピンドライブターンは使用しないでください。

作業目的や刈取り条件により《**標準・車両積降し**》《**走行**》（**高速**）の２段に変速ができます。

・副変速レバー操作は，主変速レバーを《**中立**》にして，走行を停止してから走行クラッチペダルを踏込んで行います。

・自動車への積込み・積降ろし，ほ場への出入りは《**標準・車両積降し**》位置で行います。

・刈取り作業は《**標準・車両積降し**》位置で行います。《**走行**》位置での刈取り作業はしないでください。

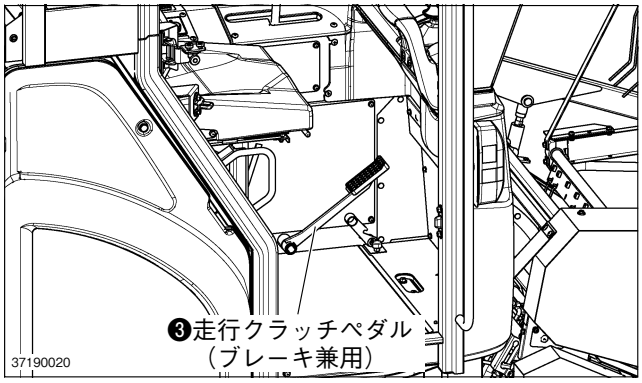
・見通しが良く平坦な道路では《**走行**》位置で走行します。狭い道路や凹凸のある道路は《**標準・車両積降し**》で走行します。

・「**スピンドライブターン**」とは，左右のクローラが逆転して旋回します。小回りが必要なときや能率を上げて作業する場合に使用します。《**スピンドライブターン**》への切替えは，《**標準**》位置で，走行クラッチペダルを踏まずにゆっくり前進走行しながら副変速レバーを左に確実に切替えます。

❸ 走行クラッチペダル（ブレーキ兼用）

⚠警告 傷害事故防止のために

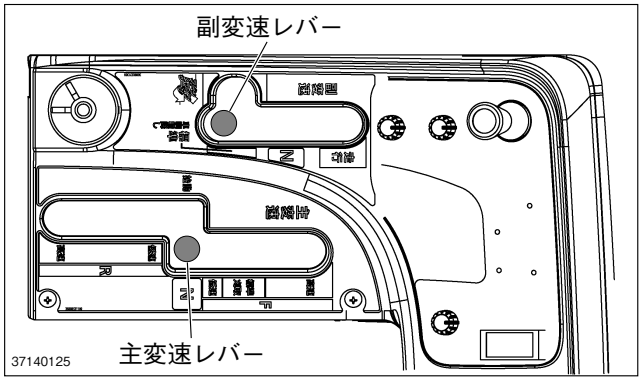
◆走行クラッチペダルは自動車への積込み・積降ろしなどアユミの上では操作しないでください。転落事故を起こすことがあります。
◆通常の停止は主変速レバーの操作で停止してください。
◆走行クラッチペダルに足を乗せたまま旋回操作をしないでください。
ペダルに足を乗せていると旋回後も直進に戻らないことがあります。



機械の始動，副変速レバーの操作に使用します。走行クラッチペダル（ブレーキ兼用）をいっぱいに踏込むと，主変速レバーが《**中立**》に戻り，トランスミッションへの動力が絶たれ，ブレーキがかかる構造になっています。

⑴ **エンジンの始動に使用します。**
・エンジンを始動するときは，走行クラッチペダルをいっぱいに踏込みます。

⑵ **機械の副変速レバーの操作に使用します。**
・副変速レバーを操作するときは，走行クラッチペダルをいっぱい踏込みます。



取扱いのポイント

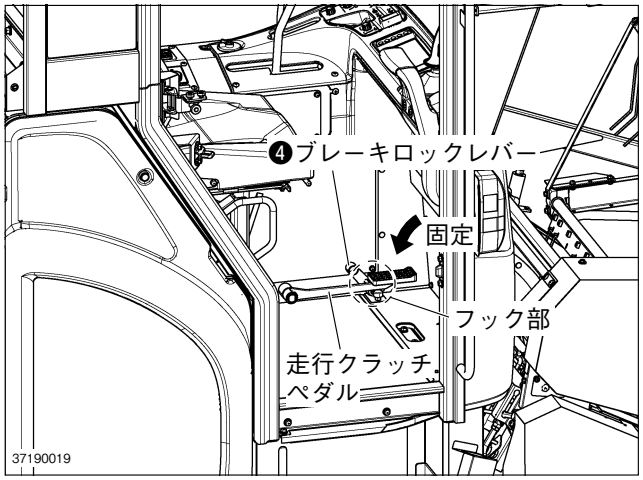
●走行クラッチペダルを踏んだままだと，主変速レバーは操作できません。
●作業中，走行クラッチペダルを踏むと走行と同時にヘッダ部も停止します。

❹ ブレーキロックレバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆坂道など傾斜のある所では，駐車しないでください。やむをえず駐車する場合には，ブレーキロックをかけ，木片などでクローラに「車止め」をします。
◆ブレーキロックレバーは，自動車への積込み，積降ろしなどアユミの上では操作しないでください。機械がずり落ちることがあります。

・駐車するときに使用します。走行クラッチペダルをいっぱい踏込むと自動でブレーキロックレバーがペダルにかかかります。
・解除するときは，走行クラッチペダルをつま先側で踏みながらペダル横のブレーキロックレバーをかかと側で踏込むと，ロックが解除されます。



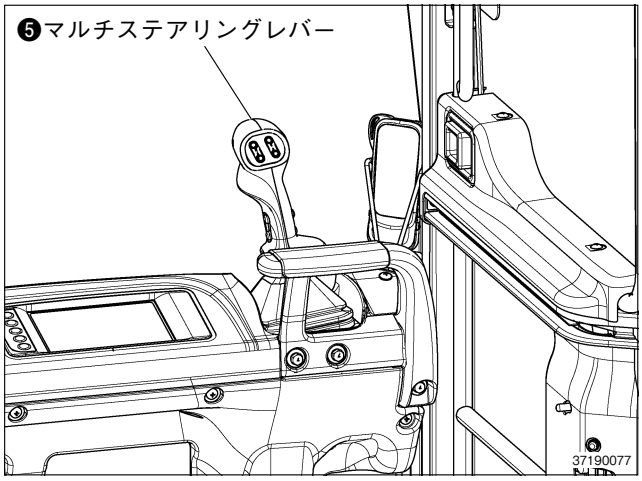
取扱いのポイント

●機械を駐車するときは走行クラッチペダルをいっぱい踏込んでブレーキロックレバーがかかったことを確認してください。

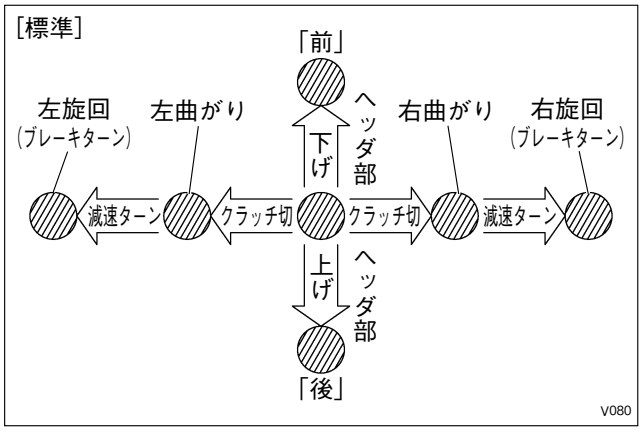
❺ マルチステアリングレバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆旋回するときは，主変速レバーで速度を落として行ってください。
◆自動車などへの積込み・積降ろしのときは，アユミの上でマルチステアリングレバーを左右操作しないでください。
レバー操作をすると急に方向転換して転落事故を起こすことがあります。



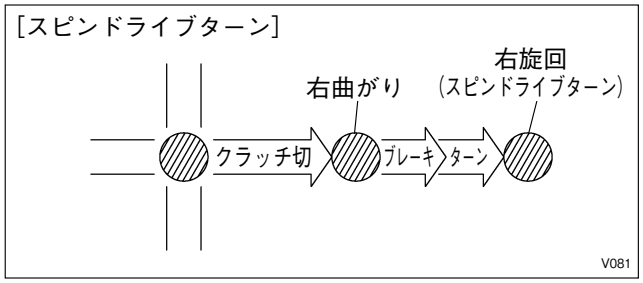
・１本のレバー操作により，左右操作で「**旋回**」，前後操作でヘッダ部の「**上げ**」「**下げ**」ができます。



取扱いのポイント

●前後操作のとき，操作量に応じてヘッダ部の上げ，下げ速度が変わります。

・マルチステアリングレバーを浅く倒すと機械は倒した側に徐々に曲がり，深く倒すと旋回します。



取扱いのポイント

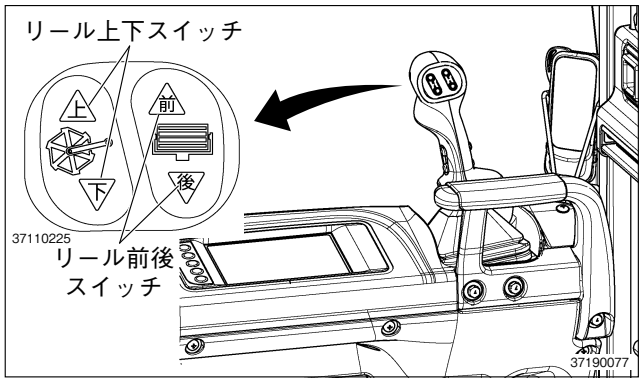
●マルチステアリングレバーを斜め方向に操作すると，ヘッダ部の上げ下げと方向修正・旋回が同時に行えます。

❻ リール上下スイッチ，リール前後スイッチ

⚠警告 傷害事故防止のために

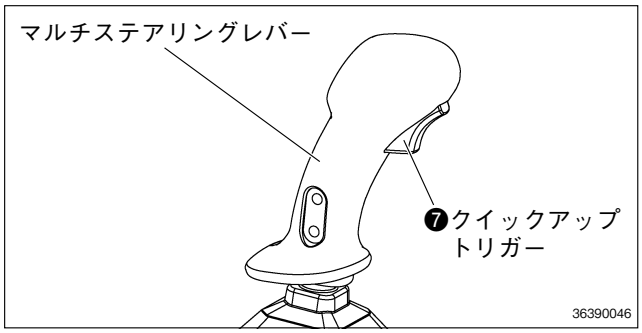
◆自動車などへの積込み・積降ろしのときは，アユミの上でリール上下およびリール前後の操作をしないでください。レバー操作をすると急に方向転換して転落事故を起こすことがあります。

マルチステアリングレバーに内装されています。



・リール上下スイッチ……
　スイッチを押した方向にリールが上下方向に動きます。
・リール前後スイッチ……
　前 を押すとリールは前に動きます。
　後 を押すとリールは後に動きます。

❼ クイックアップトリガー



① **クイックアップ，クイックセット**

旋回時のヘッダ部の上げ・下げ操作を容易にする機能です。

・クイックアップトリガーを握りながらマルチステアリングレバーを軽く(一瞬)上げ操作をすると，リールが下がりながらヘッダ部がリフトシャット位置(高さ)まで自動で上がります。

・下げ操作をすると，クイックアップする直前のヘッダ部高さ，リール位置に戻ります。(クイックセット)

② **刈高解除機能**

刈高さポジションコントロールで設定された刈高さを解除する機能です。

刈高さセット位置よりもさらにヘッダ部を下げたいときは，クイックアップトリガーを握りながらマルチステアリングレバーを下げ操作します。詳しい操作については「**刈高さポジションコントロール**」を参考にしてください。

❽ 水平操作レバー

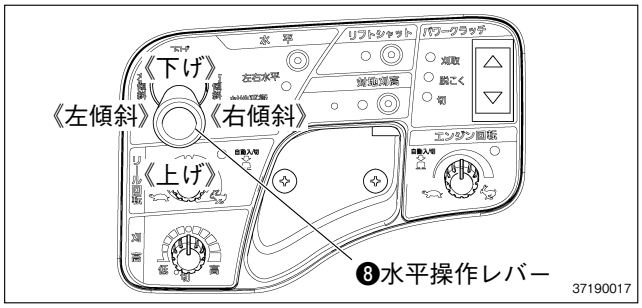
機械の「**上げ**」「**下げ**」「**右傾斜**」「**左傾斜**」をします。

・レバーを《**上げ**》の方向に倒すと，機械が上がります。

・レバーを《**下げ**》の方向に倒すと，機械が下がります。

・レバーを《**右傾斜**》の方向に倒すと，機械が右傾斜します。

・レバーを《**左傾斜**》の方向に倒すと，機械が左傾斜します。



取扱いのポイント

●**刈取り作業時以外は，水平操作レバーで機械を一番下まで下げて使用してください。**

❾ ハシゴ

送じんガイドの調整およびロータカバーの開閉などを行うために，フィーダハウスおよび機械上面に上がるためのものです。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ハシゴを使用するときは，エンジンを停止して各部の回転が止まったことを確認してから使用してください。

◆走行中および作業中には，ハシゴは使用しないでください。

◆ハシゴを使用しているときは，ロータサイドカバーを開閉しないでください。

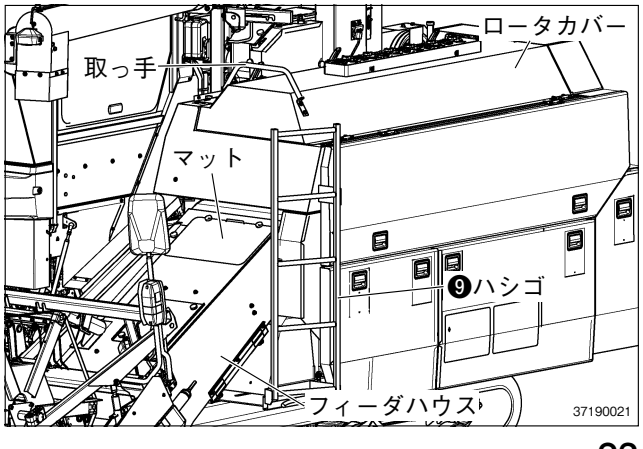
◆ハシゴを使用するときに，靴底に泥がついていますと滑り易くなりますので，注意して使用してください。

◆ハシゴを使用し，ロータカバー上部で作業をするときは，保護具を着用し，必要に応じて，安全帯，転落防止などの処置をしてください。

(1) 機械を下げ，リールを下げた状態でヘッダ部を最上げにし，油圧固定をしてからエンジンを停止します。

(2) ハシゴに上りフィーダハウスの上に乗ってください。

(3) ロータカバーの取っ手を持ちロータカバー上部に上ります。または，フィーダハウスに乗った状態でロータカバーを開閉します。(119ページ参照)



取扱いのポイント

●フィーダハウス上では，マットの上に乗ってください。

⑷　降りるときは，逆の手順で行います。

⑩　タンク固定・タンク回動

①　タンク固定レバー・タンク回動レバー

⚠警告　傷害事故防止のために

◆グレンタンク固定レバーを《解除》するときは，平坦な場所で各クラッチを切り，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行ってください。

◆グレンタンク内にこく粒が入っていないことを確認してから行います。
タンク内にこく粒が入った状態でグレンタンク固定レバーを《解除》するとグレンタンクが不意に回動し，事故となることがあります。また故障の原因となります。

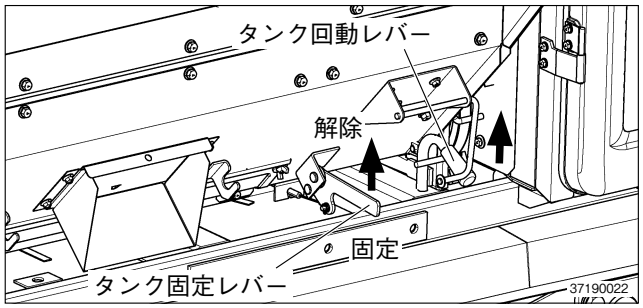
◆エンジンを始動する前に，グレンタンクが固定レバーで固定されていることを確認します。グレンタンクが固定されていない状態でエンジンを始動するとグレンタンクが不意に回動し，事故となることがあります。また故障の原因となります。

◆グレンタンクを回動したら，ストッパをかけて，作業を行ってください。

◆グレンタンクを回動し，中で作業をする場合は，１番張り込みラセンがありますので保護具を着用し，頭上に注意して作業を行ってください。

グレンタンクを定位置に固定するためのレバーです。

グレンタンクを回動（オープン）（127～128ページ参照）するときは，タンク回動レバーを持上げると同時にタンク固定レバーのロックを解除します。



タンクを収納しタンク回動レバーのピンがフレームの穴に入るとタンク固定レバーは固定状態になります。

取扱いのポイント

●**タンク固定レバーを先に外すとタンク回動レバーが外れにくくなりますので必ずタンク回動レバーを先に外してください。**

⑪　ロータ変速切替レバー

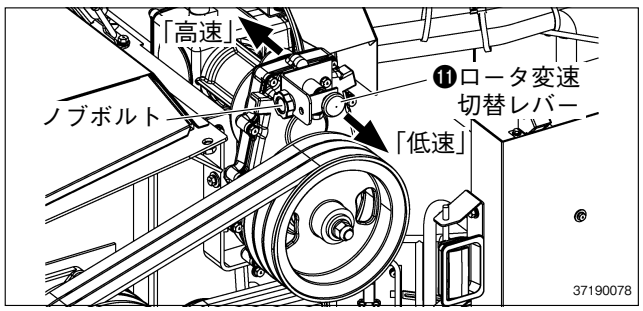
⚠警告　傷害事故防止のために

◆ロータ変速切替レバーの近くにベルト部がありますので，ロータ変速切替は，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行ってください。

作物に応じた回転数に設定して作業を行ってください。（作物別調整表（Aページ）参照）誤った設定のままで使用しますと，詰まりが発生したり，作物が損傷する場合があります。

ロータ回転を**「高速」「低速」**に切替えるときに使用します。

工場出荷時は**「高速」**になっています。



・チョッパスプレッダを回動します。（121～122ページ参照）

ロータ後カバーを取外します。

ノブボルトを取外して，レバーを切替えます。

・「**高速**」位置

……おもに稲・麦・はと麦を刈るときに使用します。

・「**低速**」位置

……大豆・そば・なたねを刈るときに使用します。

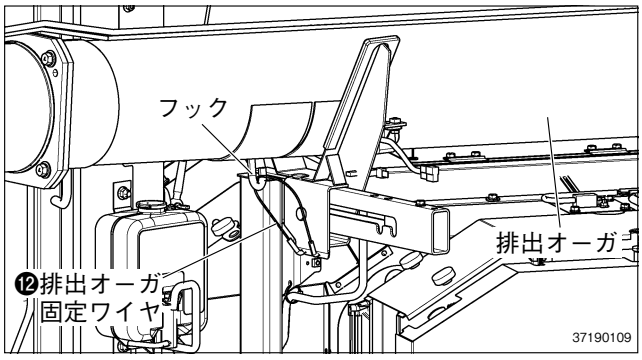
切替えを完了しましたらノブボルトで締付けて，ロータ後カバーを取付けます。

・詳細については，作業のしかたや作物別キット取扱説明書などをご覧ください。

⑫ 排出オーガ固定ワイヤ

排出オーガを収納状態で固定するワイヤです。

排出オーガを操作する前に，固定ワイヤをフックより外します。排出オーガ収納時は，固定ワイヤをフックにかけておきます。



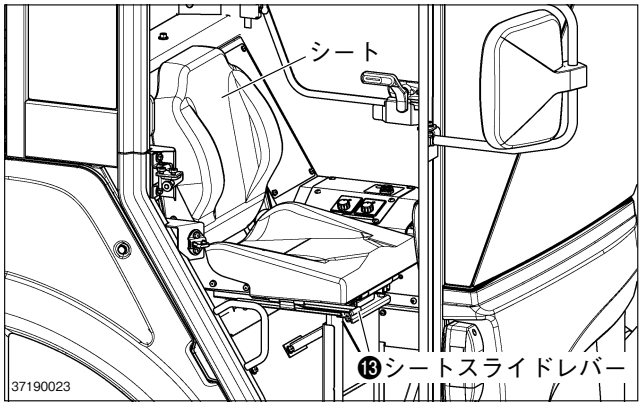
⑬ シートスライドレバー

運転者の体格に合わせ着座位置を前後にスライドさせます。

(1) レバーを上方に回動します。この状態で固定が外れます。

(2) シートを前後にスライドさせ，最適位置でレバーから手をはなします。

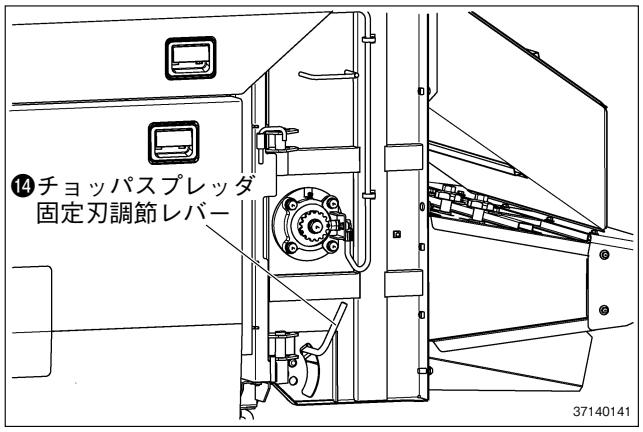
(3) その位置で固定されます。



⑭ チョッパスプレッダ固定刃調節レバー

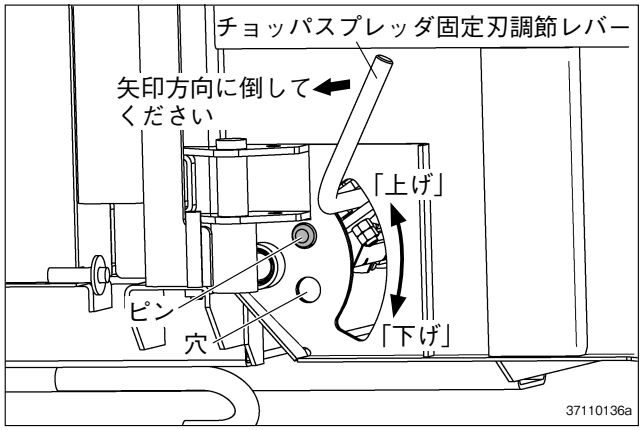
> **⚠警告** 傷害事故防止のために
>
> ◆レバーの調節をするときは，機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止して行ってください。

固定刃を出すと排ワラをより細かく切ることができます。



(1) チョッパ左カバーを取外します。

(2) チョッパスプレッダ固定刃調節レバーを矢印方向に倒しながら「**上げ**」または，「**下げ**」位置に動かします。このとき，ピンが穴に入っていることを確認してください。



(3) 切替が終わりましたら，チョッパ左カバーを取付けます。

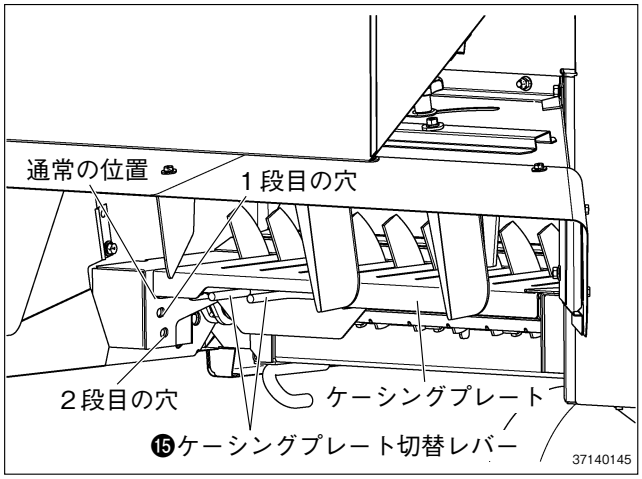
⓯　ケーシングプレート切替レバー

> ⚠警告　傷害事故防止のために
>
> ◆レバーの調節をするときは，機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止して行ってください。

麦などで稈量が多い場合は，ケーシングプレートを下げて作業を行ってください。

⑴　ケーシングプレート切替レバーを握り内側に寄せて，ケーシングプレートを下げてください。

⑵　１段目の穴にレバーピンを合わせ，外側に戻してケーシングプレートを固定してください。

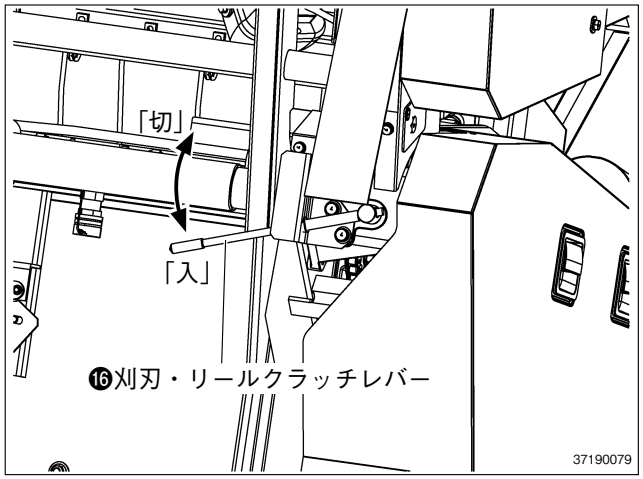


取扱いのポイント

- **２段目の穴は，詰まりが発生する場合のみ使用してください。**

⓰　刈刃・リールクラッチレバー

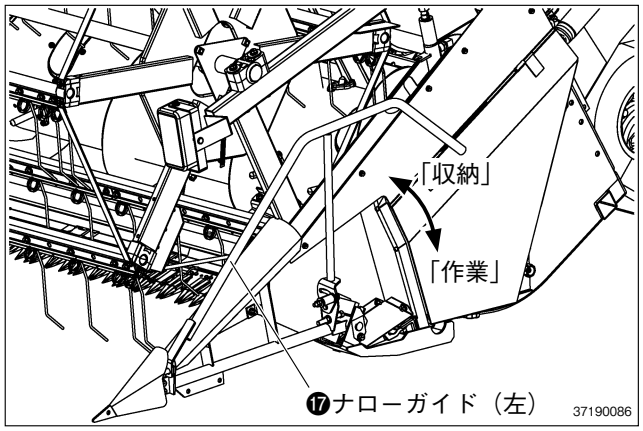
刈刃，リール，プラットホームの整備をするときに使用します。



・「入」位置……刈刃とリールが作動します。
　「切」位置……刈刃とリールが停止します。

⓱　ナローガイド（左）

作業をするときに外側いっぱいまで倒します。



3. アクティブタッチパネルについて

⚠警告 傷害事故防止のために

◆安全のため，作業者は走行中，作業中に操作をしないでください。走行中の操作はレバー操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。機械を停止させてから操作をしてください。

取扱いのポイント

- 画面の汚れはプラスチックレンズ用メガネふきなどの柔らかく乾いた布で軽くふき取ってください。手で強く押したり硬い布などでこすると表面に傷がつくことがあります。ベンジンやアルカリ性溶液などが付着すると画面が損傷するおそれがあります。
- 洗車時に水やスチームがかからないようにしてください。
- 画面が雨などでぬれた場合は柔らかい布でふき取ってください。
- エンジンを止めている状態で長時間使用するとバッテリーが過放電されるおそれがありますのでエンジンをかけたまま使用してください。
- 低温で最初に動作するときには画面が多少暗い場合がありますが，しばらくすると通常の明るさの画面になります。
- 液晶パネルは斜め方向から見ると画面が白っぽく見えたり，黒っぽく見えたりします。
- 太陽の光などの外光が画面に当たると画面が見えにくくなることがあります。
- 偏光レンズを使用したサングラスなどを装着すると画面が見えにくくなる場合があります。
- 表示画面のタッチ内側に結露が発生した場合，正しく動作しないことがありますので無理に使用せず，結露がなくなるまで操作をしないようにしてください。
- タッチは指で軽くタッチしてください。ボールペン，シャープペンシルの先など先端の硬い物や先端の鋭利な物で操作すると，故障の原因になることがあります。
- アクティブタッチパネルに保護シートなどを貼り付けると，保護シートによっては，タッチが正常に操作できなくなることがあります。

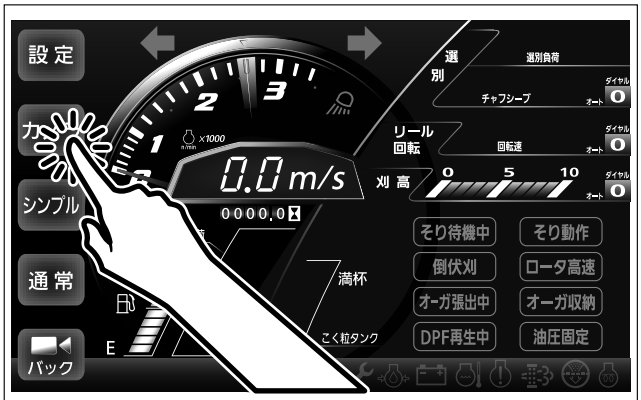
4. スライドタッチ操作について

アクティブタッチパネルは通常のタッチ操作に加え，タッチする指の動きに合わせて，画面などを動かすことができます。

スライドタッチ操作にはつぎの方法があります。

❶ タッチ

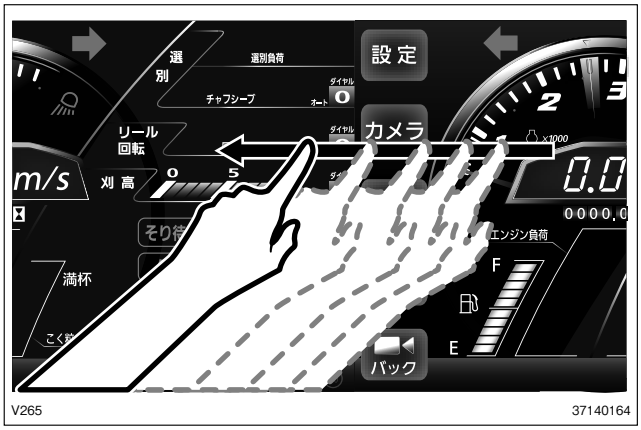
画面やアイコンを軽く指で叩きます。



V264 37140155

❷ スライド

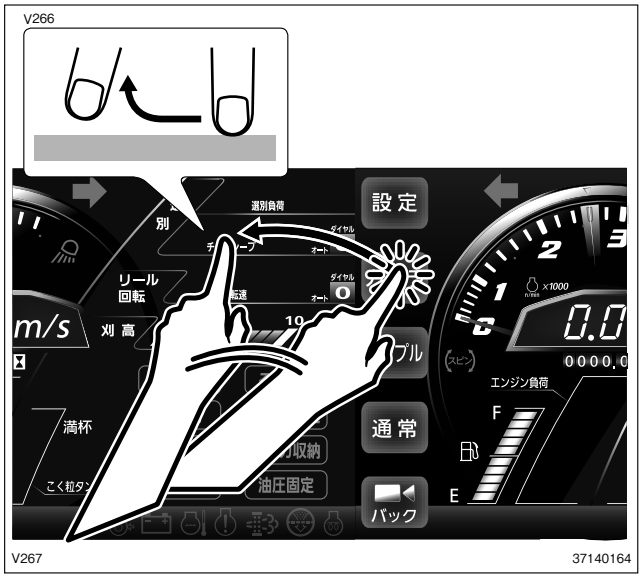
タッチした指を止めずに，画面に指をつけたまま動かします。



V265 37140164

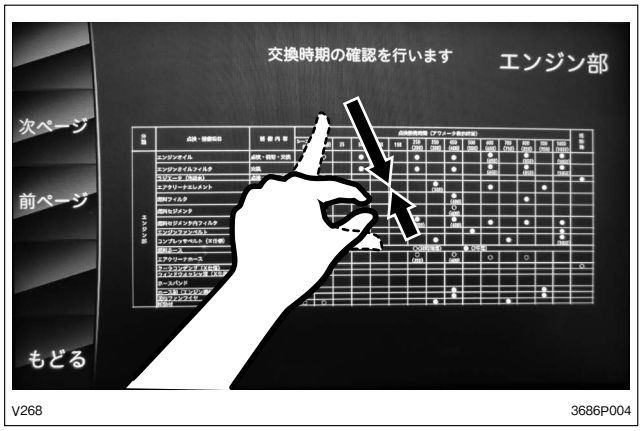
❸ フリック

画面をすばやくスライドさせます。(指を払うように動かす)



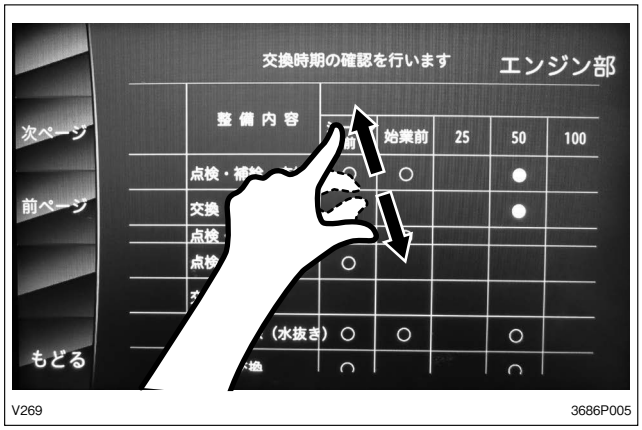
❹ ピンチイン

2本の指でつまみます。



❺ ピンチアウト

2本の指を広げるように動かします。



5. 機能について

❶ 設定

設定をタッチすると，各自動制御の記憶されている《ON》《OFF》状態と手入れについて表示されます。





各自動制御の《ON》《OFF》をこの画面で切り替えることができます。

操作が完了したらもどるをタッチします。

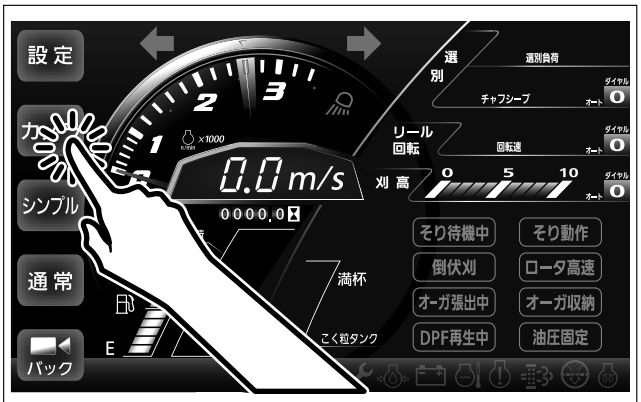
❷ カメラ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆バックモニタは，後退操作などを補助する装置です。操作するときは，目視やミラーで後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に行ってください。
安全を確認しないと重大な傷害におよぶか，最悪の場合，死亡事故につながるおそれがあります。

◆画面だけを見ながら機械操作するのは絶対にしないでください。
映像と実際の状況は異なることがあり，画面だけを見て操作すると機械をぶつけたり，思わぬ事故を引起こすおそれがあります。

カメラ をタッチすると，画面上にモニタ枠が表示されます。



V264 37140155

初期設定はバックになっています。



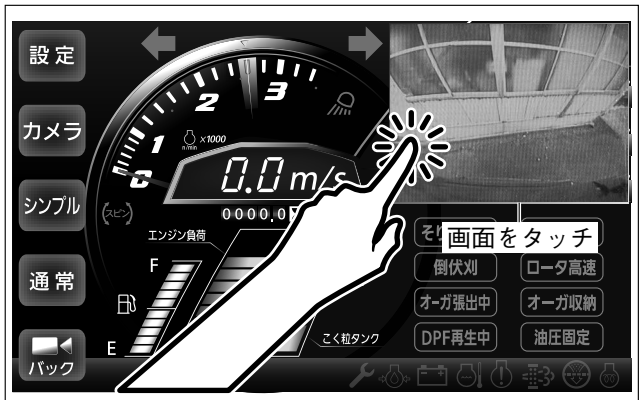
37140165

オーガ先端カメラ（ディーラーオプション）を装着すると，バックカメラとオーガカメラの切替えができます。

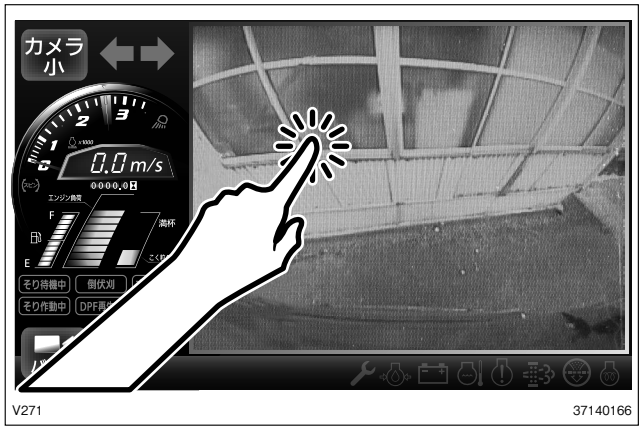
映像画面をタッチすると，画面が拡大されます。

カメラ大をタッチしても同じように画面が拡大します。

拡大している状況で画面をタッチしますと，画面が再度小さくなります。



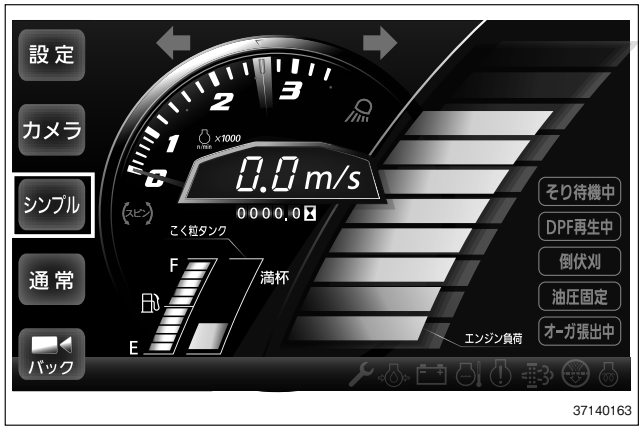
V271 37140165



V271 37140166

❸ シンプル

シンプル をタッチすると，簡素化された画面に切り替わります。



37140163

❹ 通常

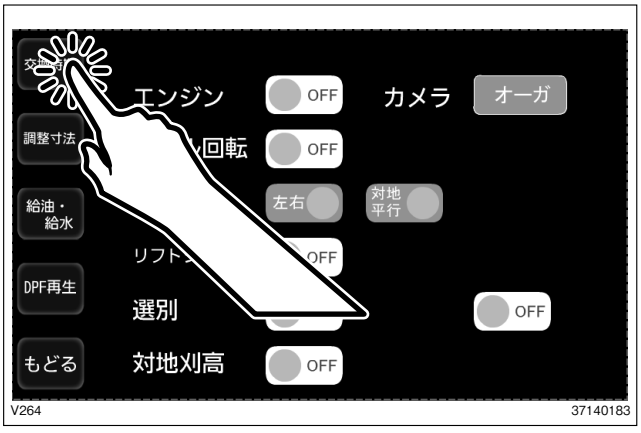
通 常 をタッチすると，通常画面に切り替わります。



37140155

❺ 交換時期

交換時期 をタッチすると，定期点検整備表が表示されます。



V264 37140183

画面左側にあります，次ページ 前ページ をタッチするとページが替わります。

操作が完了したら もどる をタッチします。

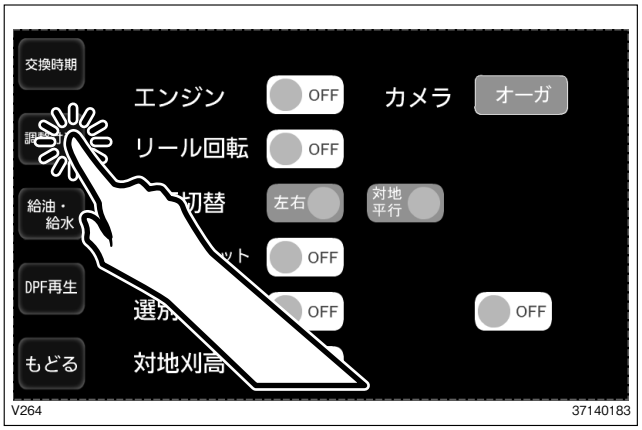


3686P004

詳細については86～87ページを参照してください。

❻ 調整寸法

調整寸法 をタッチすると，各部のスプリングセット寸法が表示されます。



V264 37140183

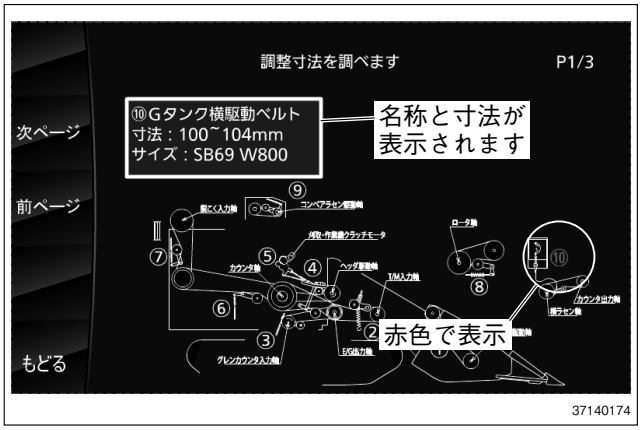
画面左側にあります，次ページ 前ページ をタッチするとページが替わります。

調整したいスプリングの番号をタッチすると名称と調整寸法が表示されます。

操作が完了したら もどる をタッチします。



V271 37140173

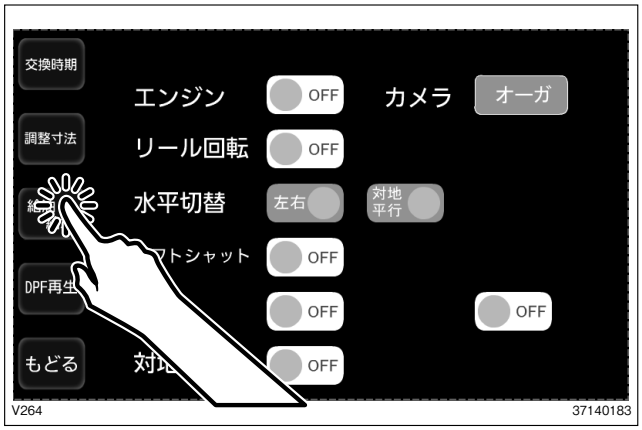


37140174

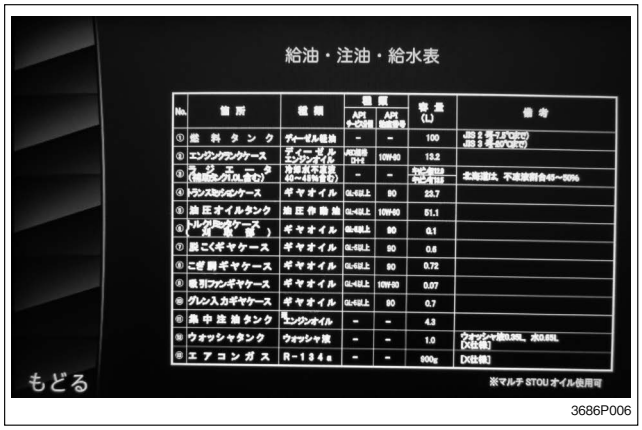
詳細については141～155ページを参照してください。

❼ 給油・給水

給油・給水 をタッチすると，給油・注油・給水表が表示されます。



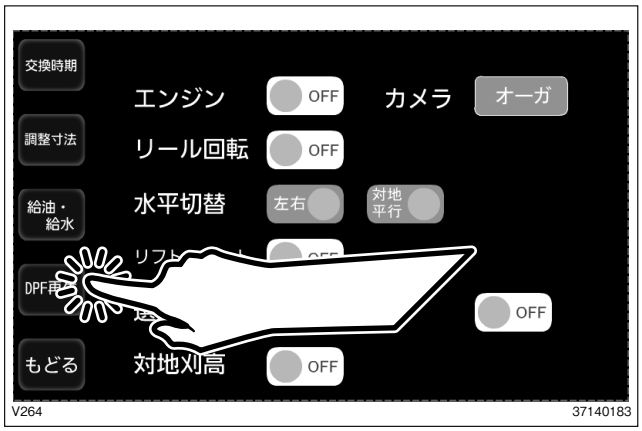
必要な情報が確認できたら もどる をタッチします。



詳細については89ページを参照してください。

❽ DPF再生

DPF再生 をタッチすると，現在のDPF堆積レベルが表示されます。



必要な情報が確認できたら もどる をタッチします。



詳細については37～38ページを参照してください。

❾ 注意表示

走行中や作業中に機械に問題が発生した場合に注意案内表示が現れます。

注意表示枠をタッチすると画面左下に縮小表示されます。

問題がなくなると，自動的に注意案内が消えます。



⑩　エンジンストップ表示

エンジン停止を伴う警告が発生した場合に画面表示されます。

問題を解決しなければ，エンジンストップ表示画面は消えません。問題を解決した後にエンジンを再始動させます。



6．モニタの取扱い

⚠警告　傷害事故防止のために

◆モニタは後退操作などを補助する装置です。操作するときは目視やミラーで後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に行ってください。安全確認を行わないと重大な障害におよぶか，最悪の場合，死亡事故につながるおそれがあります。

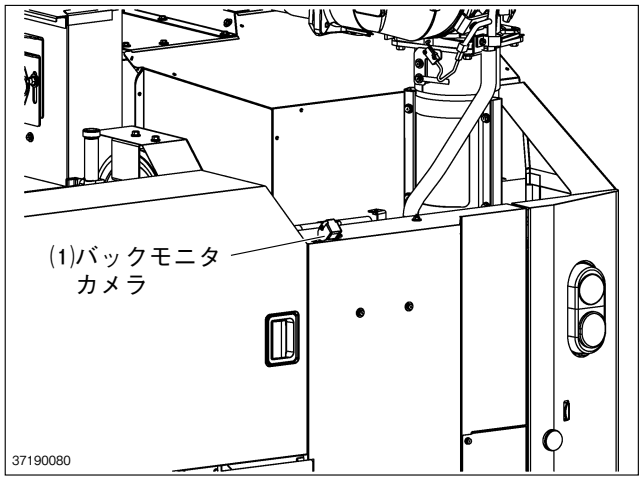
◆画面だけを見ながらの機械操作は絶対にしないでください。映像と実際の状況は異なることがあり，画面だけを見て操作すると機械をぶつけたり，思わぬ事故を引起こすおそれがあります。

◆機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい目的と異なる使用方法をした場合は，メーカー保障の対象外となりますのでご注意ください。

◆万一，異物が入った，水がかかった，煙が出る，変な臭いがするなどの異常が起こったときは直ちに使用を中止し，必ず「お買いあげ先」に相談してください。また異常がある状態では使用しないでください。そのまま使用すると事故や火災，感電の原因となります。

◆他の目的で使用したり，他の機械などで使用しないでください。感電やケガをするおそれがあります。

❶　カメラの取付位置



(1)　バックモニタカメラ

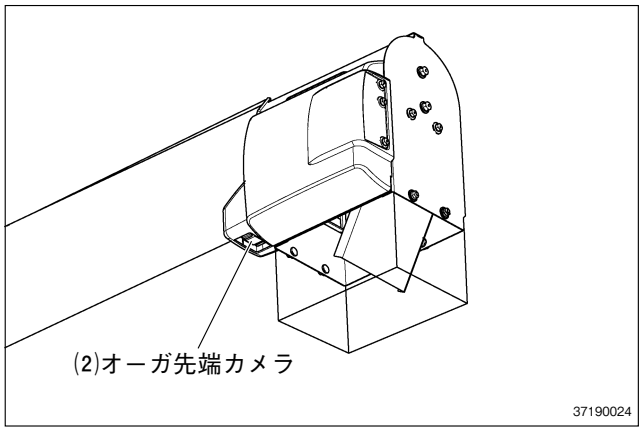
機械後方に装着したＣＣＤカメラで，作業中でも運転席から機械後方を確認できます。座ったままで確認ができ，旋回時や格納時に便利です。

暗い納屋でもカラーで明るく映ります。

⑵ **オーガ先端カメラ［ディーラーオプション］**

オーガ先端に装着したＣＣＤカメラで刈取り作業中は左前方が確認できます。

排出時は，コンテナの位置や排出状況を確認しながら作業ができ，一人作業のときも大切なこく物を確実にコンテナに収納できます。



❷ モニタの使用方法

モニタは機械後進時，機械後方周辺の安全確認を行うための補助装置です。

下記作業などを行う場合の確認作業に活用してください。

・移動走行時，収穫作業時，納屋格納時などの後方確認作業。

・ほ場の出入り，枕地での切返し，あぜ際などでの機械位置の確認作業。

・排ワラ処理の切替え確認や排ワラ処理状態の確認作業。

⑴ **カメラ切替え**

バックモニタカメラとオーガ先端カメラおよびそれらの自動切替えを選択できます。

パネル表示	パワークラッチ	主変速レバー	オーガ位置	モニタ画像	
				バックカメラ	オーガカメラ
バック	－	－	－	○	
オーガ	－	－	－		○
自動	《脱こく》or《刈取》	－	収納位置	○	
			排出可能範囲		○
	《切》	前　進	－		○
		中　立	収納位置	最後のカメラ維持※１	
			排出可能範囲		○
		後　進	収納位置	○	
			排出可能範囲		○

※１エンジン始動直後は，モニタは「バックカメラ」の表示をします。

オーガ先端カメラ（ディーラーオプション）を付けないとカメラ切替えはできません。（バックカメラのみ）

⑵ **バックカメラの優先表示機能について**

後退操作時にバックカメラを表示するタイミングでは，アクティブタッチパネルが自動的にバックカメラを大きく表示するように切替わります。

また，アクティブタッチパネルでカメラ画面を表示していない場合でも，カメラ切替「**自動**」または「**バック**」にセットしていればこの機能は働き，後退時に自動的にカメラ画面に切替わり，バックカメラを大きく表示します。

ただし，バックカメラを使用しない設定にしているとき（カメラ切替「**オーガ**」）は，この機能は働きません。

運転のしかた

1．運転まえの点検

安全作業のために，毎日の運転前に「**運転まえの点検表**」を参考に点検してください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆異常が見つかった場合は，処置が完了するまで使用しないでください。整備不良のまま使用すると思わぬ事故を引起こす可能性があります。
◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは給油・注油をしないでください。
◆燃料補給時は火気を近づけないでください。燃料に引火し火災の原因になります。
◆燃料補給した後は燃料キャップを締め，こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。
◆燃料タンクや燃料ホースの劣化や，傷による漏れなどがあると火災の原因になります。作業前や作業後に点検し，傷や漏れがあれば交換してください。
◆給油・注油・点検するときには機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止し駐車ブレーキをかけてから行ってください。
◆ラジエータキャップの取外しは，エンジンが冷えてから行ってください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆点検整備などで取外したカバー類は，すべて取付けてください。

「運転まえの点検表」

点検箇所	内　　容	処　　置	参照ページ
エンジンカバー および ラジエータフィン オイルクーラフィン クーラコンデンサフィン	・ラジエータフィン，オイルクーラフィン，コンデンサフィンの目詰まりはありませんか。	・やわらかいブラシなどで，掃除をする。 ・ラジエータフィン，オイルクーラフィン，クーラコンデンサフィンは，コンプレッサでエアを吹き付ける。	103
ＤＰＦやエンジン回り，サイドカバー	・ワラクズが溜まっていませんか。	・掃除をする。	104
各部の損傷，汚れ，ボルトのゆるみ	・エンジン始動後の異常音の原因となります。	・ボルトのゆるみを締付ける。 ・損傷したものは交換してください。	―
油漏れ	・各給油箇所部に油漏れがありませんか。	・給油，排油，検油栓のゆるみを締付ける。 ・直らないときは，点検を受けてください。	89～99
燃料漏れ	・燃料ホースに燃料漏れがありませんか。	・ホースを交換してください。 ・継ぎ部をしっかり締付ける。	135
電気配線	・他の部品に接触していませんか。 ・損傷はありませんか。	・傷んだ配線を交換修理してください。 ・電気配線回りのワラクズなどを取除く。	136

点検箇所	内　　容	処　　置	参照ページ
エアクリーナ	・エレメントが目詰まりしていませんか。	・エレメントを軽くたたくか，コンプレッサで内側からエアを吹きつける。	104
エンジンオイル（エンジンクランクケース）	・オイルがレベルゲージの上・下限の間にありますか。	・エンジンオイルを適量補給する。	91～92
冷却水（ラジエータ）	・補助タンクに適量ありますか。（給水レベルの上・下限の間にあること。）	・清水を補助タンクに適量補給する。	93～94
エンジン	・エンジン始動後の異音がありませんか。 ・排気ガスの色はきれいですか。	・点検を受けてください。	―
燃料（燃料タンク）	・作業に必要な量の燃料が入っていますか。	・ディーゼル軽油を補給する。（燃料は必ず低硫黄ディーゼル軽油（S10）を使用してください。）	90～91
燃料セジメンタ	・分離した水が溜まっていませんか。（赤色のフロートが排水レベルに達していませんか）	・分離した水を排出してください。	106～107
ホーン	・ホーンボタンを押せば鳴りますか。	・ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。	108～110
方向指示器などの保安部品	・正常に作動しますか。	・球切れ，ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。	108～110
バックブザー（ホーン）	・主変速レバーを「後進」位置にしたとき，バックブザーが鳴りますか。	・ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。	108～110
インジケータ	・オイル，充電は消灯しますか。（エンジン始動後）	・エンジンオイルを補給する。 ・異常箇所を調べ，処置する。	91～92 111～116
回転計	・正常に作動しますか。（エンジン始動で）	・点検を受けてください。	―
マルチステアリングレバー	・ゆっくり走行してレバー操作したとき，正常に旋回，ヘッダ部が上下しますか。	・異常箇所を調べ，処置する。 ・副変速レバーのスピンドライブターン変速を確実に切替えてください。	― 22
走行クラッチペダル（ブレーキ兼用）	・ゆっくり走行してペダル操作したとき，正常に機械が停止しますか。	・異常箇所を調べ，処置する。	141
チェン，ベルト，ワイヤ，クローラ	・たるみ，損傷はありませんか。	・正常に調整する。	141～155

2．エンジンの始動と停止

⚠警告　傷害事故防止のために

◆主変速レバー，副変速レバーが《中立》位置，パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチが《切》位置であることを確認してください。
●機械の周囲から人を遠ざけてください。
◆始動はシートに座って行ってください。
◆屋内での始動は，窓や戸を開け換気をしてください。
◆暖機運転は主変速レバー，副変速レバー《中立》にして，パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ《切》で駐車ブレーキをかけて行ってください。
●運転者はエンジンをかけた状態で機械の周囲から離れないでください。
●外気温が「0℃以下」のときは暖機運転を10分間以上行ってください。行わないと油圧装置が正常に作動しなくなり，方向変換ができなくなることがあります。
◆空運転するときは，脱こく部およびチョッパスプレッダ部を開かないでください。

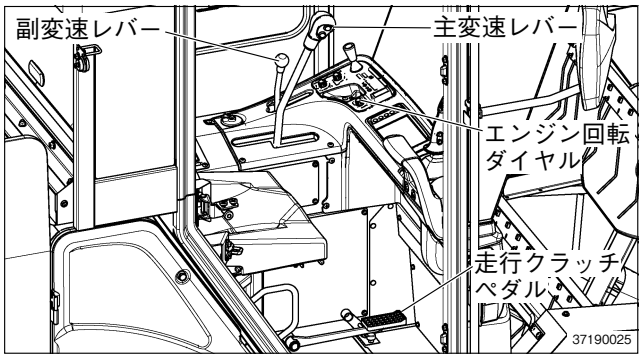
⚠注意　傷害事故防止のために

◆点検整備などで取外したカバー類は，すべて取付けてください。

1．エンジン始動のしかた

❶　体格に合わせ着座位置を調節します。

❷　主変速レバーを《**中立始動**》(**前進側中立位置**)，副変速レバーを《**中立**》にします。



❸　エンジン回転ダイヤルを《🐇》(**高速**）位置にセットします。

❹　スタータスイッチを《**入**》位置にし，「**充電**」のインジケータが点灯することを確認します。



❺　走行クラッチペダルをいっぱい踏込み，スタータスイッチを《**始動**》位置に回し，エンジンを始動します。

❻　始動後，駐車ブレーキをかけ，エンジン回転を**低回転「2000回転」**程度にセットし，暖機運転をします。

取扱いのポイント

- **主変速レバーを《中立始動》(前進側中立位置)にし，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとエンジンは始動しません。**
- **エンジン始動後，「充電」のインジケータが消灯することを確認してください。**
- **スタータスイッチは５秒以上の連続使用はしないでください。**
- **セルモータは短時間に大きな電力を消費します。５秒以上の連続使用は，バッテリ故障の原因となりますので避けてください。**

2．エンジン停止のしかた

❶　エンジン回転ダイヤルを《🐢》(**低速**）にします。

❷　パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《**切**》にします。

❸　スタータスイッチを《**切**》位置にすると，エンジンが停止します。

3. DPF（ディーゼル・パティキュレート・フィルタ）装置のはたらきと取扱い

⚠警告 傷害事故防止のために

◆排気ガス中毒になるおそれや，DPF再生中の高温状態の排気管やDPFに接触して火傷や火災が発生する原因となるため，下記事項を遵守してください。

- ●納屋や倉庫など換気の悪い場所では，再生処理を行わないでください。
- ●再生処理を行う前には，排気管やDPFおよび周辺部に，発火する原因となる燃えやすいゴミなどがあれば取除いてください。
- ●DPF再生中は，排気管やマフラおよび周辺部に人を近付けないでください。また，コンバインからは離れないでください。
- ●刈取作業中に自動再生処理が始まりますので，ワラなどの燃えやすいものが多い場所の上ではコンバインを停止しないでください。また，コンバインを停止する場合は，排気管の後方にワラなどの燃えやすいものが少ない場所に停止してください。
- ●一日の作業終了後は，排気管やDPFおよびその周辺にワラなどの燃えやすいものが溜まっていないか点検し，溜まっていたら掃除して取除いてください。

DPFは，ディーゼルエンジンから排出される排気ガス中のＰＭ（ススなど粒子状物質）をフィルタで捕集し，大気中に放出されるＰＭの量を削減させます。

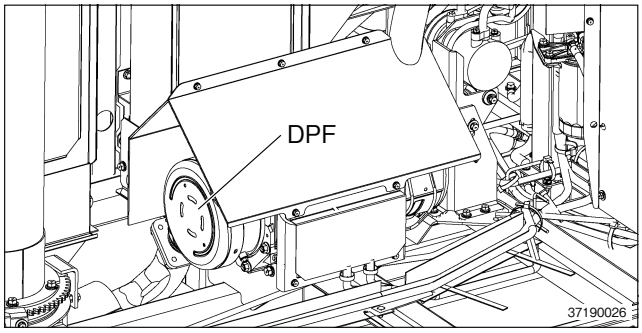
捕集したＰＭをDPF内で燃焼させてＰＭ除去フィルタ内を浄化および再生します。また，DPFの再生処理方法には自動再生と手動再生の２通りがあります。コンバインの刈取作業中は自動再生モードになっています。

自動再生モード中は，DPF内にＰＭが堆積されると自動再生機能がはたらき，ＰＭを自動的に除去します（自動再生処理)。また，ＰＭがDPF内に堆積し，手動再生の警報が発生したときは，手動再生処理を行って堆積したＰＭを除去してください。

取扱いのポイント

- ●**DPFインジケータランプがゆっくり点滅し，警報ブザーが間欠的に鳴ったときは，刈取作業を中止し手動再生処理を行ってください。継続して作業を行い，さらにDPFインジケータランプが早く点滅し，警報ブザーが断続的に鳴り始めたときは，直ちに作業を中止して手動再生を行ってください。**
- ●**手動再生の警報を無視し続けると，エンジンの出力が低下します。また，手動再生ができなくなり故障の原因となります。手動再生ができない場合は，直ちに「お買いあげ先」に連絡してください。**
- ●**再生処理を行うとき，自動再生処理と手動再生処理でエンジン回転数が異なりますので注意してください。**
- ●**指定の純正エンジンオイル以外のエンジンオイルを使用すると，再生処理（自動再生および手動再生）を行う頻度が増加し，作業能率の低下や燃料消費量の増加の原因となりますので必ず指定のエンジンオイルを使用してください。**
- ●**通常，再生処理には10～30分程度かかります。再生処理にかかる時間は，外気温度・排気温度・エンジン回転数によって変わります。**

●再生処理終了直後は，DPF（および排気管）はまだ高温です。排気装置（DPF・排気管）を冷却するために，３分間程度エンジンの運転を継続します。



［自動再生処理について］

自動再生処理は刈取作業を行っているとき（パワークラッチ《**刈取**》）にはたらきます。自動再生処理中は通常どおり刈取作業ができます。

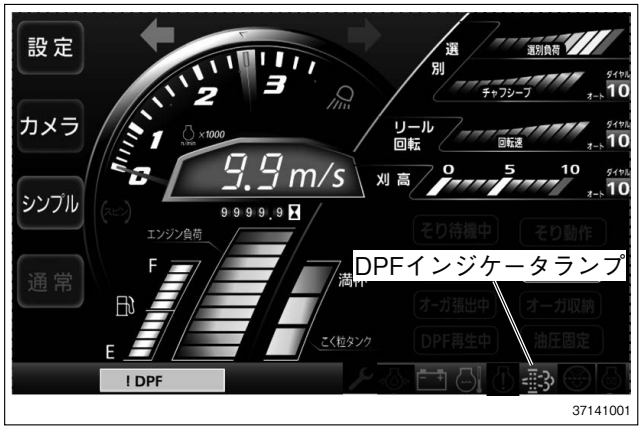
⑴ 刈取作業中にＰＭが堆積すると，DPFインジケータが点灯し自動再生を開始します。

⑵ 自動再生が終了すると，DPFインジケータが消灯します。

［手動再生処理について］

ＰＭがDPF内に一定量堆積したときには，手動再生処理を行ってください。

⑴ ＰＭが一定量堆積すると，DPFインジケータがゆっくり（１秒に１回）点滅すると同時に警報ブザーが間欠的に鳴ります。



取扱いのポイント

●継続して作業を行うと，DPFインジケータが早く（１秒に２回）点滅し，警報ブザーが断続的に鳴り始めます。

⑵ 作業をいったん中止したあと，平坦な場所に移動します。

換気の悪い納屋や倉庫などへは移動しないでください。

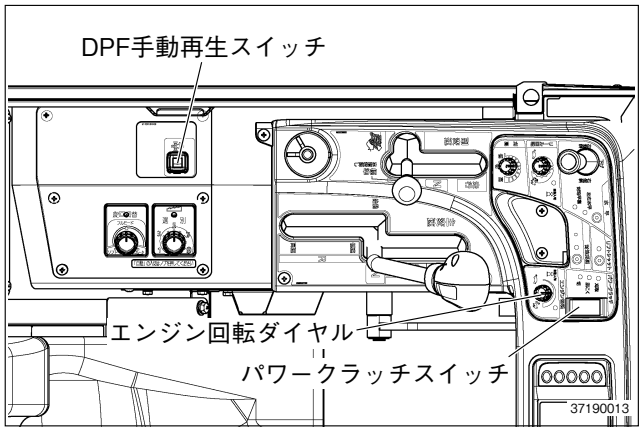
⑶ 各レバー，ペダル，スイッチを下記の手動再生処理条件の状態にセットします。

・パワークラッチを《**切**》位置にします。

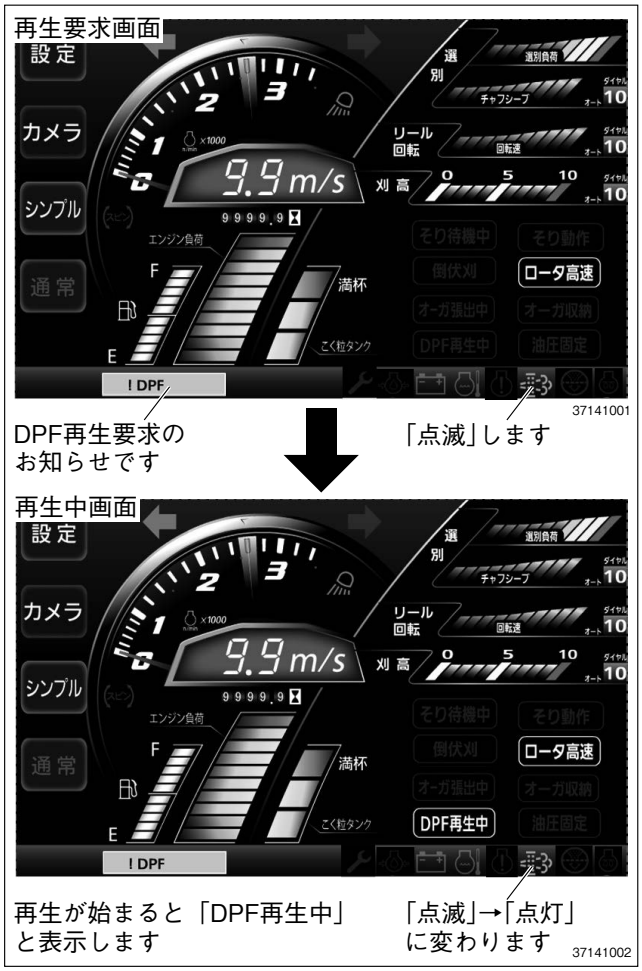
・主変速レバーを《**中立**》，副変速レバーを《**中立**》にします。

・駐車ブレーキをかけます。

・エンジン回転ダイヤルを《🐢》（**低速**）にし，エンジン回転自動《**切**》（**ランプ消灯**）とします。



⑷ 準備を行ったのち，DPF手動再生スイッチを長押しすると，エンジン回転数が上がると同時にDPFインジケータランプが点灯し手動再生処理が開始されます。



⑸ 手動再生処理が終了すると，エンジン回転数がアイドリング回転数まで下がります。

再生処理の直後はまだ排気管やマフラが高温ですので，DPFインジケータが消灯するまで（3分間程度)そのままエンジンの運転を継続します。

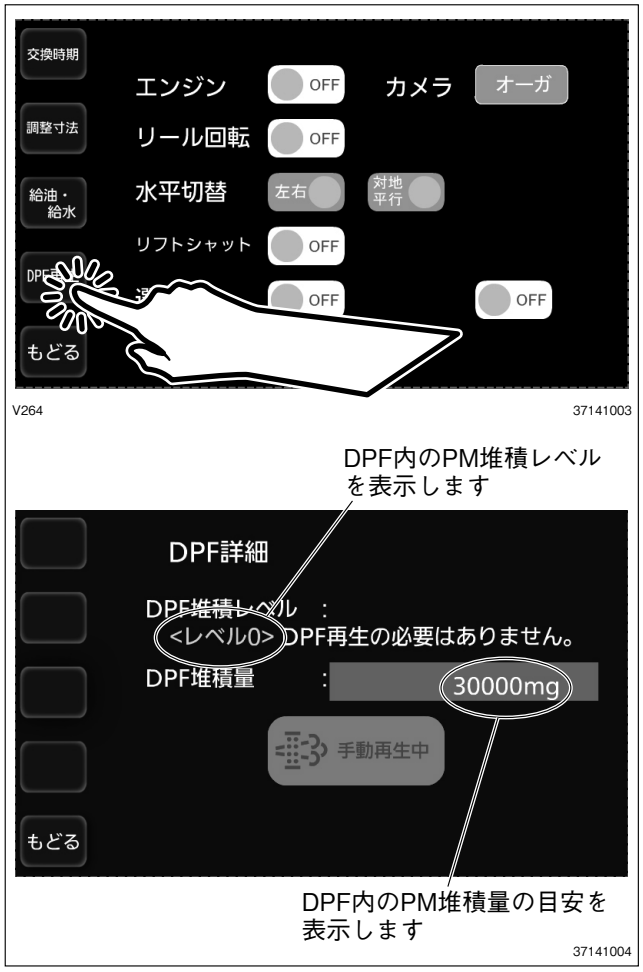
取扱いのポイント

- **エンジン始動直後に手動再生を行う場合はエンジンを暖機後に行います。**
- **手動再生処理中に，各レバー，ペダル，スイッチは触らないでください。手動再生処理条件の状態が解除されると，手動再生処理が途中で停止します。この場合は再度手動再生処理を行う必要があります。**
- **条件を満たしても，手動再生スイッチを受けつけない場合には，直ちに「お買いあげ先」に連絡してください。**

［DPF内のPM堆積レベルについて］

DPF内のPM堆積レベルはつぎの方法で調べることができます。

⑴ {設定}→{DPF再生} をタッチします。



3. 走行・停車のしかた

1. 走行のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

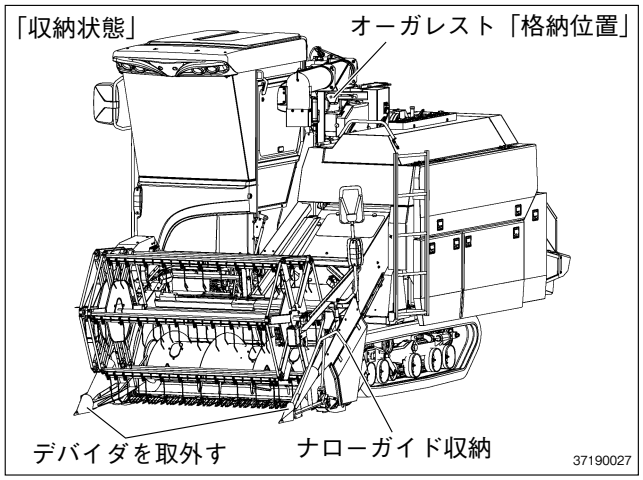
◆公道走行は，交通法規を守って運転してください。
◆前後・左右とも10度を越える傾斜地は走行しないでください。
◆路上走行時はヘッダ部の高さを地面より40㎝程度上げてください。
◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろし時には，水平切替スイッチを《切》にし，水平操作レバーで機械を一番下まで下げてください。
◆運転者の他に子供など，人や物を機械にのせないでください。
◆ヘルメットをかぶってください。
◆発進，停止および旋回するときは周囲を確認し速度を落としてください。
◆狭い農道や傾斜地では，路肩に寄りすぎないようにして低速走行し，軟弱な路肩や草の生い茂っている所は，走行しないでください。
◆路上走行する前にマフラやDPF，排気管およびその周辺のワラクズを掃除してください。（66ページ参照）

⚠注意 傷害事故防止のために

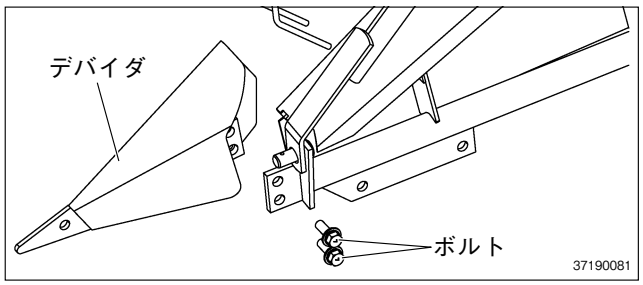
◆走行する前に機械を「収納状態」にしてください。
●グレンタンク内のこく粒はすべて排出します。
●リールを最下限位置，最後方位置にしてください。
●デバイダを取外してください。
●ナローガイドを収納します。
●オーガレストを「格納」，排出オーガを「収納」位置にし，固定ワイヤをフックにかけ固定します。
●グレンタンク固定レバーでグレンタンクを固定します。
●アタッチメントを取外します。

◆公道走行する前に保安部品であるエンジン，燃料タンク，ホース，トランスミッション，変速装置，ブレーキ，各警報（ブザー），灯火器（スイッチ，メータ（アクティブタッチパネル），ランプ含む）を確認し異常がある場合は，「お買いあげ先」に連絡し，処理を行ってください。また異常がある場合は，トラック輸送を行ってください。
◆路上走行するときは，作業灯は消灯してください。

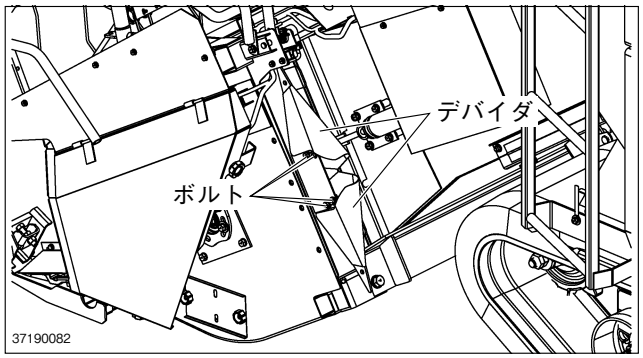
❶ 走行するときは機械を「**収納状態**」にして「**安全な速度**」で走行します。



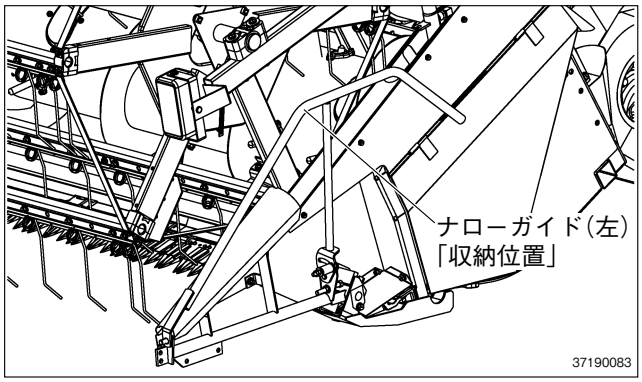
❷ デバイダを取外します。



❸ 取外したデバイダはヘッダ部左に収納場所がありますので，取付ボルトを使用してデバイダを固定してください。

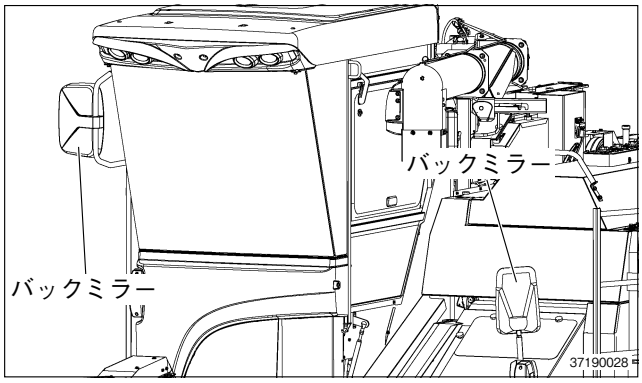


❹ 左ナローガイド切替を《**収納**》位置にします。



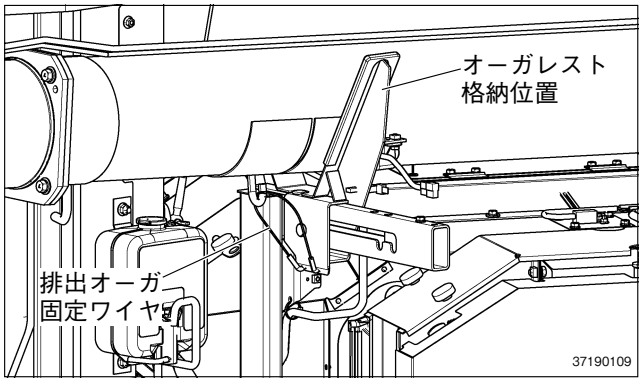
❺ バックミラーの調整

バックミラーは上下，左右に角度調整ができますので運転席に座って見やすい位置に調節してください。



❻ グレンタンク内のこく粒をすべて排出します。

❼ オーガレストを「**格納**」位置にします。（46ページ参照）排出オーガの「**固定ワイヤ**」がかかっていることを確認します。



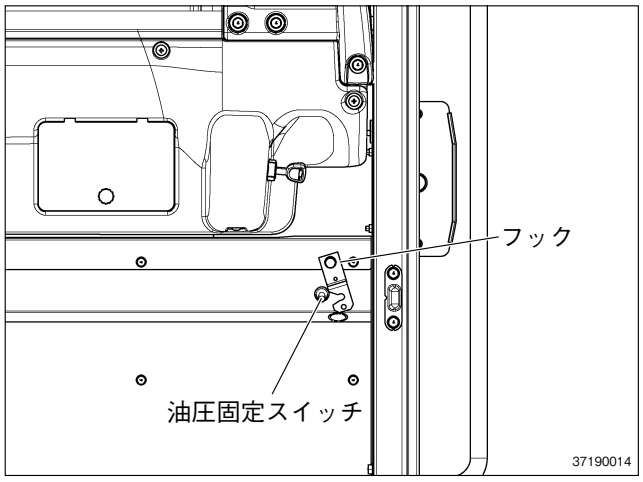
❽ エンジンを始動し，エンジン回転を「**2000回転**」以上にセットします。

❾ 水平切替スイッチを「**切**」にします。

❿ リール高さは最下限位置,最後方位置にします。

⓫ マルチステアリングレバーでヘッダ部先端を「40㎝」程度上げます。

⓬ 油圧固定スイッチを《**油圧固定**》位置にして，フックをかけヘッダ部を固定します。



⓭ 水平操作レバーで機械を一番下まで下げます。

⓮ 副変速レバーを走行する条件に合った位置にします。

⓯ ブレーキロックレバー（駐車ブレーキ）を解除します。

⓰ 主変速レバーをゆっくり操作し，適正な走行速度にします。

⓱ 路上走行で方向を変えるときは，方向指示器を点灯し合図をします。

取扱いのポイント

- **副変速レバーを動かすときは，必ずクラッチペダルを踏んで行ってください。**
- **リール高さを最下限位置にしていないとヘッダ部は上がりません。**

⓲ 発進するときや作業開始の合図は，ホーンボタンを押して，ホーンで行います。

⓳ 路上走行時，作業灯は消灯します。

2. 停車のしかた

⚠警告 火災や傷害事故防止のために

◆平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，ヘッダ部を下げ，各操作レバーを《中立》に入れてください。エンジン停止後，副変速レバーを《標準》に入れてください。機械から離れるときは，スタータスイッチ（始動キー）を抜取ってください。

◆機械を燃えやすいものの近くには，止めないでください。

❶ 主変速レバーを《**中立**》，副変速レバーを《**中立**》にします。

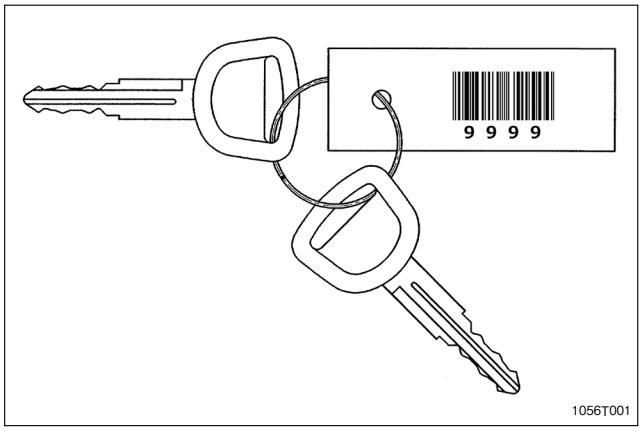
❷ 駐車ブレーキをかけます。

❸ エンジン回転ダイヤルを《🐢》(**低速**）の位置に戻してしばらく空運転をし，エンジン温度を下げてから，副変速レバーを《**標準**》に入れて停止します。

❹ 副変速レバーを《**標準**》に入れて，ブレーキロックレバーがかかっていることを確認します。

取扱いのポイント

- **ブレーキロックを解除するときは，走行クラッチペダルをいっぱい踏込んで離してください。**
- **キーリングに付属しているキーナンバー票は，キーを紛失した際必要となります。キーナンバーを裏表紙の記入欄に控えておくか，キーナンバー票を大切に保管してください。**



4. 自動車への積込み・積降ろし

・自動車への積込み・積降ろしは，周囲に障害物のない平坦で硬い場所を選び，運転者は誘導する補助者と協力して，つぎのことを守り慎重に行います。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆積載重量が，自動車の最大積載量を超えないで，かつ荷台から機械がはみ出さない車を使用してください。

- 自動車は平坦で硬い場所に停止し，駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，変速を１速か後進（バック）に入れ，タイヤに車止めをしてください。

◆アユミは，機械の重量に耐える強度，幅，（クローラが外れない幅）長さ（荷台高さの４倍以上）のある，すべり止め，フック付きのものを使用します。

- アユミを機械のクローラ間隔に合わせ自動車の荷台に平行にはずれないようにかけます。

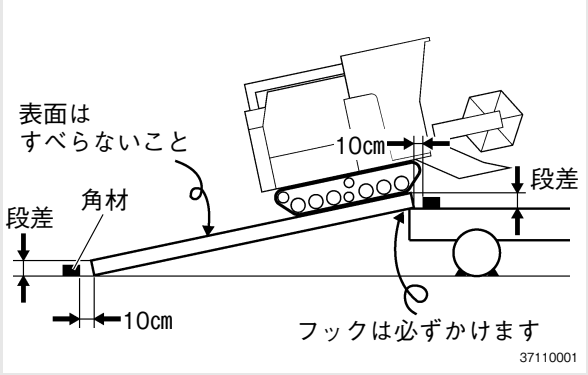
◆機械は積込む前に，「収納状態」にしてください。

- グレンタンク内のこく粒はすべて排出します。
- デバイダを取外し，デバイダを固定します。
- ナローガイドを収納します。
- オーガレストを「格納」，排出オーガを「収納」位置にし，排出オーガ固定ワイヤをフックにかけ固定します。
- グレンタンク固定レバーでグレンタンクを固定します。
- 水平切替スイッチを《切》にし，水平操作レバーで機械を一番下まで下げます。

◆積込み・積降ろしは補助者立会誘導のもとに行ってください。また機械の周囲に人を近づけないようにしてください。

- アユミの上での進路変更がないように，左右のクローラをアユミの中央にまっすぐにセットします。

◆アユミと路面および自動車の荷台との段差が6㎝以上ある場合は段差の半分程度の高さの角材などを置いてください。

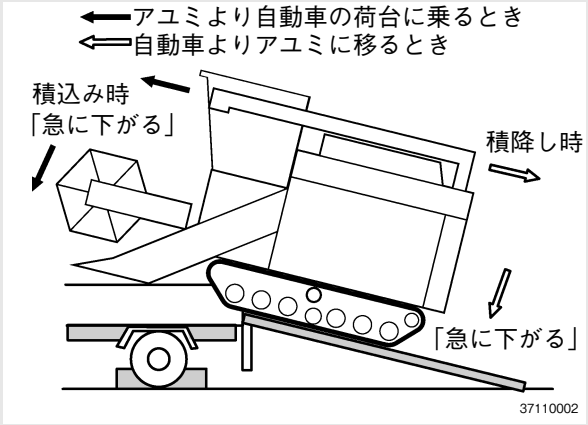


◆自動車への積込み・積降ろし中は，つぎの操作はしないでください。操作をすると，急に方向転換し転落するおそれがあります。

・主変速レバー
・副変速レバー
・マルチステアリングレバー
・走行クラッチペダル
・ブレーキロックレバー

は，アユミの上では操作しないこと。

◆積込みは前進，積降ろしは後進で，主変速レバー《低速》位置，副変速レバー《標準》位置で行ってください。



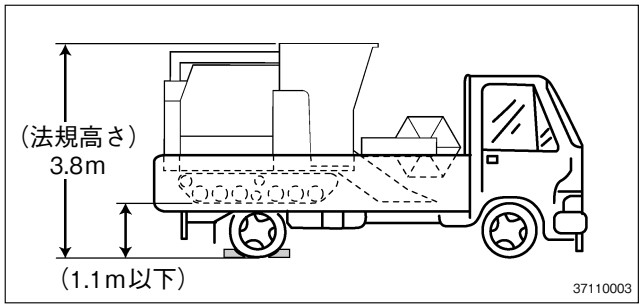
◆各カバーの固定が確実か確認してください。

◆積込みが終わったらコンバインのフレームの４隅のフックにロープまたはワイヤをかけて機械を固定してください。
このフックは他の物のけん引には使用しないでください。

1．自動車・アユミについて

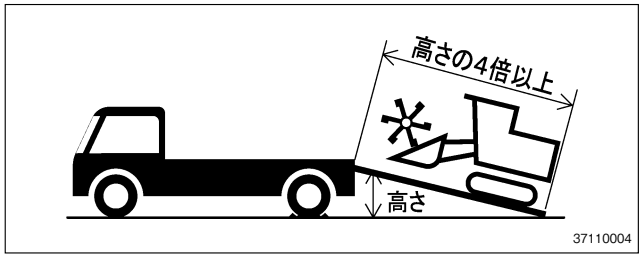
❶ 積載重量が，自動車の最大積載量を超えないで，かつ荷台から機械がはみ出さない車を使用してください。

・トラックに積んだ場合，「**車両制限令**」により地上からの高さが3.8m以下に規制されています。3.8mを越える場合は許可が必要になりますので所轄の警察署で緩和申請を受けてください。
・低床車で荷台高さが1.1m以下の自動車を使用します。



❷ 自動車は駐車ブレーキをかけ，タイヤに「**車止め**」をします。

❸ アユミは，機械の質量に耐える強度，幅（クローラが外れない幅），長さ（荷台高さの４倍以上）のあるすべり止め付き，フック付きのものを使用します。



アユミの基準

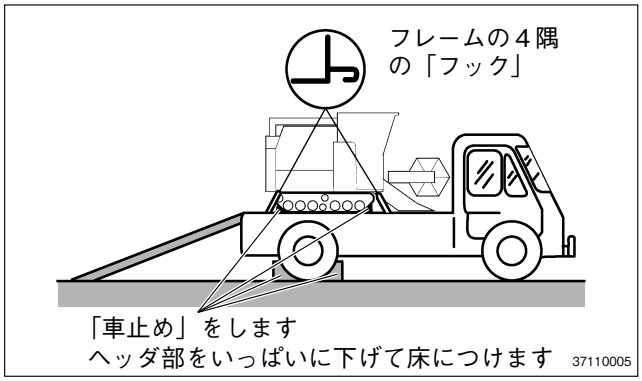
長さ	自動車の荷台の高さの４倍以上
幅	60cm以上
数量	２枚
強度	１枚が3,500kg以上の重量に耐えるもの

❹ アユミは，機械のクローラに合わせ自動車の荷台と平行に「**段差**」のないようにかけ，「**横ずれ**」したり，「**外れ**」たりしないようにセットします。

❺ 機械輸送時の自動車の運転で，急発進・急停止・急ハンドルなどの操作は行わないでください。荷くずれや自動車の転倒事故につながります。

2．機械の積込み要領

❶ ナローガイド(左)を収納します。(41ページ参照)グレンタンク,排出オーガの固定を確認します。
❷ エンジンを始動して，エンジン回転ダイヤルでエンジン回転を「**2000回転**」程度にします。
❸ ヘッダ部をいっぱい上げます。
❹ 積込みは，主変速レバー《**前進・低速**》，副変速《**標準・車両積降ろし**》で行います。
❺ 積降ろすときは,主変速レバー《**後進・低速**》，副変速《**標準・車両積降ろし**》で行います。
❻ 積込み・積降ろしの途中では，進路変更，走行クラッチ操作，変速操作はしない。
❼ 補助者の立会誘導のもとに，周囲を確認して行います。
❽ 自動車に積込みが終わったら，機械のクローラに「**車止め**」をし，駐車ブレーキをかけ，機械のフレームの４隅のフックにロープ，またはワイヤをかけて固定します。
❾ ヘッダ部は完全に下げて床につけます。そのとき，リールは最下限位置，最後方位置にしてください。



❿ ドアと窓を閉めて，ロックしておきます。

3．４ｔトラックへの積込み

⚠注意 傷害事故防止のために

◆重量，長さ，幅が制限内であっても余裕を持った自動車を選定してください。

・自動車の荷台から機械が自動車の長さの10分の１の長さを超えてはみ出さない車を使用します。10分の１を超える場合は許可が必要となりますので，所轄の警察署で制限外積載許可申請を受けてください。
・自動車の幅から機械がはみ出さない車を使用します。

5．ほ場への出入り

⚠警告 傷害事故防止のために

◆10㎝以上のあぜ，溝，10度以上の急傾斜のあるほ場への出入りは，アユミを使用し「低速」で「直角」に行ってください。
●急な坂道の場合は，進行方向や速度を誤ると，転倒してケガをするおそれがあります。
◆ほ場への出入りをする前に，グレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。
◆水平切替スイッチを「切」にし，水平操作レバーで機械を一番下まで下げてください。
◆あぜが崩れないことを確認してから，ゆっくり行ってください。

1．ほ場への出入りのしかた

❶ ヘッダ部を上げ，エンジン回転ダイヤルでエンジン回転を「**2000回転**」程度にセットし，副変速を《**標準・車両積降ろし**》，主変速を《**低速**》または《**後進・低速**》にしてあぜに直角に走行します。
❷ アユミを使用するときは，「**自動車への積込み・積降ろし**」の内容に従って行います。

作業のしかた

1．作業まえの準備

作物やほ場の条件が刈取り作業に適していないと，脱こく精度が低下するおそれがあります。つぎの条件を整えて作業に入ります。

1．作物の条件について

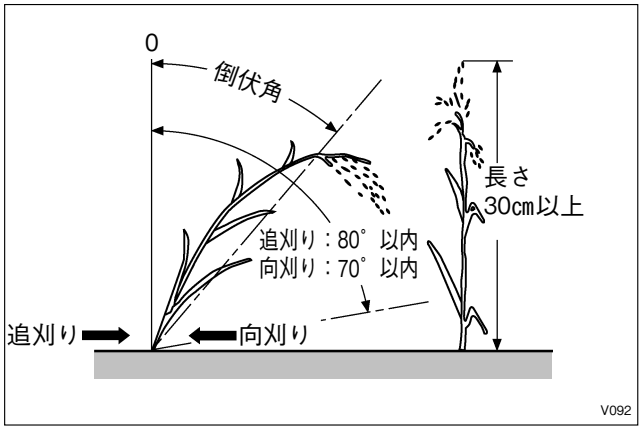
❶ 作物の長さと倒れ

・長さ…30㎝以上から刈取りできます。

・倒れ（倒伏角）

…追刈り：80°以内まで刈取りできます。

向刈り：70°以内まで刈取りできます。



❷ 作物の濡れ

・濡れた作物（雨あがり・朝露）の刈取りは，つぎのようなことがありますので，乾燥するのを待って刈取ります。

・能率があがらない

・選別不良

・ヘッダ部・脱こく部詰まり

・乾燥処理時間の増加

・スレッシングロスの増加

❸ 病害虫に侵された作物

病害虫に侵された作物の刈取りは，つぎのようなことがありますので，刈取り作業の速度を遅くするか，またはできるだけその部分は**「手刈り」**をしておきます。

・こく稈の折れ

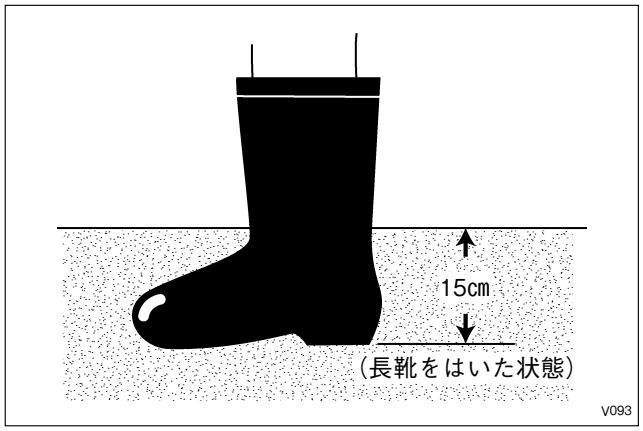
・ヘッダ部の詰まり

・脱こく部の詰まり

2．ほ場の条件について

❶ 湿田ほ場のぬかるみ程度

・沈下量が**「15㎝」**までは作業ができます。



取扱いのポイント

●一度通ったクローラ跡は，なるべく通らないようにしてください。

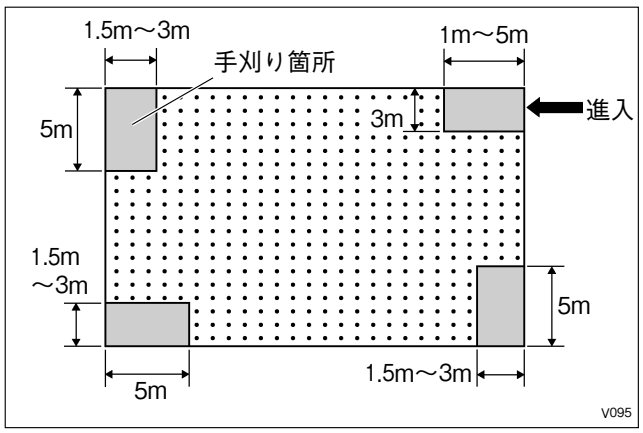
3．ほ場の準備

❶ 手刈り

⚠警告 傷害事故防止のために

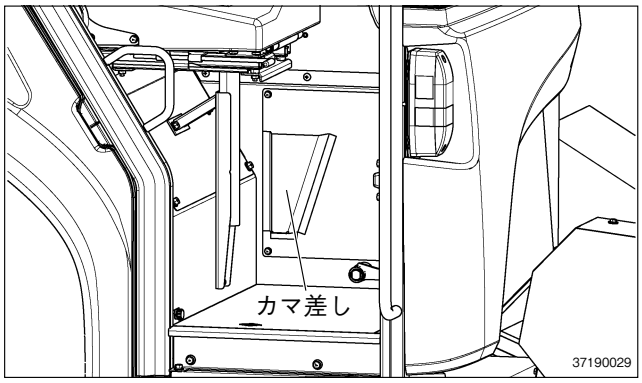
◆手刈した作物を，プラットホームに投げ込んで処理をしないでください。
回転部に巻込まれたり，思わぬ事故の原因になります。

・機械をほ場に入れる前に，あらかじめ四隅を**「旋回できる程度」**手刈りします。



取扱いのポイント

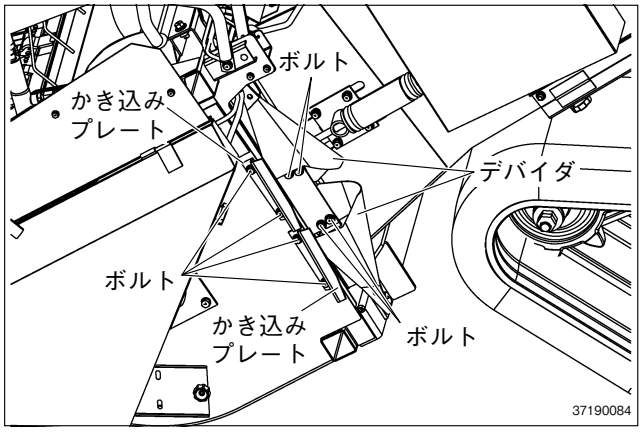
- **手刈した作物は未刈稈の上に均等にバラまき，刈取ってください。**
- **強制かき込みスイッチを使用することにより，四隅の手刈り面積を少なくできます。**
- **ほ場の周囲がコンクリートあぜ，または高あぜで，あぜ際いっぱいに植付けされているときは，作業に支障がないように手刈りしてください。**
- **カマ差しは，運転席左側下部にあります。**

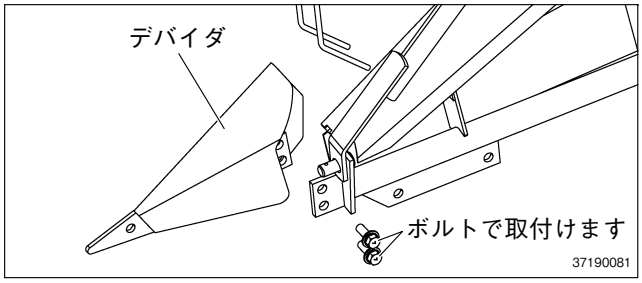


4. 機械の準備

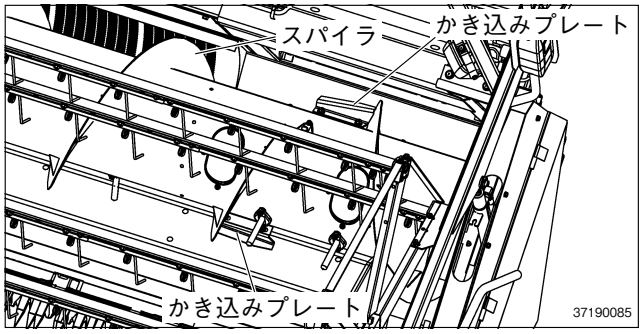
❶ デバイダ，かき込みプレートの取付け

デバイダ収納場所よりデバイダを取外して，デバイダを取付けます。



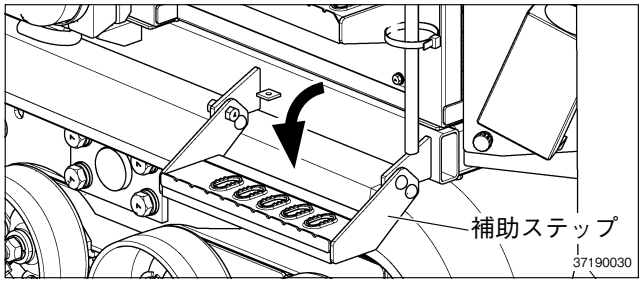


プラットホームオーガのスパイラ終端部で刈取作物が停滞する場合にはかき込みプレートを取付けます。（材料条件によっては詰まりの原因となることがありますので，その場合は収納場所に取付けます）



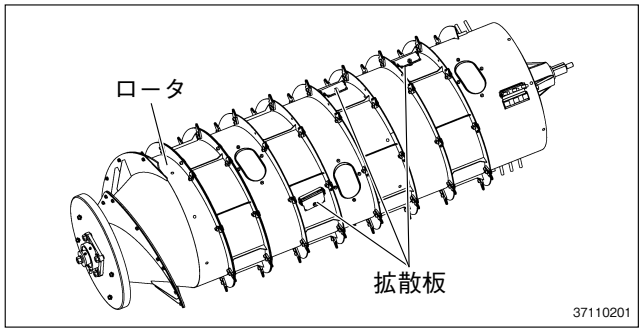
❷ 補助ステップ（下）のセット

補助ステップ（下）を下側へ倒します。

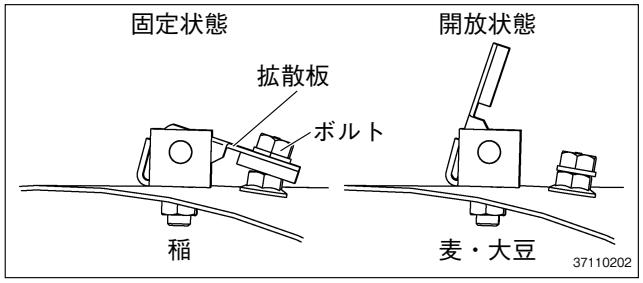


❸ 拡散板の調節

拡散板は，ロータに3枚あります。

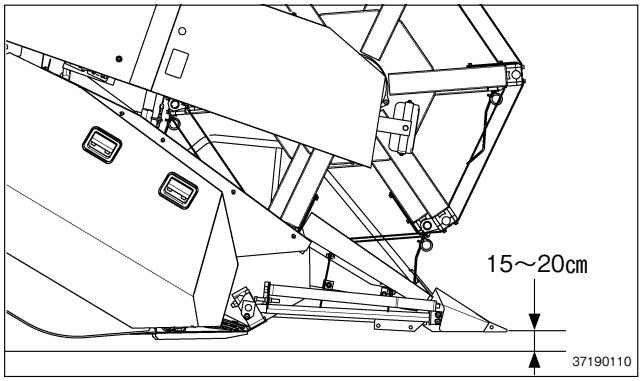


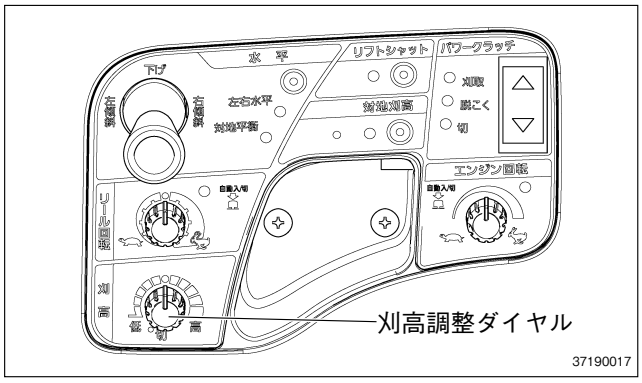
・稲を刈取る場合は3枚の拡散板を固定してください。
・麦・大豆を刈取る場合は3枚の拡散板を開放して，ボルトは元の位置に取付けてください。



❹ 刈取り高さの調整

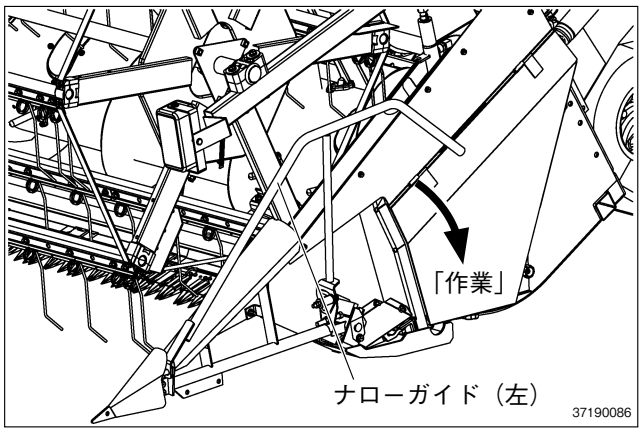
ヘッダ部を下げ，デバイダ先端がほ場表面から「15～20cm」になるように刈高調整ダイヤルで調整します。





❺ ナローガイド（左）の準備

・ナローガイド（左）をいっぱいまで倒すと，作業状態になります。
・右まわり，あぜ際刈取など，障害物があるときは，収納してください。



❻ オーガレストのセット

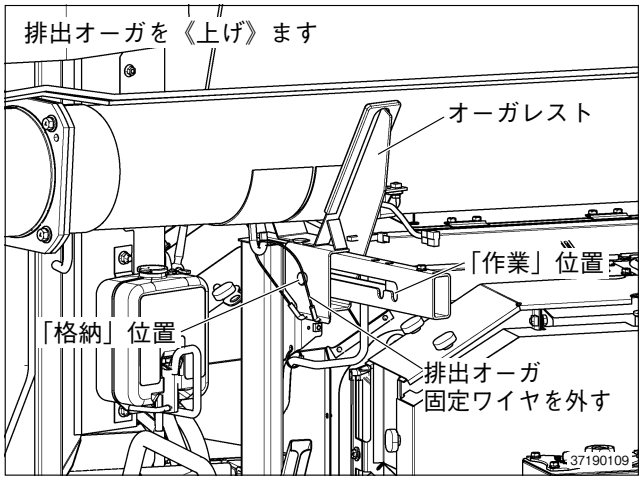
⚠注意 傷害事故防止のために

◆刈取作業時には，排出オーガを固定ワイヤで，固定してください。
◆路上走行時は,「格納」位置にしてください。

工場出荷時にオーガレストは,「**格納**」位置で出荷されています。

⑴ 排出オーガ固定ワイヤを外し，排出オーガを《**上げ**》ます。

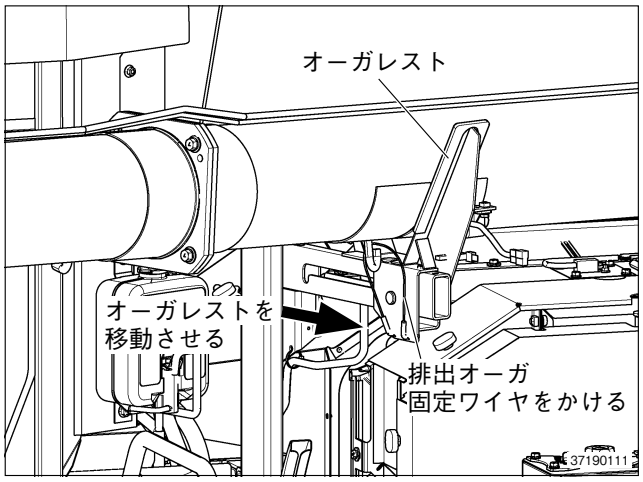
「**出荷状態（格納）**」



⑵ オーガレストを持上げ「**作業**」位置のセット穴に合わせます。

⑶ 排出オーガをオーガレスト「**作業**」位置まで旋回させ,《**下げ**》て，フックに排出オーガ固定ワイヤをかけます。

「**作業位置セット**」



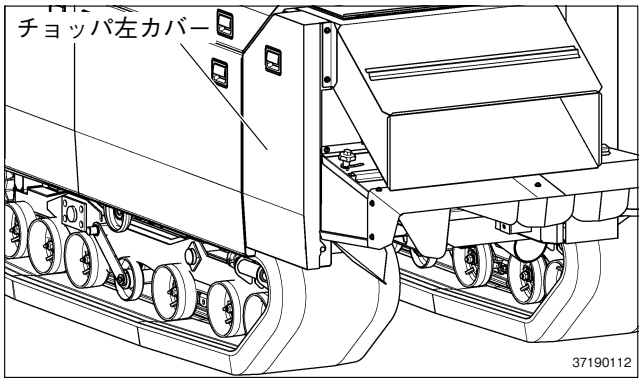
❼ チョッパスプレッダのセット

⚠警告 傷害事故防止のために

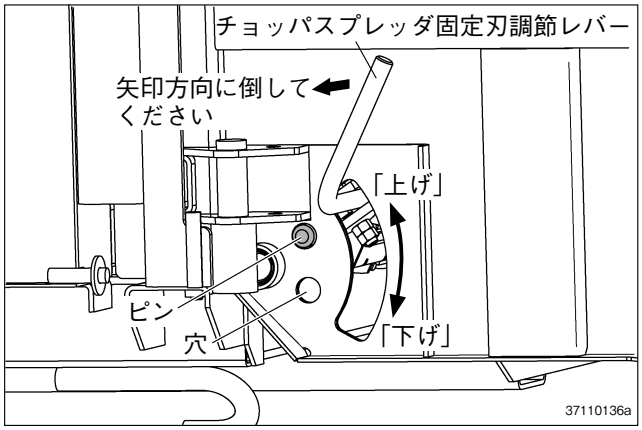
◆レバーの調節をするときは，機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止して行ってください。

チョッパスプレッダによる排ワラ作業の切替えを行ってください。

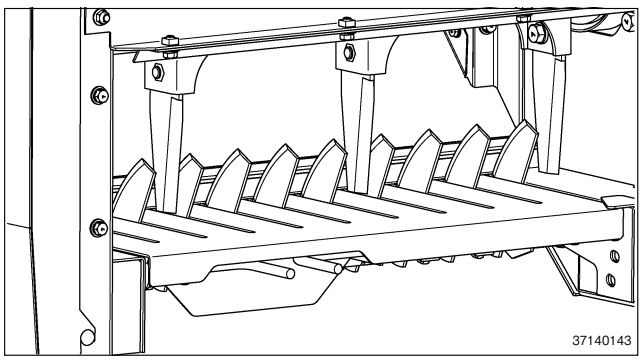
(1) チョッパ左カバーを取外します。



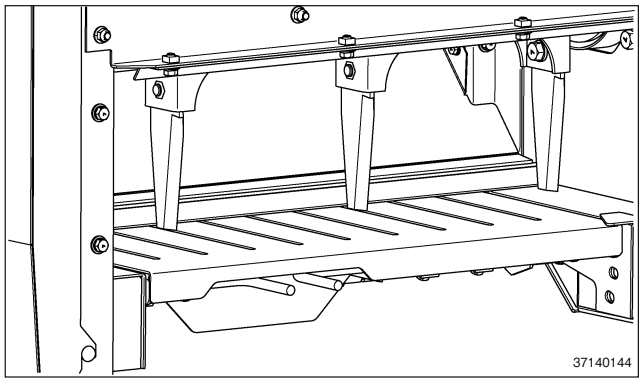
(2) チョッパスプレッダ固定刃調節レバーを矢印の方向に倒しながら「上げ」または，「下げ」位置に動かします。このとき，ピンが穴に入っていることを確認してください。



［上げ状態］



［下げ状態］



(3) 切替え後，チョッパ左カバーを取付けます。

❽ ケーシングプレートのセット

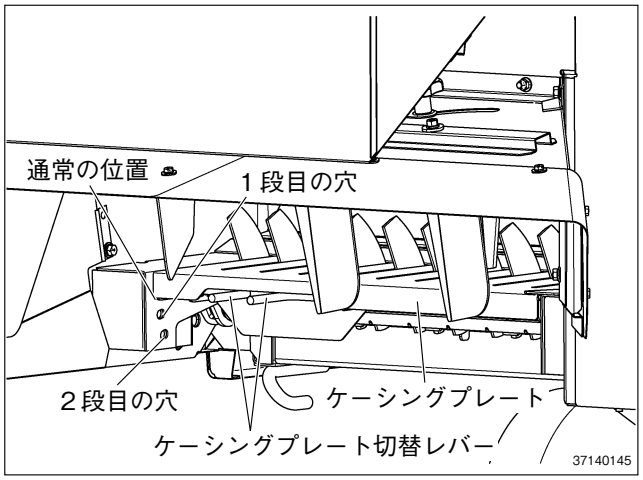
⚠警告 傷害事故防止のために

◆レバーの調節をするときは，機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止して行ってください。

麦などで稈量が多い場合は，ケーシングプレートを下げて作業を行ってください。

(1) ケーシングプレート切替レバーを握り内側に寄せて，ケーシングプレートを下げてください。

(2) １段目の穴にレバーピンを合わせ，外側に戻してケーシングプレートを固定してください。



取扱いのポイント

- ２段目の穴は，詰まりが発生する場合のみ使用してください。

❾ 拡散作業をするとき

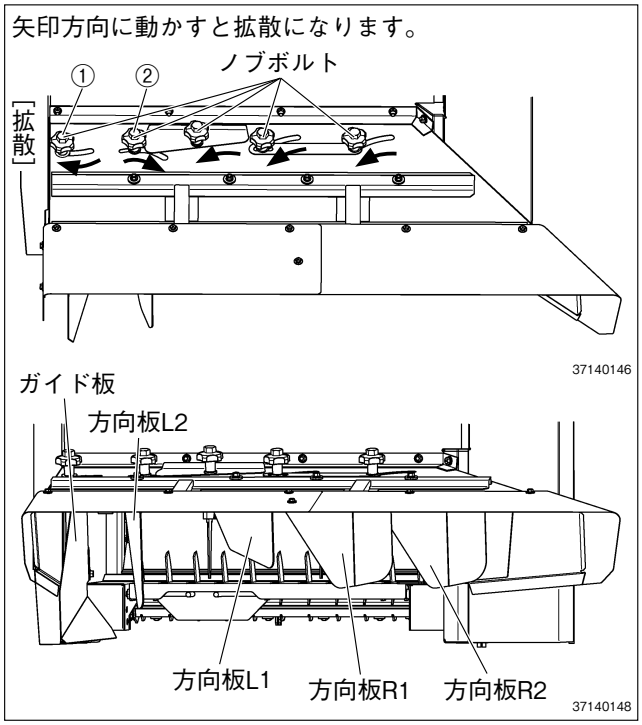
⚠警告 傷害事故防止のために

◆拡散板内に手を入れないでください。
◆作業を行うときは，エンジンを停止し，各部の回転が止まってから行ってください。

⚠注意 傷害事故防止のために

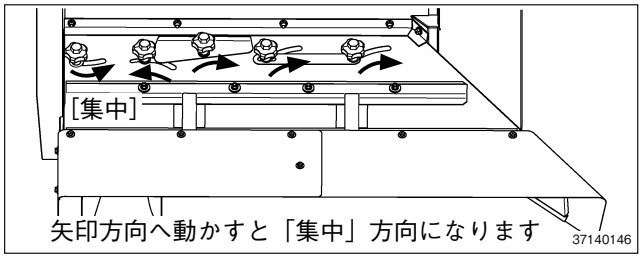
◆チョッパスプレッダの上面および拡散板の上に乗らないでください。破損して転倒するおそれがあります。

⑴ ノブボルト５本をゆるめます。
⑵ ノブボルトを「**拡散**」方向に動かし，ノブボルトを締付けて固定します。



❿ 集中作業するとき

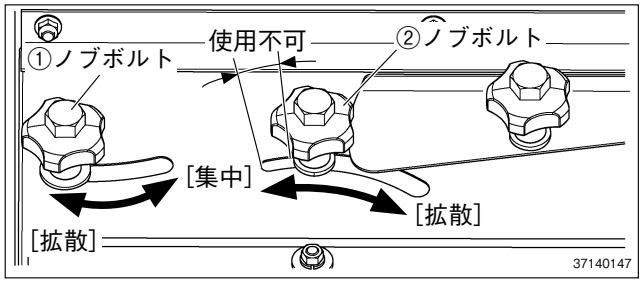
⑴ ノブボルト５本をゆるめます。
⑵ ノブボルトを「**集中**」方向に動かし，ノブボルトを締付けて固定します。

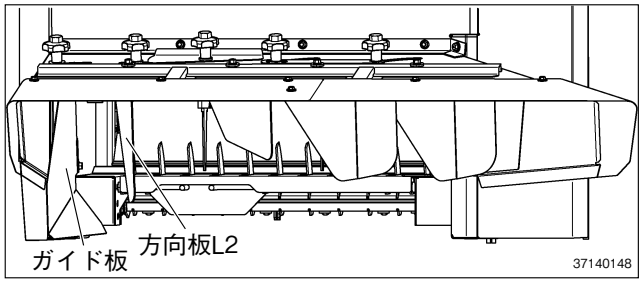


取扱いのポイント

●拡散板内部で排ワラの詰まりが発生する場合，方向板L2が排ワラの流れを妨げていることがあります。このようなときは，エンジンを停止させ，②のノブボルトをゆるめ，つぎの要領で方向板L2の位置を調節してください。

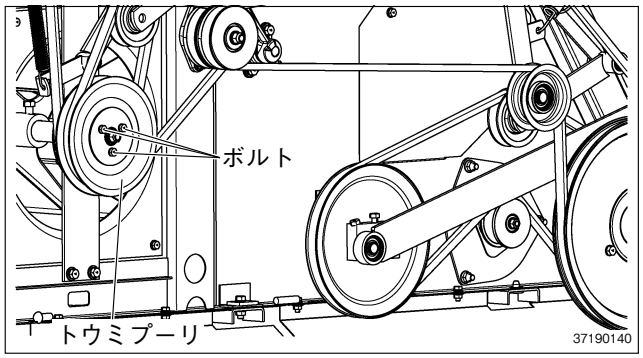
1） ②ノブボルトが「使用不可」の範囲になっていないか確認します。
2） 「集中」作業時はガイド板に方向板L2を沿わせてガイド板との間にすき間のないようにします。
3） 「拡散」作業時は，ガイド板と方向板L2のすき間を十分にとるようにします。(状況に応じて，①のノブボルトもゆるめガイド板の位置調整も行うようにします)



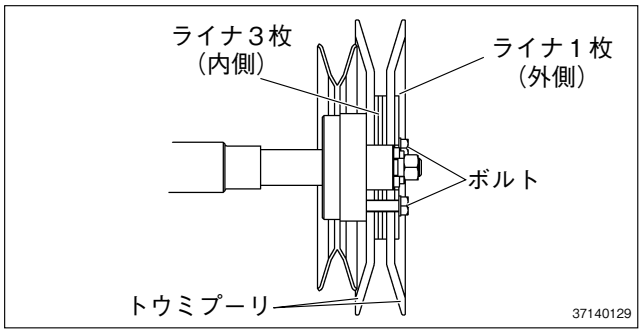


⓫ トウミ回転数の調節のしかた

・ロスや脱ぷが多い場合はトウミ回転数を下げてください。
・小屑が多く，選別が悪い場合はトウミ回転数を上げてください。

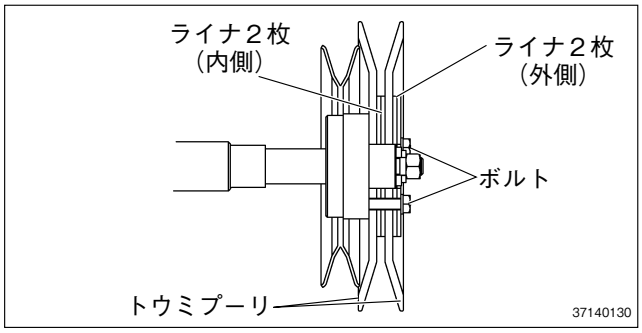


・出荷時は，約950rpmにセットされています。



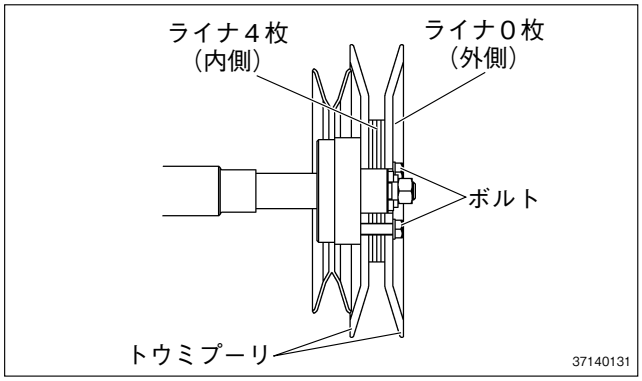
・トウミ回転を下げる場合

ボルトを外し内側のライナ１枚を外側へ移動させボルトで締付けます。



・トウミ回転を上げる場合

ボルトを外し外側のライナ１枚を内側へ移動させボルトで締付けます。



取扱いのポイント

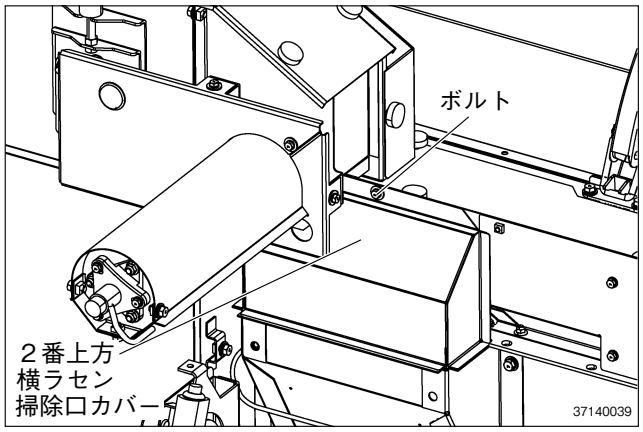
●ライナ１枚を移動する毎に約50rpm変化します。

●作物毎のトウミ回転の目安は「作物別調整表」（Aページ）を参照してください。

⑫　２番還元を揺動還元に切替える方法

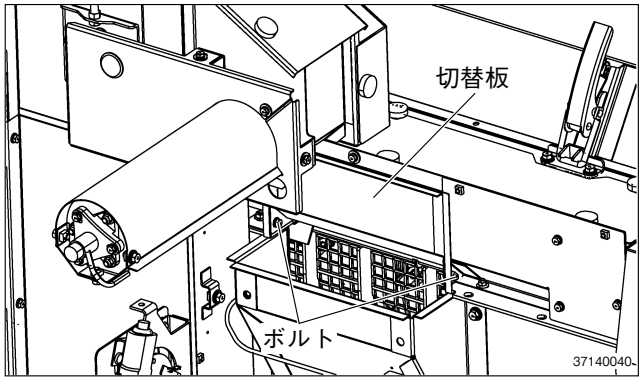
・作物の損傷粒が多い場合，ビール麦，大麦など発芽率を高めたい場合には２番還元を揺動還元にします。

⑴　グレンタンクを回動して，２番上方横ラセン掃除口カバーを外します。

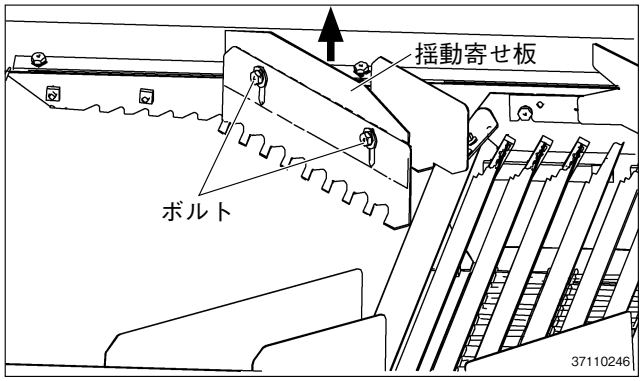


⑵　切替板を外します。

・外した切替板は大切に保管してください。



⑶　ロータサイドカバーを開き，揺動流板の揺動寄せ板を上方に上げます。

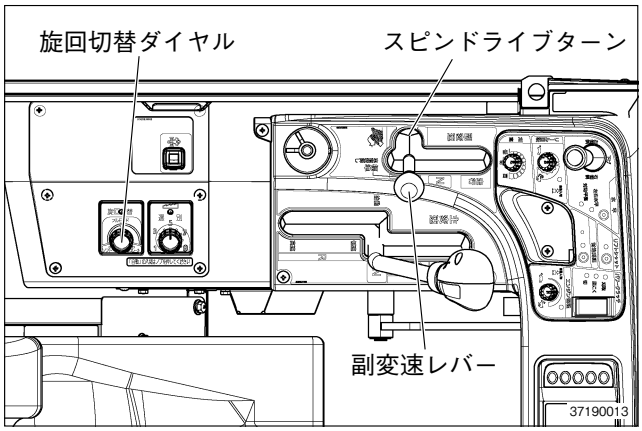


⑬　旋回方式の選択

⚠警告　傷害事故防止のために

◆スピンドライブターンは急旋回しますので路上走行するときは使用しないでください。

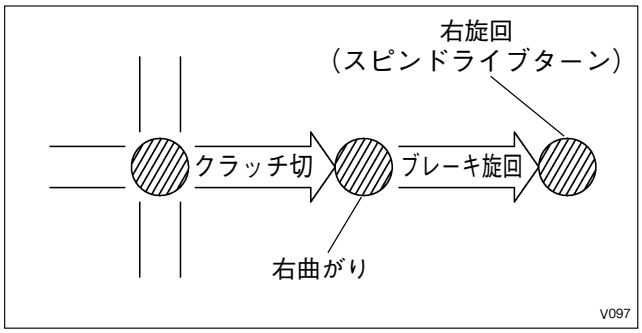
通常ブレーキターンの他に，作業条件に応じてつぎの旋回方式が選択できます。



《スピンドライブターン方式》

……副変速レバーがスピンドライブターン位置のとき，マルチステアリングレバーを倒すとサイドクラッチが切れ，さらに倒すと左右のクローラが逆転して旋回します。

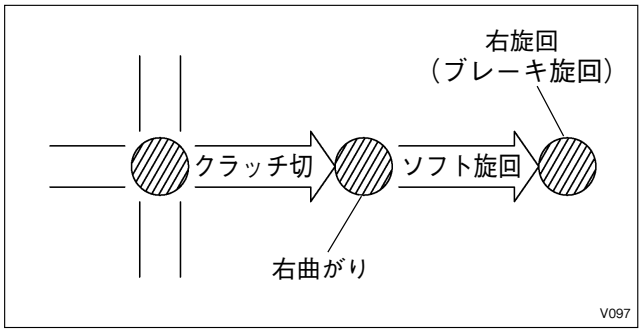
小回りが必要なときや能率を上げて作業する場合に使用します。



《ソフト旋回・ブレーキ旋回》

……ステアリングレバーを倒すとサイドクラッチが切れ，さらに倒すと片側のクローラが減速し，左右のクローラが同じ方向に回転して旋回します。（ほ場の荒れを少なくして作業する場合に使用します。）

さらに倒すと旋回側のクローラをブレーキで停止させて旋回します。（ブレーキ旋回）



⓮ ロータ変速したときの回転設定切替方法

ロータ変速切替レバーでロータ回転を高速・低速に切替えたときにロータ回転設定を切替えます。（24ページ参照）

刈取る作物を変更するときに，作物別調整表に基づいてロータ回転をセットしてください。（作物調整表（Aページ）参照）

液晶画面のインジケータを確認ください。

作物別調整表と異なる表示の場合は，下記の手順でインジケータ表示を切替えてください。

(1) エンジンを始動します。

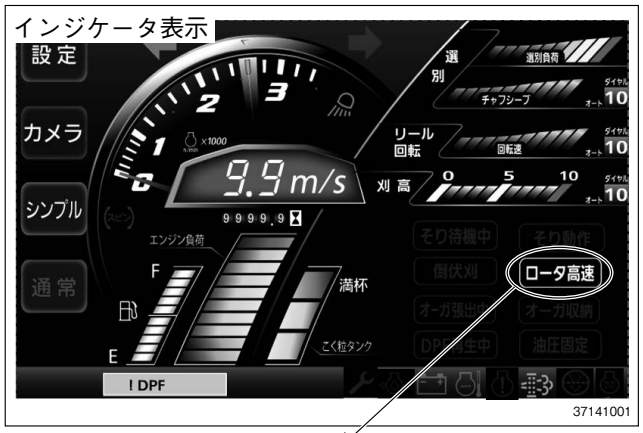
(2) エンジン回転自動を《**入**》にします。

(3) パワークラッチスイッチで《**脱こく**》位置を選択します。

※《**刈取**》位置にすると切り替えできません。

(4) 約５秒後，液晶画面のインジケータが切り替わります。

(5) 切り替わったことを確認したら，エンジンを停止してください。





切替には，時間制限があります。

切替できない場合は，再度(1)から操作してください。

2. 刈取り作業のしかた

各自動装置の取扱いは **自動装置について** の項を参照します。

1. 刈取り操作の手順

⚠警告 傷害事故防止のために

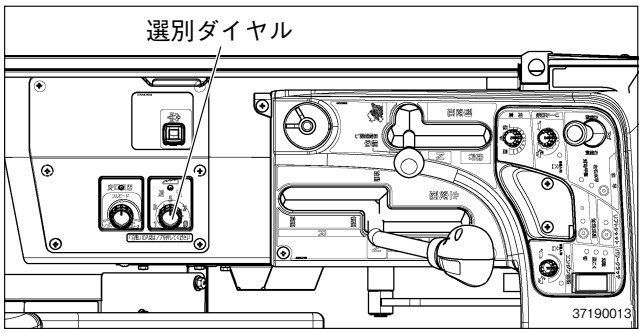
◆刈取り作業をするときは，周囲を確認し，機械に人を近づけないでください。

◆作業中に走行クラッチペダルを踏んで停止したときは，主変速レバーが《中立》に戻してください。発進するときは低速から順次に速度を上げてください。

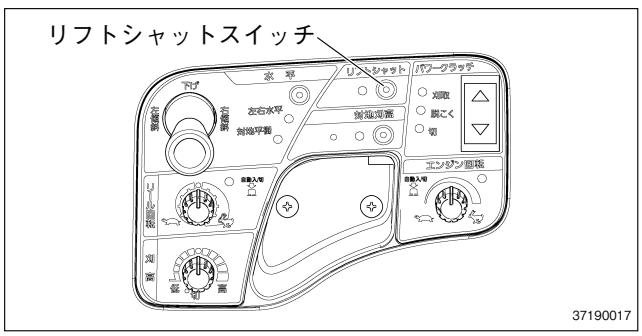
❶ ロータ変速，送じんガイドを作業をする前に「**作物別調整表**」（Aページ）に基づいてセットしてください。

❷ エンジンを始動し，各自動スイッチが点灯していることを確認します。使用したい自動スイッチが消灯している場合は，スイッチを押して点灯させます。

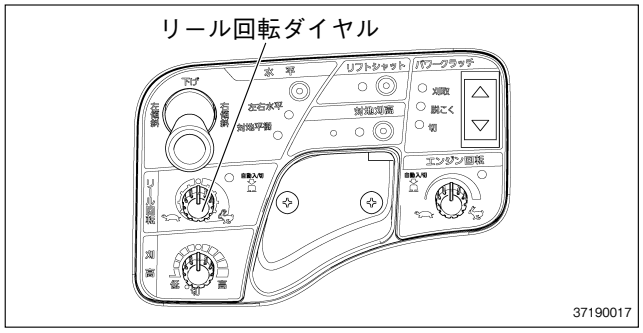
❸ 選別ダイヤルを刈取る作物に合った位置にセットします。（「**作物別調整表**」（Aページ）参照）



❹ リフトシャットスイッチは作業に応じて《**入**》，または《**切**》にします。（取扱い方法は15ページ参照）



❺ リール回転ダイヤルを作物および作物の状態に応じてセットします。（取扱い方法は17ページ参照）



❻ 副変速レバーを標準位置にします。

❼ エンジン回転自動《**入**》のときは，パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《**刈取**》にするとエンジン回転が作業範囲位置に自動的にセットされます。



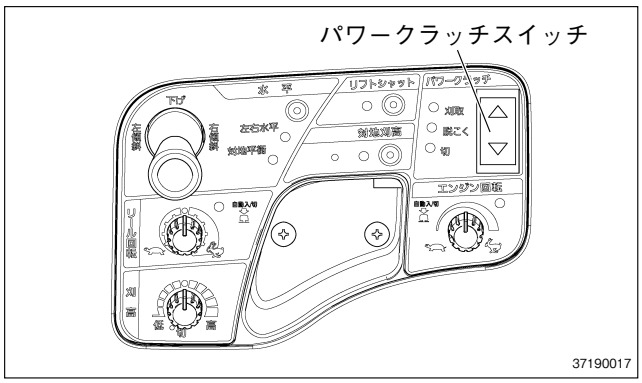
取扱いのポイント

- **刈取り作業中は，「色表示」の範囲内に常時指針があるように，主変速レバーとエンジン回転ダイヤルで作業速度を調整してください。**
- **規定の回転より低いと，選別不良が発生したり，脱こく内部にこく粒が詰まったりすることがあります。**
  また，回転が高すぎると，こく粒が損傷したり飛散が多くなることがあります。

❽ パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを選択します。

・パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチが《**脱こく**》ランプ点灯時，脱こく部が作動します。

・パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチが《**刈取**》ランプ点灯時，主変速レバーが前進領域になるとヘッダ部が作動します。



❾ 最初は低速で発進し，刈取り条件に合わせ，主変速レバーで適正な速度を選びます。

❿ 方向修正は，マルチステアリングレバーを操作して行います。

⓫ 作業中は，回転計の指針が，**「色表示の範囲内」**に位置するように，主変速レバーで適正な速度に調整します。

刈取り作業中，エンジン回転が下がると，エンジン負荷注意メッセージの表示と警報ブザーの断続音で異常を知らせます。主変速レバーで走行速度を下げ，適正負荷レベルにして作業を行います。（19～20ページ参照）

取扱いのポイント

●エンジン負荷の警報ブザーは，警報切ボタンを押しても鳴り止みません。
作業速度を落としてエンジンの負荷を減らすと，ブザーは鳴り止みます。

2. 刈取り手順

本項では稲・麦の作業について説明します。

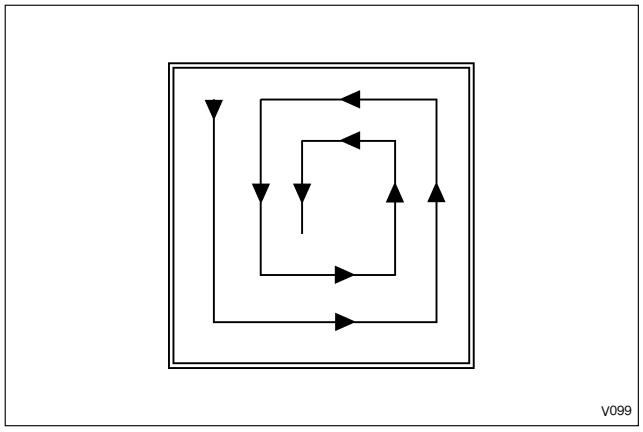
他の作物については，アタッチメントの取扱説明書をご覧ください。

❶ 回り刈り（左回り）

・このコンバインでの刈取りは，**「左回り刈り」**が基本です。

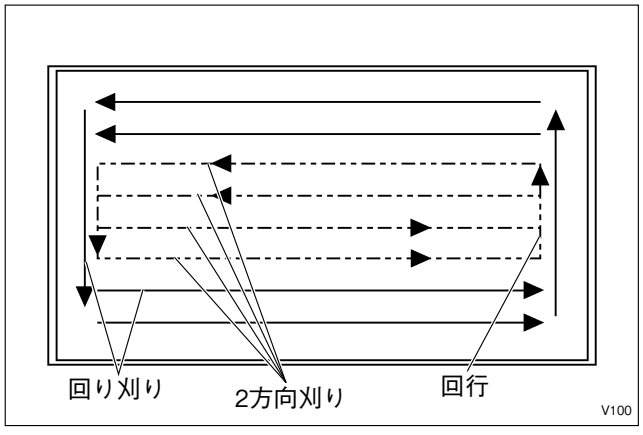
ほ場の形状・大きさにより，つぎのような刈取りをします。

⑴ 正方形に近いほ場



⑵ 長方形に近いほ場

・回行部分が広くなったら，長い２方向のみ刈取ると能率的です。

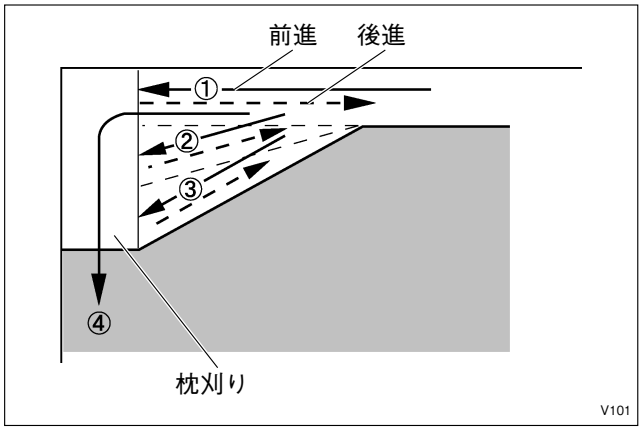


⑶ あぜ際刈り

あぜの草などにより，デバイダが見づらい場合がありますので，右デバイダをあぜに当てたり，デバイダ先端を突っ込んだりしないように刈取りします。

⑷ コーナー部の刈取り

回り刈り時機械が旋回できるコーナー部が狭い場合の刈取りは，下図のようにします。

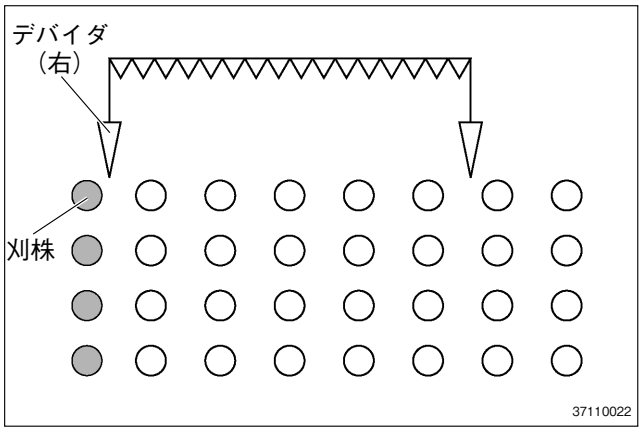


取扱いのポイント

- **コーナー部の刈取り中に急激な方向修正はしないでください。途中で方向修正すると稈が倒れ次工程での刈残しの原因になります。**
- **②③の斜め刈りで回行しにくいときや湿田では斜め刈りの回数をふやして刈取りしてください。**
- **刈り終わりから前進する余裕がないときは，ヘッダ部を上げる前に強制かき込みスイッチを使用して稈こぼれを防ぎます。**

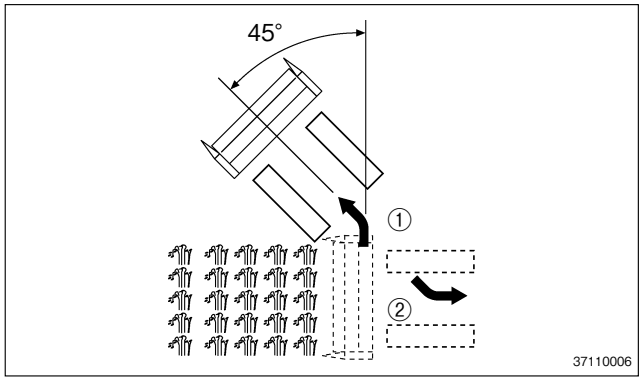
⑸ 条合わせ刈り（稲の場合）

・通常は５条刈りで刈取ってください。
・デバイダ（右）を基準に「**左回り**」で刈残しのないように刈取りします。



⑹ 旋回のしかた（左回り刈り）

・刈り終わったら，ヘッダ部を上げます。
　エンジン回転はそのままで，連続作業の状態で旋回します。（湿田では，大きく旋回します。）
・左に「**約45°**」向きを変えて停止します。
・後進しながら向きをかえ，つぎの刈取る方向に機械が真っ直ぐになるように「**条合わせ**」をします。

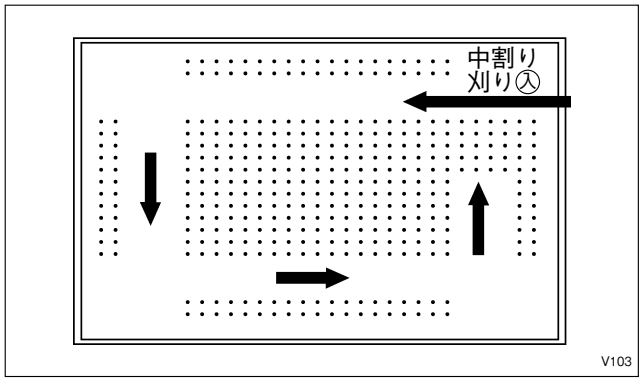


取扱いのポイント

- **旋回のときには，エンジン回転を下げたり，パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《切》にしないでください。脱こく部の詰まりの原因となります。**
  刈り終わり時は，ヘッダ部を上げるのと同時にリールを下げる，またはクイックアップを使うと稈こぼれを減らすことができます。

❷ 中割り刈り

・あぜ際刈りや，ほ場の状態により部分的に刈取りするとき，「**中割り刈り**」をします。
・中割り刈りは，《**標準刈取**》よりやや「**低速**」で行います。



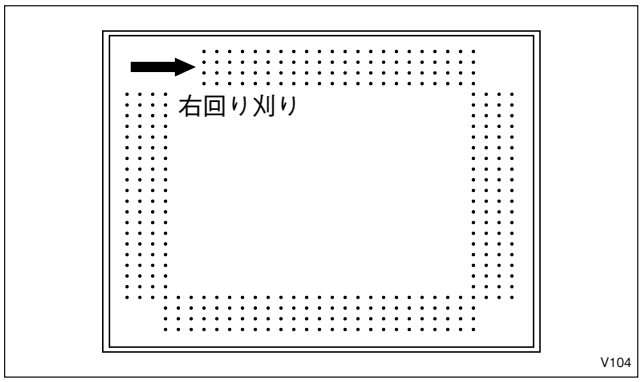
　デバイダ（右）を刈取りする株元の右側に合わせ，刈取ります。

❸ 右回り刈り

⑴ 回りのあぜが高く，あぜ際まで植付けされているときは，あぜ際を残し「**中割り・左回り**」で刈取りをします。

⑵ 残した条を最後に「**右回り**」で刈取ります。

⑶ あぜ際を「**右回り刈り**」するときは，「**ナローガイド（左）**」を収納し，「**デバイダ（左）**」をあぜに突込まないようにします。

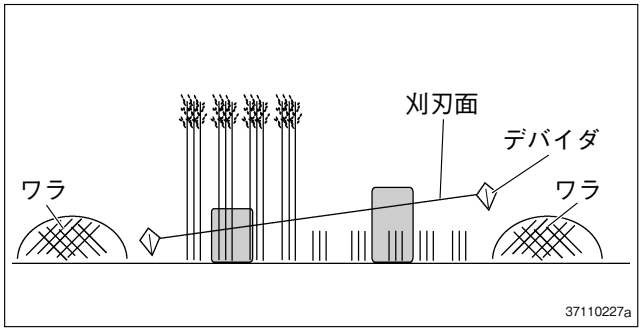


取扱いのポイント

- **あぜ際刈りのときは，オーガをぶつけたり，突込んだりしないよう周囲を注意しながら作業してください。**
- **あぜ際刈りのときは，デバイダを突込んだり，ぶつけないように注意してください。**
- **ほ場の状態によっては，最初にあぜ際を「右回り」で刈取り，つぎから正常な「左回り」で刈取りするのが良い場合もあります。**

❹ 刈取作業の最終工程

刈取作業の最終工程などで，刈幅に満たない条数を刈取るようなときは，水平切替スイッチを「**切**」にして，手動操作で刈取りを行っていない側を上方に傾けて作業を行ってください。



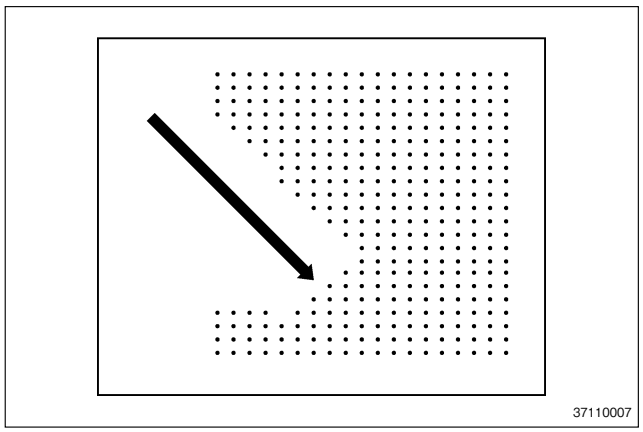
❺ 横刈り

横刈り時は，高速で作業すると刈刃に高負担がかかるので，下記要領で作業してください。

⑴ 横刈り時は速度を落とします。

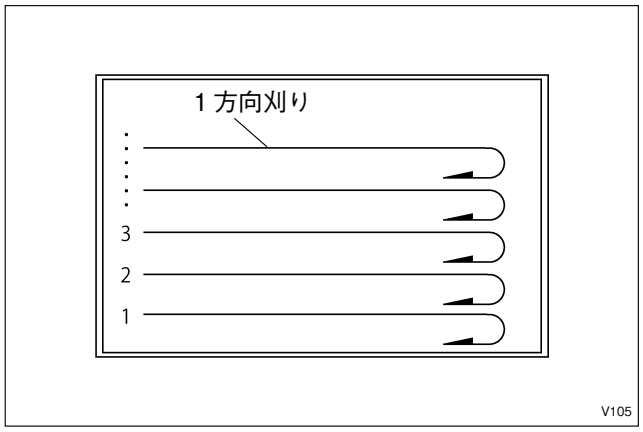
⑵ 高速作業をする場合は，横刈りではなく，斜め刈りをしてください。

⑶ 高刈りをしてください。



❻ 倒伏作物の刈取り

・倒伏した作物は，状態にあわせて「**1方向刈り**」を行います。



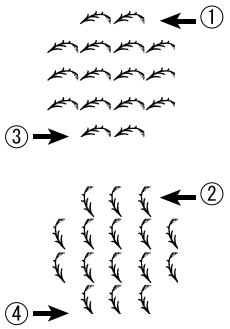
⑴ **刈取り方向**

・倒伏した作物の刈取りは，つぎの図表を参考にして行います。

1．倒伏，中倒伏の場合の副変速は《**標準**》で，倒伏刈スイッチは倒伏している場所でのみ《**入**》にして刈取作業を行ってください。

※中倒伏および倒伏共，主変速レバーは，立毛材刈取時より低い位置で使用してください。

2．②右倒伏刈りが困難なときは,「**④左倒伏刈りまたは・③追刈り**」となるように「**1方向刈り**」をします。

刈取り方向＼倒伏程度		倒伏	中倒伏	立毛状態
	① 向い刈り	×	△	○
	② 右倒伏刈り	×	○	○
	③ 追い刈り	△	○	○
	④ 左倒伏刈り	△	○	○

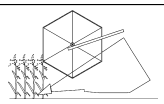
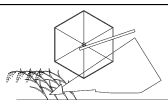
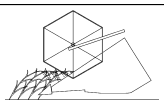
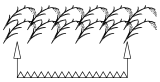
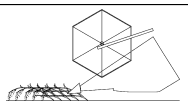
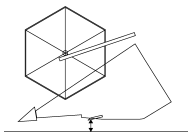
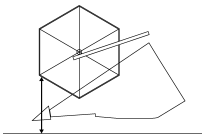
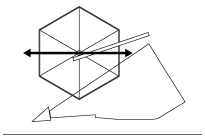
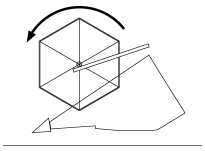
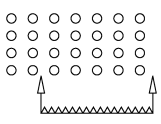
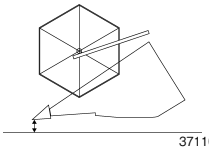
○ 刈取り可能
× 刈取り不可能
△ 走行速度を落として刈取り可能

取扱いのポイント

- **刈刃が土に突込まないようにしてください。土に突っ込むとヘッダ部，脱こく部が詰まる原因となります。**
- **倒伏した作物の，中割り刈りは避けてください。**
- **クローラで穂先を踏まないようにしてください。脱こく部の詰まりなどの原因になることがあります。**

❼ リールヘッダの調整方法

・リール高さ調整は，リールの高さを作物の状態に応じて，調整してください。
・リール前後調整は，リールの前後位置を作物の状態に応じて調整してください。
・リール回転速度調整は，リールの回転速度を作業速度と作物の状態に応じて調整してください。

<table>
<tr><th>作物の状態
ヘッダ部</th><th>立毛時

37110013</th><th>追刈時

37110014</th><th>向刈時

37110015</th><th>横刈時

37110016</th><th>完全倒伏

37110017</th></tr>
<tr><td>刈高さ

37110018</td><td>希望する高さに合わせて作業を始めてください。（ほ場面から15～20cmが適当です。）</td><td>土に突っ込まない高さに，作業しながら調整してください。</td><td colspan="3">穂を切り落とさない範囲で，できるだけ高く調整してください。</td></tr>
<tr><td>リール高さ

37110019</td><td>タインバーが穂首のやや下を通るように調整してください。</td><td>いっぱいまで下げてください。</td><td>タインが作物の穂先を櫛ですくうように調整してください。</td><td colspan="2">いっぱいまで下げてください。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">リール前後位置

37110020</td><td>リールの中心が刈刃の真上か，やや前あたりに調整してください。</td><td>リールが作物を拾い残さない高さになるまで前方に出してください。</td><td>リールの中心が刈刃の真上か，やや前あたりに調整してください。</td><td>リールが作物を拾い残さない高さになるまで前方に出してください。</td><td>リールが作物を拾い残さず，土に突っ込まない高さになるまで前方に出してください。</td></tr>
<tr><td colspan="5">※リールを前方に出しすぎると，稈こぼれやオーガ部でムラ搬送の原因になります。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">リール速度

37110021</td><td>タインバーが作物に分け入れるとき，作物が揺れ動かないように調整してください。（リール速度は作業速度の２～５割増にしてください。）</td><td>走行速度より，かなり速くしてください。（作業速度を遅くしてください。）</td><td colspan="3">作業速度同じか，やや速めにしてください。</td></tr>
<tr><td colspan="5">※土に突っ込んでいないときにリールが止まるのは，タイン１本にかかる作物の重量が大きすぎるからです。走行速度を遅くするか，リールを速く回転させてください。</td></tr>
<tr><td>デバイダ位置

37110079</td><td>既刈側の作物を刈り残さないように，右デバイダを合わせてください。</td><td>未刈部の作物をデバイダで押し倒さないように株の間を通してください。</td><td colspan="3">既刈側の作物を刈り残さないように，右デバイダを合わせてください。</td></tr>
<tr><td>デバイダ高さ

37110023</td><td>雑草が引っかからない程度（刈株よりやや高め）に調整してください。</td><td colspan="4">先端が土に軽く触れる程度に調整してください。
低すぎると株抜けします。</td></tr>
</table>

3．強制かき込みスイッチの取扱い

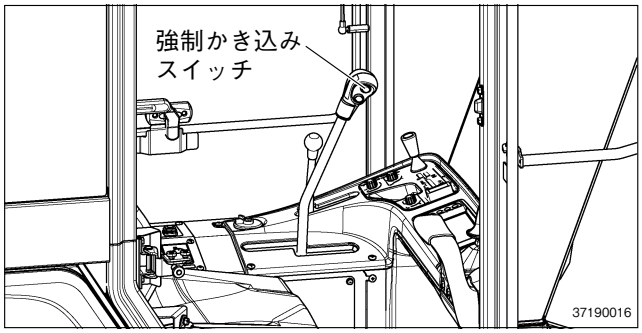
⚠警告 傷害事故防止のために

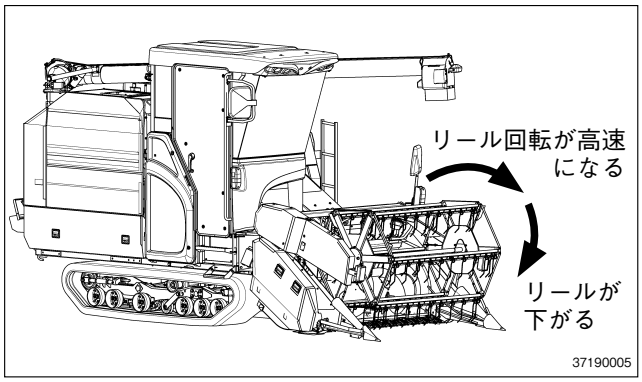
◆強制かき込みスイッチ操作は，周囲の安全を確かめてから行ってください。

・ほ場端部での刈り上げの際，ヘッダ部を上げる前に強制かき込みスイッチを使用すると，稈こぼれを防ぐことができます。
・ほ場侵入（機械前傾）時，強制かき込みスイッチを押しながら刈取をすると，搬送がスムーズに行えます。

パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチが《**刈取**》位置のとき，強制かき込みスイッチを押している間リールが最下限位置まで下がり，リール回転速度が最高回転で固定され作動します。

スイッチを放しますと，リールは元の位置（ボタンを押す前の位置）に戻ります。





取扱いのポイント

●あぜ際や，四隅刈りを除く刈取作業中はスイッチを操作しないでください。ヘッダ部，脱こく部の詰まりなどの原因になることがあります。

4．倒伏刈スイッチの取扱い

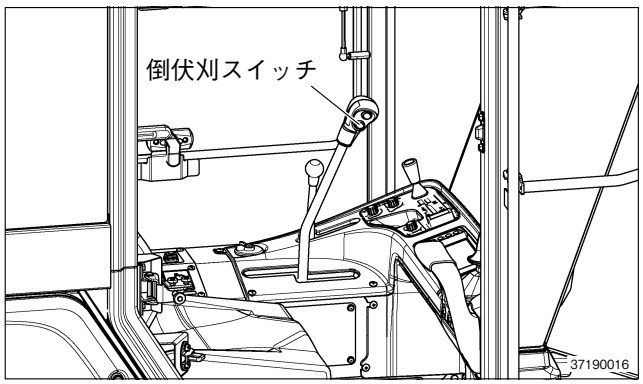
⚠警告 傷害事故防止のために

◆倒伏刈スイッチ操作は，周囲の安全を確かめてから行ってください。

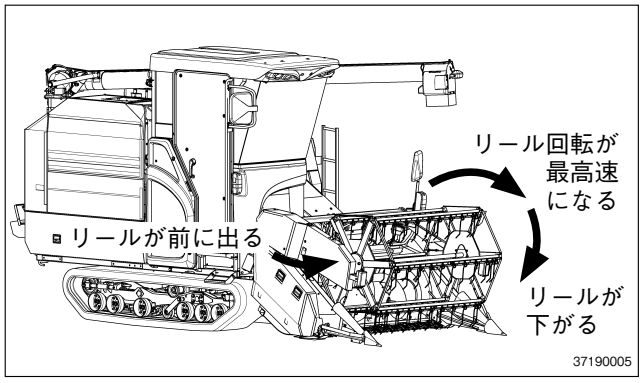
作物，ほ場の条件に応じて使用してください。

・部分倒伏や完全倒伏のとき，倒伏刈スイッチを押すとスムーズな刈取ができます。

倒伏刈スイッチを押すとインジケータが点灯し，リールが下がり前に出て，リール回転が最高速になり，刈取搬送が作動します。







・倒伏刈スイッチを再度押すと，スイッチを押す前の状態に戻ります。

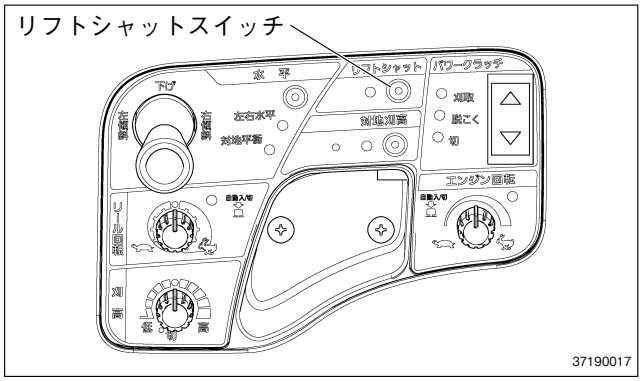
5．リフトシャットの取扱い

⚠警告 傷害事故防止のために

◆リフトシャットスイッチを《入》にしてパワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチが入っていると，ヘッダ部を下げたときは，ヘッダ部が作動します。
◆ヘッダ部に近づかないでください。
◆リフトシャットが作動し，ヘッダ部が停止していても，強制かき込みスイッチを押せば，ヘッダ部が作動します。強制かき込みスイッチを押すときは，周囲に人がいない事を確認してください。

リフトシャットとは，リフトシャットスイッチを《**入**》にしてヘッダ部を上げると，パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチが入った状態で自動的にヘッダ部が停止する機構です。前進し，ヘッダ部を下げると自動的に回り始めます。

リフトシャットスイッチを《**切**》にすると，リフトシャットは機能せず，ヘッダ部を上下してもヘッダ部は停止しません。



ヘッダ部を通常より上げて刈取する場合は，リフトシャット《**切**》位置で使用します。

取扱いのポイント

●後進時，停止時はヘッダ下げ操作をしてもヘッダ部は作動しません。

6．こく粒の排出操作方法

⚠警告 傷害事故防止のために

◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろしをするときは，グレンタンク内のこく粒を排出してください。
◆傾斜地でのこく粒の排出作業はしないでください。
◆排出オーガの操作は運転席から，後方を向いて周囲の安全を確認してから行ってください。
◆こく粒の排出作業をするときは，駐車ブレーキをかけて行ってください。
◆排出オーガ先端部に溜まったこく粒を取除く場合は，排出範囲でこく粒排出スイッチを「切」にしエンジンを停止してください。
◆旋回範囲近くに障害物がある場合は，排出オーガ自動旋回スイッチを使用しないで，手動操作で排出オーガを操作してください。
◆水平切替スイッチを「切」にして，水平操作レバーで機械を一番下まで下げてから，排出作業をしてください。
◆作業終了後は，オーガ操作リモコンをリモコンホルダへ戻してください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆排出オーガの作動範囲に頭や手を近づけないでください。
◆こく粒排出後の移動は，排出オーガを収納し，固定ワイヤで固定してから行ってください。
◆排出オーガ排出口のビニールカバーは，人や物に接触したときに，相手を傷つけないように装備されています。ビニールカバーが破損したときは，直ちに「お買いあげ先」にて交換してください。
◆こく粒排出後の移動は，排出オーガを収納し，固定ワイヤで固定してから行ってください。

❶ モミ満杯予告シグナル

・満杯に近づくと，方向指示器全てが点滅し補助者にモミ排出準備を知らせます。



❷ グレンタンクのモミ警報

・グレンタンクにこく粒が充満すると，こく粒タンクインジケータ《**満杯**》位置の「**点灯**」と警報ブザーの「**断続音**」で知らせます。刈取り作業を中止し，こく粒の排出を行います。

・警報ブザーは，警報切ボタンを押すと止まります。

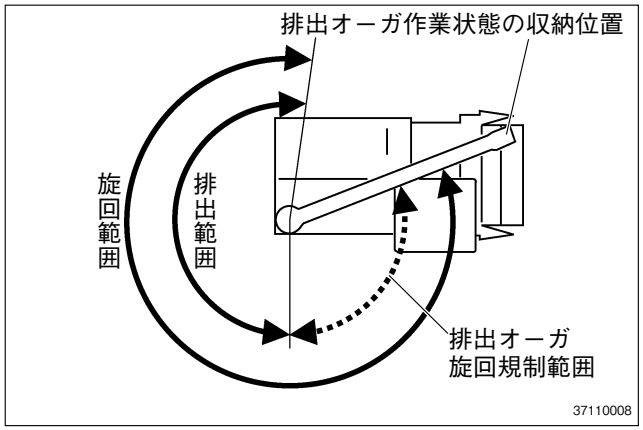
取扱いのポイント

●警報ブザーが鳴ったあと，そのまま作業を続けると，オーバーフローセンサが作動し警報ブザーの連続音が鳴り，自動的にエンジンが停止します。

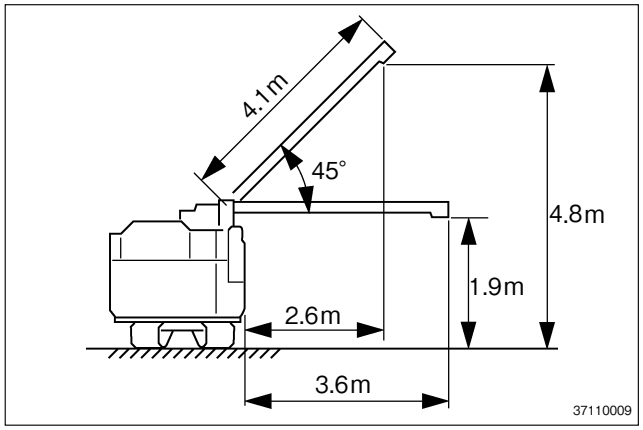


❸ こく粒排出範囲（排出オーガ旋回範囲）

こく粒排出位置まで移動し，平坦な場所を選び，主変速レバーを《**中立**》にし，駐車ブレーキをかけて機械を停止します。

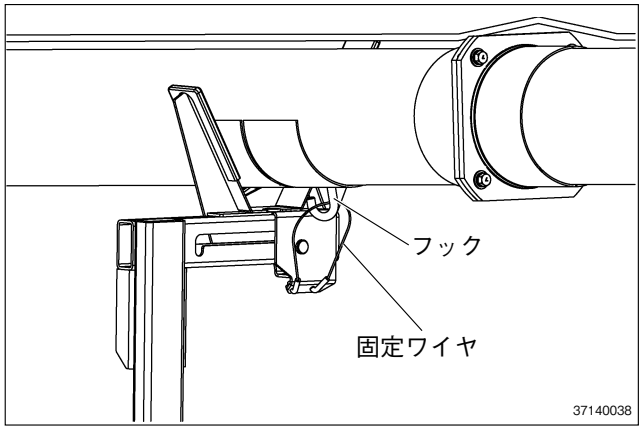


「排出オーガ高さと距離」



❹ こく粒排出操作手順

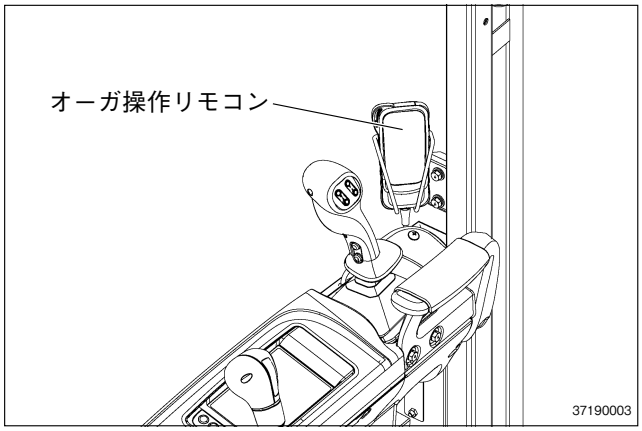
(1) **排出オーガ固定用ワイヤをフック部より外す。**

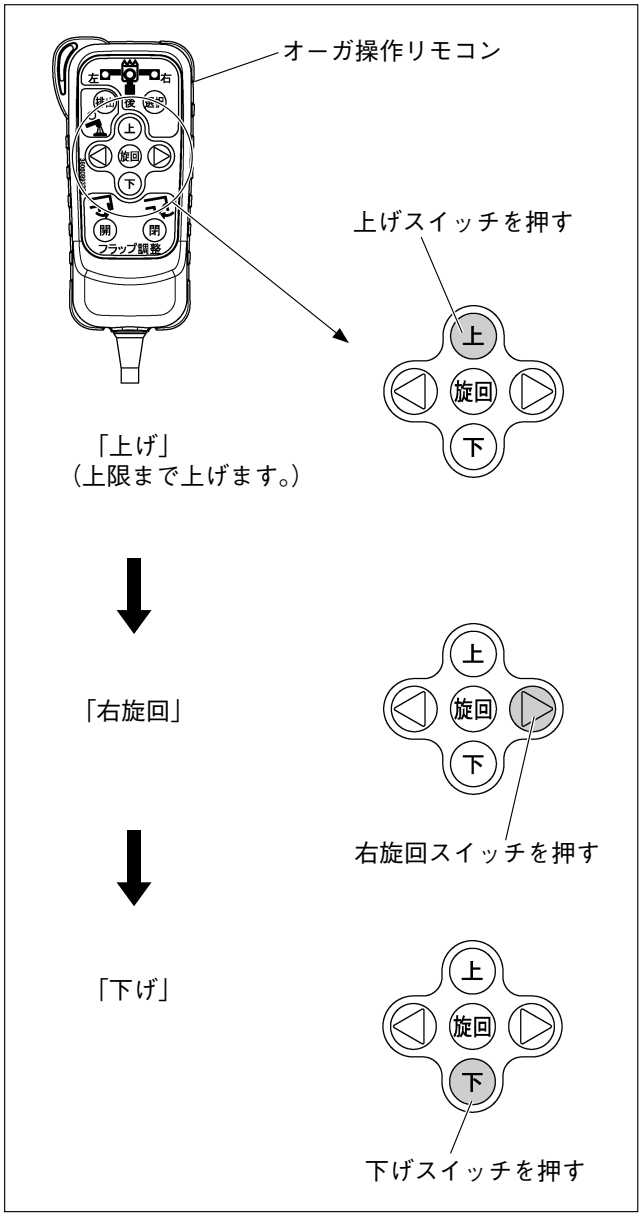


⑵ こく粒排出オーガの先端部を排出位置にセットする。

位置セットする場合,「**手動**」と「**自動**」の二通りの操作が可能です。

手動操作のとき





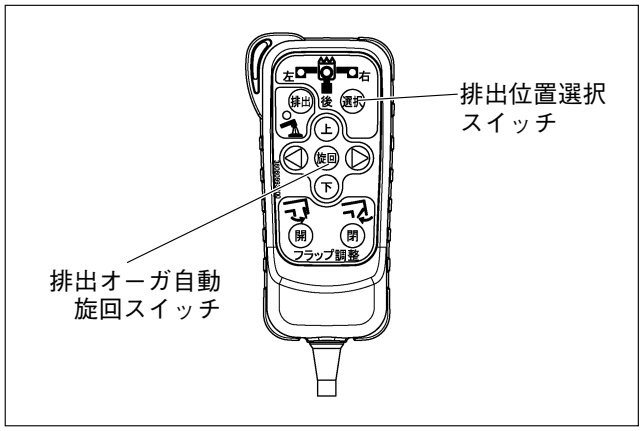
自動操作のとき ［排出時］

・排出位置選択スイッチにて排出位置を設定する。

・排出オーガ自動旋回スイッチを「**押**」す。

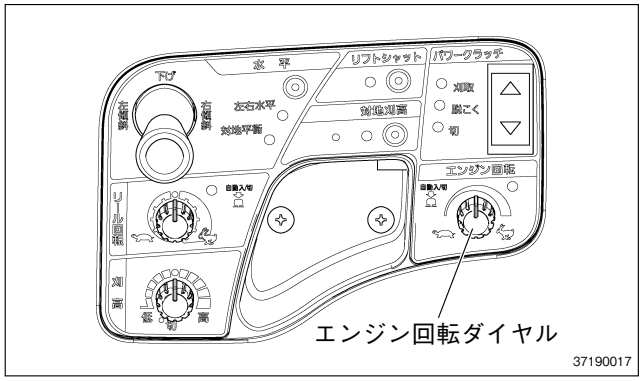
……自動旋回開始

→ 設定した位置で停止→手動で高さを合わせる



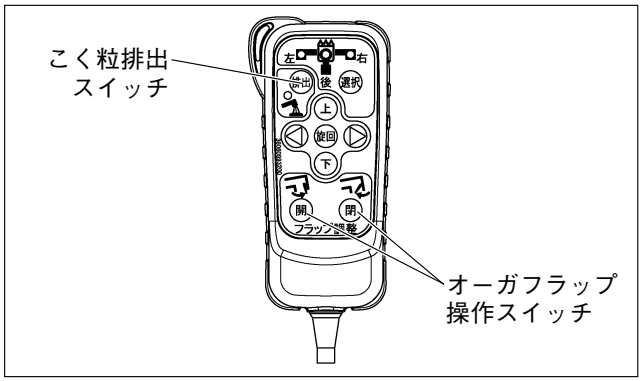
⑶ こく粒を排出する場合は，エンジン回転を回転計の「作業範囲の上限」に合わせて行ってください。(詳細は10ページ参照)



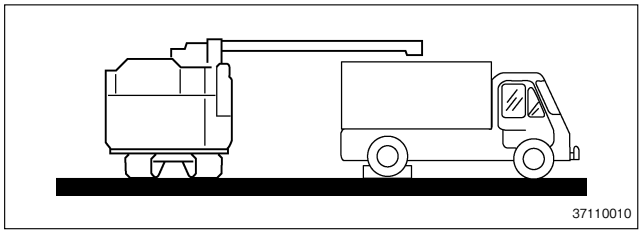


⑷－１　こく粒排出スイッチを「入」にする。
……こく粒排出開始

⑷－２　オーガフラップ操作スイッチ
フラップを「開」「閉」操作し，こく粒排出位置を微調整・均一排出できます。



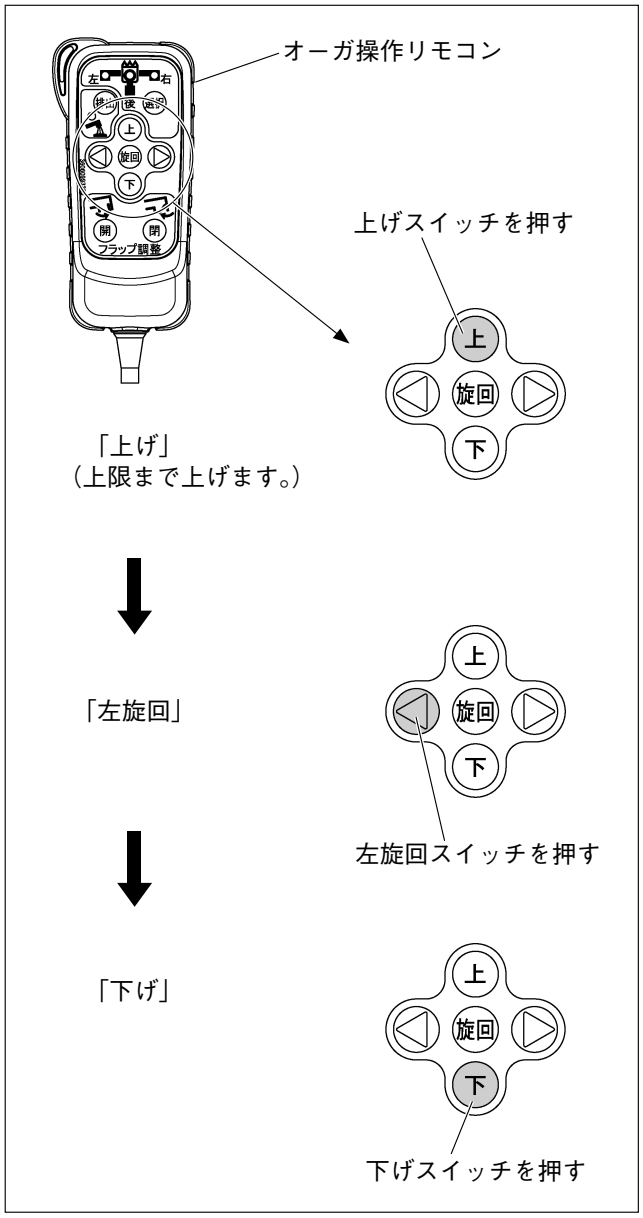
⑸　こく粒排出スイッチを「切」にする。
……こく粒排出終了



⑹　こく粒排出オーガを収納する。

収納する場合，「手動」「自動」の二通りの操作が可能です。

手動操作のとき



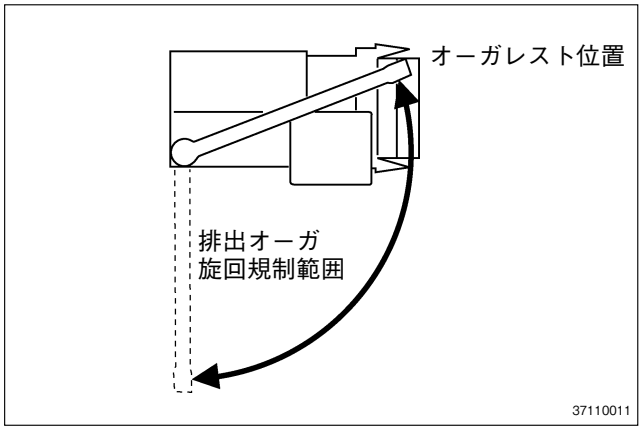
自動操作のとき　［収納時］

・排出オーガ自動旋回スイッチを「押」すとオーガレストのある位置に収納されます。

⑺ 排出オーガ固定用ワイヤをフック部にかける。

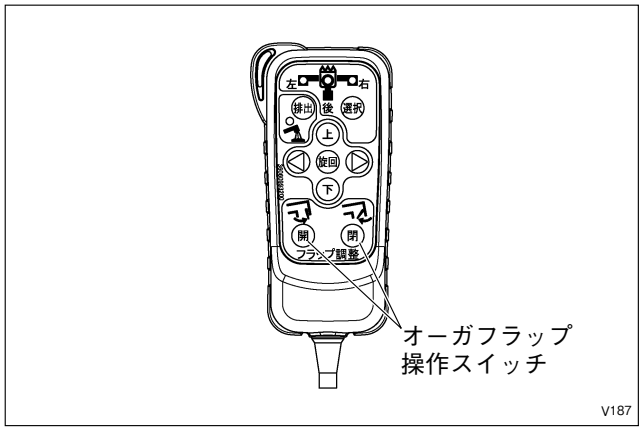
取扱いのポイント

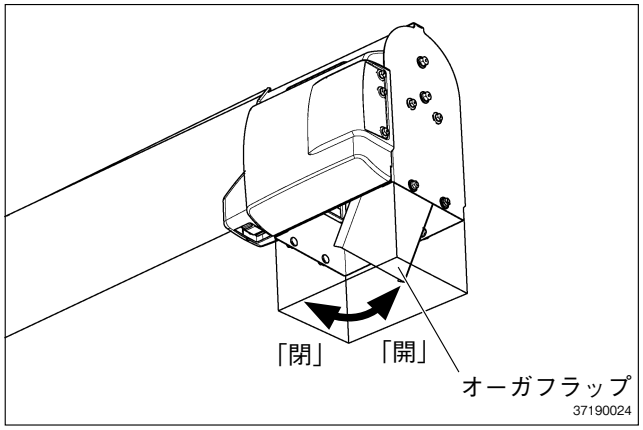
- こく粒の排出は，排出オーガの先端部をこく粒で塞がないように，排出位置を変えながら行ってください。
- 排出位置の変更は，機械を止めた状態で，排出オーガを少しずつ回動させて行ってください。
- 機械が傾いた状態では，オーガの旋回が遅くなったり，旋回ができなくなったり（サーキットブレーカ作動）します。また，自動収納時，オーガレストに納まらない場合がありますので旋回操作は平坦な場所で操作してください。
- 排出オーガは手で押して動かさないでください。故障の原因になります。
- 排出オーガ旋回は排出オーガをいっぱい上げてから行ってください。
- 排出オーガ旋回規制範囲内では，排出オーガを最上げ状態にしなければ旋回できません。また，この範囲内では，排出オーガの下降はできません。



⑻ オーガフラップ操作スイッチ

・オーガフラップの開閉操作を行うスイッチです。
・オーガフラップを開閉操作し，こく粒排出位置の微調整ができます。





7．グレンタンク補助樋口の取扱い

故障などにより，グレンタンク内のこく粒が排出不可能になったときに使用します。樋口はグレンタンク下部カバーを取外すと，その内側にあります。

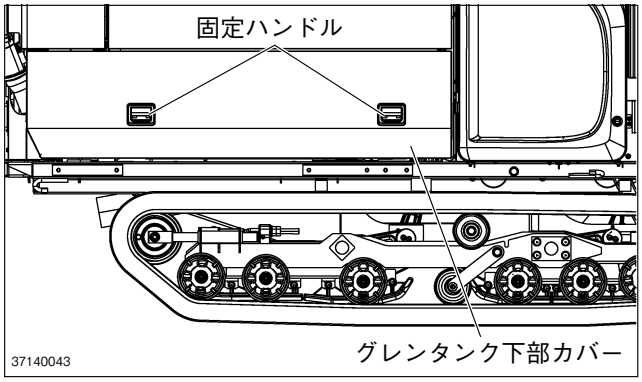
⚠警告 傷害事故防止のために

◆補助樋口からこく粒を取出すときは，エンジンを停止してください。

⚠注意 傷害事故防止のために

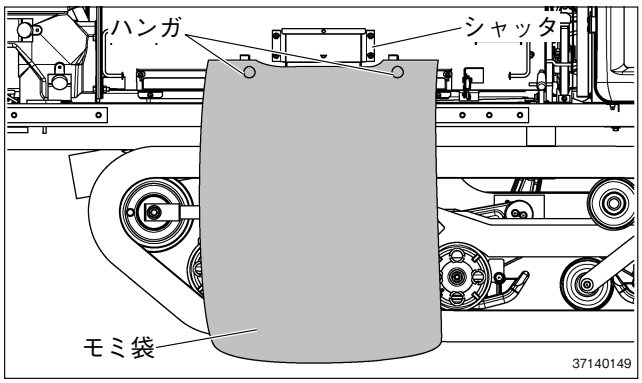
◆カバーを取外したままで使用すると，ケガをするおそれがありますので，取付けて使用してください。

❶ グレンタンク下部カバーの固定ハンドルを引いて，カバーを外します。



❷ ハンガにモミ袋をかけます。

❸ シャッタを引上げ，タンク内のこく粒をモミ袋に取出します。



❹ こく粒の取出しが終了したら，シャッタを閉め，グレンタンク下部カバーを取付けます。

8．夜間作業

⚠警告 傷害事故防止のために

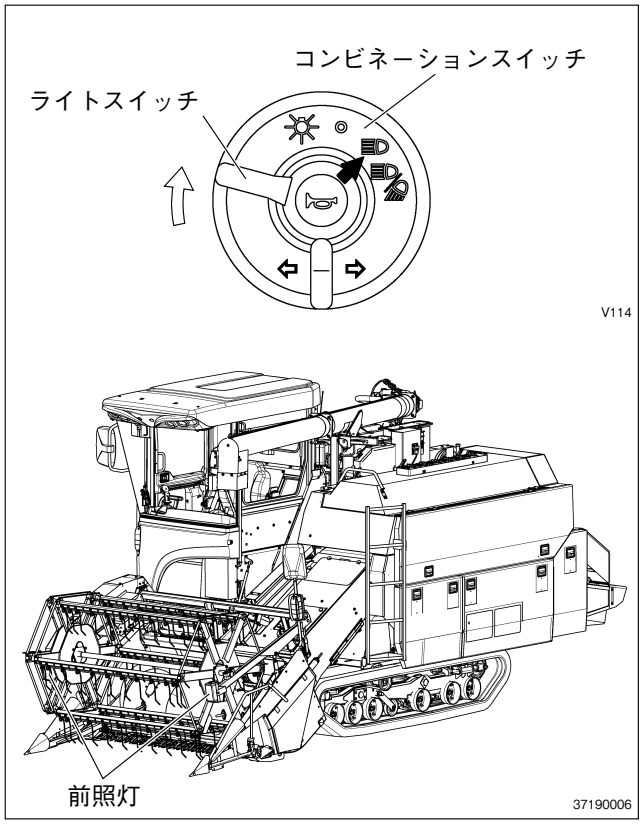
◆夜間作業をするときは，前照灯，作業灯を点灯してください。

◆作業灯電源を他の電源に使用しないでください。

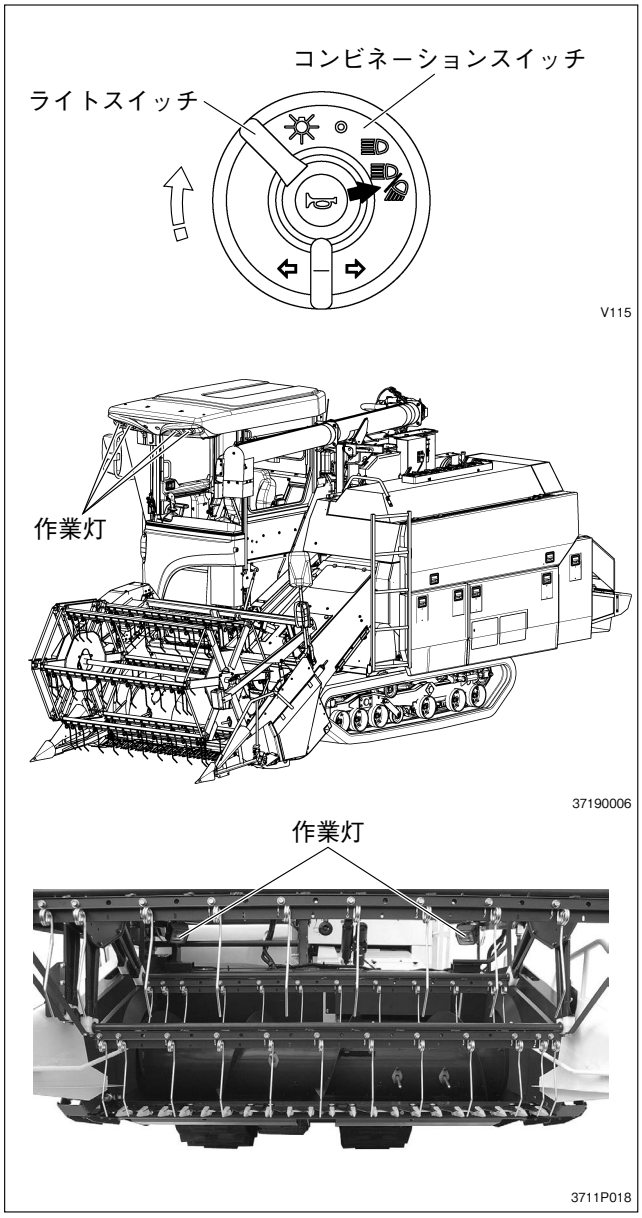
◆路上走行するときは，作業灯を消灯してください。

コンビネーションスイッチのライトスイッチと各作業灯スイッチの操作で，前照灯と作業灯を点灯または消灯します。

❶ ライトスイッチを１段回すと前照灯が点灯します。



❷ 各作業灯スイッチを《**入**》にして，ライトスイッチを２段回すと，前照灯および全ての作業灯が点灯します。



9．エンジン自動停止の取扱い

⚠警告 傷害事故防止のために

◆詰まりなどの異常が発生しエンジンが自動停止した場合は，スタータスイッチを《切》位置にしてから，詰まりを取除いてください。

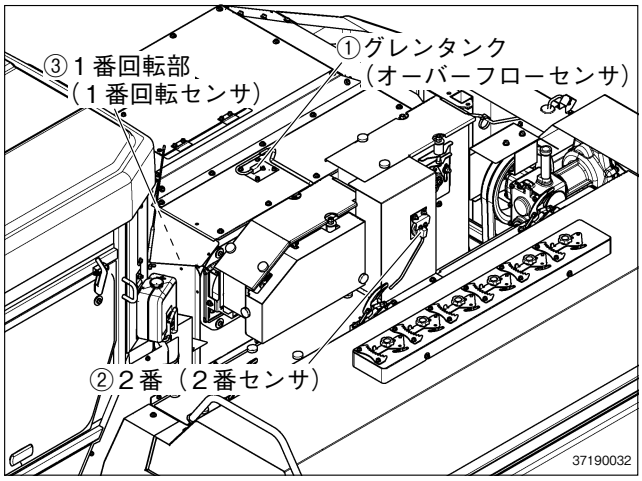
◆脱こく部の詰まりの掃除・点検作業は，ロータカバー，ロータサイドカバーをオープンさせて行ってください。

◆詰まりを取除いて，回転確認を行う前に，全てのカバーを取付け，ロータ部を閉めて，機械の周囲に人がいないことを確認してから，低速で回転確認を行ってください。

刈取り作業中に異常（詰まりなど）が発生したときは，機械の破損や変形を未然に防ぐため，つぎの箇所のセンサが作動して，警報ブザーが鳴り，１番，２番，またはオーバーフローの注意メッセージが表示され，エンジンが自動停止します。

No.	センサ設置部	停止条件	センサ名
①	グレンタンク	オーバーフロー	オーバーフローセンサ
②	２番	詰まり	２番センサ
③	１番回転部	詰まり ベルトスリップによる回転停止	１番回転センサ





❶ エンジンが停止したら，スタータスイッチを《**切**》位置にして，詰まりやオーバーフローを取除きます。

❷ 詰まりなどを取除き，副変速レバーを《**中立**》にし，エンジンを始動します。エンジン回転ダイヤルを《🐢》(**低速**）にし，パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《**刈取**》にして，主変速レバーを《**低速**》に操作し，搬送部が正常に作動することを確認してから作業を開始します。

取扱いのポイント

- **停止時のパワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチの位置により再始動時にスタータスイッチ《入》で２～３秒の準備時間がかかることがあります。ブザー音でお知らせしますが，異常ではありません。**

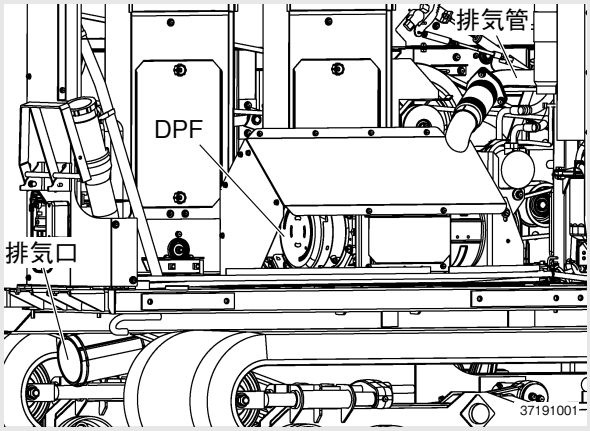
10. 刈取り作業終了後の取扱い

⚠**警告** 火災防止のために

◆機械をワラクズの溜まった近くに止めないでください。マフラ排気口にワラクズが触れ火災になることがあります。

◆シートカバーをかけるときは，エンジンが冷えてから行ってください。

◆エンジン，マフラ（DPF），排気管や燃料タンク，バッテリおよびその周辺のワラクズを掃除してください。



❶ 平坦な場所で主変速レバーを《**中立**》の位置にします。

❷ パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《**切**》の位置にします。

❸ 駐車ブレーキをかけます。

❹ エンジン回転ダイヤルで《🐢》(**低速**)の位置に戻してしばらく空運転をし，エンジン温度を下げてから，副変速レバーを《**標準**》に入れて停止します。

❺ **作業後の手入れ**

・機械をきれいに洗車し，各回転部・摺動部に注油をします。

取扱いのポイント

- パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチは，脱こく内部のワラクズなどがきれいに排出されるまで，《脱こく》にし，空運転してから《切》位置にします。
- 水洗いするときは，エンジン回り，電気配線部，マイコン装着部，運転パネル部および脱こく内部には水をかけないでください。故障の原因となります。

11．警報装置について

つぎの箇所に異常が発生した場合は，警報点灯，警報ブザー，エンジン停止などで警告します。

異常箇所を確認して，つぎの処置を行います。



名　称	現　　象	警報の方法		解除方法	点検と処置	参　照 ページ
		ブザー	エンジン			
モミ処理	モミオーバーフロー	断続音の 連続	停止	パワークラッチ （脱こく・刈取） スイッチ 《切》	こく粒が満杯になっていますので，こく粒を排出します。	60～63
1　　番	詰まり	断続	停止	パワークラッチ （脱こく・刈取） スイッチ 《切》	１番または，２番が詰まっていますので取除きます。	131～132
					ベルトが焼き付いているか，切れていますので点検します。	151～152
2　　番					バケットチェンが切れていますので点検します。	146
					ラセン部がロックしているか詰まっていますので点検します。	131～132
	２番上部シュータ部の詰まり	連続	停止		２番上方横ラセンまたは，２番上部シュータ部が詰まっていますので取除きます。	131～132

つぎの箇所に異常が発生した場合は，警報点灯，警報ブザー，エンジン停止などで警告します。

異常箇所を確認して，つぎの処置を行います。



37140170　37140171　37140161

名　称	現　　象	警報の方法		解除方法	点検と処置	参　照 ページ
		警報ランプ メッセージ表示	ブザー （ホーン）			
モミ処理	満　杯	点灯 メッセージ表示	断続音の断続	警報切ボタン「**押す**」 または パワークラッチスイッチ **《切》**	こく粒が満杯になっていますので，こく粒を排出します。	59～63
充　　電	充電不足	点灯 メッセージ表示	－	スタータスイッチ **《切》**	スタータスイッチ**《入》**で点灯し，エンジンが始動すると消えるのが正常です。運転中の点灯はバッテリへ充電されていませんので，エンジンを止め，ファンベルトなどを点検します。	111～116
水　　温	オーバーヒート	点灯 メッセージ表示	連続音 「**低速運転**」中は 断続音	水温が下がるまで エンジンを 「**低速運転**」	エンジンの冷却水温度が異常に上昇（オーバーヒート）しています。作業を中止しエンジンを低速運転して，温度を下げます。その後，エンジンを停止し，ラジエータ吸気部，ファンベルトの張り，冷却水（補助タンク）の水量などを点検します。	7 93～94 103 148
オ イ ル	エンジンオイル量不足	点灯 メッセージ表示	－	スタータスイッチ **《切》**	運転中の点灯は，エンジンオイル量を点検して補給します。	7 91～92
エンジン 回転負荷	エンジン回転が下がる	メッセージ表示	断続音	作業速度を下げる	作業速度を下げてエンジン過負荷をなくします。送じんガイドの調整が良いか確認します。	19～20 52～53 76～77
選別部負荷	選別部負荷状態	メッセージ表示	断続音	作業速度を下げる 選別ダイヤルを開き 方向に回す	作業速度を下げて選別部の負荷を軽くしてください。選別ダイヤルにて開き方向に調整してください。	9 17 73～74
エアクリーナ	エアクリーナ フィルタつまり	点灯 メッセージ表示	連続音	スタータスイッチ **《切》**	作業を中止し，エアクリーナフィルタを清掃してください。	104
DPF	DPF手動再生要求	点灯 メッセージ表示	－	DPFを手動再生する	DPF周辺のわらを取除き，換気の良い場所へ移動し，DPFの手動再生操作を行ってください。	37～38 104
１番２番 ラセン回転	１番２番ラセン回転 が低下	メッセージ表示	断続音	パワークラッチスイッチ **《切》**	１番２番ラセン部に詰まりなどがないか点検してください。ベルトなどの点検し再調整してください。	12，102 131～132 146
オーガレスト	リール上昇規制作動	メッセージ表示	リール上昇操作中 連続音	リール上昇操作を やめる	オーガレストが格納位置のときにオーガとリールが接触する可能性がある操作をすると，メッセージが表示されブザーが鳴ります。 接触の可能性がなくなるように，オーガレストを作業位置にするか，オーガ・リール・リフトを動作させてください。	25 47 60～63 75～76
	オーガ下降規制作動	メッセージ表示	オーガ下降操作中 連続音	オーガ下降操作を やめる		
	リフト上昇規制作動	メッセージ表示	リフト上昇操作中 連続音	リフト上昇操作を やめる		
	オーガ自動収納 規制作動	メッセージ表示	一定時間連続音	（オーガ自動収納動作 の自動停止）		
チョッパスプレッダ回転	チョッパスプレッダ 回転が低下	メッセージ表示	断続音	パワークラッチスイッチ **《切》**	作業負荷が高いか，詰まりなどがないか点検してください。ベルトなどの点検し再調整してください。	12，14 132，140
こぎ胴回転	こぎ胴回転が低下	メッセージ表示	断続音	パワークラッチスイッチ **《切》**	作業負荷が高いか，ロータ変速切替が正しいか，ロータ部に詰まりなどがないか点検してください。ベルトなどの点検し再調整してください。	14, 24, 51 150～151
排出時回転	排出時エンジン回転が 低下	メッセージ表示	断続音	エンジン回転を 上げる	こく粒排出時のエンジン回転が低いので詰まりの原因になります。エンジン回転を上げてこく粒排出作業をしてください。	18
排出オーガ	排出オーガの オーガレスト未収納	メッセージ表示	車速検出中 連続音	車両を停止させる 排出オーガをオーガレストに収める	排出オーガがオーガレストに収まっておらず，車両を動かすとメッセージが表示されブザーが鳴ります。車両を移動させるときは，排出オーガをオーガレストに収納してください。	47

自動装置について

1．刈高さポジションコントロール

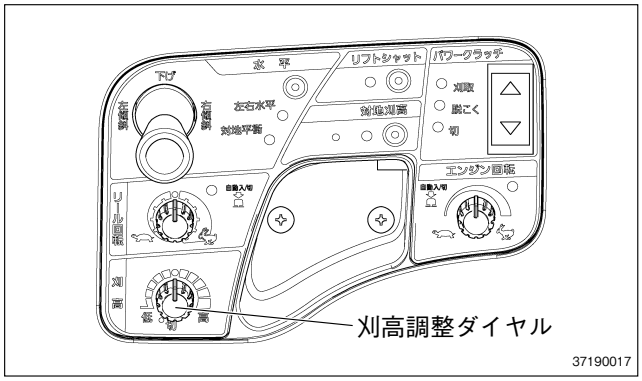
刈高調整ダイヤルにより，シートに座ったまま手元操作で，ヘッダ部の下限高さを設定することができます。

1．運転装置

❶ 刈高調整ダイヤル

刈高調整ダイヤルを《**切**》位置以外にすると刈高さポジションの設定ができます。

・刈高さの調節は，刈高調整ダイヤルの操作によって，お望みの「**刈高さポジション**」を設定することができます。



❷ ヒューズ

取扱いは，108～110ページを参照します。

取扱いのポイント

- **刈高調整ポジションコントロールを使用しないときは，ダイヤルを《切》位置で使用します。**
- **ほ場の凹凸が多い場合には，マルチステアリングレバーで手動操作してください。**
- **刈高調整ダイヤルをどの位置にセットしても，刈高さポジションが設定できないときは，エンジンを停止してヒューズの点検・配線接続部の外れなどがないか確認してください。**

2．自動での作業のしかた

刈高調整ダイヤル《**切**》位置とパワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ《**切**》位置状態ではこの機能は働きません。

❶ 乾田での標準刈高さセット

ほ場・作物条件に合わせて，低く刈取るときは《**低**》の方向に，高く刈取るときは《**高**》の方向にダイヤルをセットします。

⑴ 刈高調整ダイヤルを標準《●》位置にセットします。

⑵ パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ《**刈取**》でマルチステアリングレバーを《**下げ**》に操作してヘッダ部を下げます。ヘッダ部が停止した位置が刈高さポジションの設定位置です。

❷ 刈高さが高すぎる場合

⑴ 刈高調整ダイヤルを少し《**低**》側へ回します。

⑵ ヘッダ部が下がり，停止した位置が新しい刈高さポジションの設定位置です。

❸ 刈高さが低すぎる場合

⑴ 刈高調整ダイヤルを少し《**高**》側へ回します。

⑵ ヘッダ部が上がり，停止した位置が新しい刈高さポジションの設定位置です。

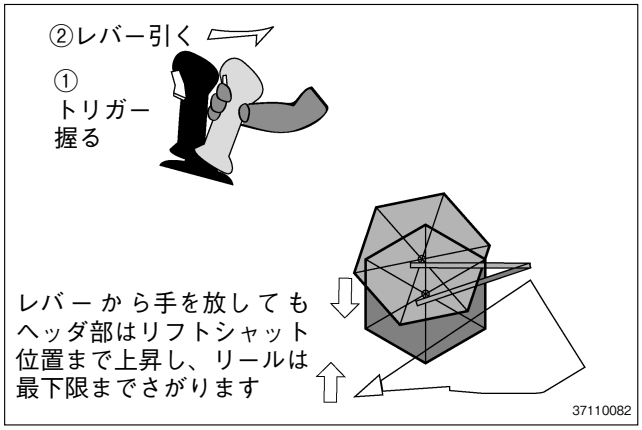
取扱いのポイント

- **刈高調整ポジションコントロール中に，マルチステアリングレバーを瞬間的にでも《上げ》操作すると，ポジションコントロールが解除されます。**
- **再度ポジションコントロール状態にするときは，マルチステアリングレバーを《下げ》操作してください。**
- **刈高調整ダイヤルを《切》位置以外に設定しているときは，マルチステアリングレバーを《下げ》操作しても，刈高さセット位置より低くすることはできません。**

❹　クイックアップトリガーの使用

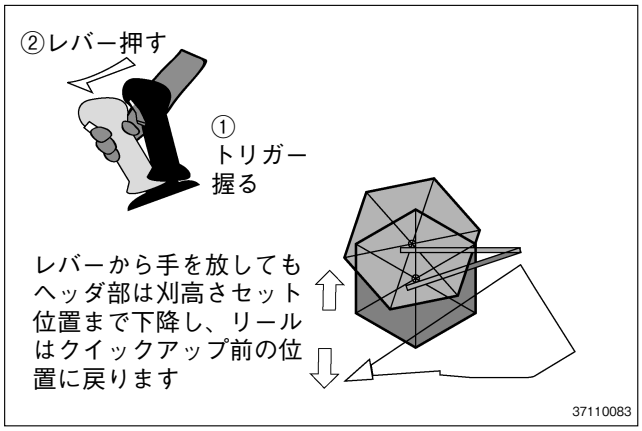
①　クイックアップ機能

・クイックアップトリガーを握りながらマルチステアリングレバーを軽く（一瞬）上げ操作をすると自動的にヘッダ部がリフトシャット位置まで上がり，リールが最下限まで下がります。



②　クイックセット機能

・クイックアップトリガーを握りながらマルチステアリングレバーを軽く（一瞬）下げ操作をすると自動的にヘッダ部が刈高さポジションコントロールで設定された位置まで下がり，リールはクイックアップ前の位置まで戻ります。



③　刈高さ解除機能

刈高さセット位置よりもさらにヘッダ部を下げたいときはクイックアップトリガーを握りながらマルチステアリングレバーを下げ操作します。

ただし、ヘッダ部の下限ストッパが作用する高さ以下には下がりません。

クイックアップトリガーの操作をやめると約１秒後に元の刈高さポジションに戻ります。

取扱いのポイント

- **クイックアップトリガー操作中に元の刈高さポジションコントロール位置より高くした場合には元の高さに戻りません。**
- **再度ポジションコントロール状態にしたいときには，マルチステアリングレバーを《下げ》操作してください。**

3．手動での作業のしかた

刈高調整ダイヤル《**切**》位置にすると，刈高さポジションコントロールは作動しません。

マルチステアリングレバー操作によって，ヘッダ部の高さを任意の位置に合わせることができます。

※対地刈高［ディーラーオプション］は対地平行，刈高さ自動キットの取扱説明書を参照してください。

2. 水平自動制御（ジャストマチック）

左右水平

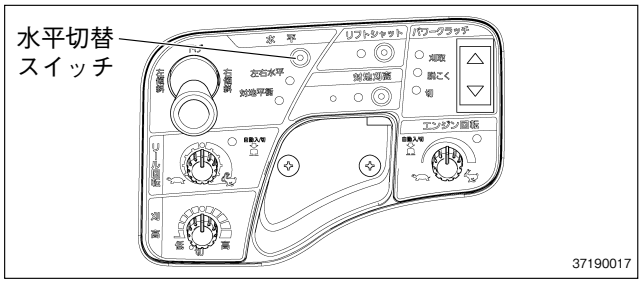
・左右水平は湿田などで機械が傾斜した場合，自動的に機械を水平に修正します。「**水平操作レバー**」で機械全体を持上げることもできます。

・あぜ際や溝のある麦刈作業時および傾斜地での作業では，ほ場条件に合わせ水平操作レバーで一定の角度に傾斜させて作業ができます。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろし，こく粒の排出時は，水平自動スイッチを「切」にし，水平操作レバーで機械を一番下まで下げて行ってください。

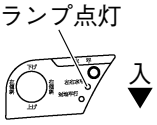
1. 運転装置



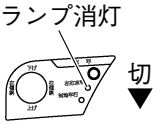
❶ 水平切替スイッチ

水平切替スイッチを押すと「**左右水平**」→「**切**」→「**左右水平**」の順に切替わり，ランプが点灯します。

・「**入**」……押すとランプが点灯し，左右水平が「**入**」の状態であることを表示します。



・「**切**」……「**入**」の状態から再び押すとランプが消え，水平自動制御は作動しません。



取扱いのポイント

●**対地平行ランプは点灯しません。ディーラーオプション装着時のみ点灯します。**

●**左右水平ランプが点灯しても，水平自動が作動しないときは，エンジンを停止してヒューズの点検，配線の接続部の外れがないか点検してください。**

❷ ヒューズ

取扱いかたは，108～110ページを参照します。

❸ 水平操作レバー

取扱いかたは，23ページを参照します。

2. 自動での作業のしかた

❶ 刈取り作業

⑴ パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ《**脱こく**》位置で，水平自動制御が作動します。

⑵ 傾斜角を変えるときは，水平操作レバー「**右傾斜**」「**左傾斜**」を操作し，設定します。傾斜角を保持するように自動制御（傾斜角制御）します。水平操作レバーで機械傾斜角を変えたときは，水平自動ランプは点滅します。

⑶ 傾斜角制御状態から水平制御状態に戻すには水平切替スイッチを入れ直す（入→切→入）か水平手動操作（上下操作）を行うと戻ります。（傾斜角制御のときは「ピッ」，水平制御のときには「ピッ，ピッ」とブザー音がし，切替ったことがわかります）

⑷ パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ《**切**》位置にしたとき機械が左右どちらか低いほうに合わせて，地面に平行になります。

取扱いのポイント

●**水平切替スイッチで左右水平を「入」にしていても水平操作レバーを操作すると，「手動優先」で機械の高さ，傾斜角を変えることができます。**

●**自動制御中，機械の高さを変えたいときは，水平操作レバーを操作してください。**

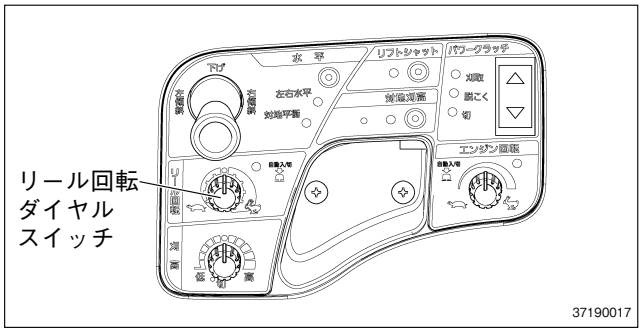
●**機械急旋回中は水平自動制御は作動しません。**

対地平行［ディーラーオプション］

対地平行の取扱いは，対地平行，刈高さ自動キットの取扱説明書を参照してください。

3. リール回転自動制御

リール回転自動は刈取作業速に連動して，リールの回転速度が自動的に変速される制御です。



1. 運転装置

❶ リール回転ダイヤルスイッチ

・リール回転ランプが点灯時にリール回転ダイヤルスイッチを押すと，ランプが消灯し，リール回転自動は作動しません。（手動回転固定リール速度になります）

・再度リール回転ダイヤルスイッチを押すと，ランプが点灯し，リール回転自動が作動状態になります。

❷ ダイヤル

・自動のときは，リール回転速度の連動割合をダイヤルによって調整します。

・手動のときは，リール回転速度を任意の回転に調整します。

❸ ヒューズ

取扱いかたは，108～110ページを参照します。

2. 自動での作業のしかた

❶ 刈取作業

・パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ《**刈取**》位置でリールが回転している状態のときに，作業速度に連動するようにリール回転速度が変速されます。

リール回転速度を変更したいときはダイヤル位置を変更してください。

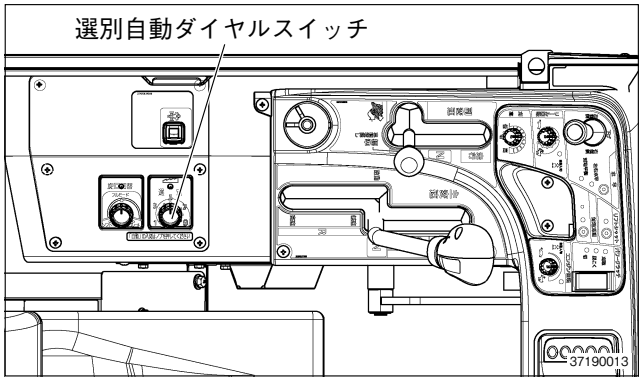
《🐢》……**遅く**

《🐇》……**速く**

4. 選別自動制御

選別自動は，脱こくしたこく粒の量に応じて自動的に揺動板を調整し，刈取り条件に合ったきめ細かい選別となるように自動的に調整します。

1. 運転装置

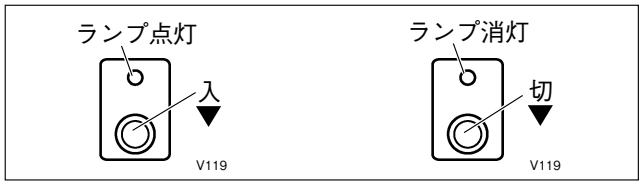


❶ 選別自動ダイヤルスイッチ

スタータスイッチを《**入**》位置にするとランプが点灯し，選別自動が作動状態になります。

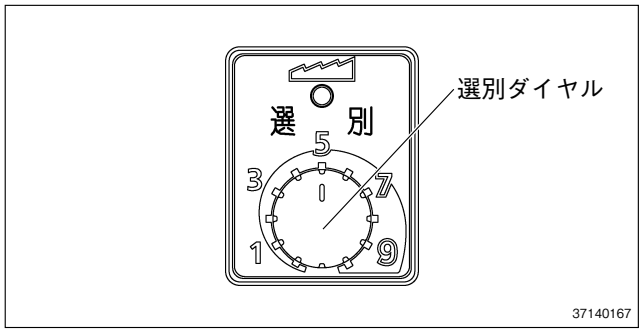
・選別自動スイッチ内ランプが点灯時に選別自動スイッチを押すと，ランプが消灯し，選別自動は作動しません。

・再度，選別自動スイッチを押すと，スイッチ内ランプが点灯し，選別自動が作動状態となります。



❷ 選別ダイヤル

刈取る作物に合わせて，選別ダイヤルをいずれかの位置にセットします。



作業内容		選別ダイヤル
稲刈り作業	通常の刈取り作業	5
	ダイヤル５で選別が悪いとき	ダイヤル５から左に回します。
	青材，高水分材料，高収量材料または，脱こく負荷が大きいとき	ダイヤル５から右にに回します。
麦刈り作業	通常の刈取り作業	3
	ダイヤル３で選別が悪いとき	ダイヤル３から左にに回します。
	高収量材料または，脱こく負荷が大きいとき	ダイヤル３から右にに回します。

取扱いのポイント

- **選別ダイヤルの操作は，脱こく内部のワラクズなどがきれいに排出されるまで，脱こく部を空運転し，ワラクズなどが排出された後に行ってください。**
- **脱こく内部にワラクズなどが溜まっていると，選別自動がセットできない場合があります。**
- **選別自動スイッチ「入」(ランプ点灯）状態で作業すると，刈取り条件に合ったきめ細かい選別制御ができます。**
- **選別自動スイッチ「切」（ランプ消灯）状態で作業するときも，選別ダイヤルを作物に合わせてセットしてください。**
- **選別自動スイッチは「切」（ランプ消灯）の状態でも作業に支障はありませんが，良好な選別状態を得られない場合があります。**
- **選別自動制御は，稲，麦以外は動作しません。**
- **フロートセンサプレートは，稲，麦刈取時以外は「収納」にしてください。(123ページ参照)**
- **以下の場合はダイヤルスイッチを操作しても選別自動ランプは点灯しません。**
  - **・ロータ回転が低速になっている。**
  - **・フロートセンサプレートが「収納」状態になっている。**

❸ ヒューズ

取扱いかたは，108～110ページを参照します。

5. 排出オーガ自動制御

・排出オーガ自動は,自動スイッチの操作により,排出オーガが自動的に収納位置から自動旋回停止位置まで動き,排出位置から収納位置まで動きます。

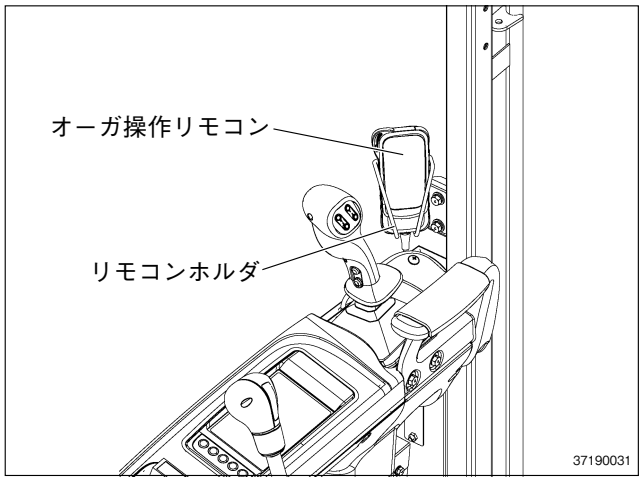
⚠警告 傷害事故防止のために

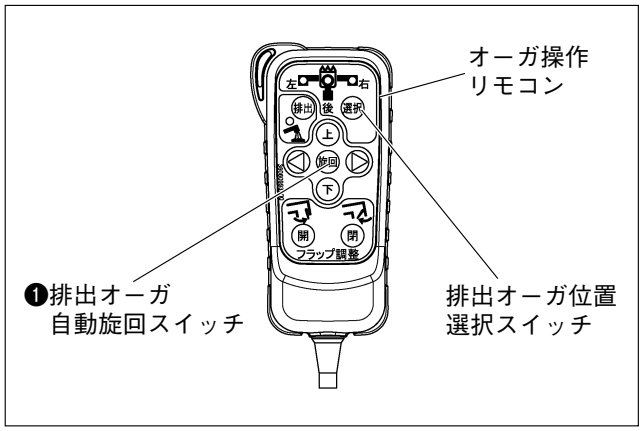
◆傾斜地でのこく粒の排出作業は，行わないでください。
◆こく粒の排出作業をするときは，駐車ブレーキをかけて行ってください。
◆排出オーガ先端部に溜まったこく粒を取除く場合は，こく粒排出スイッチを「切」にして，エンジンを停止してください。
◆旋回範囲近くに障害物がある場合は，自動スイッチを使用しないで，排出オーガ操作スイッチで排出オーガを操作してください。
◆排出オーガ自動旋回中に緊急停止する場合は，リモコン内の何れかのスイッチを押して止めてください。
◆キャビンの窓から頭や手を出して排出オーガの操作をしないでください。
◆走行中に排出オーガを操作しないでください。
◆こく粒排出後の移動は，排出オーガを収納し，排出オーガ固定ワイヤで排出オーガを固定してから行ってください。
◆水平切替スイッチを「切」にして，水平操作レバーで機械を一番下まで下げてから，排出作業をしてください。
◆作業終了後は，オーガ操作リモコンをリモコンホルダへ戻してください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろしをするときは，グレンタンク内のこく粒を排出してください。
◆排出オーガの運転操作は運転席から,周囲の安全をよく確認してから行ってください。
◆排出オーガの作動範囲に，頭や手を近づけないでください。

1. 運転装置

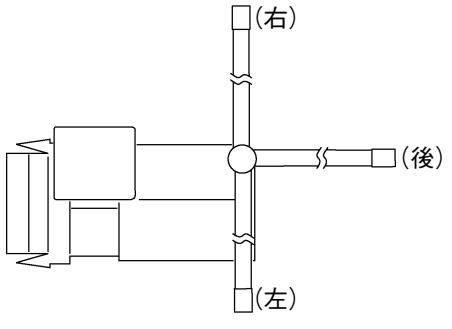




❶ 排出オーガ自動旋回スイッチ

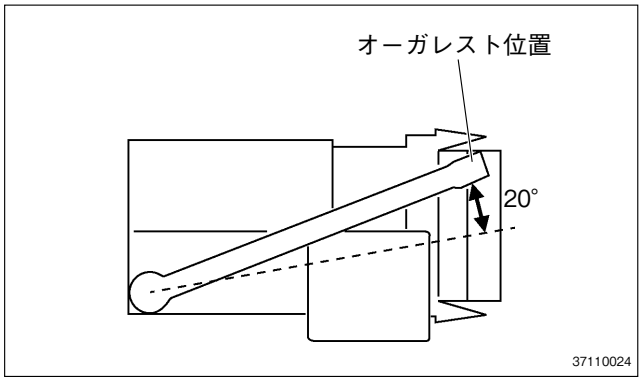
・排出オーガ収納位置で，自動旋回スイッチを押すと，排出オーガが排出位置選択スイッチで設定した排出位置まで，自動旋回します。
・排出オーガ収納位置以外で，自動スイッチを押すと，排出オーガ収納位置へ戻ります。
・排出オーガ自動旋回中，または自動収納途中で旋回停止を行う場合は，再度，自動スイッチを押すと停止します。

[排出オーガ自動旋回停止位置]



取扱いのポイント

●自動収納は，排出オーガが下図の範囲にあると作動できません。



●自動旋回は，排出オーガがオーガレスト位置にあるときにだけ作動します。排出オーガ自動旋回スイッチの操作は，排出オーガの固定ワイヤを外してから行ってください。

●スイッチを「入」にして，ランプが点灯しないときは，エンジンを停止してヒューズの点検・配線接続部の外れがないか確認してください。

●オーガレスト位置が格納のときは，リールが所定高さより上がっていて，しかもヘッダ部も所定高さより上がっていると自動収納できません。リールおよび，ヘッダ部高さのどちらか一方が下がっていることを確認してから再度，自動収納操作を行ってください。

❷ ヒューズ

取扱い方は，108～110ページを参照します。

6．送じん量自動調節

・送じん量は《4》位置で出荷しています。送じん量調節は，ロータカバー内のワラの量に応じて送じんガイドの位置を自動で調整し，ロータカバー内の負荷を軽減する機構です。

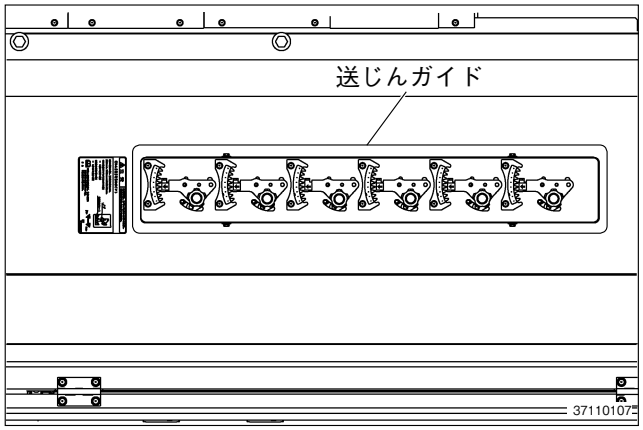
調節のしかた

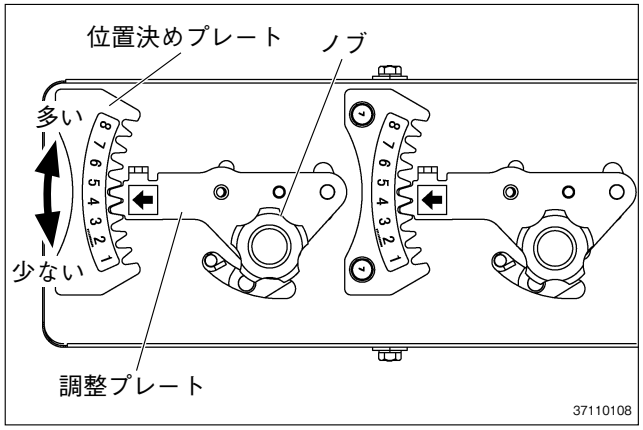
作業状態により，下記の場合は，調整プレート位置を調整します。

・ロータ負荷が高く，能率が悪いとき→《**多い**》方向へ調節します。

・スレッシングロスが多いとき→《**少ない**》方向へ調節します。

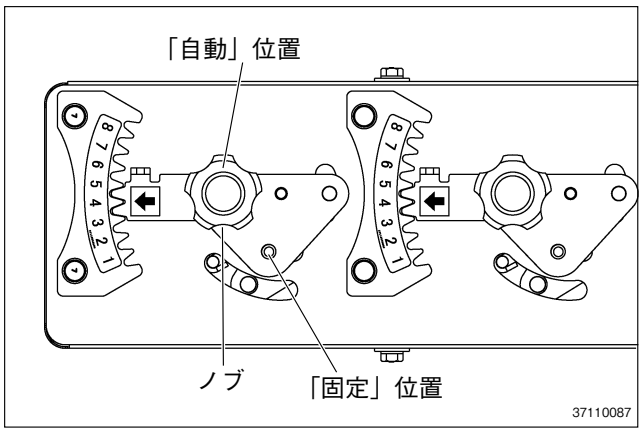
・作物の条件，種類に応じたガイド初期位置の設定範囲については，「**作物別調整表**」（**Aページ**）に基づいてセットしてください。





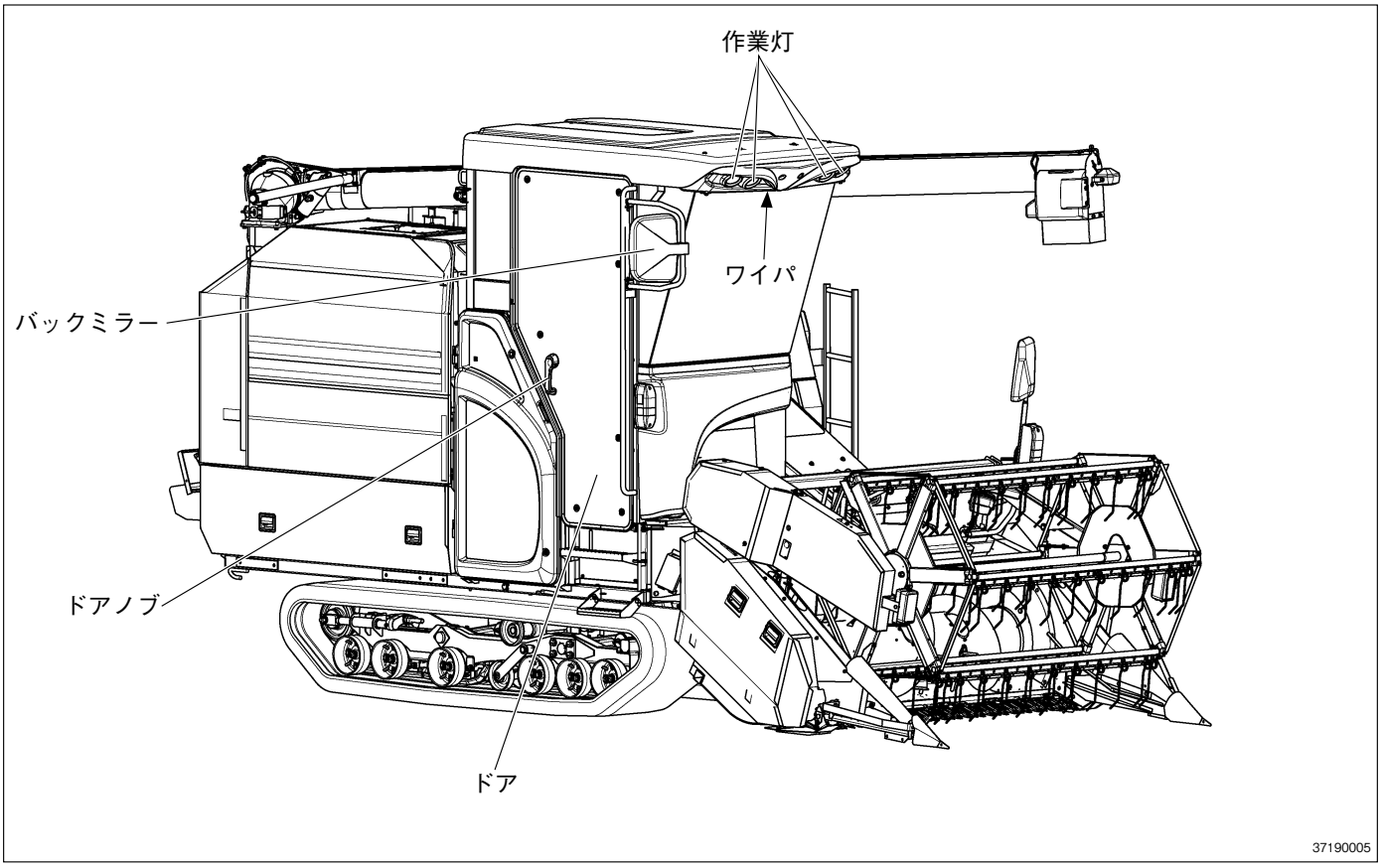
「自動」「固定」の切替のしかた

・ノブボルトの締付け位置を変えることにより，送じんガイドを**「固定」**あるいは**「自動」**に切替えることができます。作業状態に応じて送じん量調節位置の固定ができます。
固定ノブボルトを**「自動」**から**「固定」**位置に取付けてください。



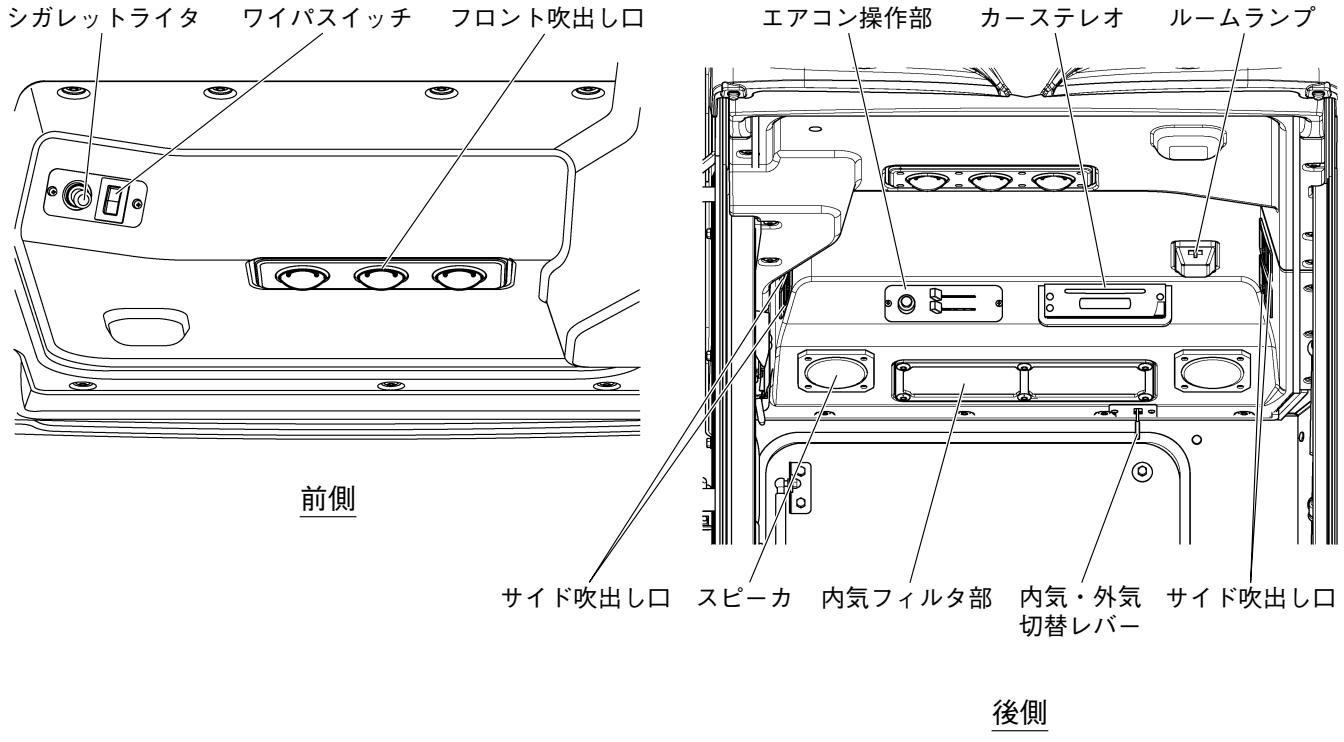
キャビンについて

1．各部の名称



37190005

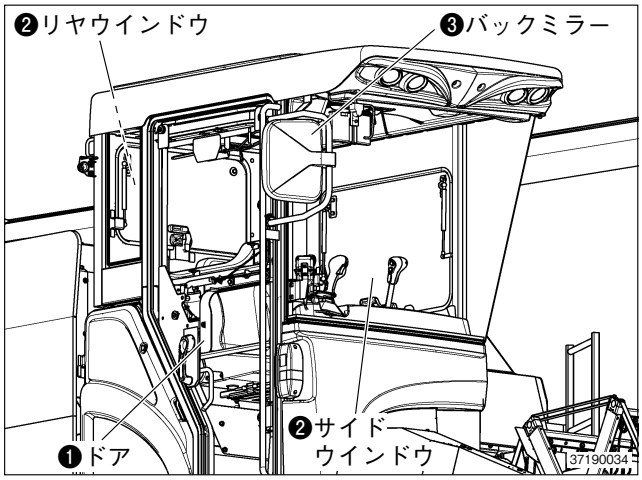
［キャビン内部］



36060087
37190128

2. 各部の取扱い

1. ドア・ウインドウの開閉のしかた



❶ ドア

ドアはスライドドアになっております。開いたときの不意のスライドを防止するために，完全に開いた箇所にもロック機構が設けてあります。以下の取扱いをお読みになってご使用ください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆半ドアの状態で運転すると，急にドアが開いて事故になることがあります。走行前にドアが完全に閉じていることを確認してください。

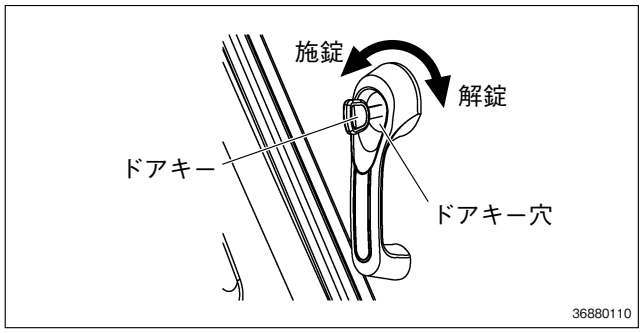
⚠注意 傷害事故防止のために

◆ドアを開いたままで路上走行や作業をしないでください。

◆ドアの開閉時は，周囲に人を近づけないでください。手を挟んだり，ドアにあたってケガをするおそれがあります。

⑴ ドアの施錠・解錠

ドアキーを差込み，左方向に回すと施錠・右方向に回すと解錠になります。



⑵ 車外から開閉のしかた

ドアハンドルのボタンを押すと，ロックが外れます。

ハンドルを握ったままドアが開くまたは閉まる方向へスライドさせてください。

・開けるときはドアを機械後側へいっぱいスライドさせてください。自動的にロックがかかります。

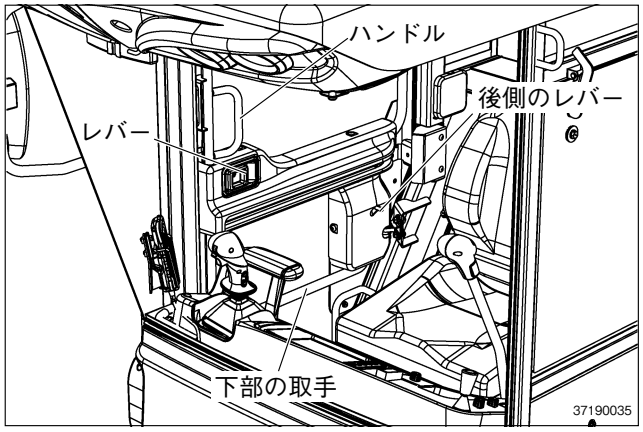
・閉めるときは機械前側へスライドさせ，ハンドルを握ったまま押込んでください。

⑶ 車内から開閉のしかた

内側のドアレバーを引くとロックが外れます。ハンドルを握ってドアが開くまたは閉まる方向へスライドさせてください。ドア後側のレバーでもロックを外すことができます。

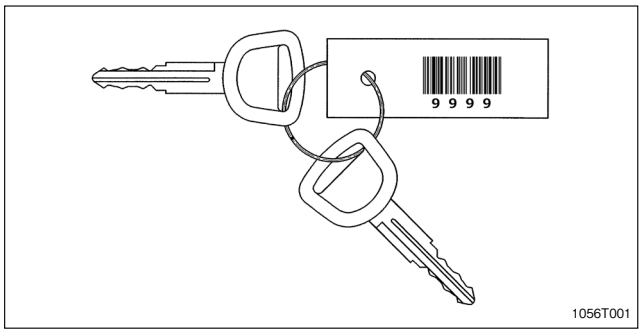
・開けるときはハンドルを握ってドアを機械後側へいっぱいスライドさせてください。自動的にロックがかかります。

・閉めるときはハンドルを握って機械前側にスライドさせてください。閉まりが悪いときは，下部の取手を握って機械内側へしっかり引いてください。



取扱いのポイント

- スライド途中のドアはローラがレールに乗っているだけの不安定な状態にあります。スライドドアはいっぱいに開けるかいっぱいに閉めるかの状態で使用してください。
- グレンタンクの開閉はスライドドアを閉めた状態で行ってください。ガラスが破損するおそれがあります。
- スライドドアの開閉は，グレンタンクが閉まった状態か，または，いっぱいに開いた状態で行ってください。
- キーリングに付属しているキーナンバー票は，キーを紛失した際必要となります。キーナンバーを裏表紙の記入欄に控えておくか，キーナンバー票を大切に保管してください。



❷ サイドウインドウ，リヤウインドウ

ウインドウは跳ね上げ式です。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ウインドウを閉めるときは，手などをはさまないよう注意してください。怠ると傷害事故を引起こすおそれがあります。

◆レバーをロック位置のままウインドウを閉めると，レバーなどの破損のおそれがあります。

◆サイドウインドウを開いたままで路上走行や作業をしないでください。怠るとサイドウインドウの破損などを引起こすおそれがあります。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆サイドウインドウを開閉するときは，刈取部が下がっていることを確認してください。怠るとウインドウの破損，傷害事故を引起こすおそれがあります。

・開けかた

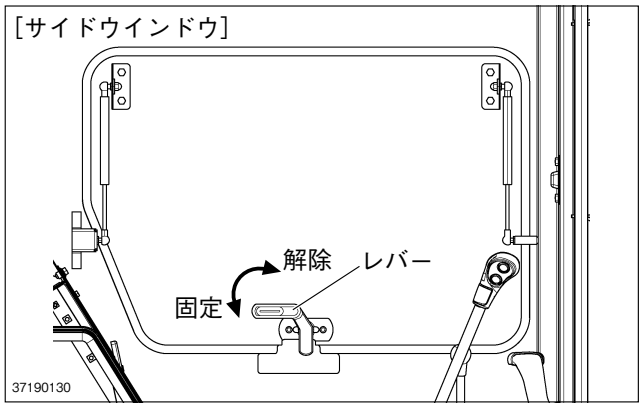
(1) レバーを右に回します。

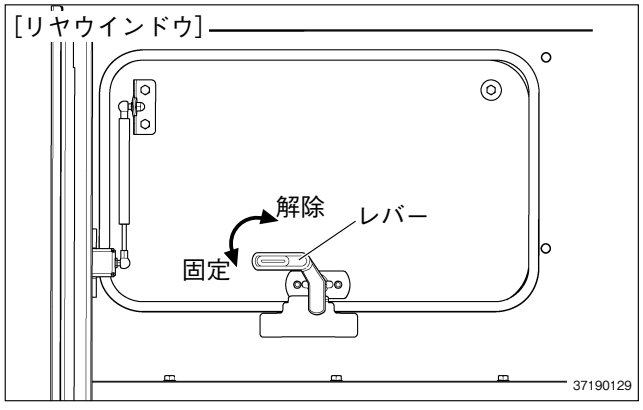
(2) レバーを握ったまま押し出して，サイドウインドウ，リヤウインドウを開けます。

・閉じかた

(1) レバーを手前に引きサイドウインドウ，リヤウインドウを閉じます。

(2) レバー手前に引きながら左に回し，確実に固定します。



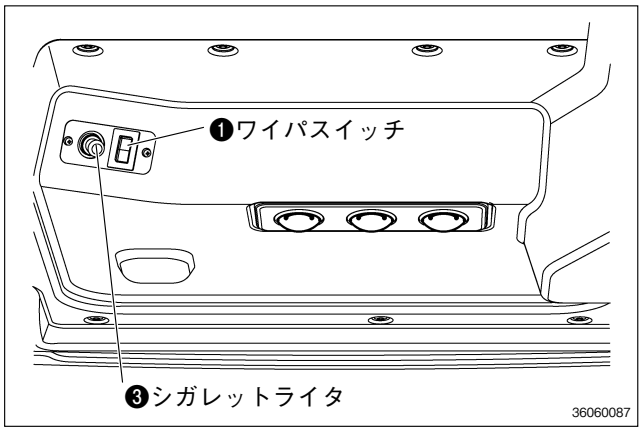


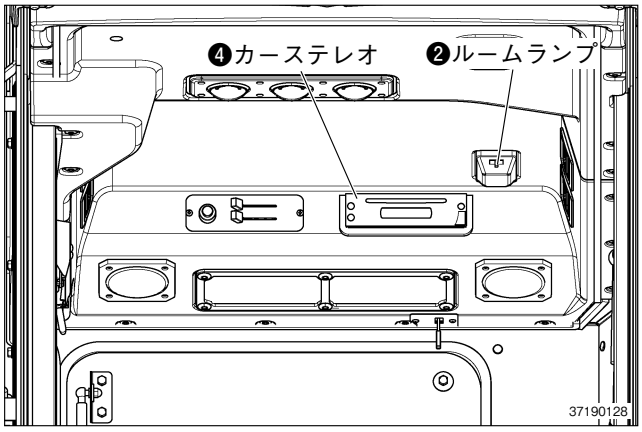
❸ バックミラー

バックミラーは上下，左右に角度調整できますので運転席に座って見やすい位置に調節してください。

狭い所へコンバインを格納する場合には，バックミラーが接触しないように前方へ倒すことができます。

2. スイッチ類の取扱い

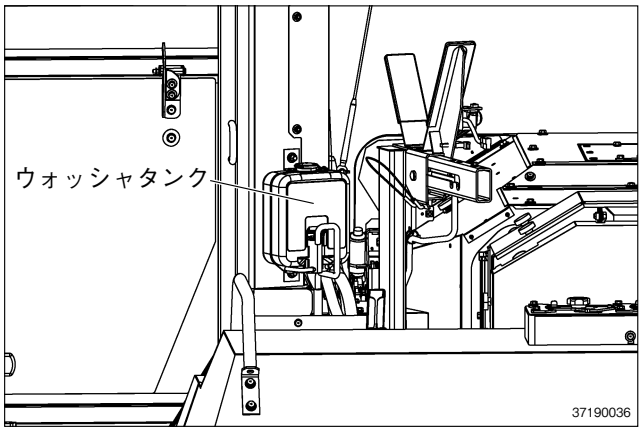




❶ ワイパスイッチ

スタータスイッチを《**入**》にして，ワイパスイッチ上側を押してワイパスイッチを「**入**」にするとワイパが作動し，さらに押すとウォッシャ液が噴出します。

ウォッシャタンクはキャビンの後側にあります。ウォッシャ液がなくなったら市販のウォッシャ液を補充してください。

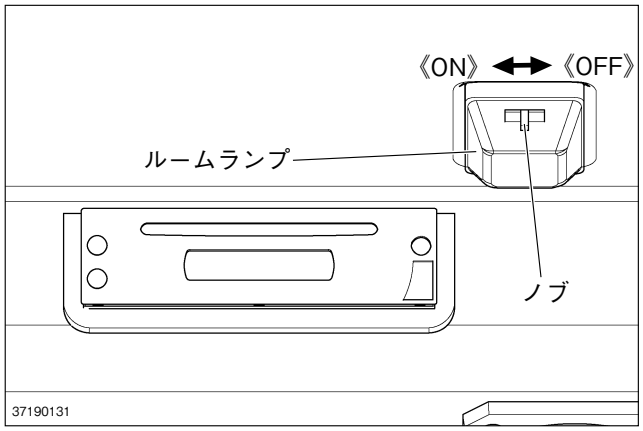


❷ ルームランプ

ノブを《ＯＮ》か《ＯＦＦ》側に合わせてください。

《ＯＮ》……ランプが点灯します。

《ＯＦＦ》……ランプが消灯します。

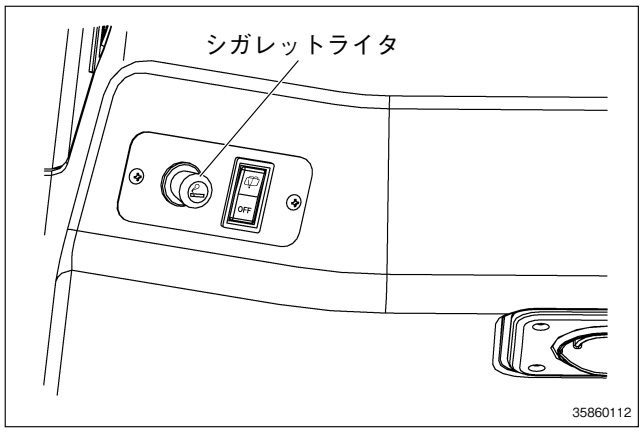


取扱いのポイント

●エンジンを停止して長時間点灯するとバッテリが上がるおそれがあります。

❸ シガレットライタ

スタータスイッチ《ＡＣＣ》または《**入**》状態でノブを押込むと下側金属部が熱くなり，ノブが元の位置に戻ります。その後，引抜いて使用します。



取扱いのポイント

●シガレットライタを取外して，DC12V，7A（84W）以下の消費電力の電気製品に使用できます。

●灰皿は市販品を購入してください。

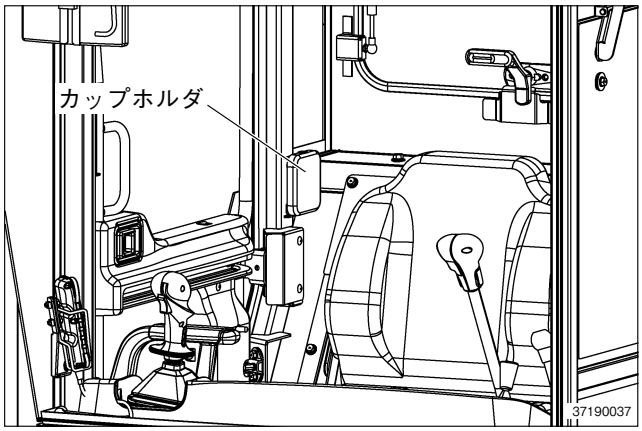
❹ カーステレオ

別添のカーステレオ用の取扱説明書を参照してください。

3. 室内装備の取扱い

❶ カップホルダ

飲料などのカップをホルダに入れて，固定することができます。

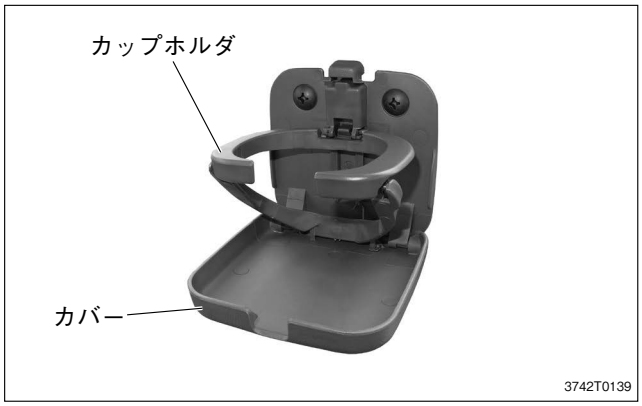


カップホルダは収納式で，ボタンを押すとオープンします。



カップホルダ収納状態

カップホルダを収納するときは，カバーを**「収納状態」**位置まで押上げます。



4. エアコン

⚠警告 傷害事故防止のために

◆万一，エアコンが故障した場合はスイッチをOFFにして点検を受けてください。エアコンの回路内には高圧ガスが充填されていますので，配管部分やコンプレッサ部分をゆるめると，ガスが噴出して危険です。冷媒（ガス）の補充，その他の作業には資格が必要ですので，「お買いあげ先」に相談してください。

◆ウォータホースおよびヒータユニットに直接ふれないようにしてください。火傷などの傷害事故につながります。

◆つぎのような異常を認めたとき，修理を怠ると火傷などの傷害事故やエンジンの焼付などの重大な故障につながります。

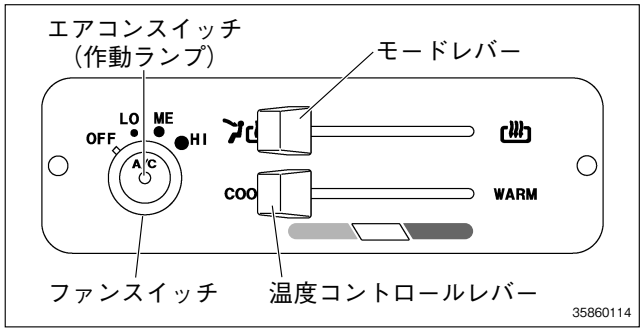
※ウォータホースの傷つき，ひびわれ，ふくらみ。

※ウォータホースジョイント部の水漏れ。

※ウォータホース保護チューブおよび縁ゴムの外れ，破損。

※本体取付ボルトのゆるみ，ブラケットの破損。

❶ 操作部



(1) エアコンスイッチ



このスイッチを押してエアコンを**「入」・「切」**します。エアコン作動時は，中央のランプが点灯します。

⑵ モードレバー

この位置のときフロントベンチレータ・サイドベンチレータ全ての吹出口より風が吹きだします。

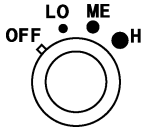
この位置のときフロントベンチレータの吹出口より風が吹きだします。

⑶ 温度コントロールレバー

温度を調節するためのレバーです。好みの位置にセットして適宜調節します。右に寄せると温風，左に寄せると冷風が出ます。

⑷ ファンスイッチ

風量を調節します。



《ＯＦＦ》：ファンが作動しません
《ＬＯ》　：微風
《ＭＥ》　：中間風
《ＨＩ》　：強風

❷ 冷房・除湿暖房

⑴ モードレバーを にします。

⑵ エアコンスイッチを押し「入」にします。

⑶ ファンスイッチ（ＬＯ・ＭＥ・ＨＩ）を作動させます。

⑷ 温度コントロールレバーをＣＯＯＬまたは中間位置に調整し，快適な温度にします。

❸ 暖房

⑴ モードレバーを または にします。

⑵ ファンスイッチ（ＬＯ・ＭＥ・ＨＩ）と温度コントロールレバーを調整し，快適な温度にします。

取扱いのポイント

●ウインドウガラスが曇ると視界を妨げますので，やわらかい布で水気をふき取ってください。

●湿度が高く窓ガラスが曇りやすいときは，温度コントロールレバーを中間位置にし，エアコンスイッチを押して「入」位置にして，除湿を行ってください。

●エアコンは，温度を下げるばかりでなく，湿度も同時に下げることができます。冷やしすぎると健康上良くありませんので少し涼しいと感じる温度（外気温度との差５～６℃）に調節してください。冷風は身体の１箇所に集中して当てるのはさけてください。また，冷風を直接身体に当てて長時間使用しないでください。

●長時間作業するとき，または喫煙するときは，ときどき，室内の換気をしてください。

●冷房し始めたとき，一時的に吹出し口から霧が吹出したように見えることがあります。これは湿った空気が急に冷やされて発生したもので異常ではありません。

●連続10分以上本機を前傾して冷房を使用すると，冷気吹出し口より水滴が飛散することがあります。このような運転はさけてください。

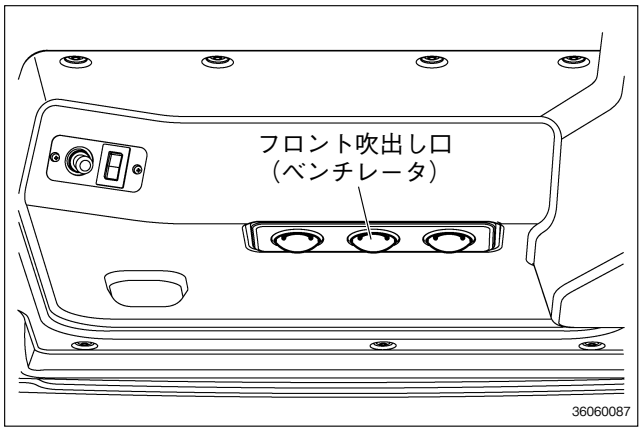
●エンジン冷却水の水温が低いときに高温側にしても温風は出ません。

●外気温に適した濃度の不凍液を使用してください。
また，有効期限の切れた不凍液を使用しないでください。

●エアコンスイッチ，送風量調節スイッチは，「切」の位置にしてから格納します。

●エアコンは，シーズンオフでも１ケ月に１回，10～15分間運転してください。
エンジンは低回転にした状態で温度調整レバーは「冷」の位置，送風量調節スイッチは「弱」の位置で，エアコンスイッチを「入」にします。運転することにより冷媒ガスの漏れを防ぎ，エアコンを常時最良の状態に保つことができます。

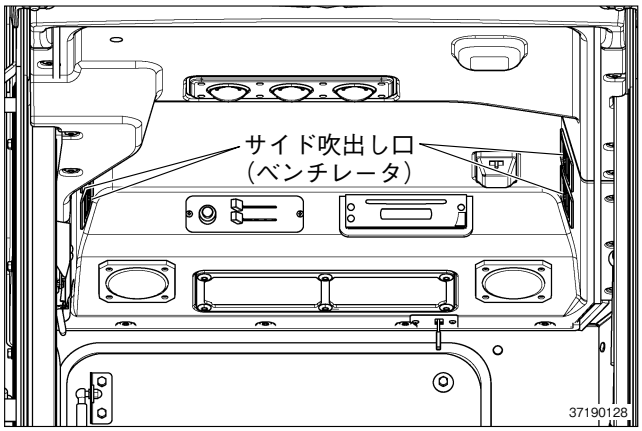
❹ フロント吹出し口（ベンチレータ）



⑴ 風の方向位置のときフロントベンチレータの吹出口より風が吹きだします。

⑵ サイド吹出し口（ベンチレータ）からの風量を増したいときは，[閉] にしてください。

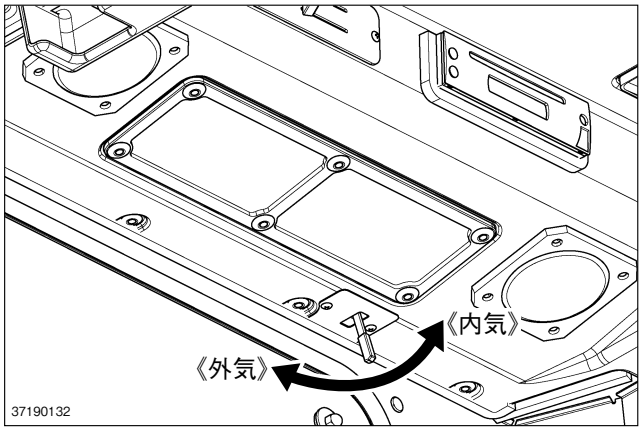
❺ サイド吹出し口（ベンチレータ）

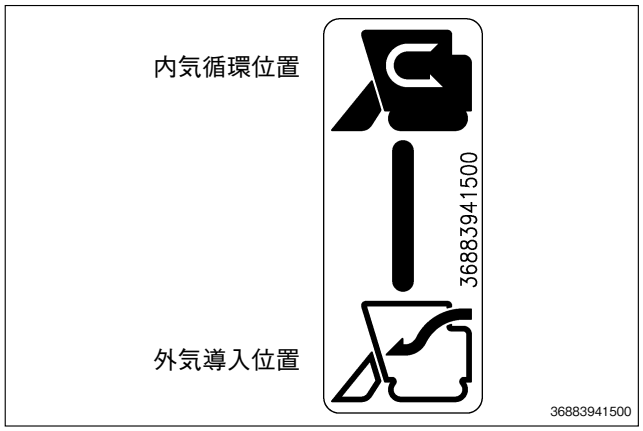


⑴ 調整つまみで任意の方向に向けてください。

❻ 内気・外気切替レバー

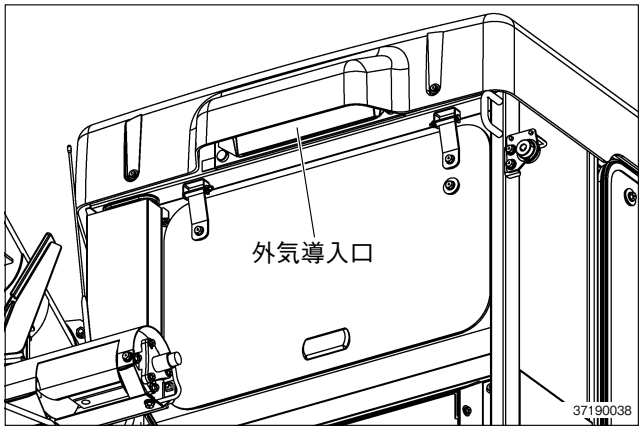
キャビン室内の空気の状態を切替えるレバーです。





内気循環位置……内気のみの循環を行います。早く冷暖房を効かせたいときや強く効かせたい場合に使用します。

外気導入位置……外気を取入れます。ほこりが多い作業やガラスが曇る場合に使用します。



取扱いのポイント

- **洗車を行うときに，外気導入口に水をかけないでください。故障の原因になります。**
- **内気循環での長時間暖房は避けてください。ガラスが曇りやすくなります。**
- **ほこりが多発する作業では，外気導入で使用してください。外気を採り入れることにより室内の圧力が上昇し，キャビン室内にほこりが入りにくくなります。**

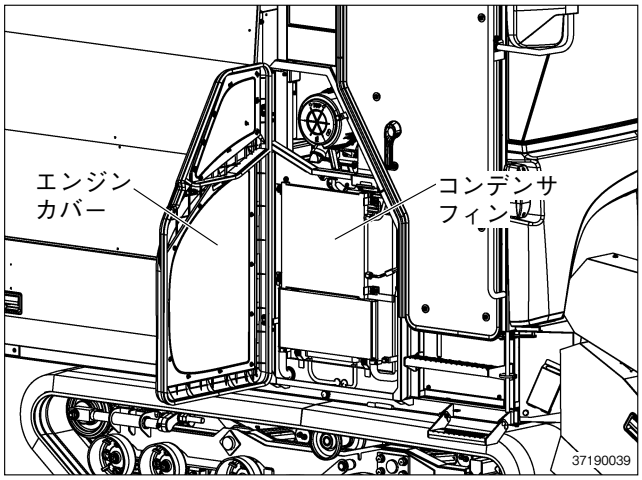
❼ コンデンサフィンの掃除

⚠警告 傷害事故防止のために

◆スチーム洗浄はしないでください。冷媒の圧力が上昇して破裂のおそれがあります。

⑴ エンジンカバーを開きます。

⑵ コンデンサフィンの表面にほこりやごみ，異物が付着して汚れているとクーラの冷えが悪くなります。(掃除については103ページを参照します。)



5. 格納のしかた

❶ クーラ・ワイパ・ルームランプ・作業灯などの電装品のスイッチは，「OFF」または「切」位置にしてから格納します。

❷ コンプレッサ各部のオイルが切れないようにするため，1カ月に1度ぐらい低速回転で15～20分間運転します。クーラダイヤル，ファンダイヤルを低めに設定してコンプレッサを運転します。

手入れのしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆点検・整備・掃除するときは平坦な場所に機械を置いて,駐車ブレーキをかけエンジンを停止して各部の回転が止まってから行ってください。

◆屋内でのエンジン始動は窓や戸を開けて換気をしてください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆取外したカバー類は全て取付けてからエンジンを始動してください。

●機械または部品などを破棄するときは,「お買いあげ先」にご相談ください。

●使用済み廃棄物の処分について
廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。

廃棄物を処理するときは

◆機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。

◆地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。

◆廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，または焼却するときは,「お買いあげ先」,または産業廃棄物処理業者などに相談して，所定の規則に従って処理してください。

1．定期点検整備

・正常な機能を発揮し，いつでも安全な状態であるように「**定期点検整備表**」に従って，定期的に点検し，必要により掃除・調整・整備を行います。

◆使用者が行ってはいけない修理
下記部位に異常があるときは,「お買いあげ先」に必ず連絡して修理を依頼してください。

●エンジン本体　●トランスミッション　●ギヤ（ベベルギヤを含む）を内蔵したケース類
●油圧系統（HST含む）　●電気部品と電気系統　●燃料系統

取扱いのポイント

●分解・交換などを自ら行うと機械のトラブルの原因となります。また，メーカ保証の対象外となりますのでご注意ください。

「定期点検整備表」（点検・補給・掃除・調整・グリスアップ○，交換●）

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備時間（アワメータ表示時間）															格納時	備考	参照ページ
			シーズン前	始業前	25	50	100	150	250 (200)	350 (300)	450 (400)	500 (550)	600 (650)	700 (750)	800 (850)	900 (950)	1000 (1050)			
エンジン部	エンジンオイル	点検・補給・交換	○	○		●			●		●		●(650)		●(850)		●(1050)		初回50Hr以降200Hr毎か１年の早い方で交換	91～92
	エンジンオイルフィルタ	交換				●			●		●		●(650)		●(850)		●(1050)		エンジンオイルの交換と同時に交換	☆92
	ラジエータ（冷却水）	点検・補給・交換		○														●		93～94
	エアクリーナエレメント（プライマリエレメント）	点検・掃除・交換	○							●(300)			●(600)						掃除は50Hr毎	104
	エアクリーナエレメント（セカンダリエレメント）	交換								●(300)			●(600)						エアブロー不可 交換時以外の取外し不可	104
	燃料フィルタ	交換									●(400)				●					☆106～107
	燃料セジメンタ	点検・掃除	○	○		○					○(400)									☆106～107
	燃料セジメンタ内フィルタ	掃除・交換	○			○			●(200)		●(400)		●		●		●			☆106～107
	エンジンファンベルト（オルタネータ）	点検・調整・交換	○									●					●			☆148
	エンジンファンベルト	点検・調整・交換	○									●					●			☆148
	燃料ホース	点検・交換	○	○（50時間毎）　●（２年毎）															燃料漏れ点検	☆134～136
	エアクリーナホース	点検・掃除	○						○(200)		○(400)		○		○		○		損傷の場合交換	☆134～136
	ホースバンド	点検	○																漏れ,ゆるみ点検 漏れ,ゆるみ,損傷の場合交換	☆134～136
	ホース類（エンジン補器）	点検・交換	○	●（300時間毎または２年毎で早い方）																☆134～136
	逆転ファンワイヤ	点検・交換	○								●					●				☆ー
	断熱材（エキゾーストパイプ部，DPF・マフラカバー部）	点検・掃除・交換	○	○	●（300時間毎または３年毎で早い方）														損傷の場合交換	☆158
	DPF差圧センサホース・パイプ	点検・交換	○１年毎　●２年毎																	☆
	ブーストセンサホース	交換	２年毎																	☆
	EXマニホルド	点検	１年毎																	☆
	EXマニホルド取付ボルト	点検・交換	１年毎																	☆
	オイルセパレータラバーホース	交換	２年毎																	☆
	EGRクーラホース	交換	２年毎																	☆
	EGRシステム配管	点検	１年毎																	☆

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備時間（アワメータ表示時間）															格納時	備考	参照ページ
			シーズン前	始業前	25	50	100	150 (200)	250 (300)	350	450 (400)	500 (550)	600 (650)	700 (750)	800 (850)	900 (950)	1000 (1050)			
電装関係	バッテリ液	点検	○																インジケータの色確認	111〜114
	電気配線（配線・接続部のゆるみ，損傷）	点検・修理	○	○															損傷の場合交換	☆111
	計器，スイッチ類	点検・修理	○	○																☆6〜18
走行・運転操作部	油圧作動油（オイルタンク）	点検・補給・交換	○				●			●			●			●				☆96〜97
	油圧ホース	点検・交換	○	●（300時間または２年毎で早い方）															油漏れ点検	☆135
	油圧オイルフィルタ	交換					●			●			●			●				☆96〜97
	HSTオイルフィルタ	交換					●			●			●			●				☆96〜97
	ブレーキシュー	交換	●（400時間または２年毎で早い方）																	☆ー
	駐車ブレーキ	点検・調整	○																	☆141
	トランスミッションケースオイル	点検・補給・交換	○				●			●			●			●				☆95
	走行ベルト	点検・調整・交換	○	○		○		○	○	●	○	○	●	○	○	●				☆147
	走行クラッチペダル	点検・調整	○	○		○		○	○	○	○	○ (550)	○ (650)	○ (750)	○ (850)	○ (950)	○ (1050)			☆141
	クローラ	点検・調整	○	○																☆155
	水平制御リフトアーム軸受部	グリスアップ	○															○		☆100
	ローラ・アイドラ・転輪	点検・グリスアップ	○	○（グリスアップは5ha作業毎，および格納時に行います。湿田作業をした場合は1日作業後に行います。）																☆100
キャビン	コンプレッサベルト	点検・調整・交換	○							●				●			● (1050)			☆147
	クーラコンデンサ	点検・掃除	○	○														○		103
	ウィンドウォッシャ液	点検・調整・抜取り	○	○																99
	エアコンガス	点検	３ヶ月に１回以上※2																	☆ー
	エアコン内気・外気フィルタ	点検・掃除	使用時間：30時間ごと																	105
	ウォータホース	点検・交換	●（300時間または２年毎で早い方）																	135〜136
	ホースバンド	点検	○																漏れ，ゆるみ点検 漏れ，ゆるみ，損傷の場合交換	☆135〜136
	エアコン簡易点検	点検	３ヶ月毎																	135〜136
	エアコン配管・ホース	点検	３ヶ月毎																	135〜136
ヘッダ部	ヘッダ駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●		○		●			●		1000は1050時間	☆142
	フィーダチェン	点検・調整・交換	○	○	○		○	○ (200)	○ (300)	●	○ (400)	○	○	●	○	○	●		100時間毎点検	☆102
	リール変速入力チェン	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			●			☆143
	リール駆動カウンタチェン	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			●			☆101
	リール駆動チェン	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			●			☆144
	リール変速ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			☆149
	刈刃の調節	点検・調整・交換	○	○	○				●			●		● (750)			●			☆136
	刈刃駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)		1000は1050時間	☆150
	刈刃駆動ケースオイル	点検・交換	○							●				●			● (1050)			☆98
	プラットホームオーガ駆動チェン	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			●			☆143
	ヘッダ駆動チェン	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			●			☆144
	フィーダハウス回動支点軸受	グリスアップ	○	○			○	○ (200)	○ (300)		○ (400)	○	○	○	○	○	○			100
	フィーダハウススラット	点検・交換										○					○		変形したら	☆ー
脱こく部	ツース	点検・交換	○						○			○		○ (750)			○		先端5㎜摩耗で交換※1	☆ー
	受網	点検・交換	○						○			○		○ (750)			○		受網線径1/2摩耗で交換※1	☆ー
	排じん羽根	点検・交換	○						○			○		○ (750)			○		先端5㎜摩耗で交換※1	☆ー
	ロータギヤケースオイル	点検・交換	○			●			●			●		● (750)			●			☆98
	作業機カウンタベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●		○		●			●			☆142
	脱こく駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			☆150
	脱こくカウンタベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			☆150
	ロータ駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			☆151
	トウミ駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			☆151
	セレクションファンベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			☆152
	選別ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			☆152
	１番ラセン駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			☆152
	１番上方横ラセン駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			☆151
	１番バケットコンベアチェン	点検・交換	○	○		○	○	○ (200)	○ (300)	●	○	○	○	●	○	○	● (1050)			☆146
	１番バケット	点検・交換	○	○					●			●		● (750)			●			☆131
	２番スラットコンベアチェン	点検・交換	○	○			○	○ (200)	○ (300)	●	○	○ (550)	○ (650)	●	○	○	● (1050)			☆146
	２番スラット	点検・交換	○	○					●			●		● (750)			●			☆131
	ロータ軸受	グリスアップ	○				○	○ (200)	○ (300)		○ (400)	○	○	○	○	○	○			101
グレン部	グレン入力ギヤケース	点検・補給	○																	99
	グレンタンク横ラセン駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			☆153
	グレン入力ベルト	点検・調整・交換	○	○		○				●				●			● (1050)			☆153
	オーガ旋回部	グリスアップ	○				○	○ (200)	○ (300)		○ (400)	○	○	○	○	○	○			101
ワラ処理部	スプレッダ駆動ベルト	点検・調整・交換	○	○						●				●			● (1050)			☆154
	回転刃，固定刃	点検・交換	○					● (200)			● (400)		●		●		●			☆140
	スプレッダ回転軸受	グリスアップ	○				○	○ (200)	○ (300)		○ (400)	○	○	○	○	○	○			101

参照ページに☆印のある整備項目の交換・修理については「**お買いあげ先**」で行ってください。

※1　摩耗進行の度合いは収穫作物により異なります。

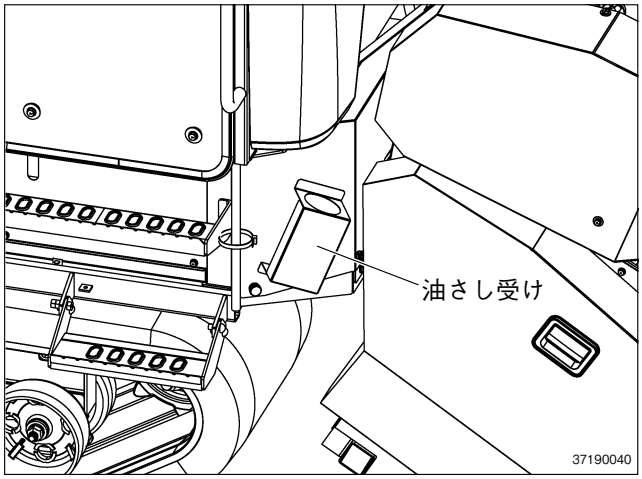
※2　フロン排出抑制法の第一種特定製品を使用しており，簡易点検が義務付けられており記録を残す必要があります。

2. 給油・注油・給水のしかた

・オイルの点検・交換は,「**運転まえの点検表**」(34～35ページ) および「**定期点検整備表**」(86～87ページ) に従って行います。
・オイルの点検・交換は，機械を平坦な場所に駐車して行います。

取扱いのポイント

- **各給油箇所には，指定オイルを規定量給油してください。**
- **廃油など汚れたオイルを使用すると，故障の原因となりますので使用しないでください。**
- **コンバイン運転席に油さし受けがついていますので，いつでも注油できるように，オイルを入れた油差しを常備してください。**
- **トラックなどでの輸送時には，油さし受けにスプレーや油さしを入れないでください。**
- **交換したオイルを廃却するときは,「お買いあげ先」または産業廃棄物処理業者などに相談して，所定の規則に従って処理してください。**



⚠危険 火傷や火災防止のために

◆燃料補給時は，火気を近づけないでください。
◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは，給油・注油しないでください。
◆損傷や劣化した燃料ホースは，交換してください。燃料漏れがあると，火災の原因となります。
◆こぼれた燃料は，きれいにふき取ってください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆給油・注油・点検するときは，機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから行ってください。
◆回転部・摺動部から異音が発生するときは，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから注油してください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆エンジンカバーを開いて点検などを行った後は，エンジンカバーを閉じてください。
◆使用オイルの詳細は「潤滑油について」を参照してください。
◆刈刃，チェンなどに注油する際は，指定の潤滑油を使用してください。

「給油・注油・給水表」

No.	箇所	種類	分類		容量(L)	備考
			API サービス分類	API 粘度番号		
①	燃料タンク	ディーゼル軽油	−	−	60	低硫黄ディーゼル軽油（S10） JIS２号（−7.5℃まで） JIS３号（−20℃まで）
②	エンジンクランクケース	ディーゼルエンジンオイル	DH-2または CJ-4	10W−30	11.2	
③	ラジエータ（補助タンク1.0Ｌ含む）	冷却水(不凍液40～45%含む)	−	−	10.4	北海道は,不凍液割合45～50%
④	トランスミッションケース	ギヤオイル	GL-5以上	90	18.5	
⑤	油圧オイルタンク	油圧作動油	VG32～100		19	
⑥	刈刃駆動ケース	ギヤオイル	GL-5以上	90	0.7	
⑦	ロータギヤケース	ギヤオイル	GL-5以上	90	2.2	
⑧	グレン入力ギヤケース	ギヤオイル	GL-5以上	90	0.53	
⑨	ウォッシャタンク	ウォッシャ液	−	−	1.0	ウォッシャ液0.35Ｌ，水0.65Ｌ
⑩	エアコンガス	R−134a	−	−	1000g	
⑪	刈刃	食品機械用潤滑油	−	−	−	NX127
⑫	フィーダチェン					
⑬	1番バケットコンベアチェン 2番スラットコンベアチェン					
⑭	水平リンク	グリース	−	−	−	
⑮	チョッパ軸					
⑯	ローター軸					
⑰	ヘッダ回転支点					
⑱	走行HSTトラニオン軸					

指定オイル

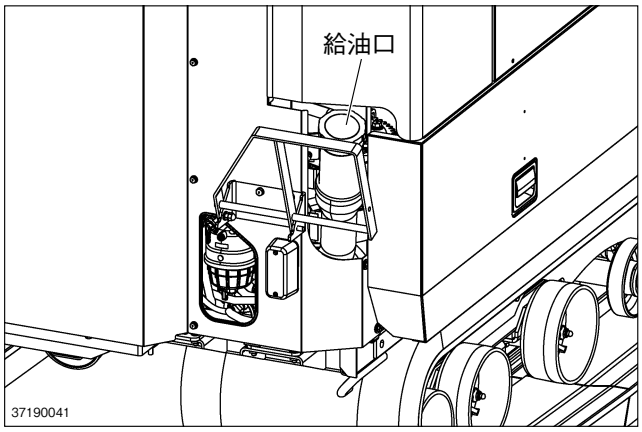
- **ディーゼルエンジンオイル…… 純正油 または，使用オイル表（176ページ）の指定オイル**
- **油圧作動油…… 純正油 または，使用オイル表（176ページ）の指定オイル**
- **ギヤオイル…… 純正油 または，使用オイル表（176ページ）の指定オイル**
- **エアコンガス……フロン排出抑制法の第一種特定製品に指定されています。**

取扱いのポイント

●燃料タンク以外は，工場出荷時の容量です。
交換時は，残油量がありますので，レベルゲージまたは検油栓により，容量を確認してください。
但し，レベルゲージまたは検油栓のない箇所は，全量交換してください。排油栓のない箇所は補充してください。

●使用オイルの詳細は，潤滑油についての項（176ページ）を参照してください。

1．燃料の補給



・給油口のキャップを外して，補給します。

・燃料は，**「ディーゼル軽油」**を使用してください。ディーゼル軽油には下表の種類があり，地域・季節により流通している種類が異なります。地域・季節に見合ったものを使用してください。

種　類	ディーゼル軽油の流動点（℃）
特１号	＋５以下
１号	－２．５以下
２号	－７．５以下
３号	－２０以下
特３号	－３０以下

（JIS規格より抜粋）

・未使用の菜種油や，使用済みの調理油などを原料としたバイオディーゼル燃料（BDF），およびその混合油の使用は止めてください。

・タンク容量……60Ｌ

取扱いのポイント

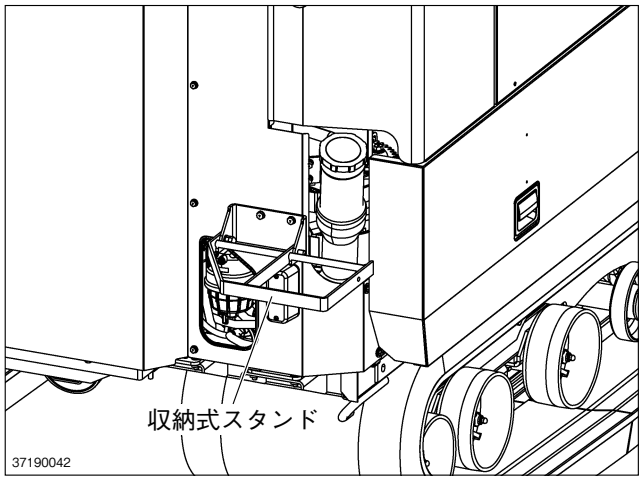
●燃料は必ず低硫黄ディーゼル軽油（S10）を使用してください。（低硫黄ディーゼル軽油以外の軽油やバイオ燃料を使用した場合，エンジンや排ガス後処理装置などに悪影響を与え，故障の原因となります。また，排ガス浄化基準に適合しなくなるおそれがあります。）

●本エンジンの燃料噴射装置などは精密な部品で構成されています。これらの部品の作動不良を防ぐため，ドラム缶やホームタンクなどから燃料を補給される場合，砂や水などの異物が混入しないよう十分注意してください。
また，燃料補給時はこし網を外さないでください。

●燃料キャップの空気穴が土やごみでふさがれていないか点検してください。

●燃料切れでエンジンが停止すると再始動時にエンジン各部に高温状態が生じ，エンジンの早期破損につながるおそれがありますので，燃料切れにならないように注意してください。

●給油口近くに備付けてある収納式スタンドを手前に引いて，その上に燃料の入った缶，ポリタンクを置いて給油します。



●流動点付近以下の温度になると軽油が凍結し，エンジンの始動が困難になったり，停止したりすることがあります。

●燃料フィルタの掃除や交換時は，燃料のエア抜きを行ってください。（106～107ページ参照）

［燃料満量のお知らせ機能の使いかた］

●燃料計が約半分以下になったときに給油する際あふれ出ることを防ぐ機能です。

・スタータキーを《**入**》位置にし，給油をします。燃料が満量近くになると，ホーン断続音「**ピッピッ**」が吹鳴し，満量が近いことをお知らせします。（ホーン断続音の後も完全に満量までは若干の余裕があります）

取扱いのポイント

●お知らせ機能はスタータスイッチ《入》位置が条件になります。また，エンジンがかかっているときは，お知らせ機能は働きません。

●給油開始時，燃料が半分以下であることが条件になります。

●給油中にスタータスイッチを《切》にしないでください。

●燃料計の反応は遅いため，断続音の時点で「F」を指していない場合がありますが，やや時間をおいて確認してください。「F」位置に達します。

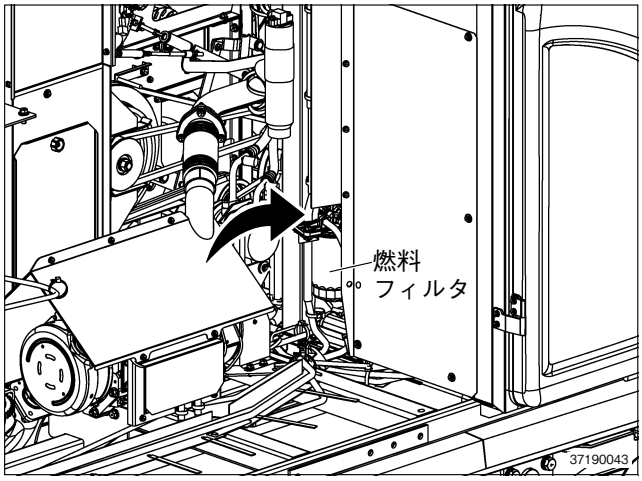
●バッテリ上がりを防ぐため，給油後はすみやかにスタータスイッチを《切》にしてください。

2．エンジンオイル･オイルフィルタの点検･交換

オイルフィルタの交換は，「**お買いあげ先**」に依頼してください。

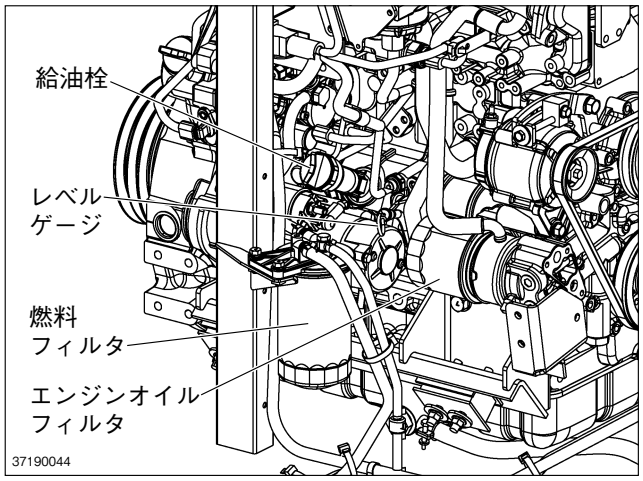
❶ エンジンオイルの点検

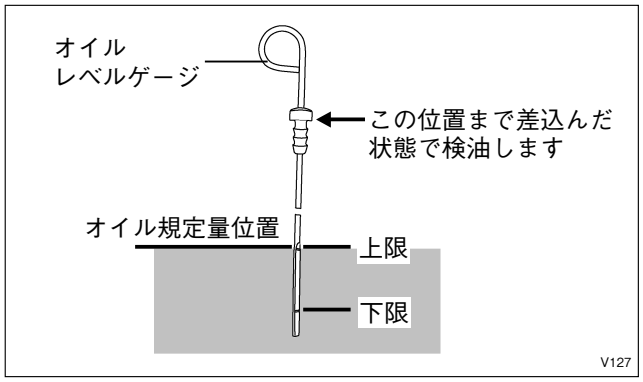
(1) グレンタンクを回動します。（127～128ページ参照）



(2) レベルゲージを抜いて，先端をきれいにふき取ります。もう一度いっぱいに差込んでから抜出し，ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは，オイルを給油口より規定レベル位置まで入れます。さらに，油漏れのないことも確認します。

(3) 作業後，グレンタンクを閉じます。（127～128ページ参照）





取扱いのポイント

●オイルの量は，エンジンが冷えているときに確認してください。

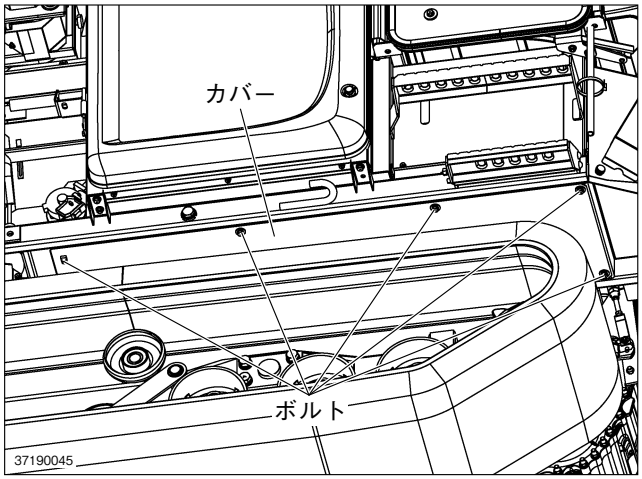
●給油口からワラクズなどが入らないよう，事前に周囲を掃除してください。

●排油栓，給油栓，レベルゲージは確実にセットされていることを確認してください。

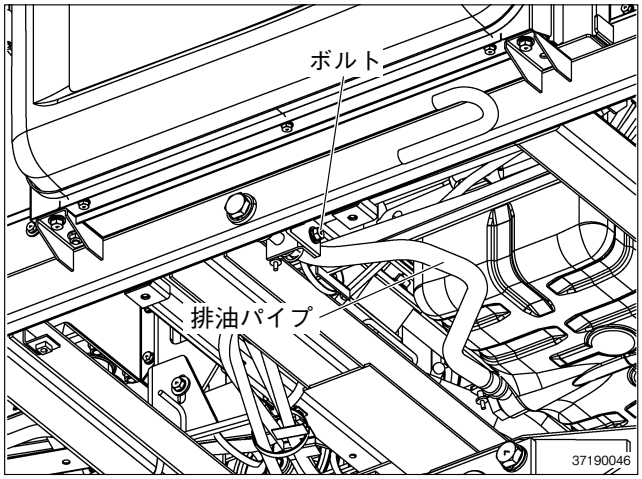
❷ エンジンオイルの交換

⑴ エンジンの排油栓をゆるめます。

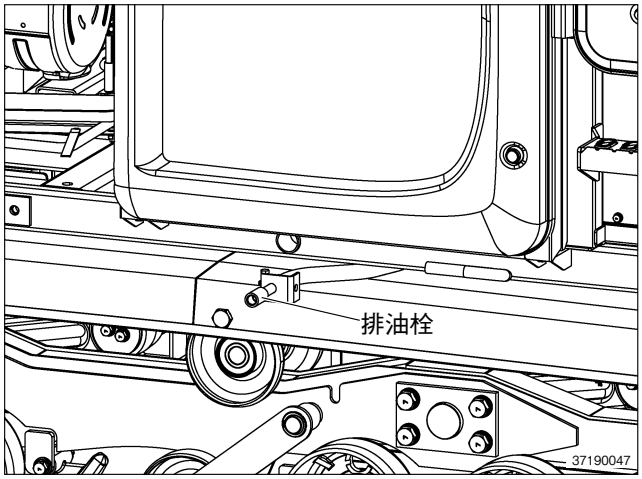
⑵ カバー取付ボルトを外しカバーを取外します。



⑶ 排油栓取付ボルトを外し，排油パイプを取外します。



⑷ 排油栓を取外し，オイルを抜きます。その際，オイルは適切な容器で受けてください。



取扱いのポイント

- **オイルを抜くときは，オイルがこぼれないようになるべく開口部の大きなオイル受けを使用してください。**
- **低温時はオイルが抜けにくい場合がありますので，あらかじめエンジンを暖機運転してから行ってください。**

⑸ オイルを抜き終わったら排油栓を締め，取外しと逆の手順で組付けます。新しい「**純正エンジンオイル**」をレベルゲージの刻み線（上限）まで給油します。

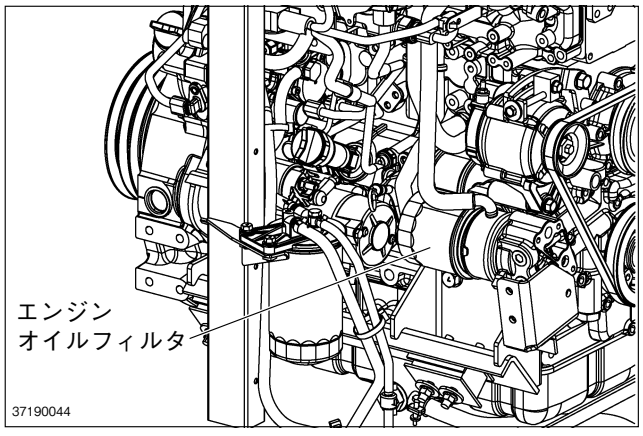
・ディーゼルエンジン用オイル
純正油 または，使用オイル表（176ページ）の指定オイル
・オイル量……11.2 L

⑹ 交換後，エンジンを始動して，オイルランプが消えるまで低回転で運転します。（9ページ参照）

❸ エンジンオイルフィルタの交換

オイルフィルタの交換は，「**お買いあげ先**」に依頼してください。

グレンタンクを回動し，エンジンカバー(後)を外した位置にあります。



⑴ オイルフィルタは，「**カートリッジタイプ**」を使用しています。

⑵ オイルフィルタを交換したときは，オイル量が多く入るので，レベルゲージでオイル量を確認し，不足のときは，規定レベル上限までオイルを補給します。

3．ラジエータ冷却水の点検・交換

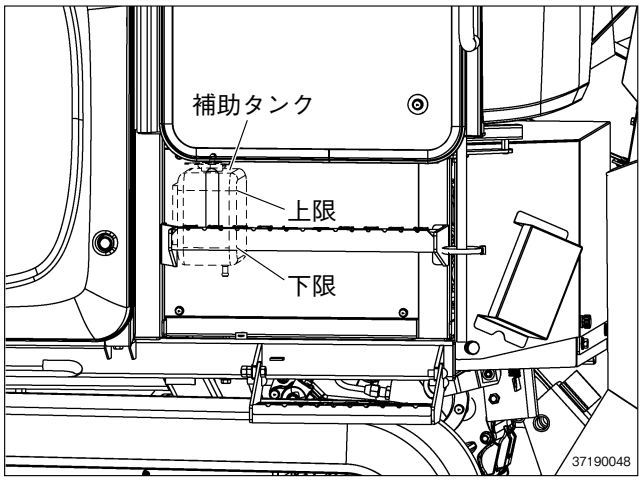
⚠警告 火傷防止のために

◆運転中およびエンジン停止直後は，ラジエータキャップを開けないでください。熱湯が吹き出し「火傷」をすることがあります。冷えてからゆっくり開けてください。

ラジエータの取扱いを誤ると，エンジンの寿命に大きく影響を与えます。ラジエータの点検は，カバーを開けて行います。

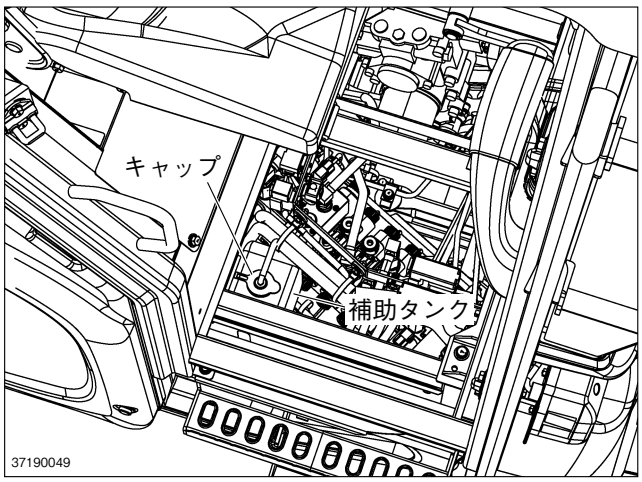
❶ 始業前の点検

・エンジンが冷えているとき，補助タンク内の冷却水が**「給水レベルの上限と下限の間」**にあるか確認します。



❷ 補助タンクの水を切らしたとき

⑴ 足元のカバーを取外し，キャップを外して，冷却水を口元まで注水し，キャップを閉めます。



⑵ 補助タンクのキャップを外します。

・補助タンクの**「上限」**位置まで給水します。

・冷却水……清水（水道水）

・給水後補助タンクのキャップを取付けて，足元カバーを取付けます。

取扱いのポイント

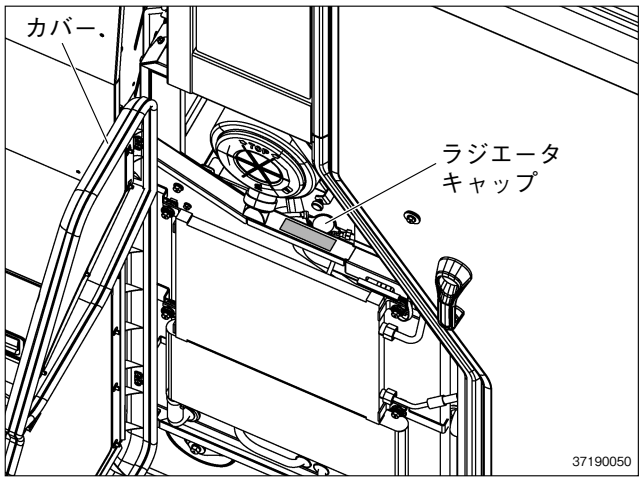
●シーズン前には，ラジエータ内の冷却水の量を点検してください。

●補助タンク内の冷却水を始業前に点検し，不足しているときは補給してください。

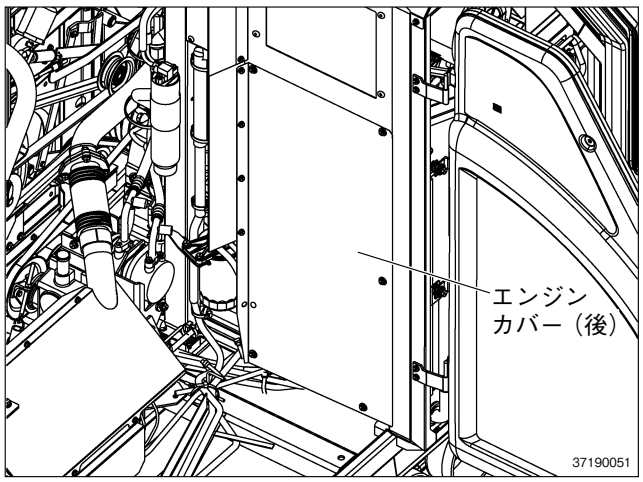
●補助タンクには「上限」以上入れないでください。運転中冷却水があふれ出ます。

❸ ラジエータ冷却水の交換

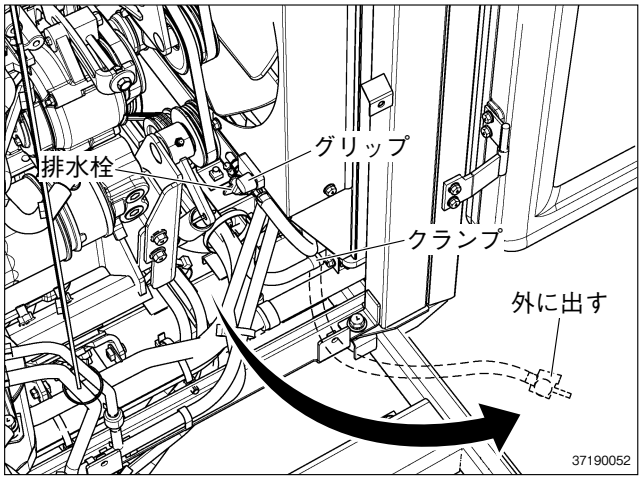
⑴ エンジンカバーを開けます。カバーの裏側にラジエータキャップがあります。



⑵ グレンタンクを回動し，エンジンカバー（後）を外します。



⑶ ラジエータキャップ，クランプ，グリップを外し，排水栓を外に出し，排水します。その際，冷却水は適切な容器で受けてください。



⑷ ラジエータ内の水が，きれいになるまで水の入替えを繰返し，内部を洗浄します。

・市販の洗浄剤を使用すると効果的です。

⑸ 排水が終わったら排水栓を閉め元の位置に戻しグリップを取付け，ホースをクランプで固定します。

ラジエータ給水口の口元いっぱいまで冷却水を給水したのち，ラジエータキャップを閉めカバーを取付けます。

⑹ **不凍液の選定**

工場出荷のときは，不凍液が注入され**「外気温度－25℃」**の凍結を防止する濃度になっていますが，１年以上経過すると効力が低下しますので，冷却水を抜き**「不凍液濃度基準」**を参考に入替えます。

「不凍液濃度基準」

外気温度 ℃	－5	－10	－15	－20	－25	－30
不凍液濃度 %	20～25	25～30	30～35	35～40	40～45	45～50

不凍液は**「ロングライフクーラント」**（PT）を使用します。

・冷却水量（補助タンク1.0L含む）…10.4 L

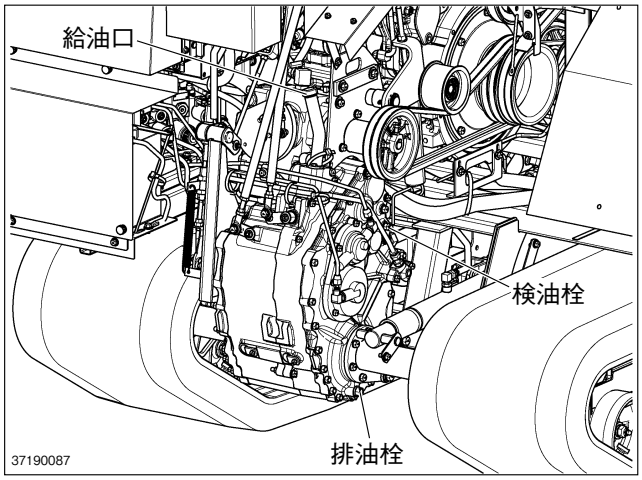
取扱いのポイント

●冷却水を交換したときは，エンジンを始動し冷却水を循環させて，再度水量をチェックしてください。

●不凍液を入替え直後に長期保管されるときは，冷却水の循環が確認できるまでエンジンを「低速で空運転」してください。

4. トランスミッションケースのオイル点検・交換

オイル交換は「**お買いあげ先**」に依頼してください。



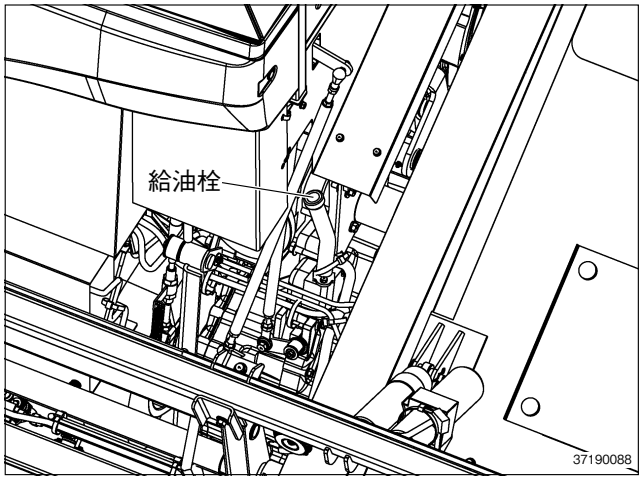
❶ 点検

・ヘッダ部を最上昇させ固定脚で固定します。
・ミッションケース横の検油栓を外して，オイルが出てくれば適正量です。
・不足しているときは，給油口より補給します。
・固定脚を外してヘッダ部を下げます。

❷ 交換

オイル交換は，「**お買いあげ先**」に依頼してください。

⑴ ヘッダ部を最上昇させ固定脚で固定し，ミッションケース下部の排油栓を外し，抜取ります。その際，オイルは適切な容器で受けてください。
⑵ 給油するときは，排油栓を締付けます。
⑶ 固定脚を外し，ヘッダ部を最下げ位置にします。
⑷ 検油栓まで給油をし，給油栓を取付けます。
・ギヤオイル…API・GL－5以上，SAE・90
・オイル量……18.5 L



⑸ 給油後，運転席横カバーを取付けます。

取扱いのポイント

●点検，交換後に排油栓，給油栓，検油栓が確実に取付けてあるか確認してください。

5．油圧作動油の点検・交換および油圧オイルフィルタ・HST(走行)オイルフィルタの交換

⚠警告 傷害事故防止のために

◆油圧作動油を抜くときは，ヘッダ部・機械を下げ，排出オーガを収納状態にして行います。下げ（収納）状態にしないと機械が傾いたり，ヘッダ部が下がったりして人身事故の原因になることがあります。

この機械は，多くの油圧装置を採用しており，油圧作動油の保守管理を誤ると不調の原因となります。

・油圧作動油を交換する際に，油圧オイルフィルタとHSTオイルフィルタを同時に交換を行います。

❶ 油圧作動油量の点検

・脱こく供給口の下方の油圧オイルタンクの検油栓を外して，オイルが出てくれば適正量です。

・不足しているときは，給油口より補給します。

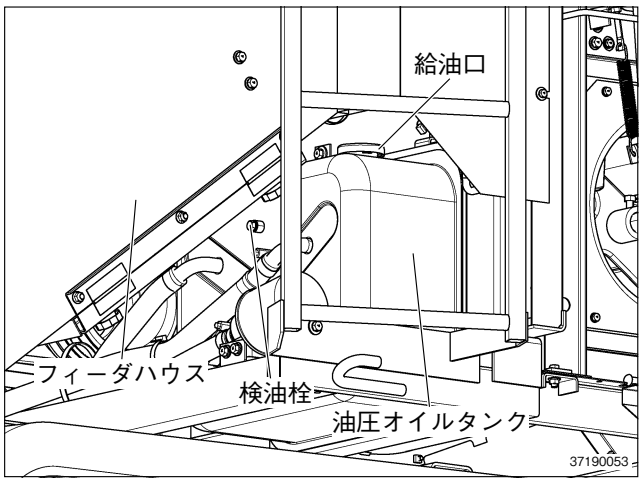
❷ 油圧作動油・油圧オイルフィルタ・HSTオイルフィルタの交換

・油圧作動油，フィルタの交換は，「お買いあげ先」に依頼してください。

・油圧作動油…（純正油）または，使用オイル表（176ページ）の指定オイル

・オイル量……19 L

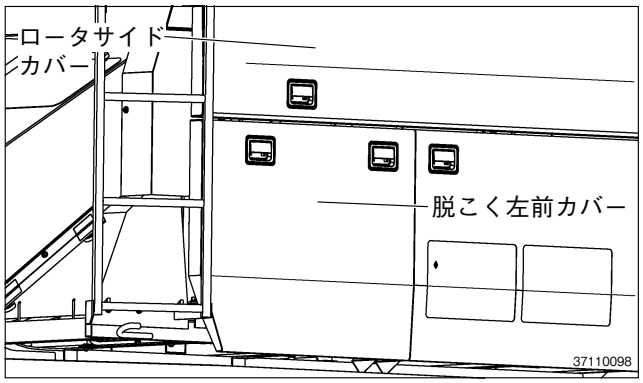
（10分程度運転後のオイル補充分を含む）



❸ 油圧作動油の抜き取り要領

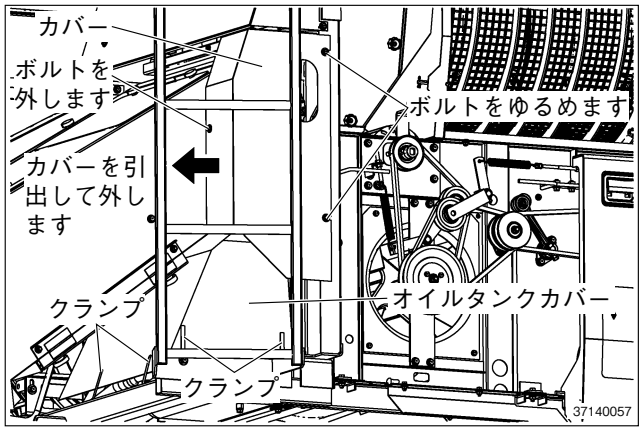
⑴ エンジンを始動し，ヘッダ部・機械を下げ，排出オーガを収納状態にしてエンジンを停止します。

⑵ ロータサイドカバーを開き，脱こく左前カバーを取外します。



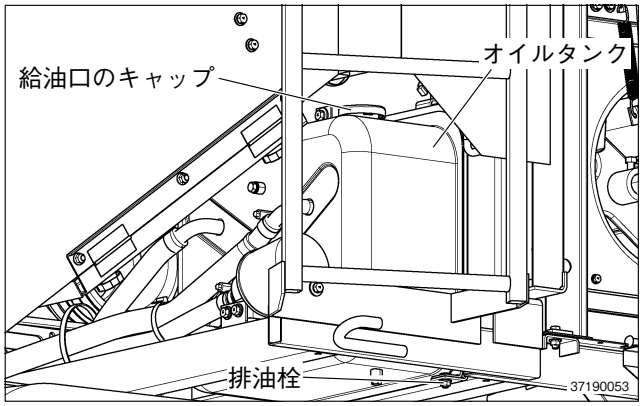
⑶ フィーダ横カバーのボルト１本を外し，２本はゆるめてカバーを外します。

⑷ オイルタンクカバーのクランプ４箇所を外し，給油口が出るようにまくり上げます。



⑸ 給油口のキャップを外し，オイルタンク下側の排油栓を外して，油圧作動油を抜きます。その際，油圧作動油は適切な容器で受けてください。

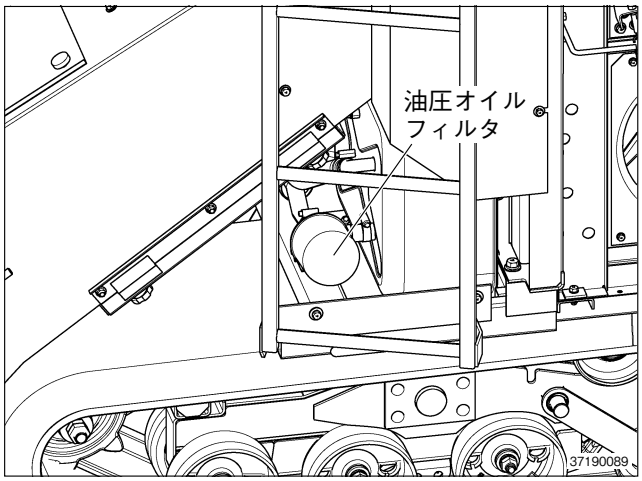
⑹ オイルを抜き終わったら，排油栓を締めます。



❹ 油圧オイルフィルタの取外し要領

⑴ 油圧作動油のオイルフィルタは,「**カートリッジタイプ**」を使用していますので，交換は「**お買いあげ先**」に依頼してください。

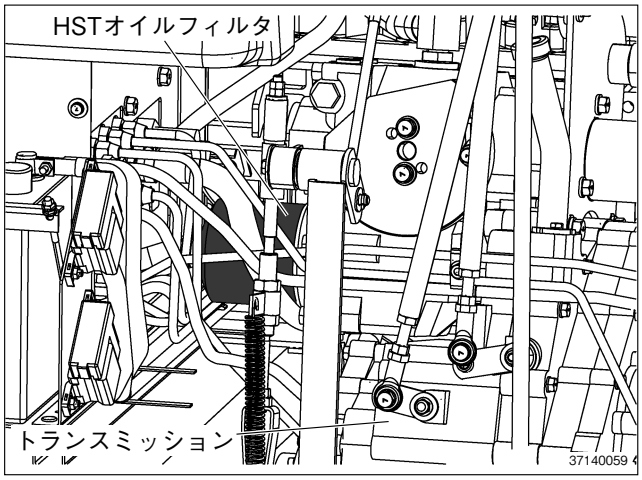
⑵ オイルタンクカバーのクランプ４箇所を外します。



❺ HSTオイルフィルタの取外し要領（走行用）

⑴ HSTオイルフィルタは,「**カートリッジタイプ**」を使用していますので，交換は「**お買いあげ先**」に依頼してください。

⑵ HSTオイルフィルタは，トランスミッションの右側に装備してあります。



❻ 油圧オイルフィルタ，HSTオイルフィルタの取付け要領

⑴ フィルタ取付面をきれいに掃除をして，フィルタのパッキン面にオイルを薄くぬり，滑りを良くして取付けます。

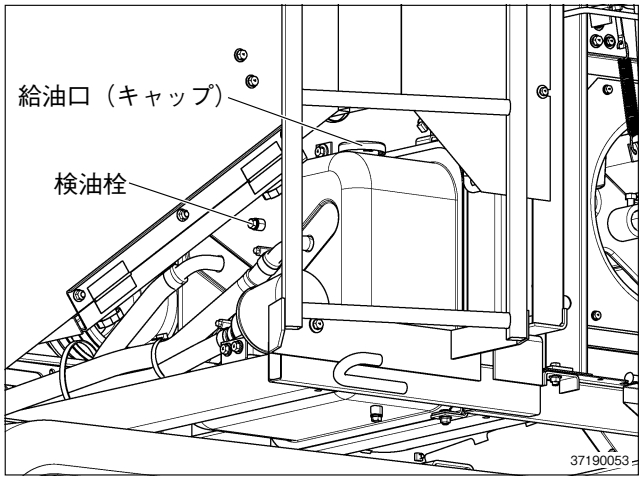
⑵ 締付けは手で行い，取付面にパッキンが当たってから2/3～3/4回転締付けます。

取扱いのポイント

- **フィルタ取付面からオイルの漏れ，にじみがないか点検してください。**
- **給油口とフィルタ周りの周辺をあらかじめ掃除をして，ゴミなどが入らないようにしてください。**

❼ 油圧作動油の給油要領

⑴ 油圧オイルタンクの給油口より，検油栓からオイルが出るまで給油します。



⑵ エンジンを始動し，アイドリング回転で10分間程度運転します。

エンジンを停止して，オイル量を点検し，検油栓から出るまで補給します。さらに，油漏れのないことも調べます。

⑶ オイルタンクカバーを元通りに固定し，フィーダ横カバーを取付け，ロータサイドカバーを閉じ，脱こく左前カバーを取付けます。

6．ロータギヤケースのオイル点検・交換

❶ 点検

(1) グレンタンクを回動します。(127～128ページ参照)

(2) ロータギヤケースカバーを取外します。

(3) ロータギヤケースの検油栓を外してオイルが出てくれば適量です。

(4) 不足しているときは給油栓を外し給油口より補給します。

❷ 交換

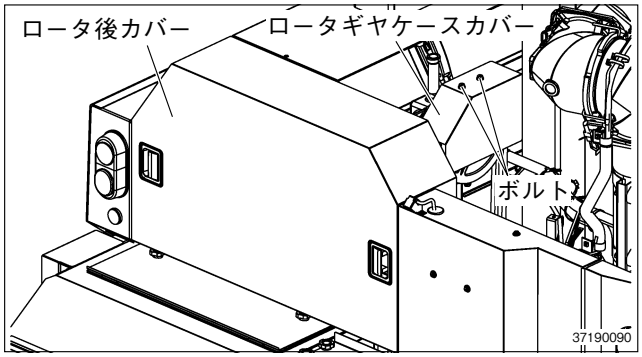
オイルの交換は，**「お買いあげ先」**に依頼してください。

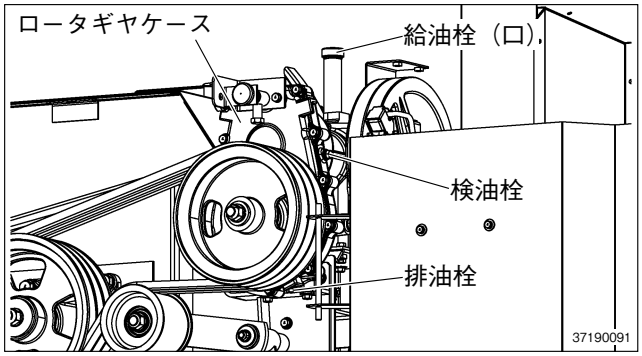
チョッパスプレッダを回動します。(121～122ページ参照)

(1) ロータ後カバーを取外します。

(2) 排油栓を外してオイルを抜き，排油栓を締めます。その際，オイルは適切な容器で受けてください。

(3) 給油栓と検油栓を外し，給油口より給油します。検油栓からオイルが出てきたら，検油栓を締め，給油栓を取付けます。





・ギヤオイル…API・GL－5以上，SAE・90

・オイル量……2.2 L

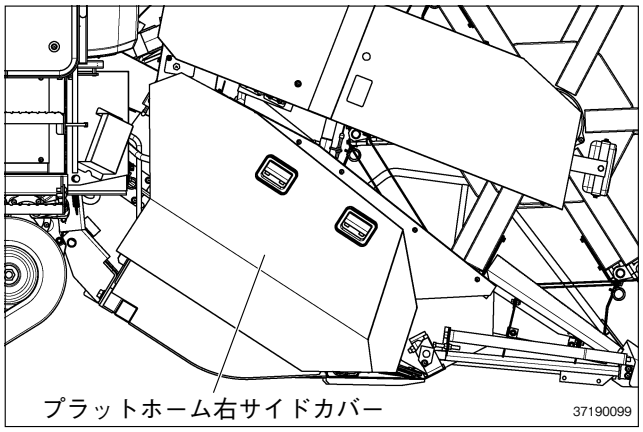
(4) 作業後，取外したロータ後カバー，ロータギヤケースカバーを取付け，グレンタンクを閉じます。(127～128ページ参照)

7．刈刃駆動ケースのオイル交換

オイルの交換は，**「お買いあげ先」**に依頼してください。

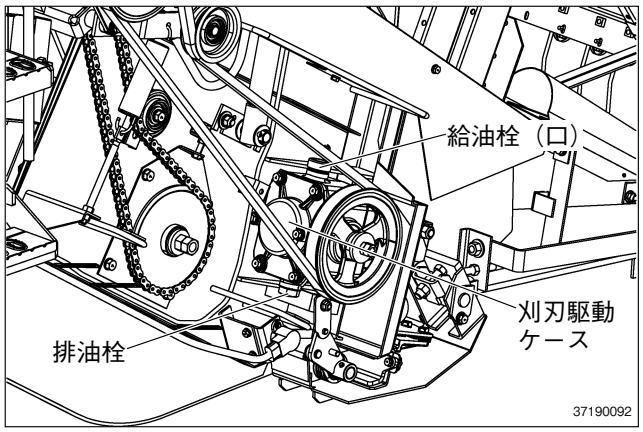
❶ 交換

(1) プラットホーム右サイドカバーを取外します。



(2) 排油栓を外してオイルを抜き，排油栓を締めます。その際，オイルは適切な容器で受けてください

(3) 給油栓を外し，規定量のオイルを入れて，給油栓を取付けます。



・ギヤオイル…API・GL－5以上，SAE・90

・オイル量……0.7 L

(4) プラットホーム右サイドカバーを取付けます。

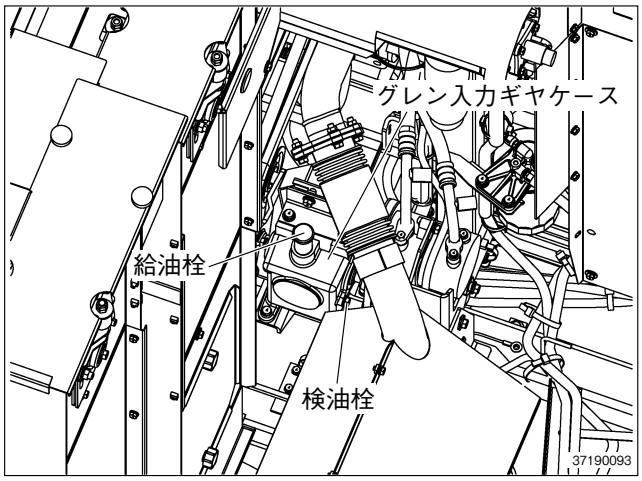
8. グレン入力ギヤケースのオイル点検

❶ 点検・補給

⑴ グレンタンクを回動します。(127～128ページ参照)

⑵ グレン入力ギヤケースの検油栓を外してオイルが出てくれば適量です。

⑶ 不足しているときは給油栓を外して給油口より検油栓から出るまで補給します。

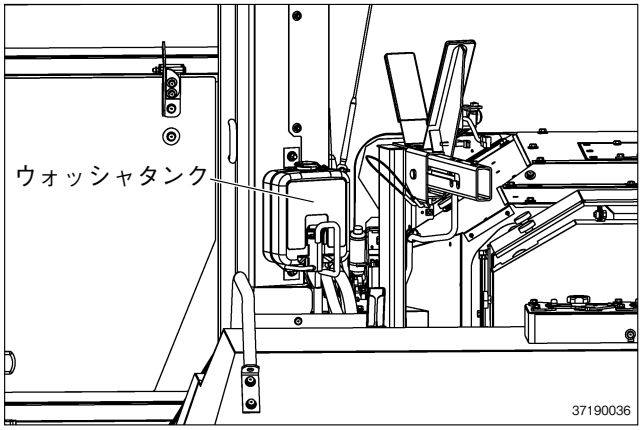


・ギヤオイル…API・GL－5以上，SAE・90

・オイル量……0.53 L

⑷ 作業後グレンタンクを閉じます。(127～128ページ参照)

9. ウォッシャタンク



❶ 点検

キャビン後側にあるウォッシャタンクのウォッシャ液量を点検します。

❷ 給水

⑴ 給水口よりウォッシャ液を給水します。

⑵ 給水口よりあふれないようにします。

取扱いのポイント

●タンクの満量は1.0Lです。

●ウォッシャ液の濃度は水0.65Lに対してウォッシャ液0.35Lです。

10. 冷媒（ガス）

冷媒が不足するとエアコンの冷えが悪くなります。

下記要領で点検し，冷媒が不足しているときは，**「お買いあげ先」**で点検および補充をしてもらいます。

❶ 点検

⑴ エアコンを以下の条件で運転します。

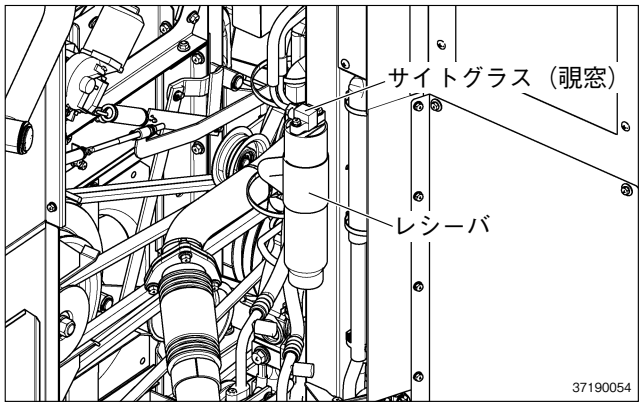
●エンジン回転数　　：約1500rpm

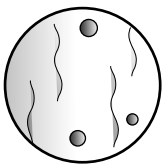
●温度コントロールレバー：最強冷位置(左端)

●ファンスイッチ　　：最強風（ＨＩ）

●エアコンスイッチ　　：ＯＮ

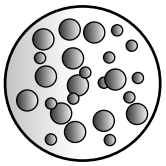
⑵ サイトグラスにより，流れている冷媒の状態を確認します。





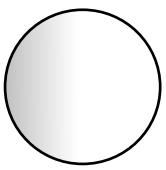
適正

覗窓を覗いて，気泡がほとんど流れてこない状態が正常です。



不足

覗窓を覗いて，気泡が連続的に通過していく場合（気泡が多い）は冷媒不足です。

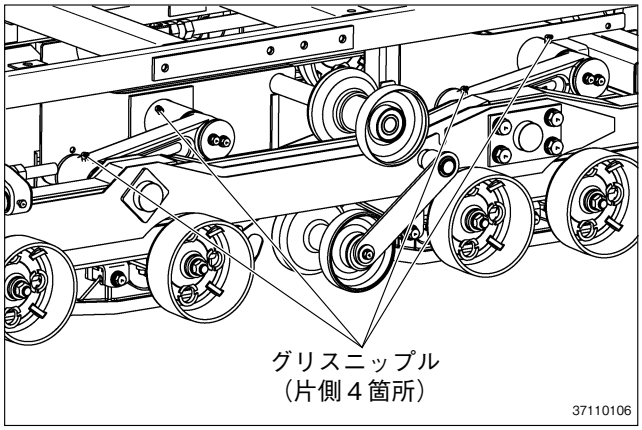


なし

覗窓を覗いて，クーラガスの流れが見えない場合（気泡も全く無し）は冷媒がない状態です。

11．給脂箇所

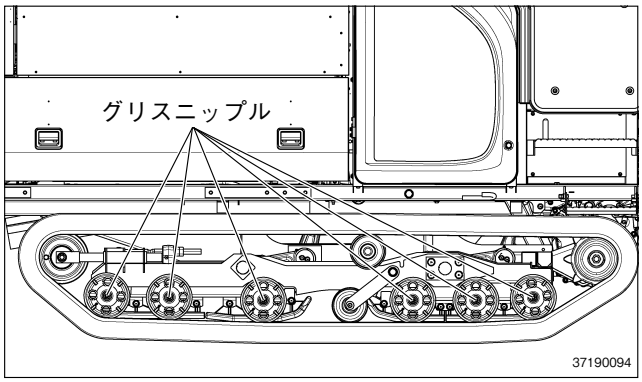
❶ 水平リンク



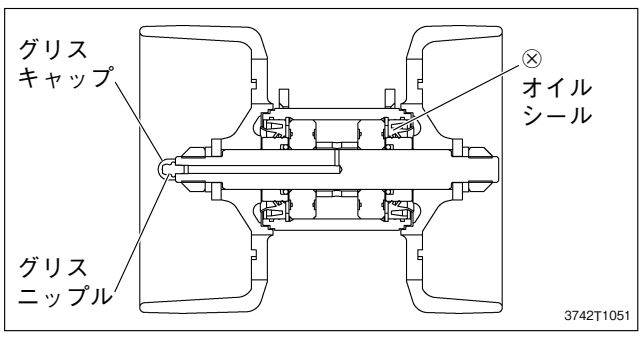
左右８箇所グリスガンで給脂します。

- **リチウムグリス**
- **左右……８箇所**

❷ ローラ

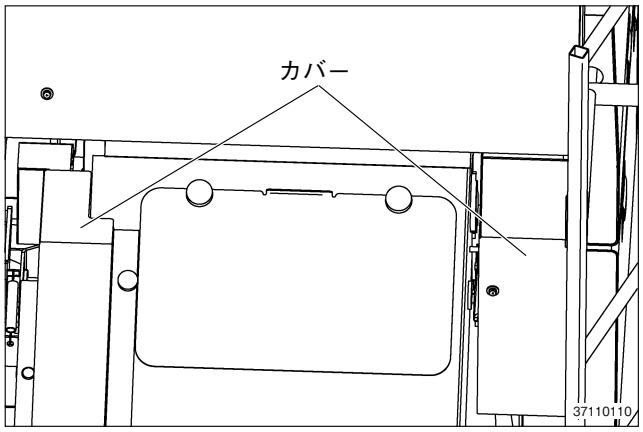


・左右12箇所グリスガンで給脂します。
・グリスアップ箇所のグリスキャップを外し，グリスニップルからリチウムグリスをポンプでオイルシール部（⊗部）よりわき出るまで封入してください。
・グリスアップが終わりましたらグリスキャップを取付けてください。



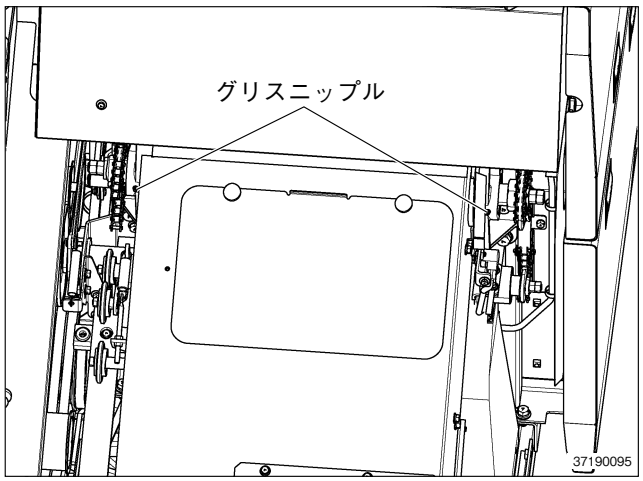
❸ ヘッダ部、フィーダハウス回動支点軸受

⑴ カバーを取外します。



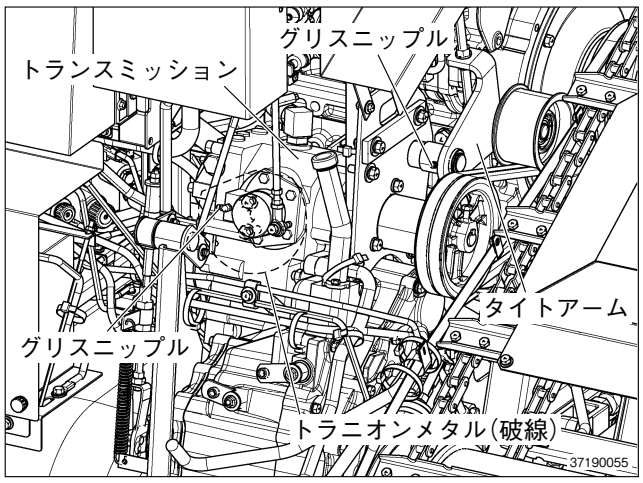
⑵ 両側にグリスニップルがついています。グリスガンで給脂してください。

⑶ 給脂後カバー類を取付けます。



❹ 走行ＨＳＴトラニオン軸部への給脂

⑴ ヘッダ部と運転席部の間から走行ＨＳＴトラニオン軸部についているグリスニップルにグリスガンで給脂してください。（ニップルはトラニオンメタルの後側にあります）

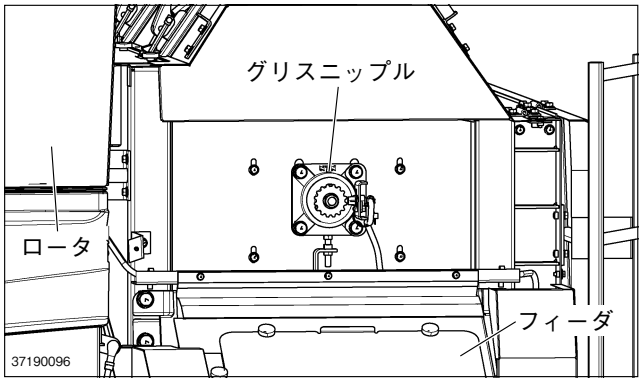


❹ ロータ軸受

(1) ロータカバーを開きます。

(2) グリスニップルがついています。グリスガンで給脂してください。

(3) 給脂後カバーを閉じます。

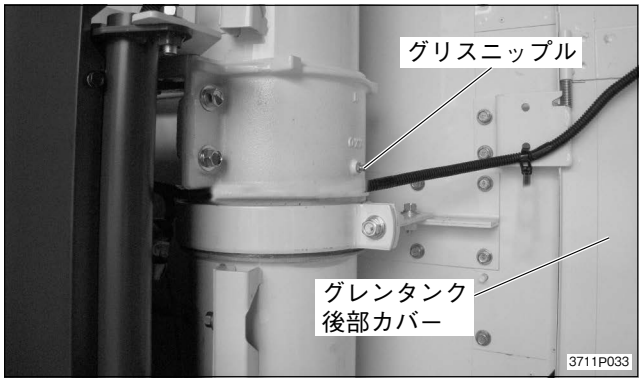


❺ オーガ旋回部への給脂

(1) グレンタンク後部カバーをオープンします。

(2) 鉄パイプにグリスニップルがついています。(表裏２箇所)グリスガンで給脂してください。

(3) 給脂後グレンタンク後部カバーを閉じます。

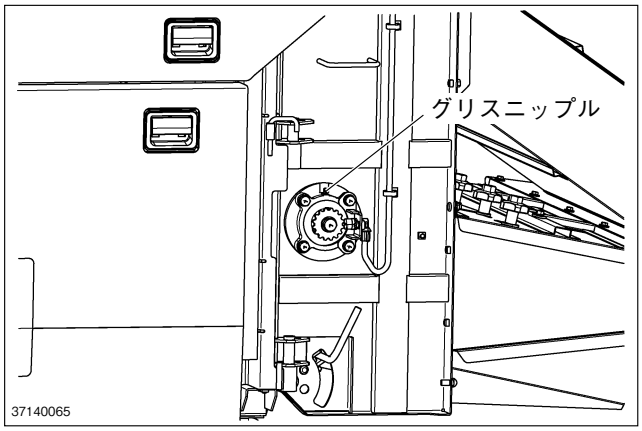


❻ スプレッダ回転軸受

(1) チョッパカバー（左)(右）を取外します。

(2) グリスニップルがついています。左右２箇所グリスガンで給脂してください。

(3) 給脂後チョッパカバー(左)(右)を取付けます。



12. 各部の注油

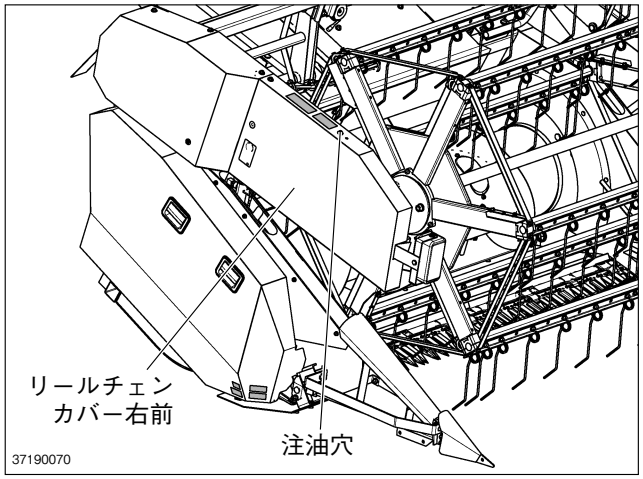
各部の注油は，始業前および機械各部の掃除が終わったあと，刈取面積に応じ適宜行います。注油は「**油差し**」で注油します。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆平坦な場所に機械を置いてください。
傾斜地では機械が動き出し，傷害事故の原因となります。クローラに車止めをかけてください

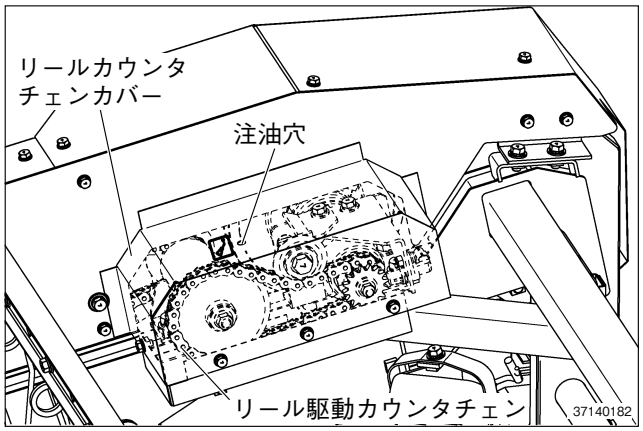
・リール駆動チェン

リールチェンカバー右前上部に注油穴がありますので，その穴から注油してください。



・リール駆動カウンタチェン

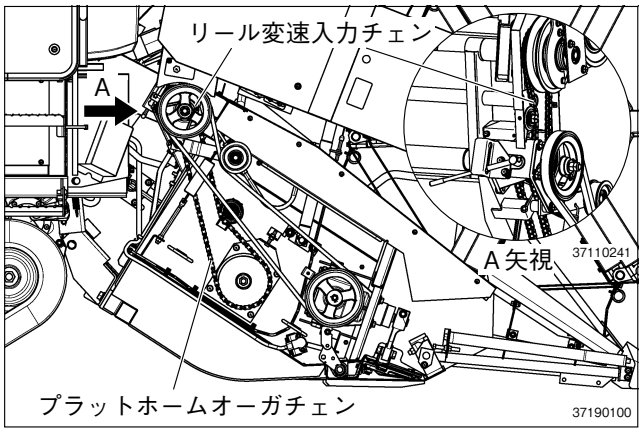
リールカウンタチェンカバー上部に注油穴がありますのでその穴から注油してください。



・リール変速入力チェン・プラットホームオーガチェン

プラットホーム右カバーを取外して，リール入力チェン・プラットホームオーガチェンに注油をしてください。

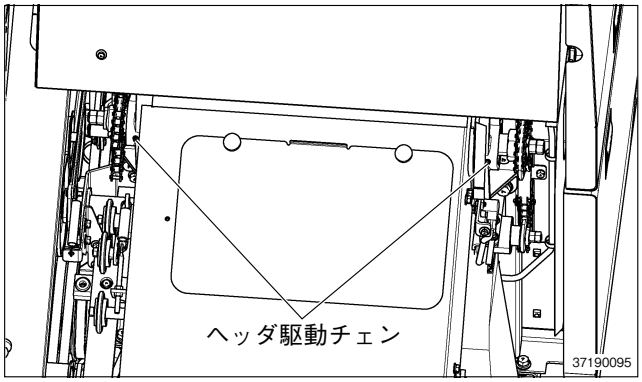
注油後は，カバーを取付けてください。



・ヘッダ駆動チェン

ヘッダ部のカバー両側共取外して注油してください。

注油後は，カバーを取付けてください。

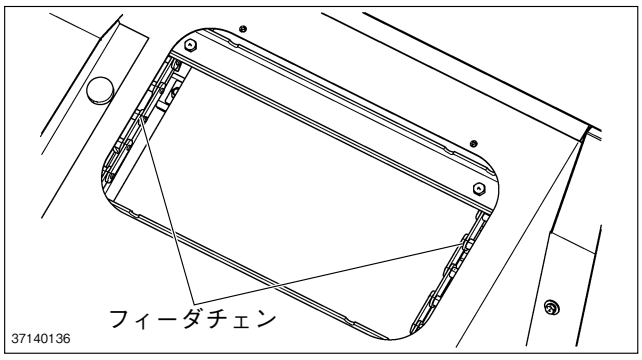


・フィーダチェン

食品機械用潤滑油を使用します。

フィーダハウス掃除口カバーを取外して，注油をしてください。

注油後は，カバーを取付けてください。

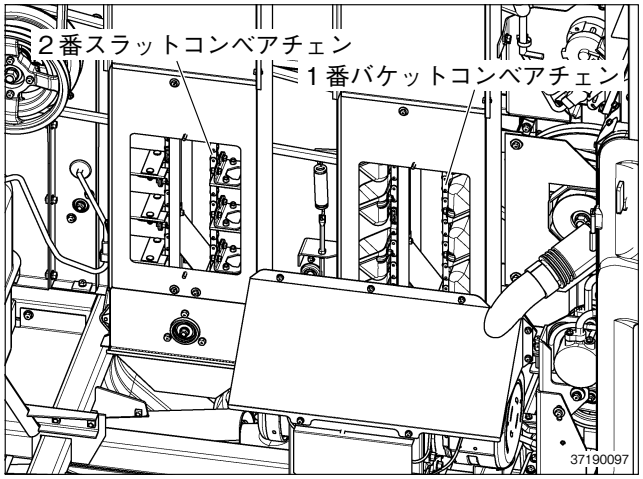


・１番バケットコンベアチェン，２番スラットコンベアチェン

食品機械用潤滑油を使用します。

グレンタンクを回動させて，カバーを取外し注油をしてください。

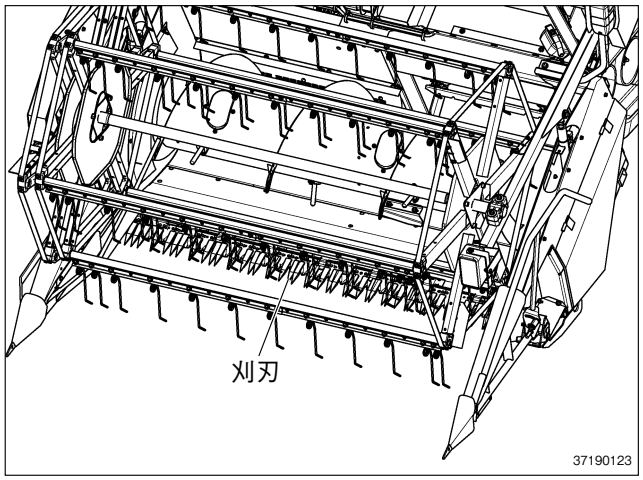
注油後はカバーを取付け，グレンタンクを閉じます。



・刈刃部

食品機械用潤滑油を使用します。

刈刃に注油をします。



3. 各部の点検と掃除のしかた

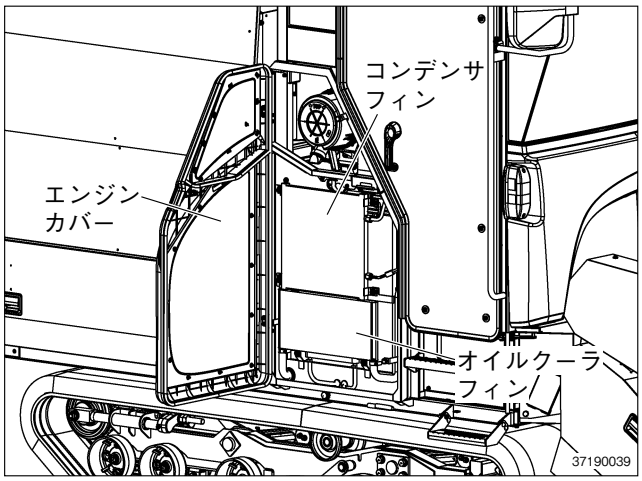
1. ラジエータ吸気部の掃除

⚠警告 傷害事故防止のために

◆エンジン周辺を掃除するときは，スタータスイッチを《切》にしてエンジンを停止させ，エンジンが冷えたことを確認してから行います。

◆スチーム洗車はしないでください。冷媒の圧力が上昇して破裂のおそれがあります。

エンジンカバー，ラジエータフィン，オイルクーラフィンにゴミなどが目詰まりすると，冷却風の通りが悪くなり，エンジンが**「オーバーヒート」**する原因となります。



❶ エンジンカバーの表面のゴミを取除きます。

❷ グレンタンクを回動し，エアクリーナ室後部カバー表面のゴミを取除きグレンタンクを閉じます。

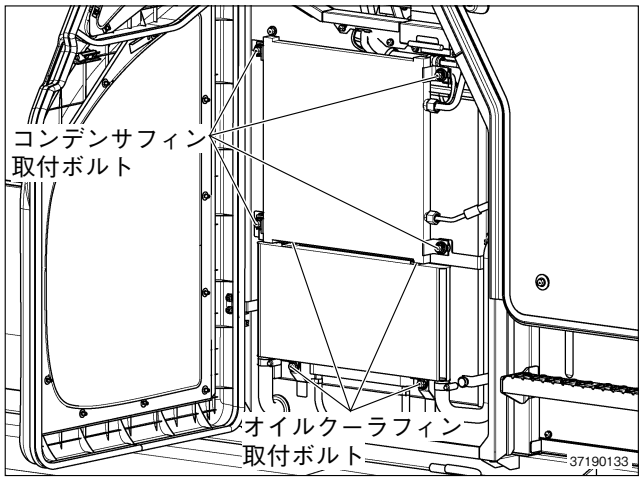
❸ エンジンカバーを開き，ゴミを取除きます。

「ゴミ詰まり」を生じているときは，電気掃除機（小口径のノズル）でゴミを吸い取るか，コンプレッサの圧縮空気を吹きつけてゴミを取除きます。ノズルを強く押当てないでください。強く押当てると，フィンが変形するおそれがあります。

❹ ラジエータフィン部，オイルクーラフィン部，コンデンサフィン部に**「ゴミ詰まり」**を生じたときは，つぎの方法で取除きます。

各々の取付ボルト（４個）を外して開きます。

電気掃除機（小口径のノズル）でゴミを吸い取るか，コンプレッサの圧縮空気を吹きつけてゴミを取除きます。ノズルを強く押当てないでください。強く押当てると，フィンが変形するおそれがあります。



❺ ボルトを取付けエンジンカバーを閉じます。

取扱いのポイント

●エンジンカバーを開けたときは，ラジエータの冷却水を確認してください。(93～94ページ参照)

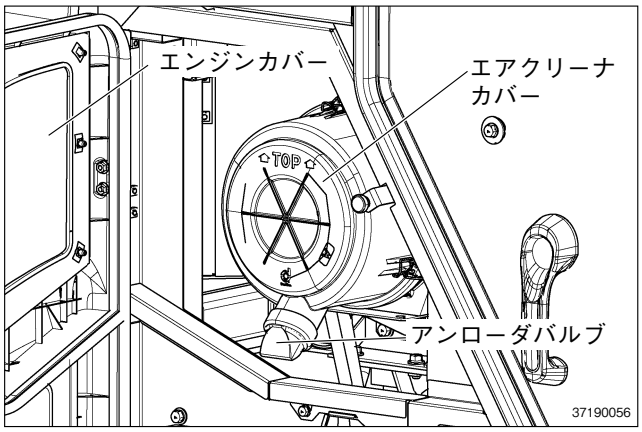
2．エアクリーナの掃除

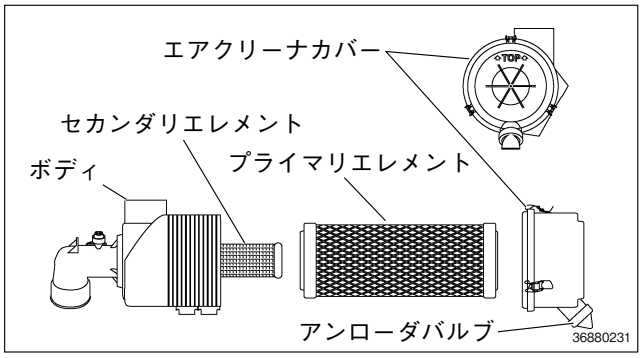
・エアクリーナエレメントを汚れたままで使用すると，エンジンの内部損耗や出力低下を招きます。

❶ エンジンカバーを開けます。

❷ エアクリーナカバーのフック（3箇所）を外し，プライマリエレメントを取出します。

❸ プライマリエレメントは軽く叩くか，コンプレッサでエレメントの内側よりエアを吹きつけて掃除をします。





❹ セカンダリエレメントは掃除して再使用することはできません。

❺ プライマリエレメントの掃除はエンジン保護のためセカンダリエレメントを外さないでください。

❻ 取付けは，アンローダバルブが下向きになるようにセットして取付けます。

❼ エンジンカバーを閉じます。

取扱いのポイント

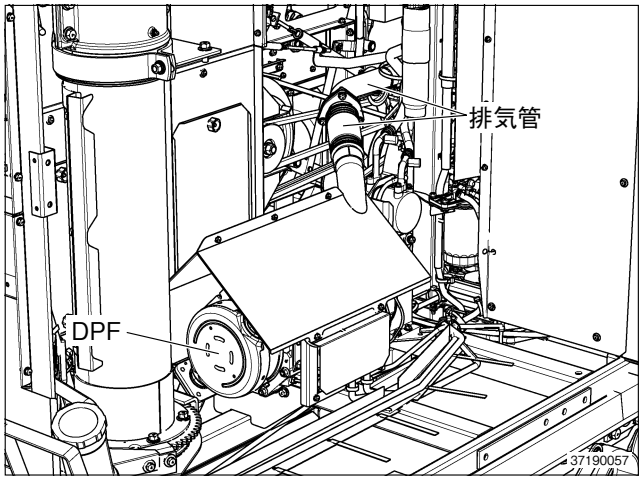
●コンプレッサでエアを吹きつける場合は，空気圧「205kPa（2.1kgf／㎠）以下」で行ってください。

3．排気装置（DPF・排気管）の掃除

⚠警告 傷害事故防止のために

◆エンジン周辺を掃除するときは，スタータスイッチを《切》にしてエンジンを停止させ，エンジンが冷えたことを確認してから行います。

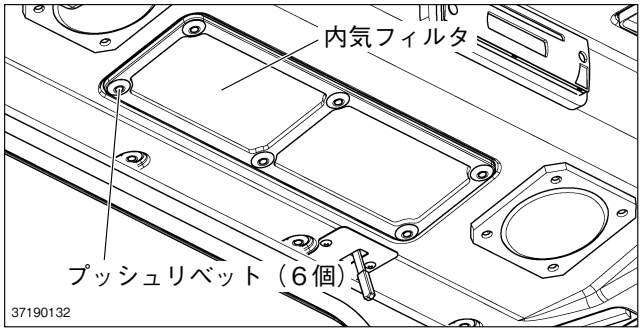
❶ DPFや排気管および周辺部に発火する原因となる燃えやすいゴミなどがあれば取除いてください。



4. エアコンフィルタの掃除

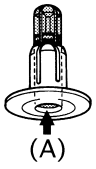
❶ 内気フィルタの掃除

フィルタが汚れて目詰まりすると，吹出し風量が少なくなりますので，水洗いまたは，圧縮エアでフィルタの網目を損傷させないように汚れを落とします。

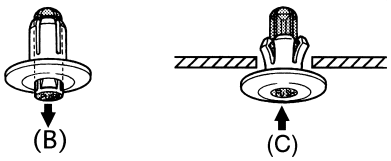


⑴ 内気フィルタを取外すには，プッシュリベットの(A)部を少し押してから，抜き取ります。（6個）

プッシュリベットを抜き取ると内気フィルタは外れます。



⑵ 取付けかたは，内気フィルタを元の位置に押付け，プッシュリベットで固定します。固定の仕方は，プッシュリベットの中央(B)部を少し押出し，室内エアフィルタにプッシュリベットを差込んでから中央(C)部を押し固定します。



取扱いのポイント

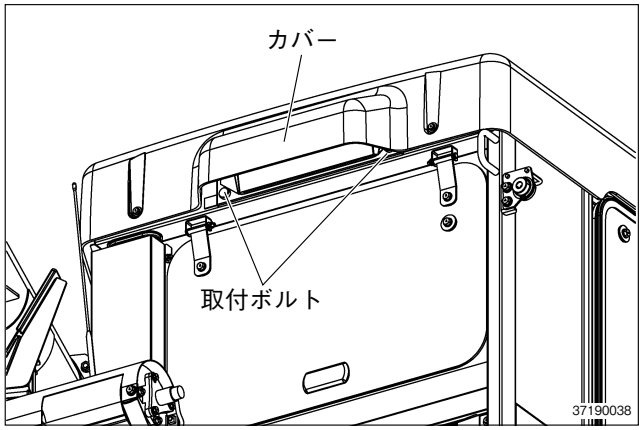
- **汚れがいちじるしいときは，家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて，動かしながら洗浄し，清水でよくすすぎます。**
  その後，完全に自然乾燥させてから取付けてください。
- **洗浄にガソリン，シンナーなどを使用しないでください。**

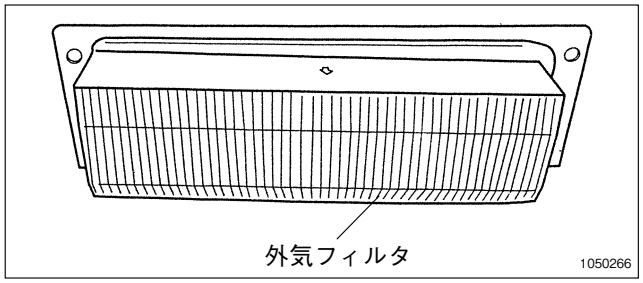
❷ 外気フィルタの掃除

⑴ グレンタンクを回動します。(127～128ページ参照)

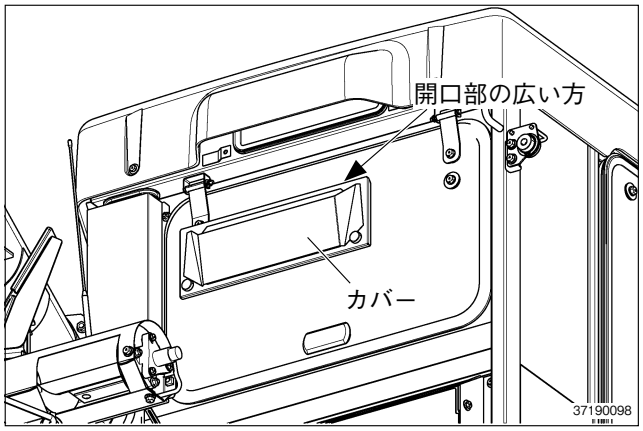
⑵ キャビン後方の外気取入口の取付ボルト（2個）を外して，カバーを外します。

⑶ 外気フィルタも同時に外れますので圧縮エアで汚れを落とします。





⑷ 掃除完了後，外気フィルタを取付け，カバーを取付ボルトで取付けてください。



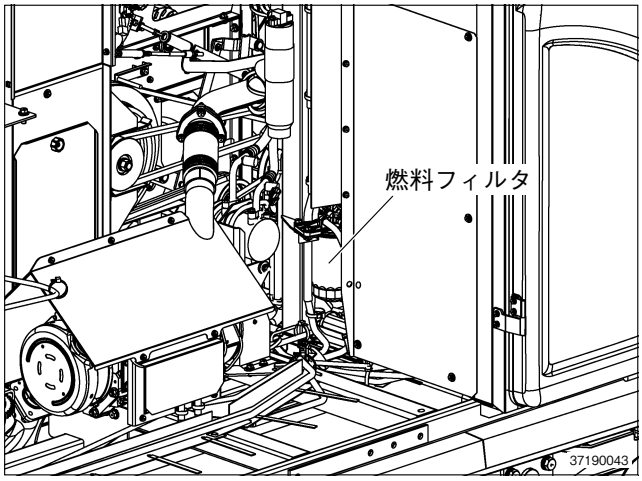
・カバーは開口部の広い方を上側にして取付けてください。

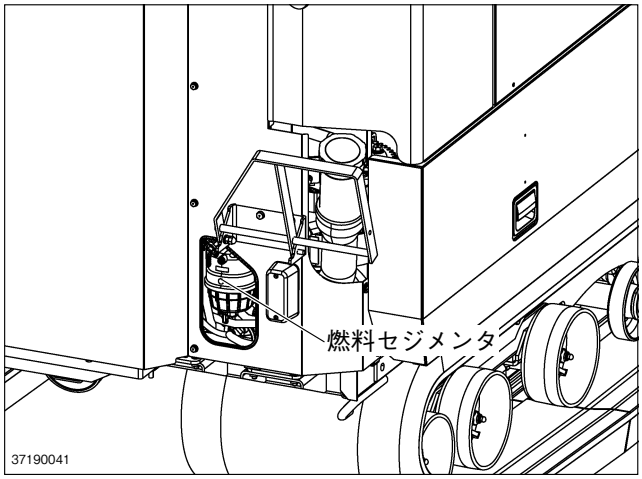
5. 燃料フィルタ・セジメンタの掃除・交換・エア抜き

⚠警告 火災防止のために

◆燃料ホースおよび継ぎ部より燃料が漏れている場合は，火災の原因となることがありますので交換してください。

燃料フィルタ・セジメンタは，燃料内に含まれるゴミや水をフィルタにて取除きます。



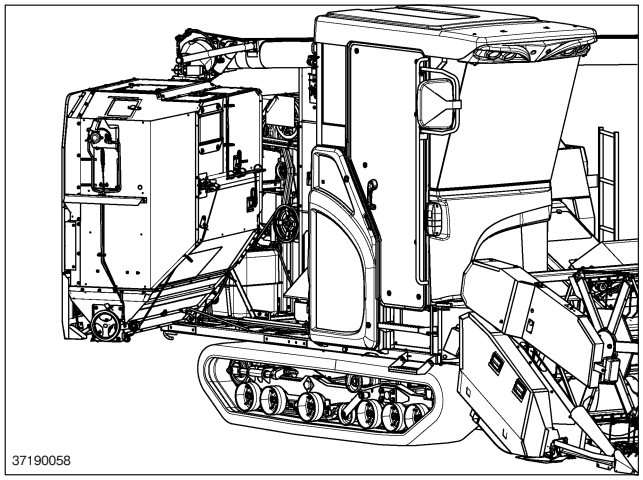


燃料フィルタは「**カートリッジタイプ**」を使用していますので「**定期点検整備表**」(86～87ページ参照）に従って「**お買いあげ先**」に依頼してください。

❶ 「**燃料フィルタの交換**」

(1) 燃料セジメンタの燃料コックを《**閉**》位置にします。

(2) グレンタンクを開きます。



(3) 燃料フィルタを取外します。手でゆるまない場合には，専用工具(市販品)を使用して外します。

(4) フィルタ取付面をきれいに掃除をして，フィルタのパッキン面に燃料を薄く塗布してから手で確実に締付けてください。

(5) グレンタンクを閉じます。

(6) 燃料セジメンタの燃料コックを《**開**》位置にします。

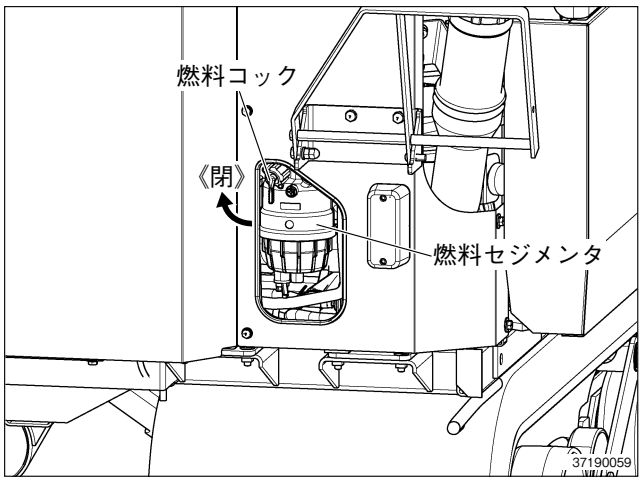
(7) エア抜きを行います。

❷ 「燃料セジメンタの水排出」

運転前の点検時に水が溜まっている場合に水を排出します。

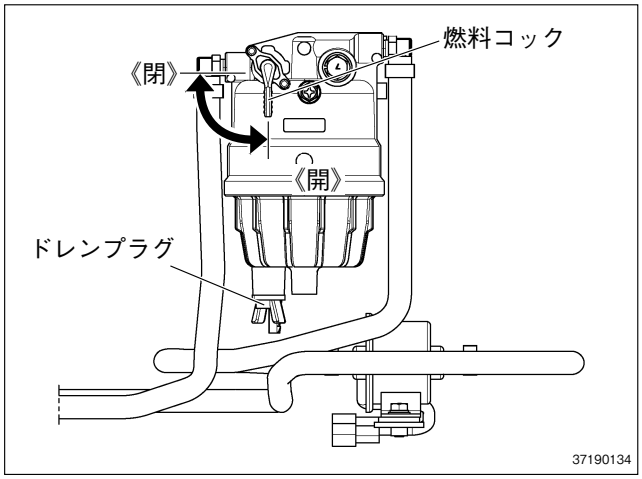
・赤いフロートが排出レベルに達するまでに排出します。

(1) 燃料セジメンタの燃料コックを《**閉**》位置にします。



(2) ドレンプラグをゆるめて水を抜いてください。その際，排水は適切な容器で受けてください。

(3) 水を抜いたらドレンプラグを締め，燃料コックを《**開**》位置にします。



(4) 後退灯横のカバーを取付けます。

(5) エア抜きを行います。

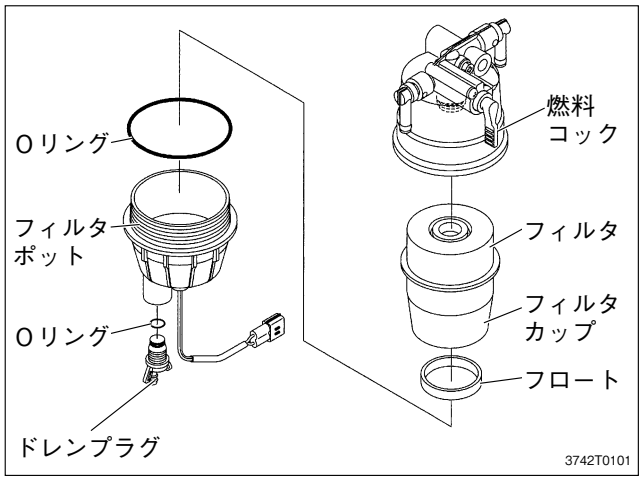
❸ 「燃料セジメンタの掃除」

(1) 後退灯横のカバーを取外します。

(2) 燃料コックを《**閉**》位置にします。

(3) ドレンプラグをゆるめて水を排出します。その際，排水は適切な容器で受けてください。

(4) ドレンプラグを締付けたあとに，フィルタポットをゆるめフィルタ，フィルタカップを取外します。



(5) 取外したフィルタ，フィルタカップを，コンプレッサで圧縮空気を吹きつけてゴミを掃き出します。

(6) フィルタポット内のゴミやよごれをきれいに掃除します。

(7) 組付けは取外しと逆の手順で行います。

(8) 燃料コックを《**開**》位置にします。

(9) 後退灯横のカバーを取付けます。

❹ エア抜きの方法

燃料コックを《**開**》位置にし，スタータスイッチを《**入**》位置にして，約２～３分そのままにして置くと自動でエア抜きができます。

取扱いのポイント

- **燃料の中に，水やゴミなどが混入しますとエンジンに重大な故障が発生したり，燃料ポンプが作動しなくなることがありますので，給油口のフィルタを通して給油してください。**
- **フィルタのゴミを掃除するときはコンプレッサの空気圧を686kPa(7kgf/㎠)以下にしてください。**

6．ヒューズの交換

⚠警告 火災防止のために

◆取付けてあるヒューズと，異なる容量のヒューズを使用しないでください。また針金，銀紙などを使用すると，配線の加熱焼損の原因になります。

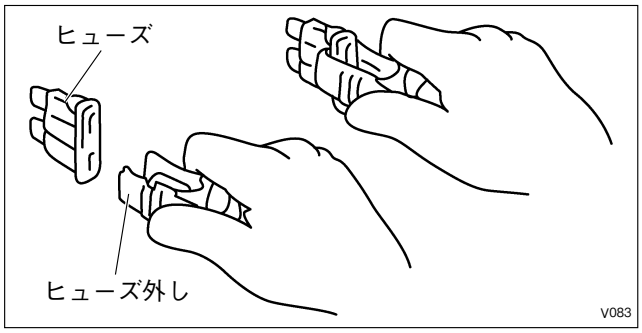
配線の回路に異常が生じたとき，事故を未然に防止するために，ヒューズが設けてあります。

運転中，電気系統の異常を確認したときは，ヒューズの状態をチェックします

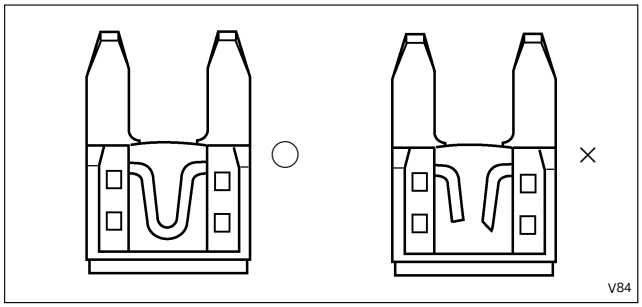
❶ ヒューズボックスのヒューズ交換

(1) スタータスイッチを《**切**》位置にします。

(2) ヒューズボックスの蓋を開き，ヒューズ外しまたは，ラジオペンチなどを使って，ヒューズを引抜きます。(ヒューズ外しは，運転席後カバー内のヒューズボックスの中に入ってます)



(3) ヒューズが図の右側（×印）のようであればヒューズ切れです。スペアのヒューズと交換します。



取扱いのポイント

●交換してもヒューズが切れるときは「お買いあげ先」で点検を受けてください。

❷ 大電流用ヒューズ交換

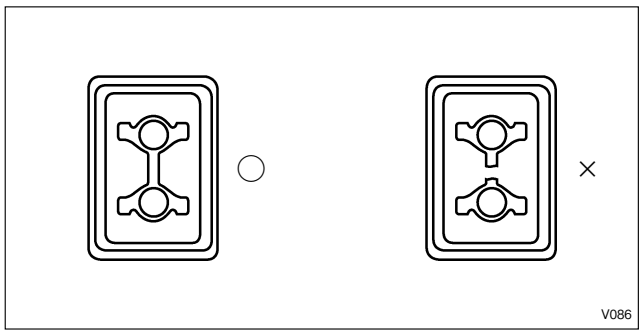
⚠警告 火傷防止のために

◆取付けてあるヒューズ（大電流用）と異なる容量のヒューズを使用しないでください。また針金，銀紙などを使用すると，配線の加熱焼損の原因になります。

◆作業直後はエンジン部が高温になっています。各ヒューズの点検はエンジンが冷えてから行ってください。

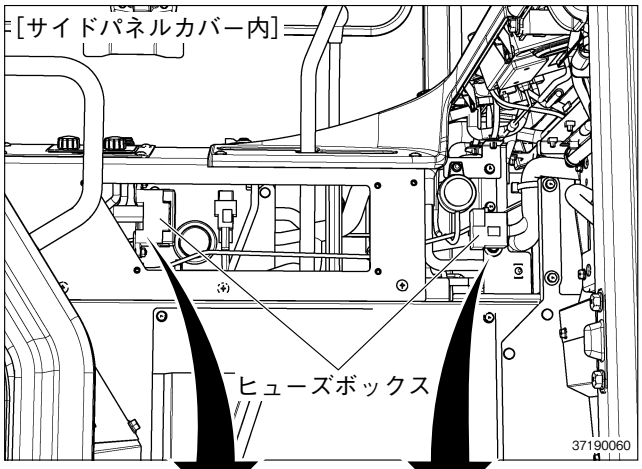
(1) バッテリー（−）端子を外します。

(2) ヒューズ（大電流用）が下図右側（×印）のようであれば，ヒューズ切れです。指定のヒューズ（大電流用）と交換します。



取扱いのポイント

●大電流用ヒューズが切れたときは，「お買いあげ先」で点検を受けてください。

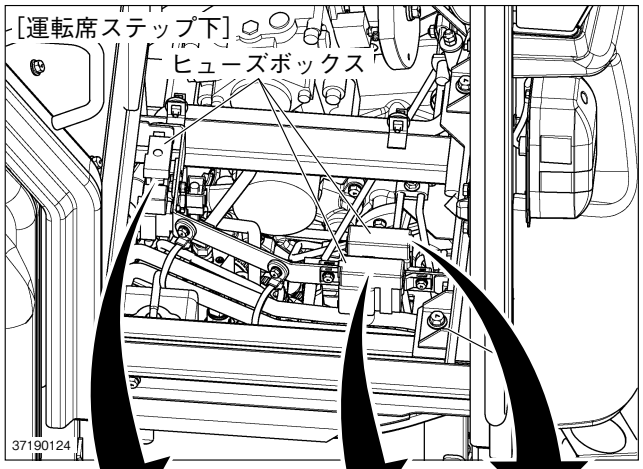


37420802500
ヒューズ抜き

ランプ・計器 10A	ワイパ（キャブ） 15A		
バッテリ 10A	エアコン（キャブ） 20A		
E/Gマイコン 10A	マイコン 15A		
アクセサリー（キャブ） 20A	セーフティ 10A		
バルブ 15A			
予備 30A	予備 20A	予備 15A	予備 10A

オーガ排出 10A	37420842500
水平 10A	スペア10A
リフト 10A	
操向 10A	
非常時電源 10A	

3742T0102



スペア 20A			スペア 30A
刈取部ファン 30A	ホーン 10A	リール変速 20A	リール前後 30A	37140842500

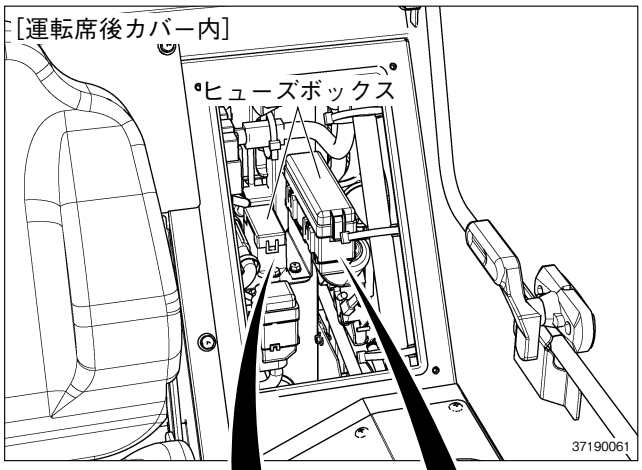
37420893800

E/Gメイン 20A
スタータ 30A
予熱 60A
キーSW 50A

3742893700

メイン1電源 50A
メイン2電源 40A
メイン3電源 60A
バッテリ 100A

37140083　3742T0106

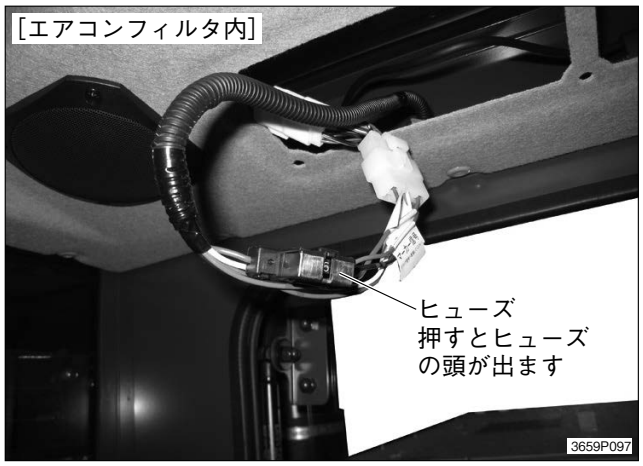


36880812500 ヒューズ抜き

選別 20A	フラップ 20A	クラッチ 20A	防塵ファン 20A	室内灯 時計（キャブ） 10A	予備 10A	
前照灯 15A	作業灯 本機 刈取部 20A	作業灯 オーガ キャブ 30A	バック ホーン 10A	フラッシャ 15A	予備 15A	予備 20A
					予備 30A	

36880812600				
アタッチ 30A		フラッシャ右	フラッシャ左	作業灯 オーガ・キャブ
	オーガモータ 30A	作業灯 本機・刈取部	バックランプ	前照灯

36880129a



❹ ヒューズの機能

●ヒューズが溶断した場合，下記の機能が作動不能となります。　　×：作動不能

ヒューズマーク名称	電流容量	エンジン始動	エンジン停止	燃料の供給	予熱	充電	エンジン制御	計器類のモニタランプ	電子ブザー	前照灯	後退灯	作業灯（本機・刈取部）	作業灯（オーガ・キャブ）	制動灯	尾灯	車幅灯	方向指示器	ホーン	バック警報	マルチステアリングレバー	リール上下	リール前後	リール変速	選別制御	水平制御	刈高さ制御	刈取・脱こく駆動	排出オーガ旋回	排出オーガ上下	こく粒排出	警報装置	エアコン	カーステレオ	ルームランプ	ワイパ・ウォッシャ	シガライタ	刈取電動ファン	逆転ファン	フラップ開閉
アクセサリー（キャブ）	20																															×			×				
セーフティー	10	×																																					
マイコン電源	15							×	×									×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×							×	×
エアコン（キャブ）	20																														×							
ワイパ（キャブ）	10																																		×				
バルブ	10																			×	×	×			×	×			×										
バッテリ	10									×	×	×	×		×	×	×	×	×				×	×			×	×		×			×	×			×	×	×
E/Gマイコン	15	×	×	×	×		×	×																															
ランプ・計器	10							×	×					×																									
室内灯・時計	10																															×	×					
前照灯	15									×					×	×																						
作業灯 本機 刈取部	20											×																										
作業灯 オーガ・キャブ	30												×																									
アタッチ	30																																					
フラッシャ	15																×																					
バックホーン	10										×								×																			
クラッチ	20																										×											
防塵ファン	20																																				×	
フラップ	20																													×								×
選別	20																							×														
オーガモータ	30																											×										
操向	10																			×	×	×			×	×			×									
リフト	10																									×												
水平	10																								×													
オーガ排出	10																												×									
非常時電源	10																																					
リール変速	20																						×															
リール前後	30																										×											
ホーン	10																	×																				
刈取り部ファン	30																																			×		
エンジンエアフローセンサ	10						×																															

バッテリ	100	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
メイン１	50																							×			×	×		×							×	×
メイン３	60									×	×	×	×		×	×	×		×												×	×			×			
メイン４	40																	×					×				×											
キー電源	50	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
予熱	60				×																																	
スタータ	30	×																																				
E/Gメイン	20	×	×	×			×																															

取扱いのポイント

●交換してもヒューズが切れるときは，「お買いあげ先」で点検を受けてください。

7．電気配線の点検と掃除

⚠警告 火傷や火災防止のために

◆電気配線の点検時には，スタータスイッチを《切》位置にし，バッテリコードのアース側⊖端子を外してください。
◆電気配線およびバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートや漏電で火災や損傷の原因となりますので，交換してください。
◆エンジン，バッテリ，電気配線回りのワラクズなどを取除いてください。火災の原因になることがあります。

❶ 電気配線の点検

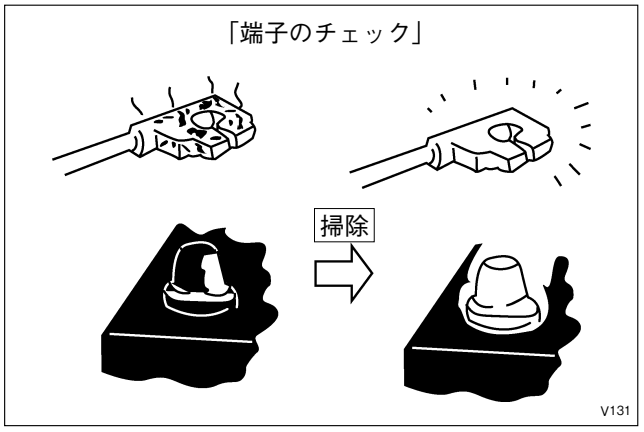
配線の端子部の「**ゆるみ**」や「**接続不良**」または配線が「**損傷**」していると，電気部品の性能を損なうだけでなく，「**ショート（短絡）**」することがあります。

傷んだ配線は，交換，修理します。

❷ 電気配線の掃除

⑴ エンジン，バッテリ，電気配線部に溜まっている「**ワラやゴミ**」などは，「**火災**」の原因になりますので取除きます。

⑵ バッテリ端子にバッテリ液がかかると，端子が「**腐蝕**」することがあります。バッテリ端子が腐蝕すると，「**接触抵抗**」が大きくなり，電流が流れにくくなりますので，「**定期的**」に汚れや腐蝕を，サンドペーパやブラシで取除きます。腐蝕防止のために，グリースを塗ります。



8．バッテリの点検と充電

この機械は出荷時に補水必要バッテリが装備されています。

バッテリの残存量の確認は113～114ページの**3-1**，**3-2**を参照してください。

指定バッテリ…95D31R

⚠危険 火災や傷害事故防止のために

共通（補水不要なバッテリ，補水が必要なバッテリ）

◆ブースタケーブルを使用するときは，接続前にエンジンを停止してください。
◆ブースタケーブルは，100A以上の仕様のものを使用してください。
容量の小さいケーブルを使用すると，ケーブルが焼損し，火災の原因となることがあります。
◆バッテリを「着脱」したり充電器で「充電」するときは，エンジンを停止し，始動キーを抜取ってください。
◆⊕端子と⊖端子を間違えないようにしてください。逆接すると，電装品が焼損します。また，「スパーク（短絡）」による電気火花で負傷をすることがあります。
◆⊕端子が機械に接触しないようにしてください。
◆⊖端子を取付けたままで充電すると，発電器や電気配線を焼損することがあります。
◆バッテリを化学繊維製布などで掃除しないでください。静電気による引火爆発のおそれがあります。
◆バッテリ液が皮膚に付着したり目に入ったときは，直ちに水洗いをし，医師の手当を受けてください。
◆衣服についたときは，水洗いし，弱アルカリ性石けんで，硫酸分を洗い流してください。

補水不要なバッテリ

◆密封タイプなので，急速充電や開封は厳禁です。

補水が必要なバッテリ

◆バッテリは，充電するとき引火性の強い「水素ガス」を多量に発生し，「引火爆発」を起こすことがあります。「火気」に近づけたり，「スパーク」による電気火花が発生しないようにしてください。

◆「水素ガス」が滞留しないよう，風通しのよい場所で充電をしてください。
失明や火傷をすることがあります。

◆バッテリ液（電解液）は，希硫酸で劇毒物ですので，こぼさないようにしてください。

◆バッテリを充電するときは，液口栓をすべて取外してください。

◆バッテリの液量が，側面に表示されている「下限」（LOWER LEVEL）以下になった状態で使用したり充電すると，バッテリの破裂（爆発）の原因となることがあります。

◆充電のとき，「バッテリ液」が飛散することがありますので，眼鏡などで目を守り，衣服や皮膚に付着しないようにしてください。

⚠警告 火傷や火災防止のために

共通（補水不要なバッテリ，補水が必要なバッテリ）

◆バッテリを取外すときはバッテリ⊖コードを先にバッテリの⊖端子（アース側）から外し，つぎにバッテリ⊕コードを⊕端子（プラス側）から外してください。取付けるときはバッテリ⊕コードを先にバッテリ⊕端子（プラス側）に取付けてください。逆の手順で作業するとショートや漏電を起こす原因となります。

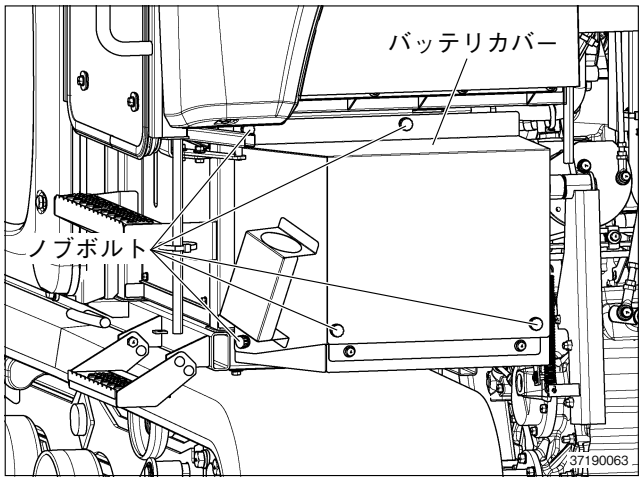
❶ バッテリ取付金具の点検

バッテリの取付けがゆるいと，バッテリが上下左右に動き，振動で電解槽やフタなどが摩耗したり，亀裂を起こすことがあります。

取付金具で，しっかり固定します。

取付金具などが腐蝕していれば取替えます。

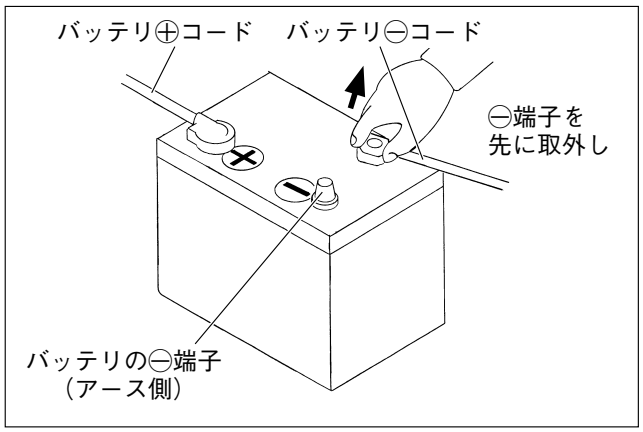
バッテリは車体右側，運転席前方下部にバッテリカバーがありますので，ノブボルト５本を外しバッテリカバーを取外します。



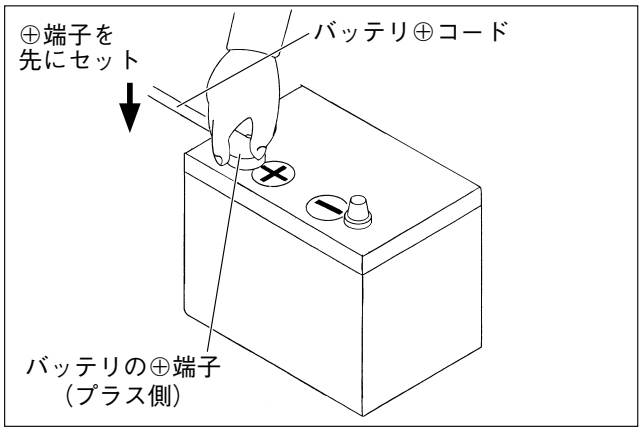
❷ バッテリ着脱時の注意

⑴ バッテリを**「着脱」**したり充電器で**「充電」**するときは，エンジンを停止し，スタータスイッチから**「キー」**を抜取ります。

⑵ バッテリコードを端子から取外すときは**「⊖端子（アース側）」**を先に外します。



⑶ バッテリコードを端子にセットするときは「**⊕端子（プラス側）**」を先に取付けます。



⑷ バッテリ上面に貼ってある取扱いの注意ラベルをよく読んでください。

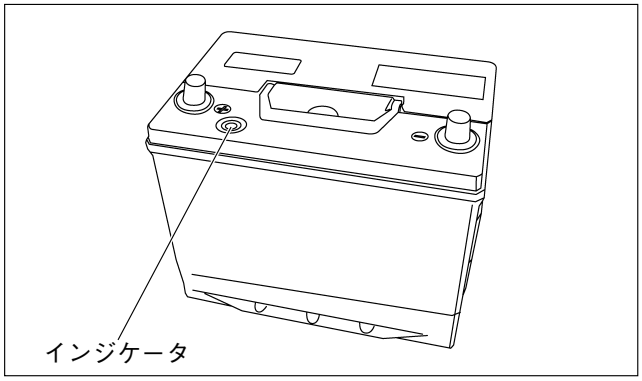
3-1 残存容量の確認（補水不要バッテリ）

⑴ バッテリは上面にあるインジケータの色で充電状態を確認します。下表を参照し，処置を行ってください。

表示の色	充電状態	処　　置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電
透明	液減り	交換

取扱いのポイント

●インジケータは真上から確認してください。



⑵ バッテリが破損して液漏れが発生しているときは，交換してください。

取扱いのポイント

●液漏れが発生すると車体が腐蝕する原因となります。

3-2 残存容量の確認（補水が必要なバッテリ）

⚠危険 傷害事故防止のために

◆バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの２種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下のことを守ってください。

◆バッテリは液面がLOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐにUPPER LEVELとLOWER LEVELの間に補水してください。

◆バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。電解液（希硫酸）によって火傷することがあります。

◆充電のとき，「バッテリ液」が飛散することがあるので，保護眼鏡などで目を守り，ゴム手袋を着用ください。

◆バッテリ液が皮膚に付着したり目に入ったときは，直ちに水洗いをし，医師の手当を受けてください。

◆衣服についたときは水洗いし，弱アルカリ性石けんで，硫酸分を洗い流してください。

バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。

⑴ バッテリ液の「比重」を測定する方法と，「バッテリテスタ」で測定する方法があります。

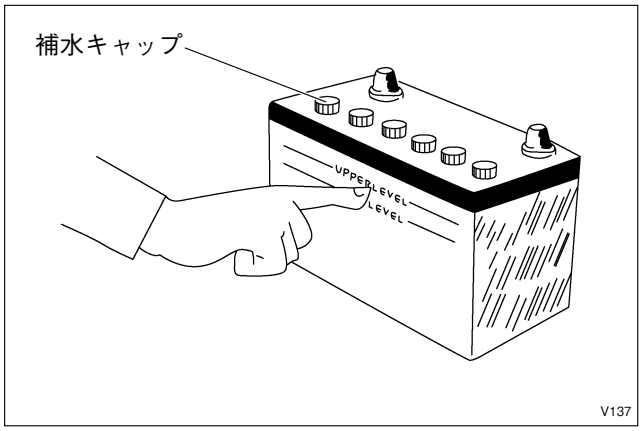
⑵ 残存容量が低下していれば，ただちに補充電をします。

⑶ バッテリ液の比重を比重計で測定し「1.220（20℃）」以下であれば補充電をします。

比重（20℃）	放電電気量（%）	残存容量（%）
1.280	0	100
1.240	25	75
1.200	50	50
1.160	75	25
1.120	100	0

⑷ バッテリテスタで測定するときは，バッテリテスタの取扱説明書に従って測定し，必要があれば補充電を行ってください。

⑸ バッテリ液の量を点検し，「UPPER LEVEL」（最高液面線）と「LOWER LEVEL」（最低液面線）の間の液量があるか確認し，不足しているときは補水します。



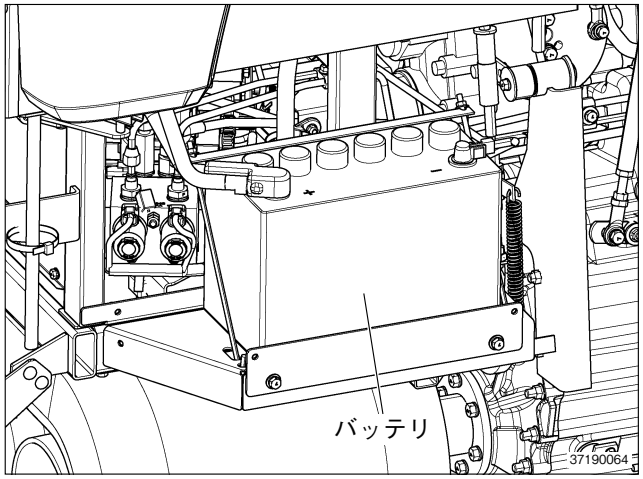
取扱いのポイント

- **バッテリ液が不足し極板が空気中に露出すると，バッテリ寿命は著しく短くなります。**
- **バッテリ液を補充する場合は，必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。**
- **バッテリに精製水を入れ過ぎないでください。液漏れして機械を傷めるおそれがあります。**

❹ ブースタケーブルによるエンジン始動

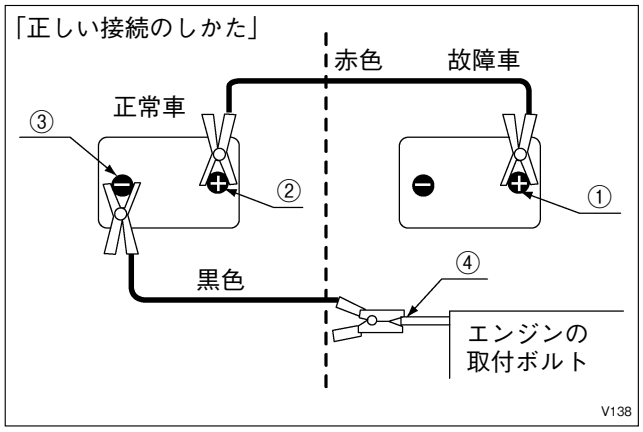
バッテリが放電し，エンジンが始動できないとき，他車（12V仕様車）の良好なバッテリを電源として始動する場合，ブースタケーブルを使用します。

このときは，つぎの手順を守って行います。



「ブースタケーブルの接続のしかた」

⑴ 正常車のエンジンを停止して，①～④の順序でブースタケーブルを確実に接続します。

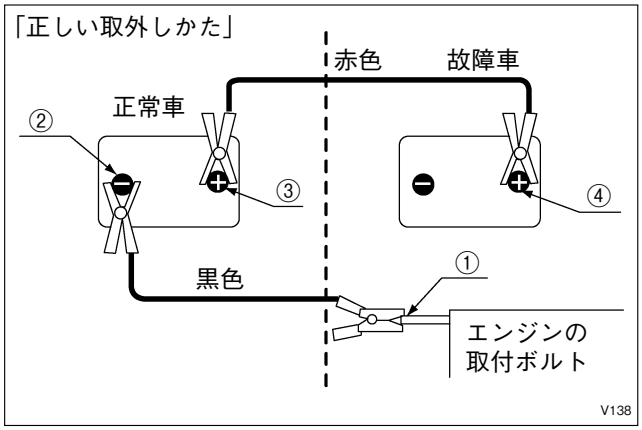


接続順序④は，ブースタケーブル（黒色）のクリップを機械のエンジンの取付ボルトに接続します。

⑵ 放電バッテリ搭載車のエンジンを始動します。エンジンがかかりにくいときは，正常車のエンジンをスタートしてから，放電バッテリ搭載車のエンジンをスタートさせます。

「ブースタケーブルの取外し」

・エンジン始動後のブースタケーブルの取外しは，**接続の場合と逆の順序**で行います。



❺ バッテリの充電

⚠危険 傷害事故防止のために

◆バッテリは，以下の順序で脱着してください。順序を誤ると，ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。
・取外し…（−)端子側(アース側)から外す。
・取付け…（＋)端子側を最初に接続する。

◆バッテリを転倒させたり，衝撃を与えたりしないでください。電解液（希硫酸）の漏れにより,失明や火傷をするおそれがあります。

◆バッテリを機械に取付けた状態での充電は避けてください。バッテリの引火爆発や機械損傷の原因となるおそれがあります。

◆バッテリを投げたり,落としたり,斜めにしたり,衝撃を与えたりしないでください。バッテリに入っている電解液(希硫酸)により，失明や火傷の原因となることがあります。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆バッテリの取付け方向を間違えないでください。（＋）と（−）が逆に取付けられると接続ケーブルが損傷し，火災の原因となるおそれがあります。

取扱いのポイント

●バッテリが完全に放電し，スタータスイッチを《入》にしても充電・オイルランプが点灯しない状態になった場合は，バッテリを交換してください。他のバッテリでブースターケーブルを使用してエンジンを始動すると高電圧が発生し，電装品を破損することがあります。

使用前またはつぎのような状態が発生したときは補充電を行ってください。また，補充電を行っても短期間で再発するときや状態が良くならないときは，バッテリの寿命ですので交換を行ってください。

・スタータモータの回転が，いつもより弱い。
・アクセルの加減で，前照灯の明るさが変わる。
・ホーンの音が，いつもより低い。

1．共通（補水不要なバッテリ，補水が必要なバッテリ）

⑴ 充電作業に取かかる前にエンジンを停止し，スタータスイッチ（始動キー）を抜取ります。

⑵ 機械からバッテリを取外します。

⑶ 「**水素ガス**」が滞留しないよう，風通しのよい場所で充電をします。

⑷ 「**火気**」を近づけたり「**スパーク（短絡)**」による電気火花が発生しないようにします。

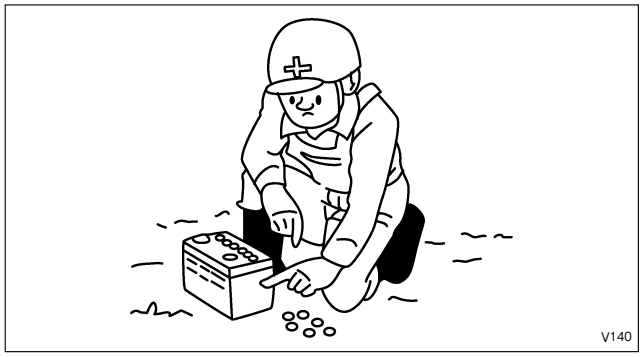
⑸ 充電器のクリップを着脱するときは，充電器のスイッチを「**切**」にし，⊕端子（赤色)・⊖端子（黒色）を正しく取付けます。

2．補水不要なバッテリ

⑴ 急速充電厳禁。

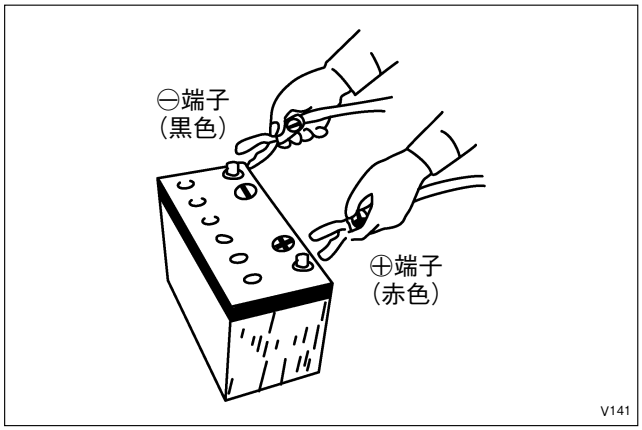
3．補水が必要なバッテリ

⑴ 充電前に「**補水キャップ**」をすべて取外します。



⑵ 急速充電はできるだけ避け，普通充電をし，液温が「45℃」を超えないようにします。

⑶ 補充電が終わったら「**補水キャップ**」をすべて取付けてください。



取扱いのポイント

- **各端子は，「ゆるみ」がないように締付けてください。**
- **取付けのとき，バッテリ端子部は布で油などをふき取っておきます。取付け後バッテリ端子部には，腐蝕防止のためグリースを塗布してください。**
- **バッテリ㊉端子のゴムブーツを，取付けておきます。**
- **厳寒時は，機械を格納するときに，バッテリを取外して暖かい所に保管してください。**
- **亀裂や変形のあるバッテリは，新品と取替えてください。汚れていれば，清水で洗浄してください。洗浄後は，水分をふき取ってください。**
- **バッテリを交換するとき，バッテリは下記指定のバッテリを使用してください。電圧や容量が違うと故障の原因となります。**

指定バッテリ…95D31R

- **バッテリはエンジン始動用ですから，ほかの用途には使用しないでください。**
- **バッテリはきちんと取付けてください。傾いたりすると転倒や液漏れの原因となります。**

9．各部の開閉と脱着のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆平坦な場所で行い，各クラッチを切り，エンジンを停止して，各部の回転が止まってから行ってください。

◆傾斜地では，開閉や脱着を行わないでください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆取外したカバー類は，取付けてください。

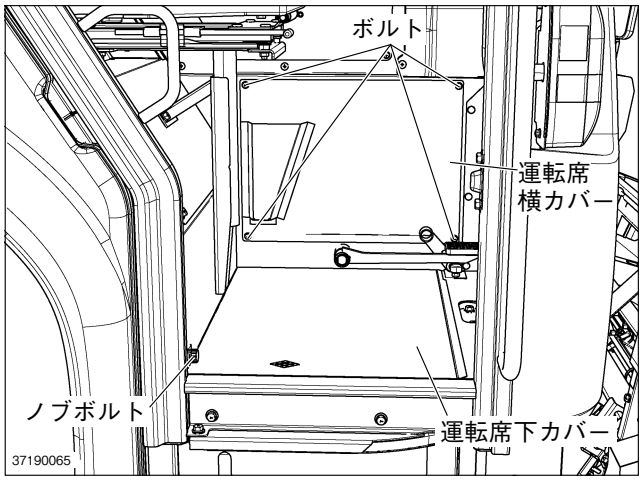
❶ 運転席下カバー，運転席横カバーの脱着

1．運転席下カバー

ノブボルトを取外して運転席下カバーを外します。

2．運転席横カバー

ボルト（M６）４本を取外して運転席横カバーを外します。



3．取付けは，取外しかたと逆の手順で取付けます。

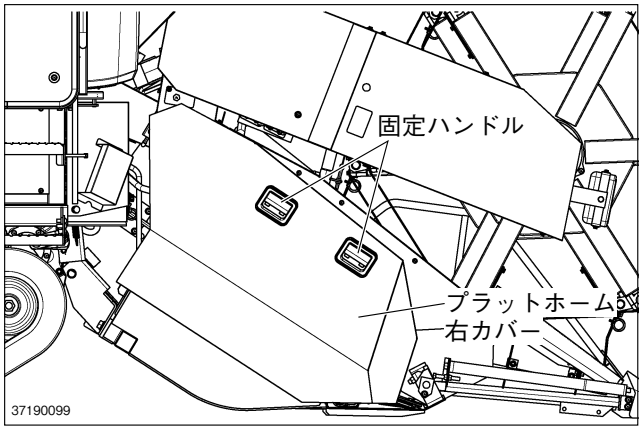
❷ プラットホーム右，左カバーの脱着

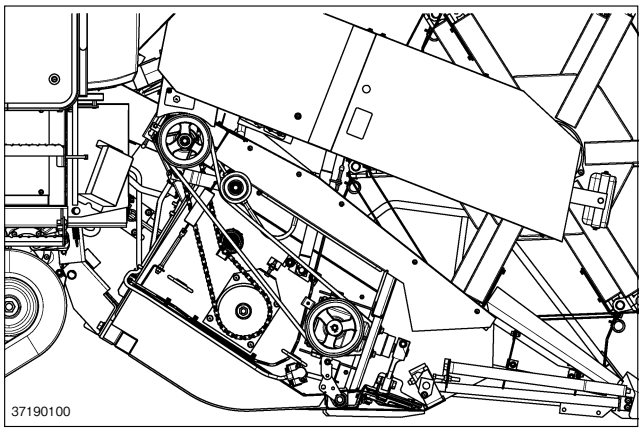
刈取部を地面に接地させて行ってください。

1．プラットホーム右カバー

⑴ 刈取部を地面に接地させ，エンジンを停止させます。

⑵ 固定ハンドルを引き，プラットホーム右カバーを取外します。

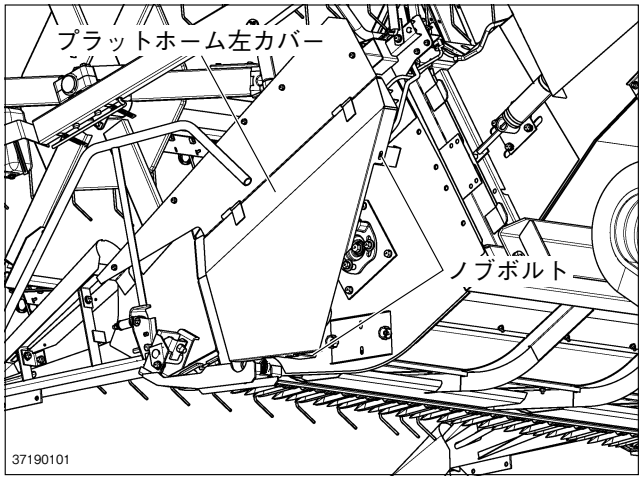


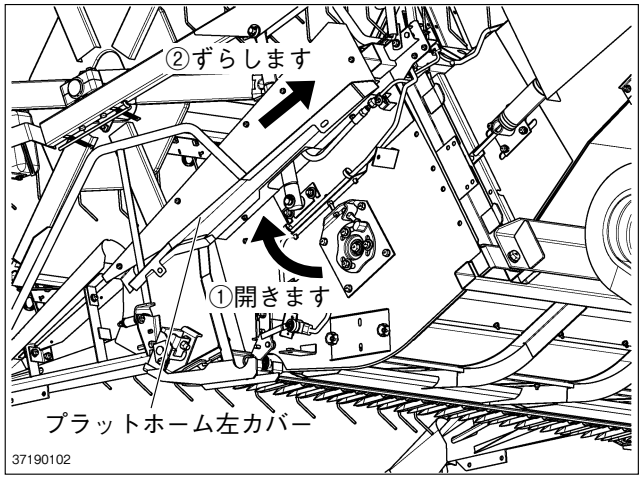


⑶ 取付けは，取外しかたと逆の手順で取付けます。

2．プラットホーム左カバー

⑴ ノブボルトを取外して，プラットホーム左カバーを開き後方へずらします。



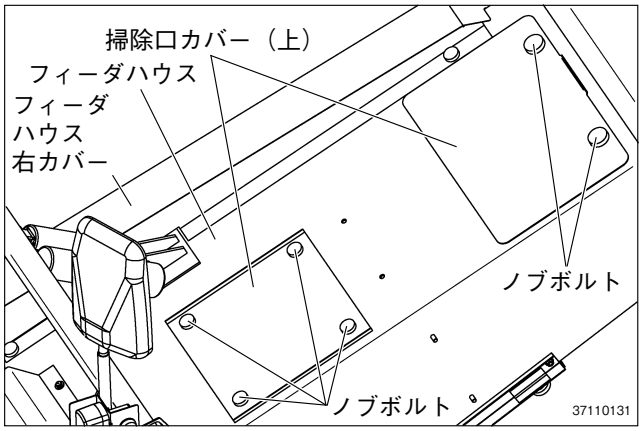


⑵ 取付けは，取外しかたと逆の手順で取付けます。

❸ フィーダハウス掃除口カバー（上），（下），フィーダハウス右カバーの脱着

1．フィーダハウス掃除口カバー（上）

⑴ ノブボルトを取外して，フィーダハウス掃除口カバー（上）を外します。



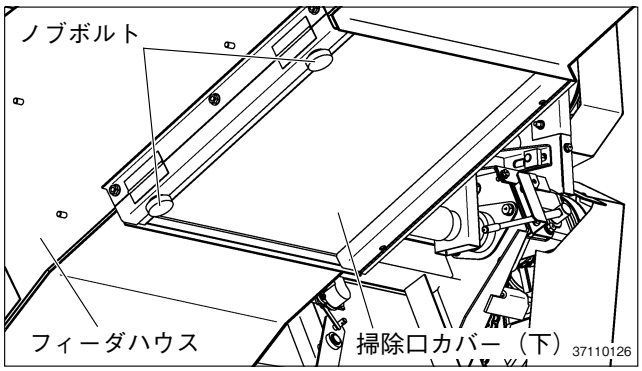
⑵ 取付けは，取外しかたと逆の手順で取付けます。

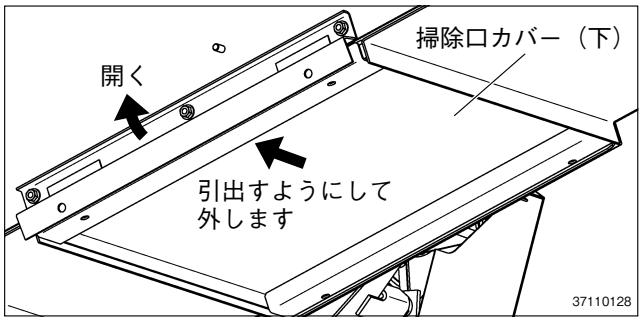
2．フィーダハウス掃除口カバー（下）

⑴ ノブボルトを取外してフィーダハウス掃除口カバー（下）を外します。

・ノブボルトを取外すときは，掃除口カバーを支えてください。

・開いて少し下げて，掃除口カバーを手で支えながら引出します。



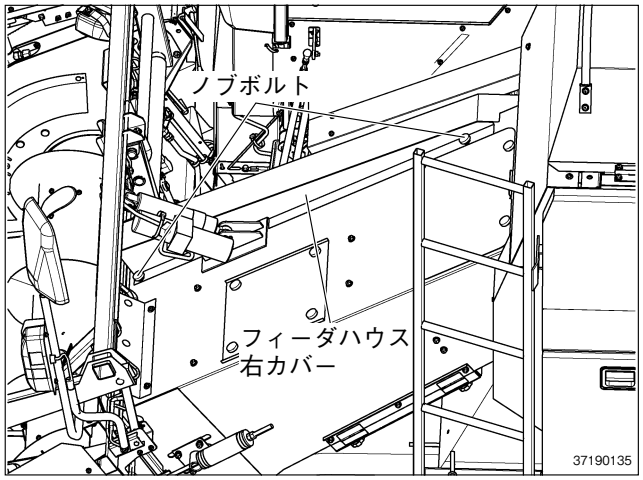


⑵ 取付けは，取外しかたと逆の手順で取付けます。

3．フィーダハウス右カバー

⑴ エンジンを始動してリールを前側に動かします。

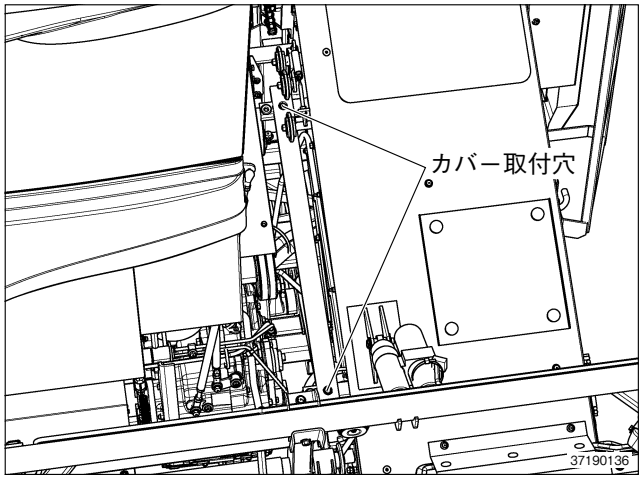
⑵ ノブボルトを取外して，フィーダハウス右カバーを取外します。



⑶ 取付けは，取外しかたと逆の手順で取付けます。

取扱いのポイント

●取付けるときに穴がありますのでカバーのピンを差込んでください。



❹ ロータカバーの開閉のしかた

⚠危険 火災や傷害事故防止のために

◆ロータカバーを開閉する前に排出オーガを上昇させ，キャビンのサイドウインドウを閉じてください。ロータカバーが接触し重大な災害が発生するおそれがあります。

◆ロータカバーを開くときは，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行ってください。
エンジンを停止した直後は，慣性でロータが回転しています。パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ「切」後，回転が確実に停止してからカバーを開けてください。

◆手や指をはさまれてケガをするおそれがあります。ロータカバーはゆっくりと開閉してください。

◆ロータカバーにのぼるときに転倒，転落のおそれがありますので，足元に気をつけて，安定した姿勢で行ってください。

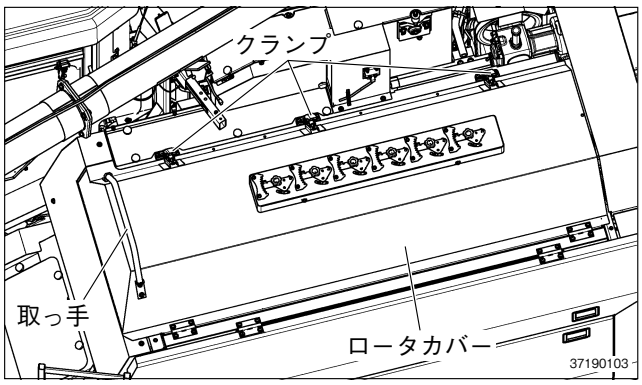
1．ロータカバーを開くときは

⑴ 排出オーガを上昇させ，キャビンのサイドウインドウを閉じます。

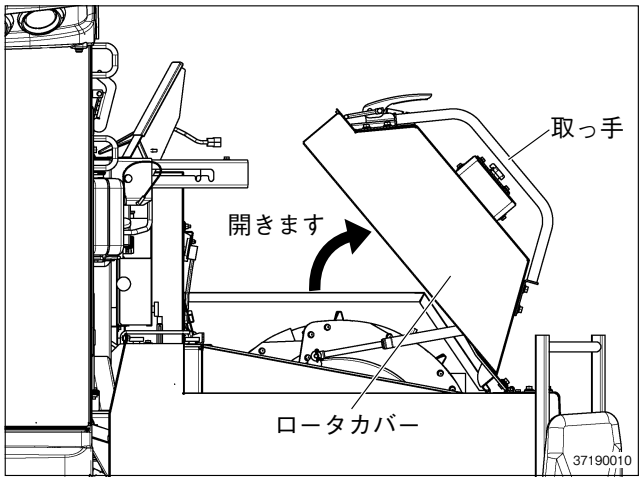
⑵ 機械を下げ，リールを下げた状態でヘッダ部を最上げにし，油圧固定をしてからエンジンを停止します。

⑶ ロータ部上面に上がります。（23～24ページ参照）

⑷ ロータカバーを固定しているクランプ３個を解除し，カバー側へたおしておきます。



⑸ フィーダハウスの上に乗り，ロータカバーの取っ手を持上げて開きます。



⑹ ロータカバーを閉じるときは，開くときと逆の手順で行います。

❺ ロータサイドカバーの開閉のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

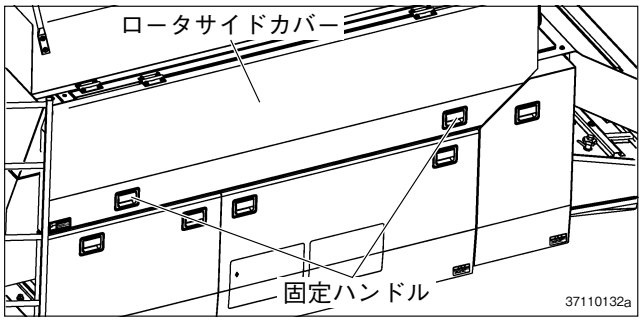
◆ロータサイドカバーを開くときは，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行ってください。
エンジンを停止した直後は，慣性でロータが回転しています。パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ「切」後，回転が確実に停止してからカバーを開けてください。

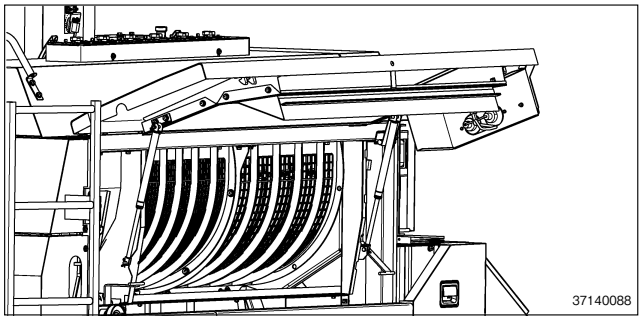
◆ハシゴを持ってロータサイドカバーは開閉しないでください。
また,ロータサイドカバーの開閉作業をしているときは,ハシゴを使用しないでください。

◆ロータサイドカバーを開いて周辺で点検作業など行うときは，保護具を着用して行ってください。
頭上からワラ屑の落下およびカバーの突起部にぶつかるおそれがあります。

1．ロータサイドカバーを開くときは

⑴ ロータサイドカバーの固定ハンドルを引上げ側に開きロックするまで手で完全に押上げてください。





⑵ ロータサイドカバーを閉じるときは逆の手順で行います。

❻ 脱こく左前カバー，左後カバーの取外しかた

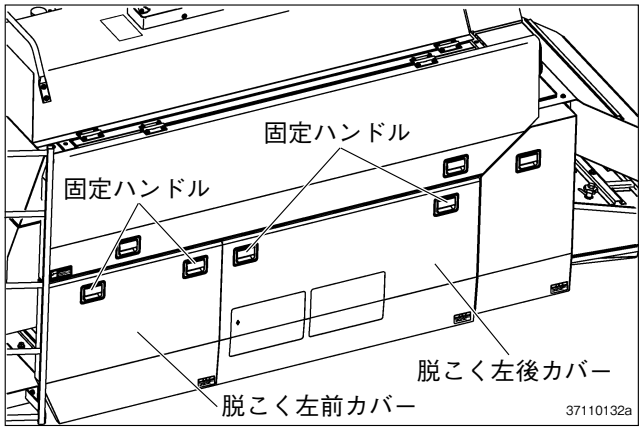
⚠警告 傷害事故防止のために

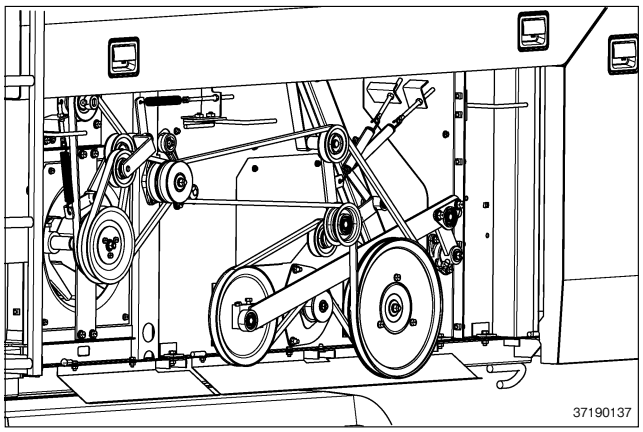
◆エンジンを停止して各部の回転が止まってから行ってください。
エンジンを停止した直後は，慣性で脱こく部が回転しています。パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ「切」後，回転が確実に停止してからカバーを開けてください。

1．脱こく左前カバー，脱こく左後カバーを取外すときは

⑴ 脱こく左前カバーの固定ハンドルを引き，取外します。

⑵ 脱こく左後カバーの固定ハンドルを引き，取外します。





⑶ 取付けは，取外しかたと逆の手順で取付けます。

❼ ロータ後カバーの取外しかた

⚠警告 傷害事故防止のために

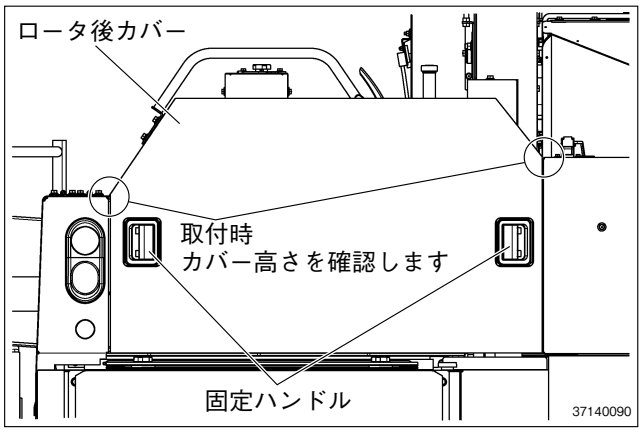
◆エンジンを停止して各部の回転が止まってから行ってください。
エンジンを停止した直後は，慣性でロータが回転しています。パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチ「切」後，回転が確実に停止してからカバーを開けてください。

1．ロータ後カバーを取外すときは

⑴ チョッパスプレッダを回動します。（次項目❽を参照）

⑵ ロータ後カバーの固定ハンドルを引き，取外します。

⑶ 取付けは，取外しかたと逆の手順で行います。



❽ チョッパスプレッダの回動のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

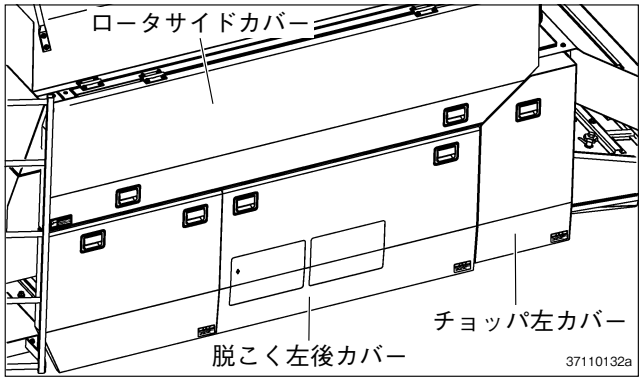
◆エンジンを停止して各部の回転が止まってから行ってください。
◆傾斜地では，チョッパスプレッダを回動しないでください。
◆チョッパスプレッダを開いているときは，チョッパスプレッダの刃先に注意してください。
◆チョッパスプレッダを開いて掃除をするときは，ストッパで固定をし，安全カバーをしてから作業を行ってください。

取扱いのポイント

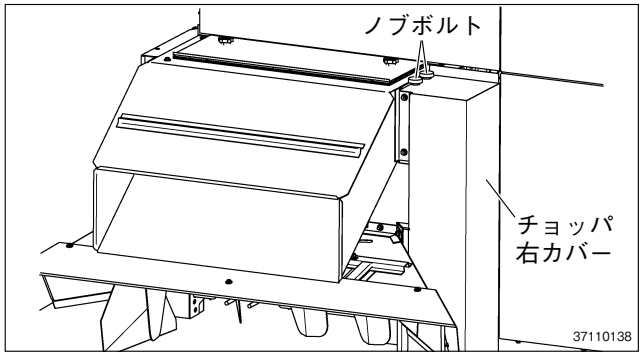
●ロータサイドカバーを開けてからチョッパスプレッダを回動してください。
順番を間違えますと，ロータサイドカバーが破損します。

1．チョッパスプレッダを開くときは

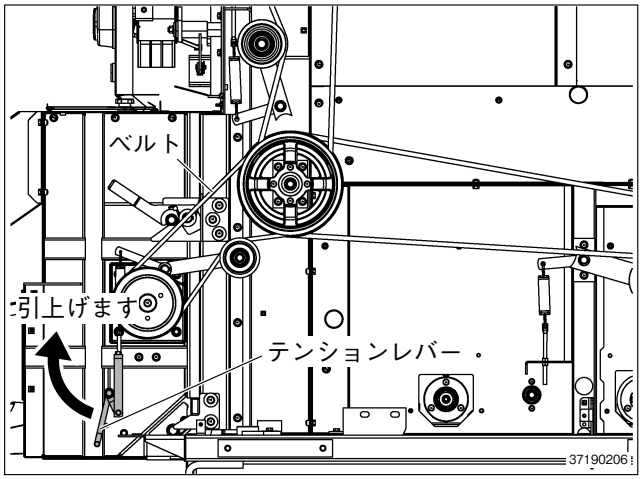
⑴ ロータサイドカバーを開き，脱こく左後カバーとチョッパ左カバーを取外します。



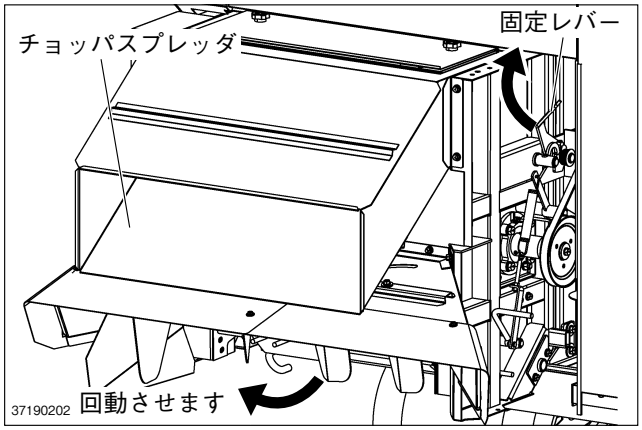
⑵ ノブボルト２本を外し，チョッパ右カバーを取外します。



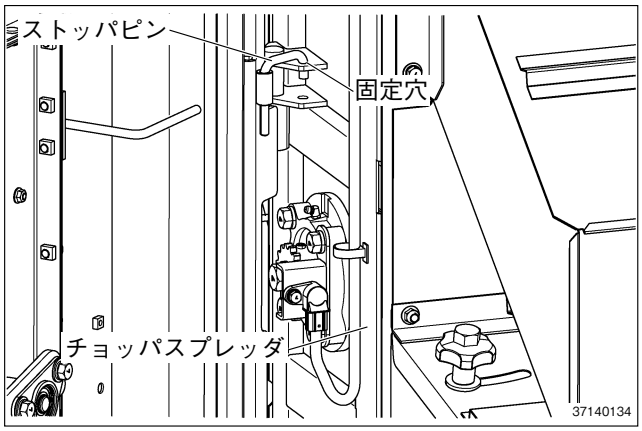
(3) チョッパスプレッダ右側のベルトテンションレバーを引上げベルトをゆるめて奥側のプーリからベルトを外します。



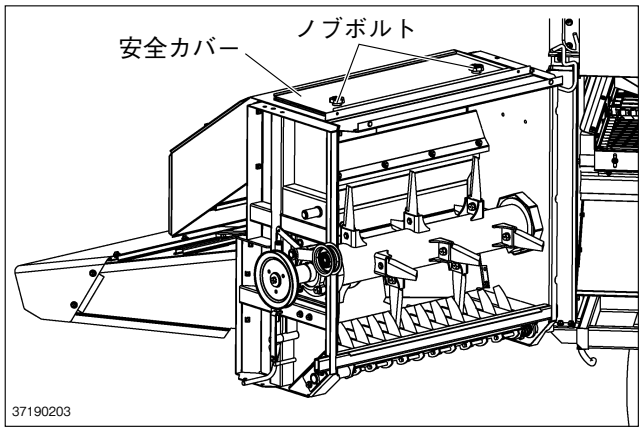
(4) 固定レバーを引上げてチョッパスプレッダを回動させます。



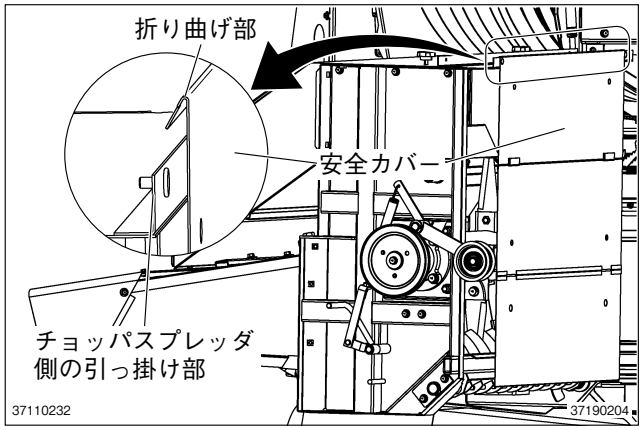
(5) 回動後，チョッパスプレッダをストッパピンで必ず固定してください。

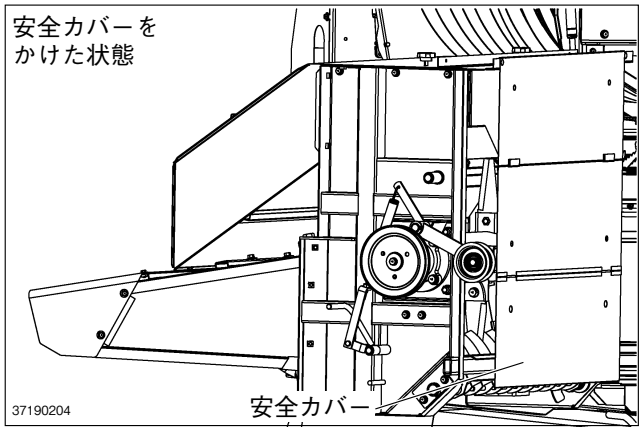


(6) チョッパスプレッダ上のノブボルト２本を外して，安全カバーを取外します。



(7) 安全カバーには折り曲げ部がありますので，その部分をチョッパスプレッダ側に引っかけてください。





２．チョッパスプレッダを閉じるときは

チョッパスプレッダを開くときと逆の手順で行います。

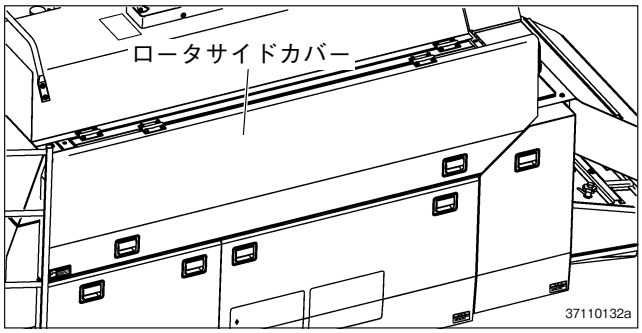
⑩ 揺動流板の脱着のしかた

⚠注意 傷害事故防止のために

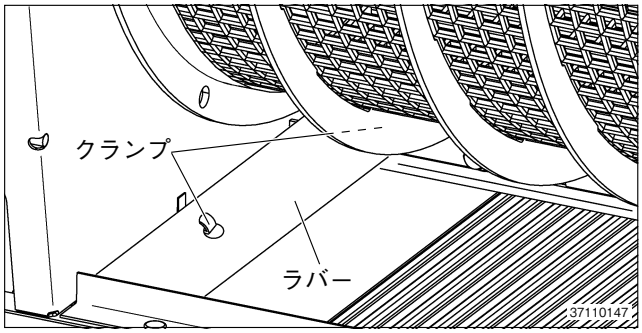
◆揺動流板の脱着作業は，２人作業で合図をかけ合って行ってください。

1．揺動流板の取外しかた

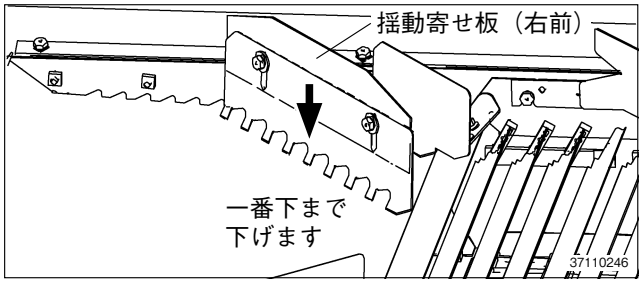
(1) ロータサイドカバーを開いてください。



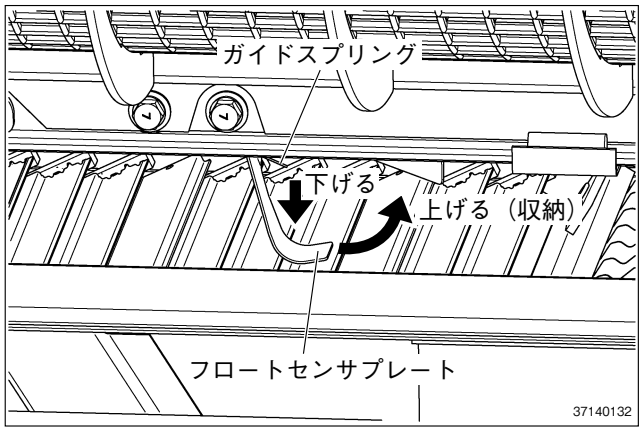
(2) 揺動流板先端のゴム板を持上げて，ラバーの穴にクランプを通して固定してください。（揺動流板の噛込みを防ぐため）



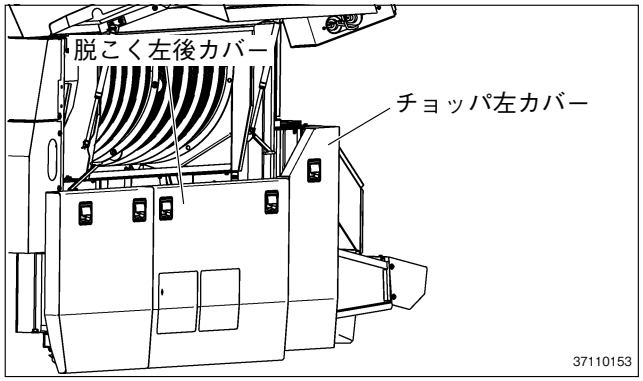
(3) 揺動寄せ板（右前）が上がっているときは，一番下まで下げてください。



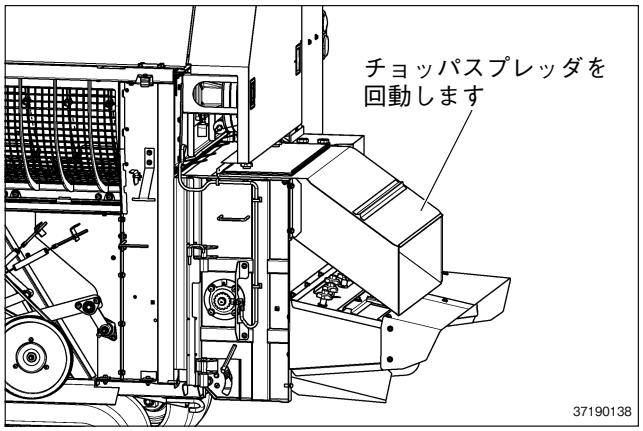
(4) フロートセンサプレートのガイドスプリングを下へ下げてから奥へ押込みフロートセンサプレートを上へ上げ『**収納**』にします。（２箇所）



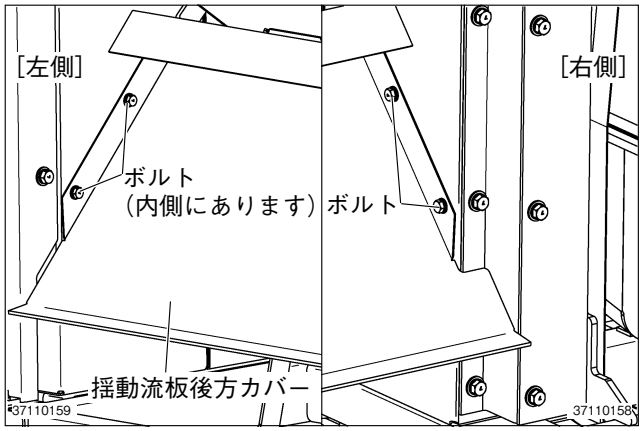
(5) 脱こく左後カバーとチョッパ左カバーを取外してください。



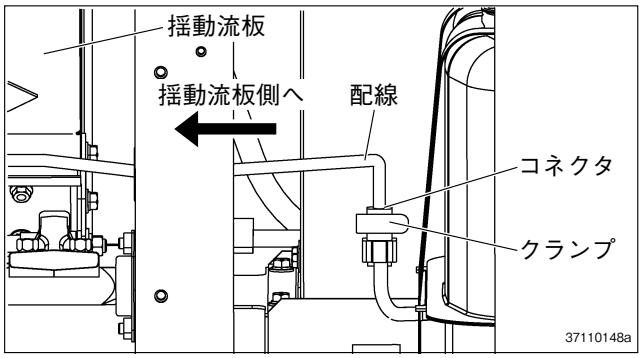
(6) チョッパスプレッダを回動してください。



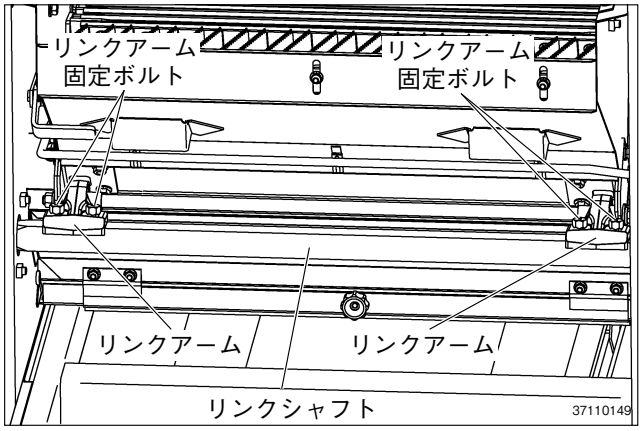
(7) 揺動流板後方カバーを取外してください。



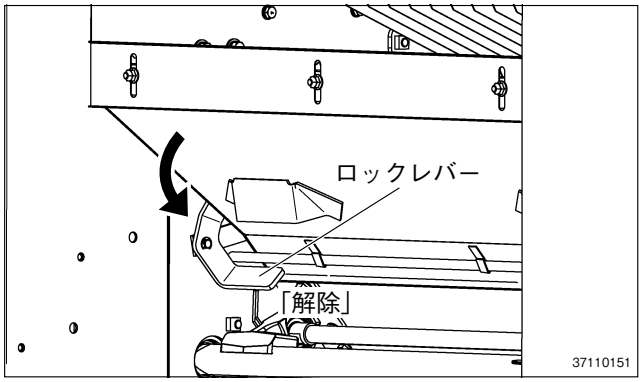
⑻ クランプから配線を外して，コネクタを外し，配線を揺動流板側に引出してください。



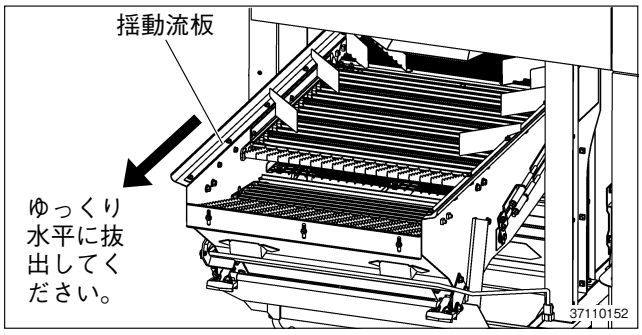
⑼ 揺動流板後部のリンクアーム固定ボルト左右各２本を外してください。



⑽ ロックレバーを「**解除**」位置に回動してください。



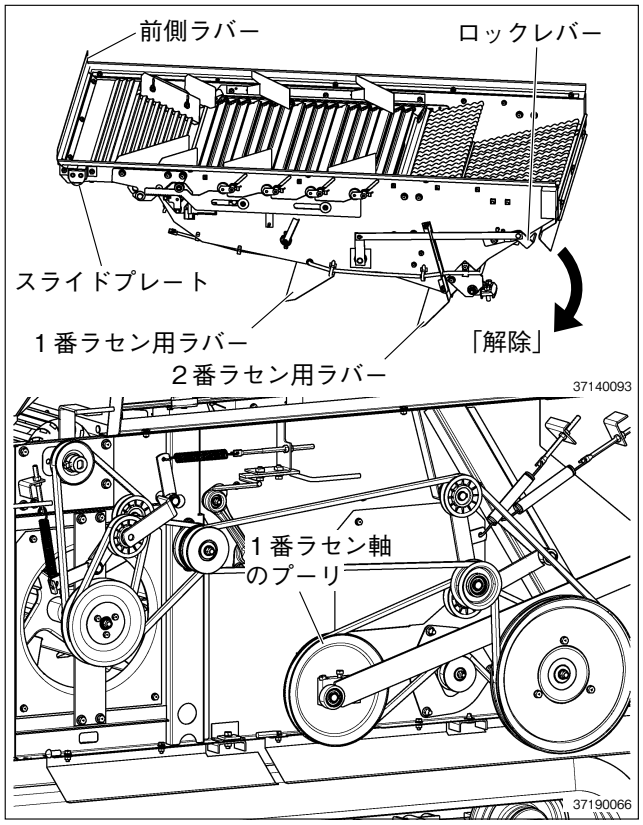
⑾ 揺動流板を２人で保持した状態で後方へゆっくり水平に抜出してください。



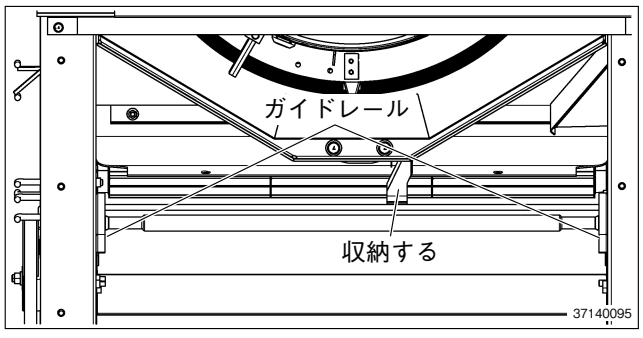
２．揺動流板の取付けかた

⑴ リンクシャフトのネジ穴が真上に向くように１番ラセン軸のプーリを手で回してください。

⑵ 揺動流板後方左側のロックレバーを「**解除**」方向に押に操作してください。



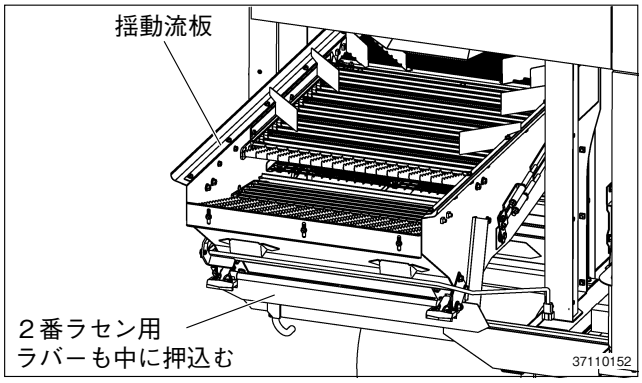
⑶ 脱こく内部側面の左右のガイドレールに揺動流板先端のスライドプレートをのせ，少しずつ水平に押込んでください。（２人作業）



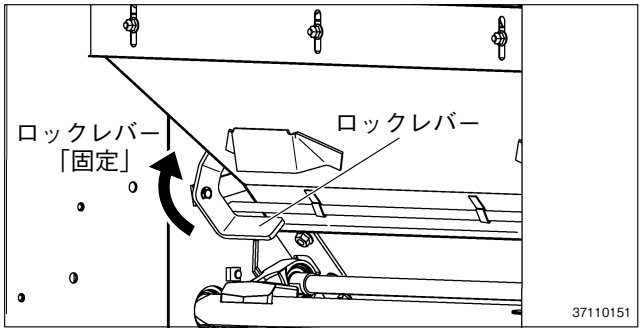
取扱いのポイント

●揺動流板を脱着作業する前にフロートセンサプレートが収納されている（上がっている）ことを確認してください。下がったまま作業をすると，センサおよびフロートセンサプレートが破損します。

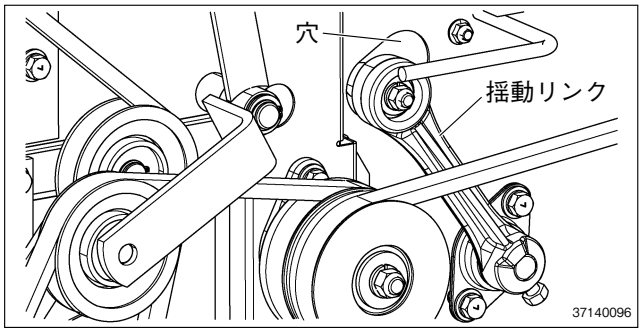
・揺動流板を押込むときに２番ラセン用ラバーも確実に押込まれているかを確認してください。
・揺動流板を押込んだときに揺動前側ラバーが確実に上側を向いているのを確認してください。

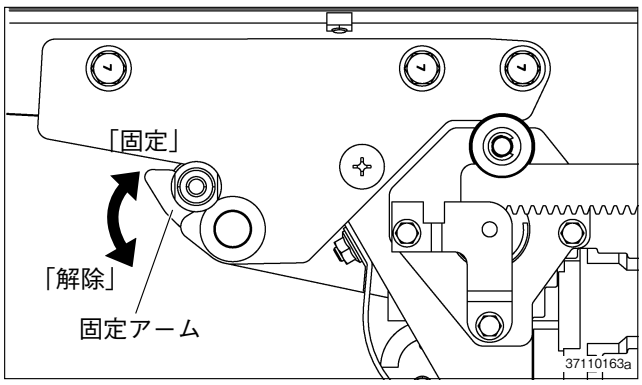


⑷ 揺動流板を最後まで押込んで，ロックレバーを**「固定」**位置に回動してください。



⑸ 左揺動リンクの穴から固定アームがシャフトにかかっていることを確認してください。
（揺動流板のロック部が見えます。）

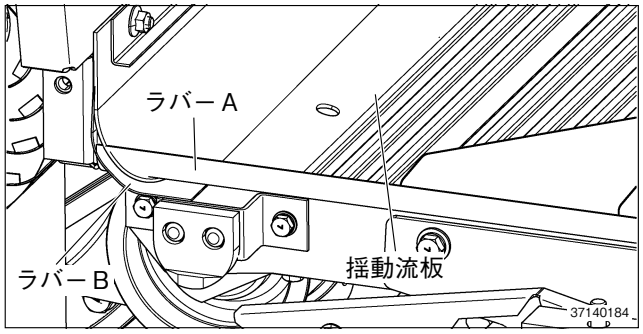




取扱いのポイント

- **固定アームがシャフトから外れている場合または確実に固定されていない場合は再度リセットし直してください。(⑵から)**
- **揺動流板が正常にセットされていないと機械の破損の原因となります。揺動流板は確実に奥まで押込んでロックレバーを確実に「固定」してください。**

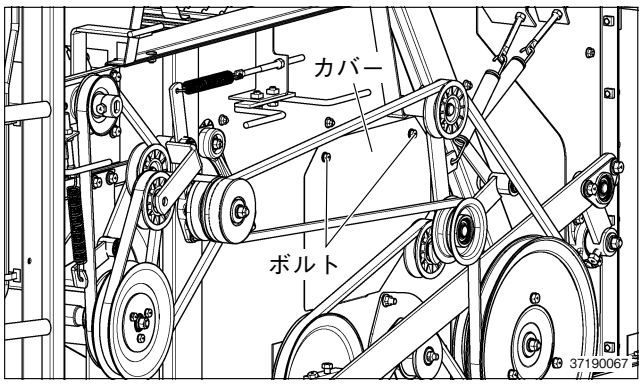
⑹ 揺動流板側面のラバーＡと前側のラバーＢがかみ込んで折曲がっていないことを確認してください。

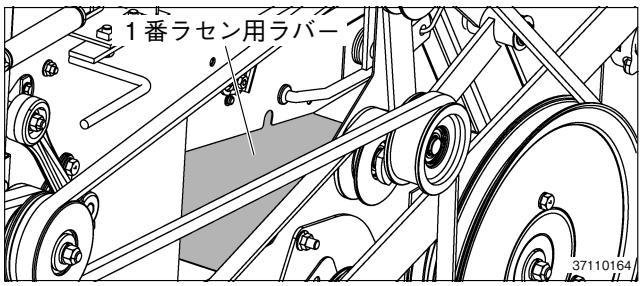


⑺ 揺動流板下部の１番ラセン用ラバーが折曲がっていないことを確認してください。

［確認の手順］

１．ボルトを２本外し，カバーを外してください。



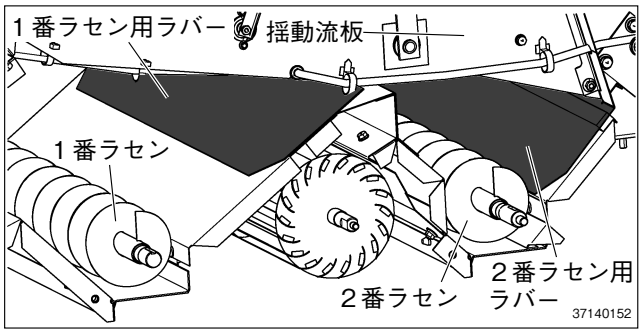


２．１番ラセン用ラバーが１番ラセンの斜面部分に収まっているか確認してください。

正しくセットされていない場合はセットし直してください。

３．揺動流板後部から見て，２番ラセン用ラバーが，２番ラセンの斜面部分に収まっているか確認してください。

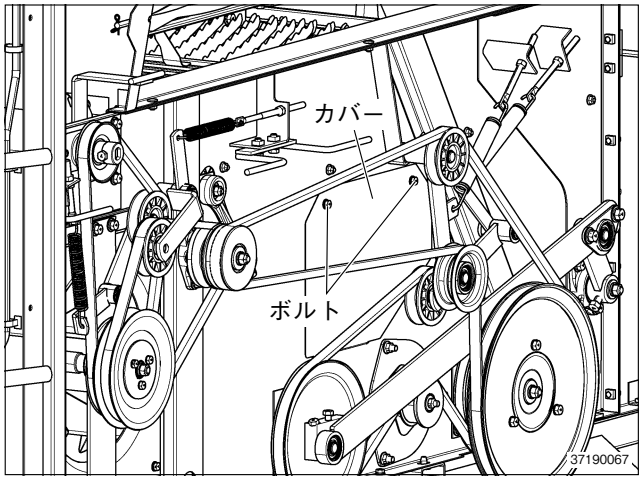
正しくセットされていない場合はセットし直してください。



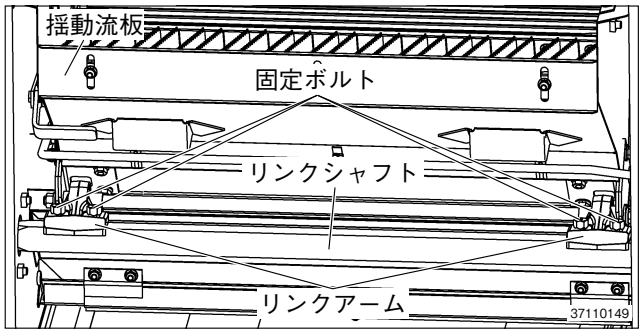
取扱いのポイント

●ラバーは正常にセットされていないとこく粒漏れの原因となります。

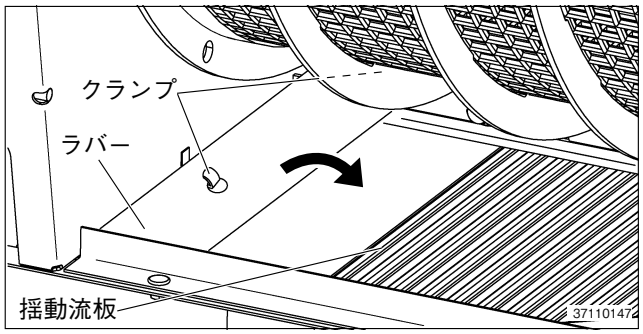
４．ラバーが正常にセットされていることが確認できたらカバーをボルト２本で取付けてください。



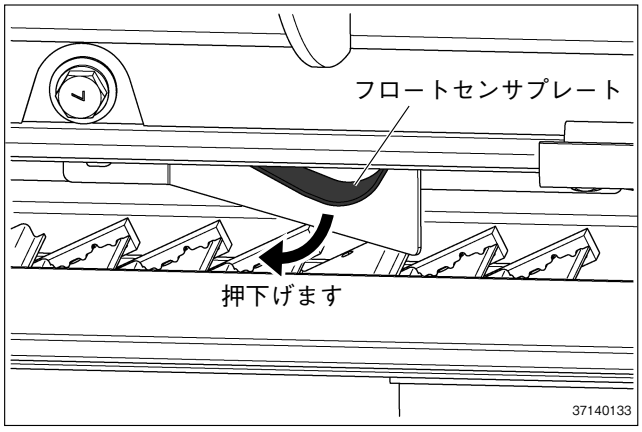
⑻ 揺動流板を手前に引きながらリンクアームとリンクシャフトの取付け穴を合わせて，固定ボルトで確実に締付けてください。



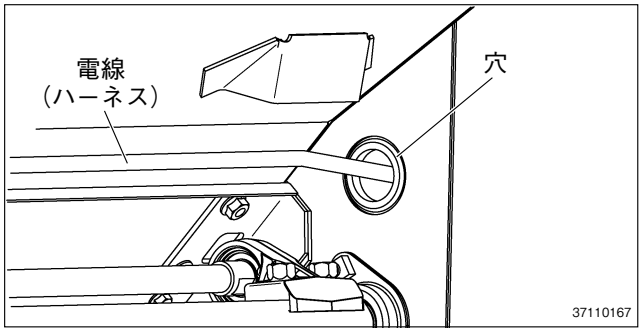
⑼ 固定したラバーをクランプから外し，揺動流板の上にたらしてください。



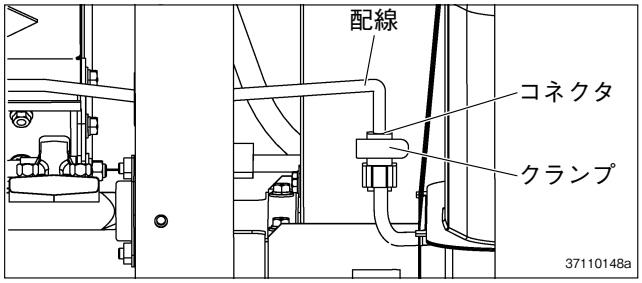
⑽ 稲，麦は上げたフロートセンサプレートを押下げます。（２箇所）大豆，そば，なたねは上げたままにします。



⑾ 電線（ハーネス）をゴムの付いた穴に通してグレンタンク側に出してください。

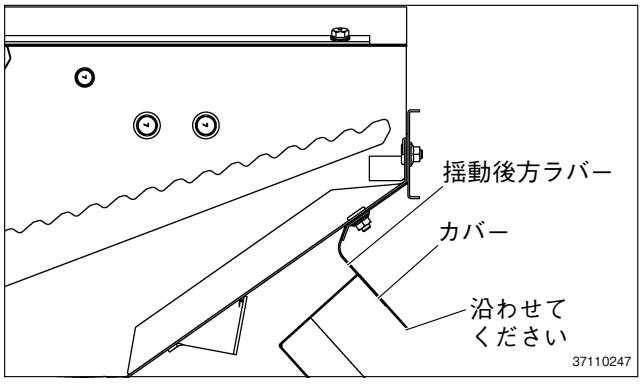


⑿ コネクタを接続してください。



⒀ 揺動流板後方カバーを取付けてください。

⒁ 揺動後方ラバーをカバーの上に沿わせて取付けてください。



⒂ チョッパスプレッダを取付けてください。

⒃ ロータサイドカバーを閉じてください。

⒄ 脱こく左後カバー，チョッパ左右カバーを取付けてください。

⓫ グレンタンクの回動のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆グレンタンクを回動するときは，平坦な場所で行い，各クラッチを切り，エンジンを停止して，各部の回転が止まってから行ってください。

◆スライドドアを閉じてからグレンタンクを回動してください。

◆グレンタンクを回動したら，ストッパをかけて，作業を行ってください。

◆グレンタンクを回動し，中で作業をする場合は，１番張り込みラセンがありますので保護具を着用し，頭上に注意して作業を行ってください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆取外したカバーは作業後取付けてください。

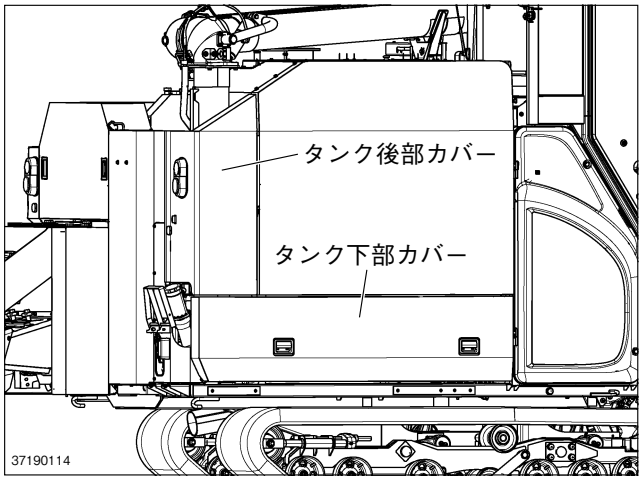
取扱いのポイント

●グレンタンク内にこく粒が入っていないことを，確認してから行います。
タンク内にこく粒が入った状態で回動させると，故障の原因となります。

エンジンおよびベルトの点検・整備や脱こく部の掃除・点検をするときは，グレンタンクを回動して，ストッパをかけて行います。

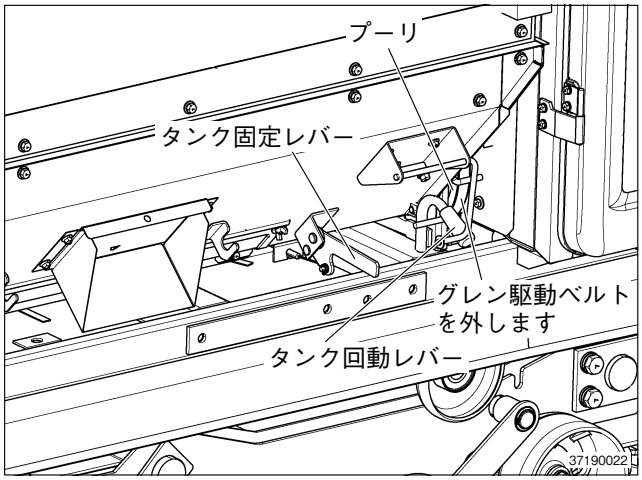
(1) タンク下部カバーを取外します。

(2) タンク後部のカバーを開きます。

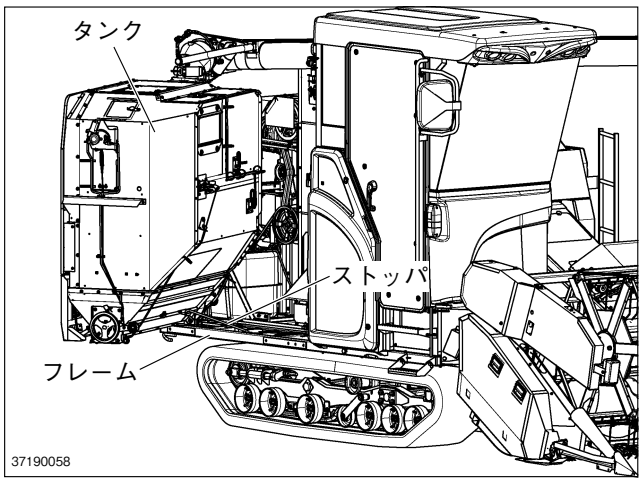


(3) グレン駆動ベルトを，プーリより外します。

(4) タンク回動レバーとタンク固定レバーを持上げながら，手前に引きタンクを回動します。



(5) タンクのストッパをフレームにかけます。



(6) 収納は逆の手順で行います。

(7) タンクを収納する途中で，タンク回動レバーのピンがフレームに当たり，回動しなくなります。この場合は，タンク回動レバーを持上げながら，タンク回動レバーのピンがフレームの穴に入るまで，タンクを押込みます。

取扱いのポイント

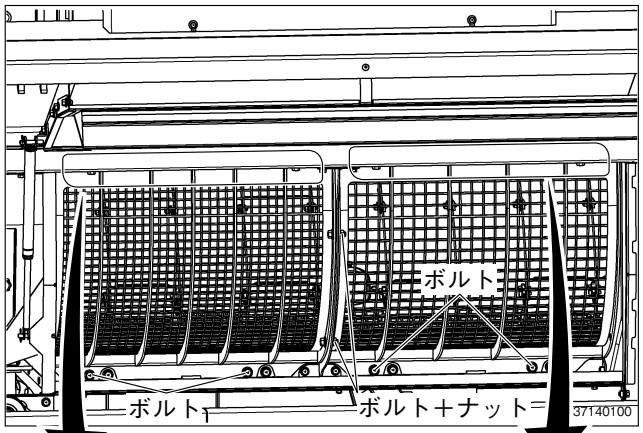
- **収納後は，ベルトのかけかたが間違っていないか，再度確認してください。**
- **タンク回動は，タンク回動レバー，タンク固定レバーの順で解除して操作をしてください。**
- **タンクの回動は，タンク回動レバーを持って行ってください。**

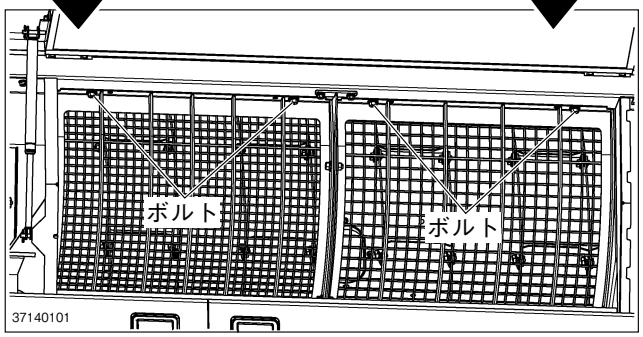
⑫ 脱こく受網の脱着のしかた

(1) ボルト＋ナット２組を外します。

(2) ボルト４本を外し，受網Ｃを取外します。

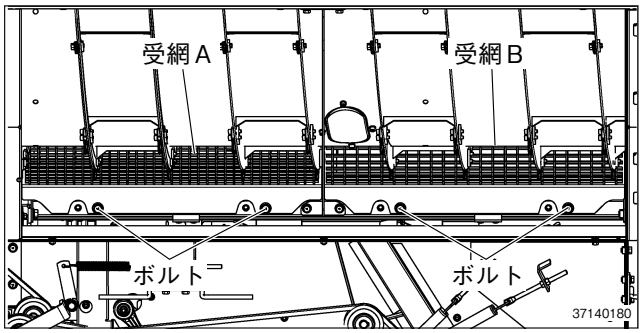
(3) ボルト４本を外し，受網Ｄを取外します。

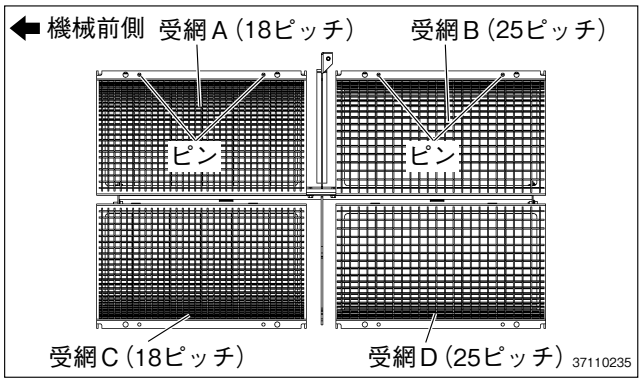




(4) ボルト２本を外し，受網Ａを取外します。

(5) ボルト２本を外し，受網Ｂを取外します。





(6) 取付け方法は，取外しの逆の手順で行います。

取扱いのポイント

●ボルト，ナットを脱こく内部に落とさないように注意してください。

10. 各部の掃除のしかた

機械の故障などトラブルが発生しないように，各部の手入れを行ってください。

⚠危険 傷害事故防止のために

◆フィーダやロータカバー上部に上がって作業を行うときは，転倒・転落のおそれがありますので，足元がすべらないように足場をじゅうぶん確保し，安定した作業姿勢で行ってください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆エンジンを止めてください。
◆取外したり，オープンした回転部のカバー類はそのままでは衣服などを巻込み危険ですので取付けてください。
◆各搬送チェーンや刃部には注意してください。ケガをするおそれがあります。
◆グレンタンクを回動し，機械内に入るとき，１番張り込みラセンが突き出していますので頭上に気をつけてください。
◆マフラカバーなど，冷めてから作業を行ってください。
◆ヘッダ部やリールを上げた状態で作業するときは，ヘッダ部を上げて，《油圧固定》位置にしてヘッダ部の下降防止を行ってください。
◆バッテリ，マフラやエンジン・燃料タンク周辺部にごみや燃料の付着，泥の堆積などがあると火災の原因になることがありますので，取除いてください。
◆刈刃の掃除・注油時は，手袋を着用し刃部に注意しながら行ってください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆空運転するときには各カバーを閉じてください。
◆オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。（クローラなどのゴム製品が劣化します）
◆作業後はカバー類を確実に取付けてください。

取扱いのポイント

- **水洗いするときは，電装品に水をかけないようにしてください。故障の原因になります。**
- **掃除口を閉じるときは，掃除口にこく粒の付着がないことを確かめてから閉じてください。また，掃除の後，ふたを忘れるとこく粒が飛散します。**
- **機内はよく乾燥させてから掃除してください。濡れているとこく粒が機内に付着してこく粒が残ることがあります。または，他作物の混入の原因になります。**
- **湿田で作業したあとは，必ずクローラ部分の泥を取除いてください。**
- **取外したボルト・ナットは，必ず締付けてください。**

各部の掃除

品種の混合を避けたいときや収穫シーズンが終わったときには，機内の残留こく粒をきれいに取除いてください。

掃除のしかた

刈取作業が終わり，こく粒の排出がすべて終わったあと脱こく部を約３分間空運転します。そのあと，パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《**切**》にしてエンジンを止めます。

掃除をするときには，各部をオープン（開閉）または，掃除口を開いてください。

脱こく部を掃除するときは，ワラクズや残粒を落とすために上から下へと作業を行うことをお奨めします。

１．グレンタンク部の掃除
２．脱こくロータ部の掃除
３．脱こく受網の掃除
４．揺動流板の掃除
５．１番コンベアの掃除
６．２番コンベアおよび２番上部ラセン部の掃除
７．１番ラセン底板・２番ラセン底板の掃除

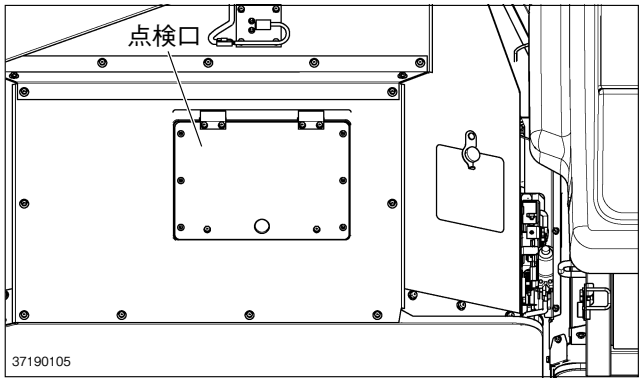
❶　グレンタンク部の掃除

⚠警告　傷害事故防止のために

◆グレンタンクの掃除をするときは，平坦な場所でエンジンを停止し，駐車ブレーキをかけ，各部の動きが止まってから行ってください。

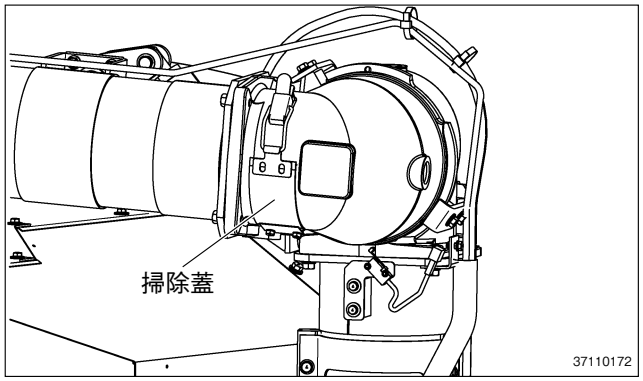
１．グレンタンク内の掃除

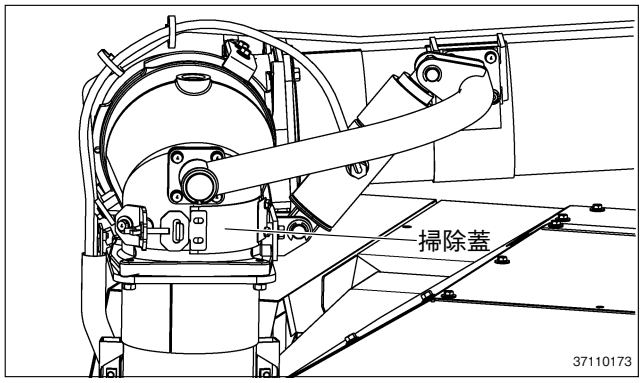
グレンタンク上部の点検口より確認し，必要に応じてホウキなどでホコリを払い，ゴミは，ラセンカバーを開いて外に出します。



２．縦ラセン筒上部の掃除

排出オーガを上げ，上部ラセン掃除蓋を開いて掃除をします。





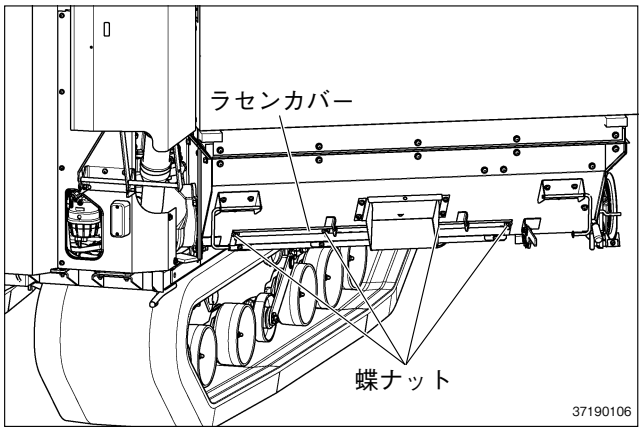
3．横ラセン部の掃除

⑴ グレンタンクの下部カバーを取外します。

⑵ タンクをいっぱいに回動し，ストッパをフレームにかけます。(127～128ページ参照)

⑶ 蝶ナットをゆるめて外し，ラセンカバーを開いて，掃除します。

⑷ ラセンカバーを蝶ナットで固定し，タンクを閉じてグレンタンク下部カバーを取付けます。

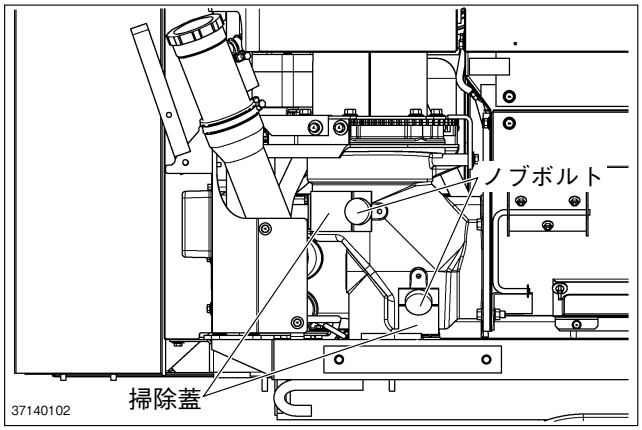


4．縦ラセン筒下部の掃除

⑴ グレンタンクの下部カバーを取外します。

⑵ 縦ラセン下部の掃除蓋を開いて，掃除します。

⑶ グレンタンク下部カバーを取付けます。



取扱いのポイント

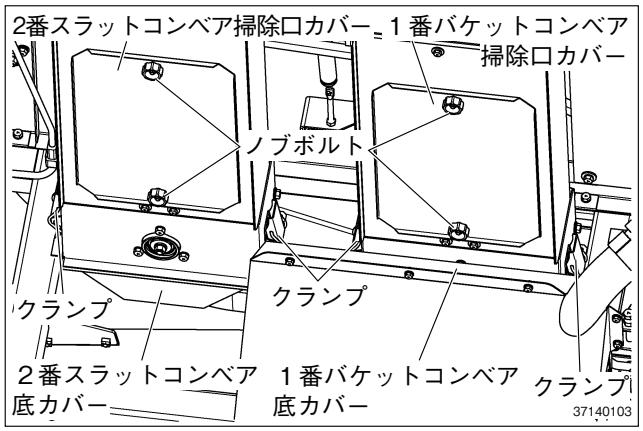
●各掃除蓋（カバー）は，モミ噛などによるスキマがないことを確認して，確実に締めてください。

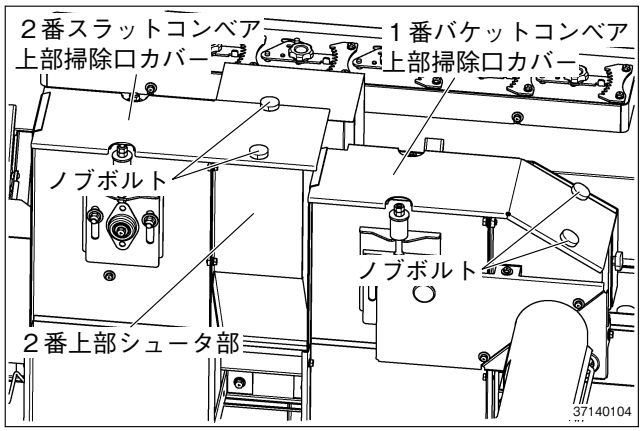
❷ １番バケットコンベア・２番スラットコンベア掃除口内および底カバー

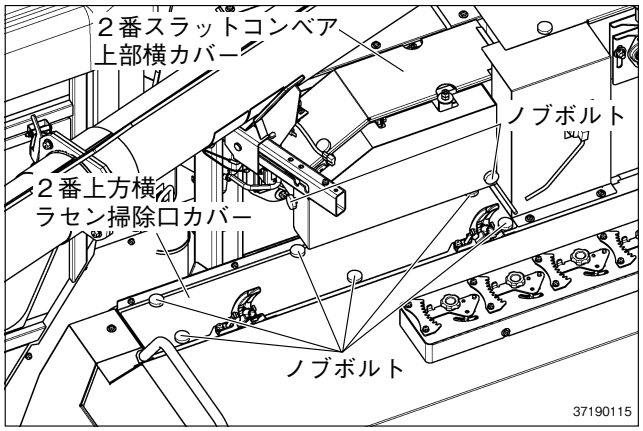
グレンタンクを回動してください。(127～128ページ参照)

ノブボルトを外し，１番・２番コンベアの掃除口カバー，クランプおよび各底カバーを取外して掃除してください。

掃除後は元通りにしてください。

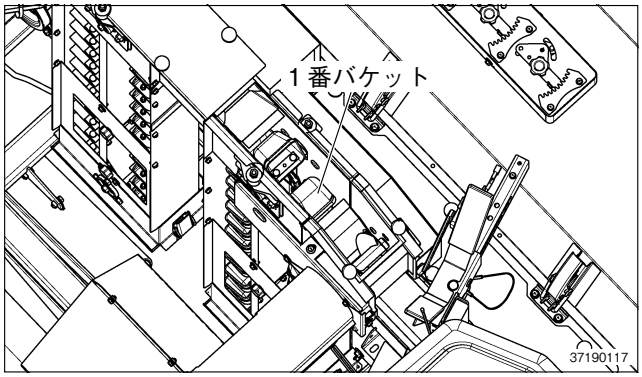


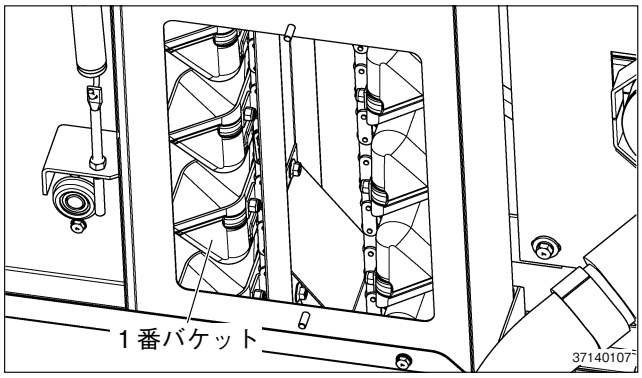


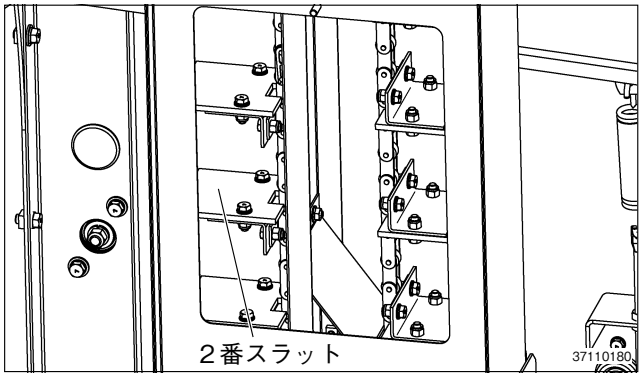


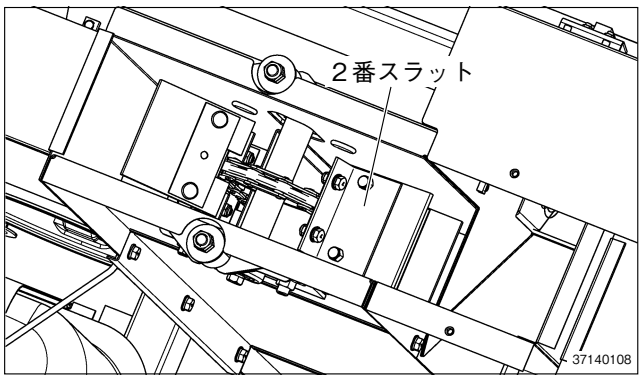
取扱いのポイント

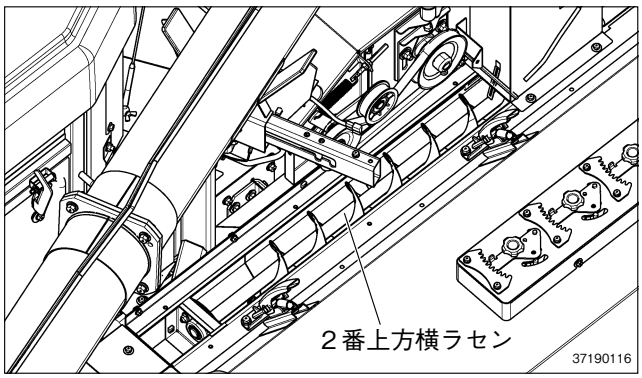
●バケットやスラットの汚れを布などでふき取ってください。







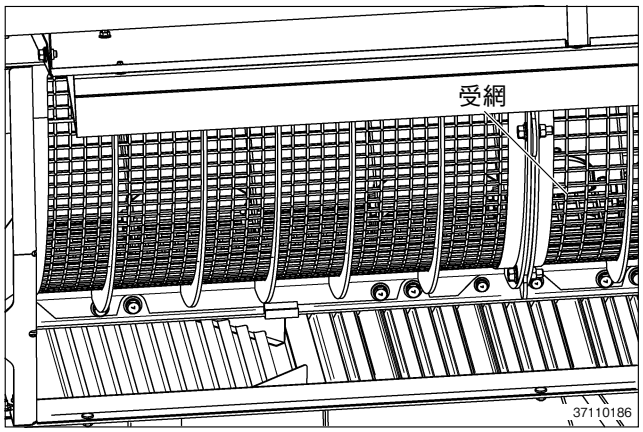




❸ 脱こく内部の掃除

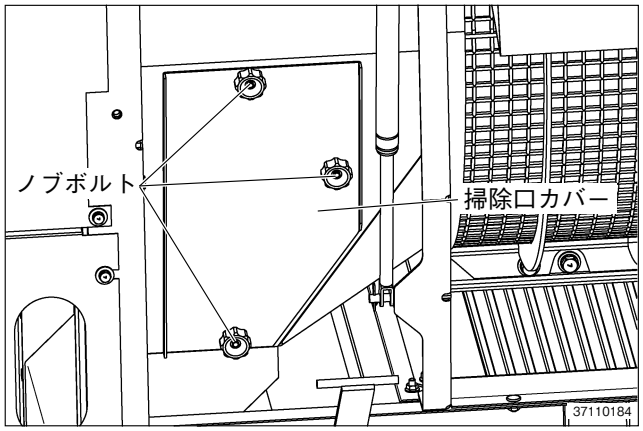
ロータサイドカバーを開き，脱こく左前，左後カバー，チョッパ左右カバーを取外し，チョッパスプレッダを開いてください。(121～122ページ参照)

(1) 受網を取外して掃除してください。

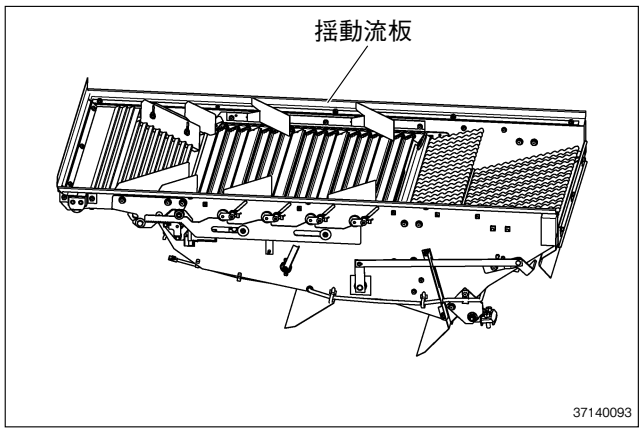


(2) ロータ入口板前側に掃除口があります。

掃除口カバーを取外して，掃除をしてください。掃除後，掃除口カバーを取付けてください。

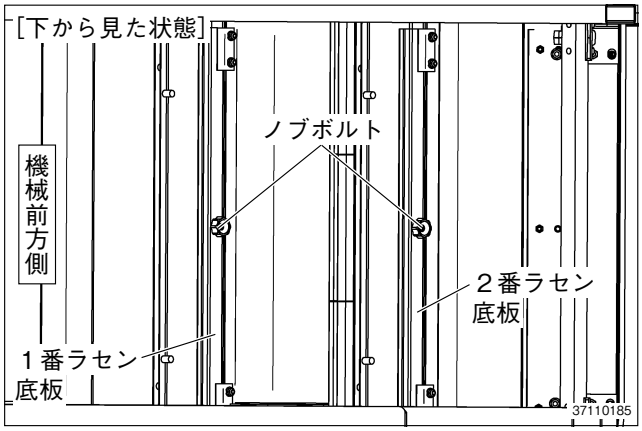


(3) 揺動流板を取出して掃除をしてください。(123～127ページ参照)



⑷　１番ラセン底板，２番ラセン底板を開き，１番ラセン，２番ラセンを掃除してください。

　掃除後は，１番ラセン，２番ラセン底板を閉じてください。

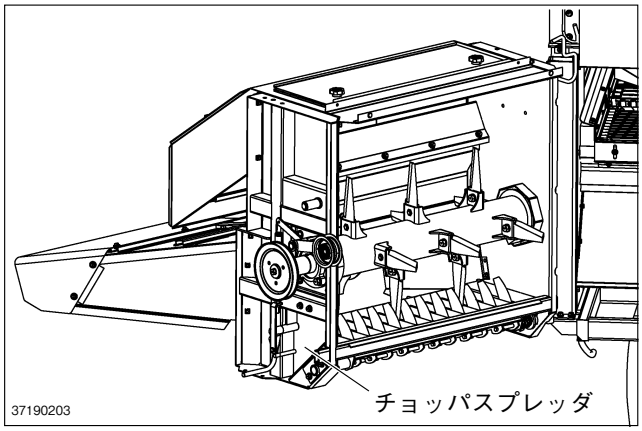


取扱いのポイント

●掃除後は底板の合わせ面が確実に閉じていることを確認してください。開いていると，こく粒が漏れます。

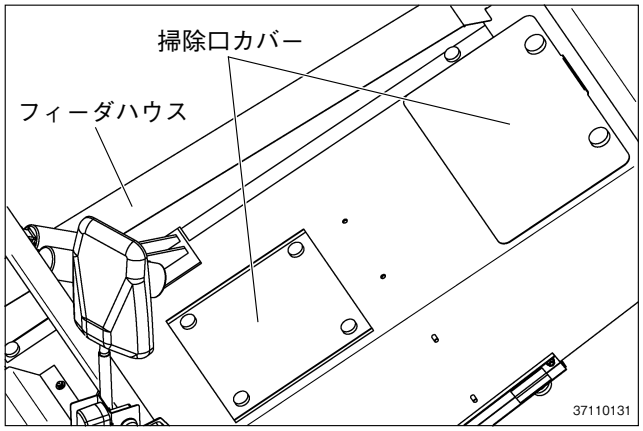
❹　チョッパスプレッダ内部の掃除

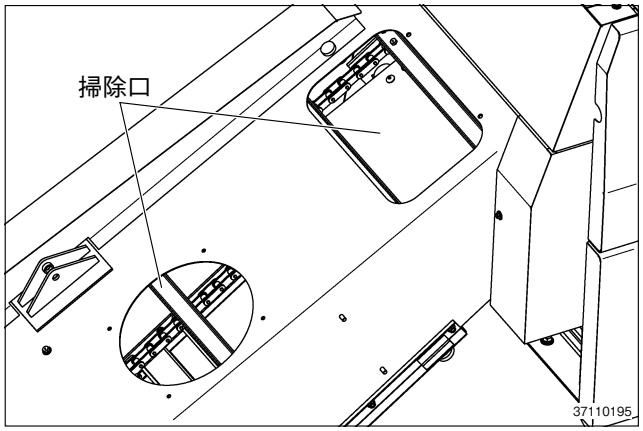
チョッパスプレッダを回動して掃除をしてください。掃除後はチョッパスプレッダを閉じてください。(121～122ページ参照)

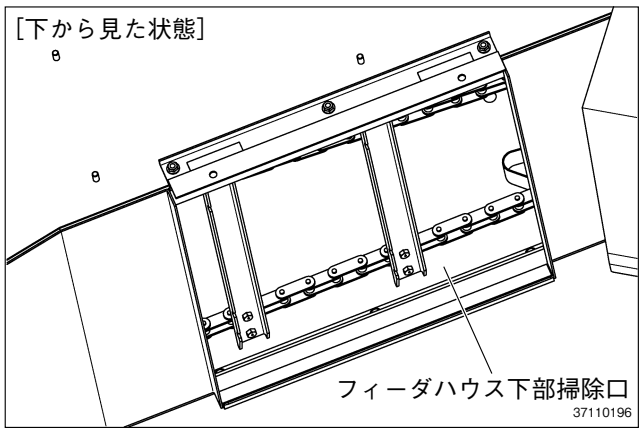


❺　フィーダハウス部の掃除

フィーダハウス上部，下部の掃除口カバーを取外して掃除をしてください。掃除後は掃除口カバーを取付けてください。(118ページ参照)





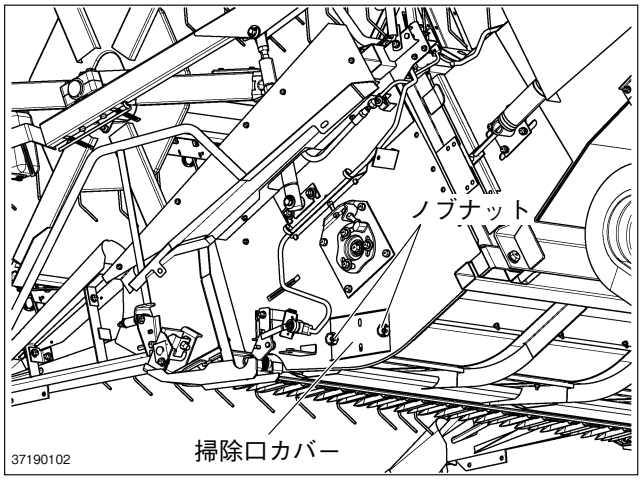


取扱いのポイント

●水分の高い作物などの刈取りを行うと，フィーダハウス内部に作物のくずが溜まりやすいので，刈取作業が終わった後は，必ずフィーダハウス内部の掃除を行ってください。

❻　ヘッダ部プラットホームの掃除

ヘッダ部左側カバーを開き掃除口カバーを取外し掃除をしてください。掃除後は掃除口カバーを取付けて，カバーを閉じます。(118ページ参照)

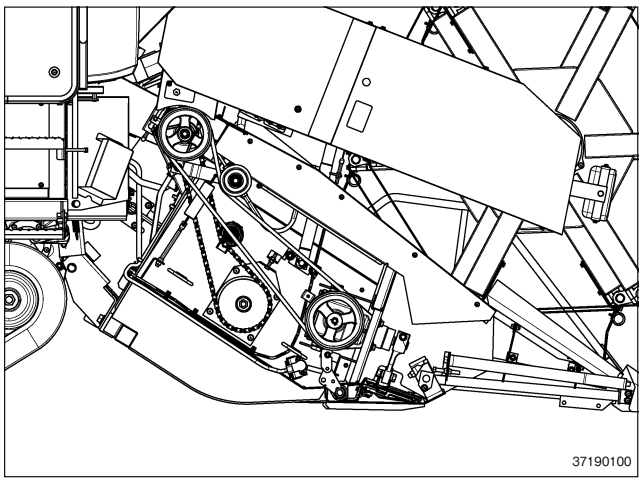


取扱いのポイント

●機械の左を下げるように機械を傾けると，掃除が容易にできます。

❼　ヘッダ部右側の掃除

ヘッダ部，プラットホーム右カバーを取外して掃除をしてください。掃除後は，プラットホーム右カバーを取付けてください。(118ページ参照)



11．各部の点検と整備のしかた

各部は出荷のときに正しく調整されていますが，使用による摩耗や伸びが生じてくることがありますので点検を行い，再調整が必要な場合や，損耗の限度をこえた部品は調整・交換し正しく使用できる状態にしておきます。

⚠警告　傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整は機械を平坦な場所に置き，駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行ってください。

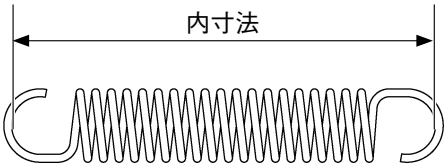
◆調整後は，異常なく作動することを試運転で確認してください。

⚠注意　傷害事故防止のために

◆各部の点検と調整で外したカバー類は全て，元の位置に取付けてください。

取扱いのポイント

●スプリングの取付長さは，フックの内寸法を測定してください。



❶ ホース類の点検と交換

⚠警告 火傷や火災防止，傷害事故防止のために

◆燃料ホースの損傷（割れ，破れ，継ぎ部のゆるみ），外皮の剥れおよび継ぎ部より燃料が漏れてないか確認し，損傷したり漏れている場合は，火災の原因となりますので交換してください。

◆ラジエータホースの継ぎ部のゆるみを確認してください。運転中ラジエータホースが外れると，熱湯が吹き出し火傷をする場合があります。

◆油圧ホースの損傷（割れ，破れ，継ぎ部のゆるみ），保護材の外れおよび継ぎ部よりオイルが漏れていないか確認し，損傷したり漏れている場合は走行停止，刈取部の落下など事故の原因となりますので交換してください。

燃料ホース，ラジエータホース，油圧ホースなどの燃料漏れ，水漏れ，油漏れがないかを点検します。また，締付けているバンドやホースの継ぎ部が，ゆるんでいないか点検をします。

漏れ，ゆるみ，損傷のある場合は交換が必要ですので「**お買いあげ先**」に依頼してください。

取扱いのポイント

- **燃料ホースは，定期交換部品ですので，２年毎に交換してください。**
- **燃料ホースを交換したときは，燃料のエア抜きをしてください。（106～107ページ参照）**
- **油圧ホースは定期交換部品ですので２年毎または，300時間の早い方で交換してください。**

❷ エアコン配管点検

⚠警告 火傷，火災，傷害事故防止のために

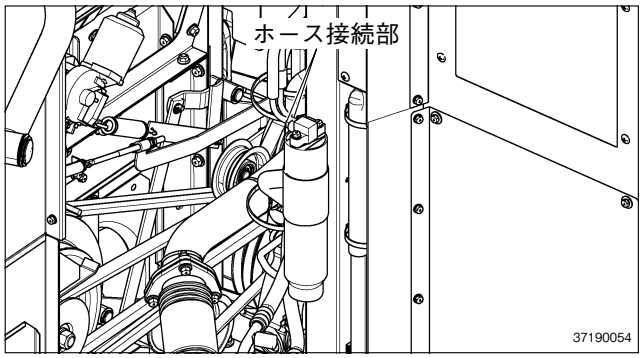
◆ウォータホースの継ぎ部のゆるみを確認してください。運転中ウォータホースが外れると，熱湯が吹き出します。

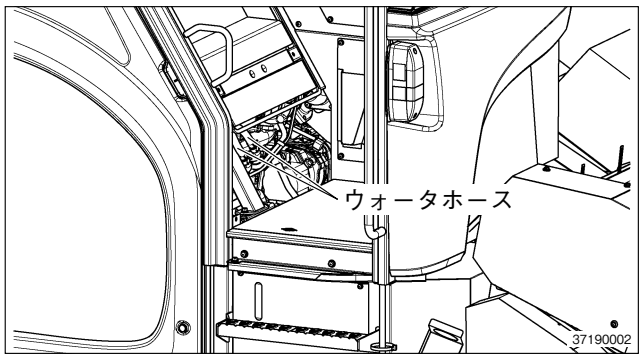
⑴ **点検**

コンデンサ，レシーバ，コンプレッサのホース接続部およびエアコン配管に劣化や傷によるガス漏れ，油にじみがないか，また締付バンドがゆるんでいないか点検します。

⑵ **処置**

ガス漏れ，油にじみ，締付バンドのゆるみがある場合はただちに「**お買いあげ先**」で点検を受けます。





●エアコン機器の簡易点検

当機搭載のエアコン機器は，フロン排出抑制法により３ヶ月に１回以上の簡易点検が義務付けられています。点検を行い，その記録を残してください。点検記録は，当機を使用中および廃棄後３年間は保存してください。当機を譲渡する場合は，譲渡先に点検記録を渡してください。

冷媒（ガス）の漏えいを発見した場合は，速やかに「**お買いあげ先**」に漏えい箇所の修理を依頼してください。

このエアコンは，フロン排出抑制法に定める第一種特定製品です。

1．フロン類をみだりに大気中に放出することは禁じられています。
2．この製品を廃棄・整備をする場合には，フロン類の回収が必要となります。回収業者に依頼のうえ，回収済みの証明をもらってください。
3．フロン回収済みの証明がなければ，廃棄物およびリサイクル業者による製品の引取りは禁止されています。
4．冷媒の種類および数量

種類	冷媒番号	GWP値	数量（kg）
HFC	R134a	1430	1.0

❸ 電気配線の点検のしかた

⚠警告 火傷や火災防止のために

◆バッテリや配線に付着しているワラクズやゴミは作業前，作業後にきれいに取除いてください。ワラクズやゴミが付着していますと，火災の原因になります。

電気配線コードが他の部品のエッジ部に接触して，被覆の剥がれや傷，接続部のゆるみがないか点検してください。配線コードが傷んでいる場合は，「**お買いあげ先**」にて交換してください。

❹ 刈刃の調節のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

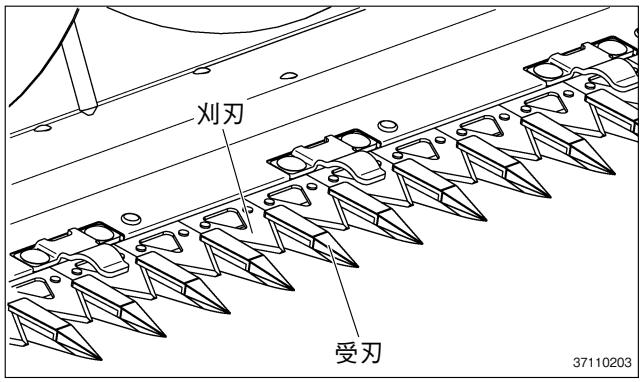
◆ヘッダ部を上げて作業するときは，油圧固定スイッチを《油圧固定》位置にし，ヘッダ部を固定脚に載せて固定してください。固定しないと，ヘッダ部が急に下がり，ケガをするおそれがあります。
◆刈刃の手入れや交換をするときは，厚手の手袋を着用し，刃先をさわらないでください。ケガをするおそれがあります。

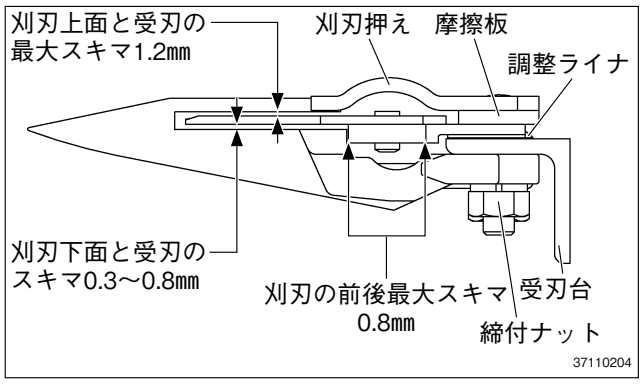
刈跡が揃わなくなったときは，刈刃のスキマを調節してください。

調節は「**お買いあげ先**」に依頼してください。

調節のしかた

⑴ リールを最上げにしてください。
⑵ 受刃と刈刃上下面のスキマは，受刃先端を銅ハンマーで軽くたたいて調節するか，締付ナット（M10）をゆるめて，調整ライナで調節してください。
●受刃と刈刃上面……最大スキマ1.2㎜
●受刃と刈刃下面……スキマ0.3～0.8㎜
⑶ 刈刃の前後スキマは，締付ナット（M10）をゆるめて，摩擦板を前後に動かして，最大0.8㎜に調節してください。
⑷ 締付ナット（M10）を締付けて固定してください。





［重要］

●**締付ナットは，締付けすぎないように注意してください。**
●**刈刃には食品衛生上，食品機械用潤滑油を使用して，注油してください。**
●**シーズン終了後には，刈刃に付着した泥やワラクズを取除き，注油してください。**

❺ プラットホーム底板とスクリューコンベアのスキマ調節のしかた

> ⚠警告 傷害事故防止のために
>
> ◆プラットホームオーガを手で回転させるときは，刈刃やリールが動くので，十分注意してください。

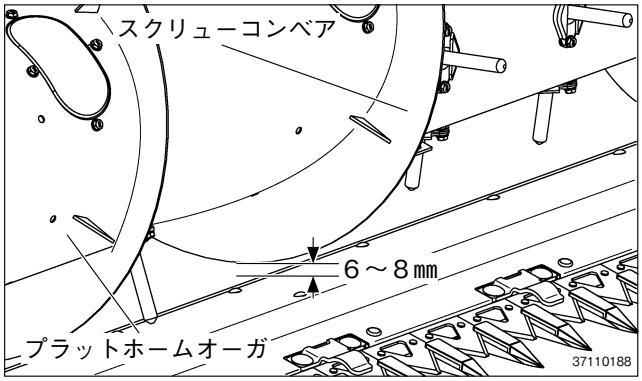
調節のしかた

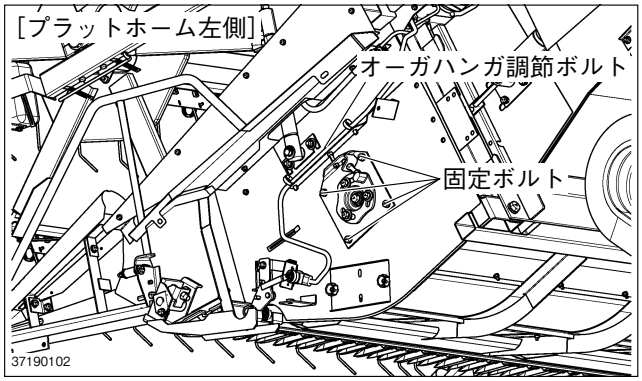
(1) リールを最上げにしてください。

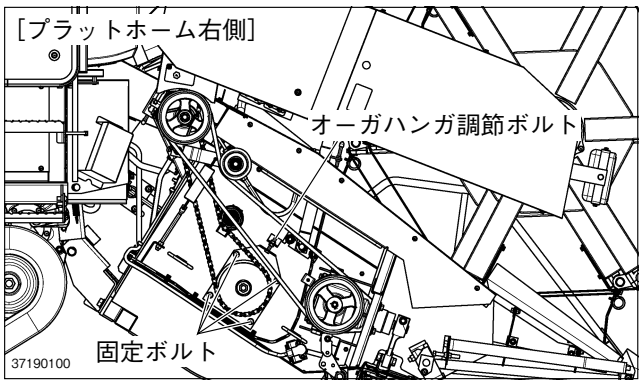
(2) 固定ボルトをゆるめます。

(3) プラットホーム底板とスクリューコンベアとのスキマが,稲・麦の場合は6～8㎜になるように,オーガハンガ調節ボルトで調節してください。

(4) 固定ボルトを締付けます。







❻ プラットホーム底板とフィンガのスキマ調節のしかた

> ⚠警告 傷害事故防止のために
>
> ◆プラットホームオーガを手で回転させるときは，刈刃やリールが動くので，十分注意してください。

点検のしかた

(1) リールを最上げにしてください。

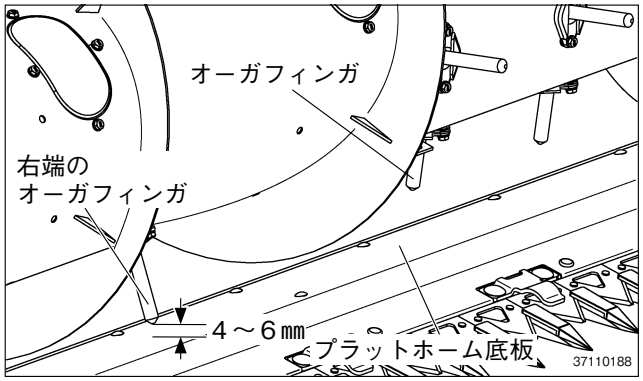
(2) プラットホームオーガを手で回転させ，右端のオーガフィンガが，プラットホーム底板に最も近い位置で，底板からフィンガ先端までの寸法を測定し，4～6㎜になっていることを確認してください。

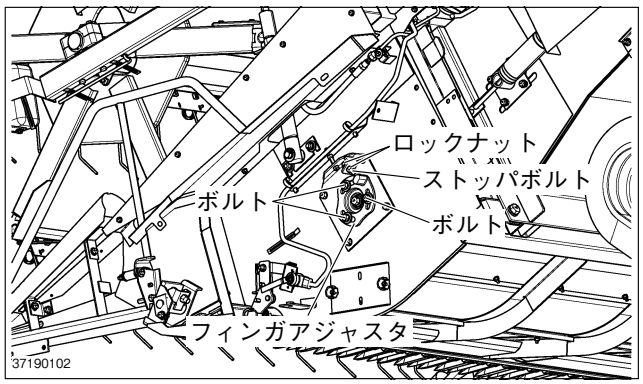
調節のしかた

(1) 基準範囲内（4～6㎜）にないときは，ボルト（3本）とフィンガアジャスタのロックナットをゆるめてください。

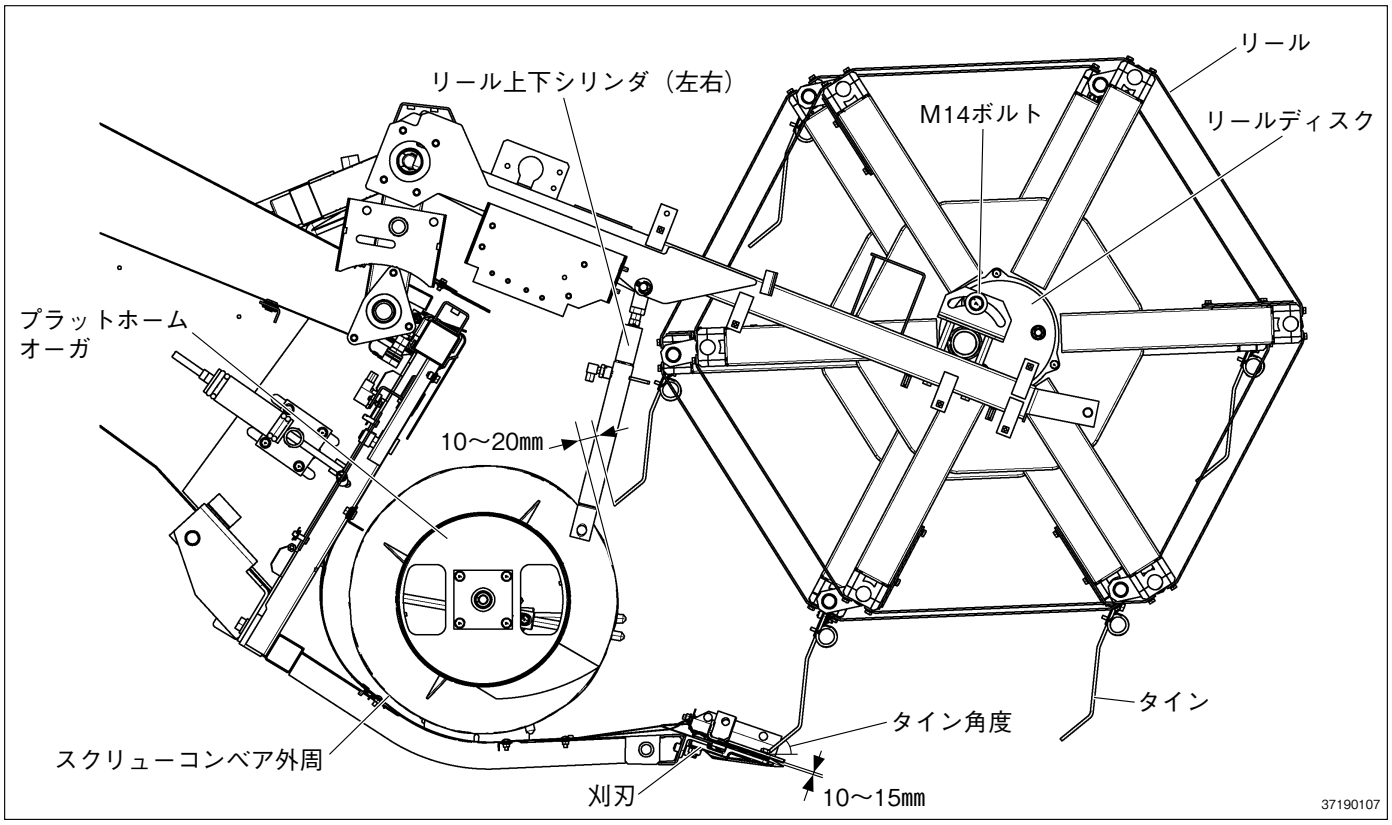
(2) フィンガアジャスタを回転させて調節してください。

(3) ストッパボルトで固定し，ゆるめたボルトを締めてください。





❼ リールの調節のしかた（リールの調節は，「お買いあげ先」に依頼してください。）

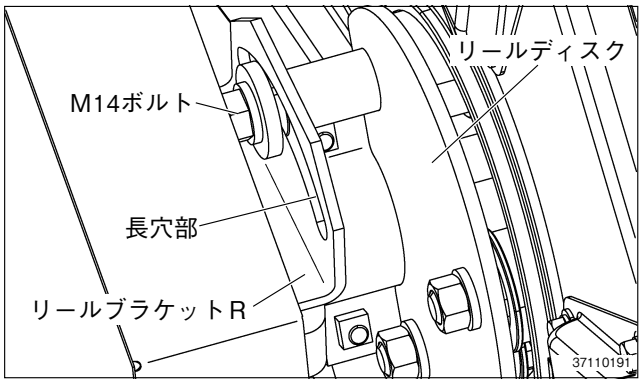


［刈刃上面とリールタイン先端のスキマ調節のしかた］

(1) M14ボルトをゆるめてください。

(2) M14ボルトの中心とリールブラケットRの長穴部の中心が合うように，リールディスクを動かしてください。

(3) M14ボルトを締付けてください。

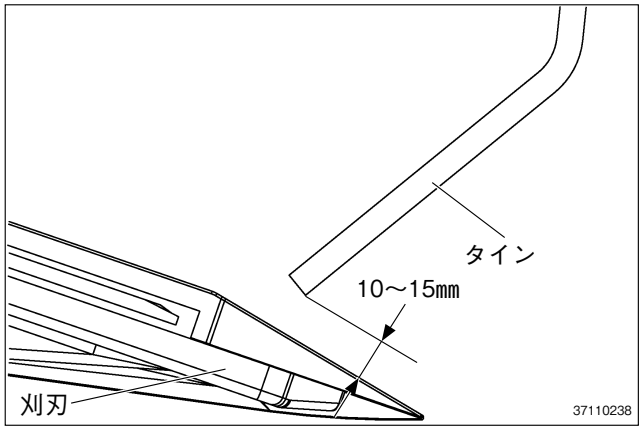


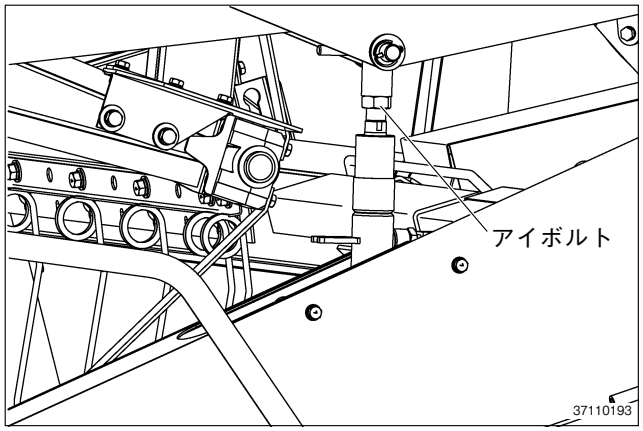
(4) エンジンを始動してください。

(5) リール前後スイッチを**「後」**側に押して，リールを後方へ移動し，リール上下スイッチを**「下降」**側に押して，リールをいっぱいまで下げてください。

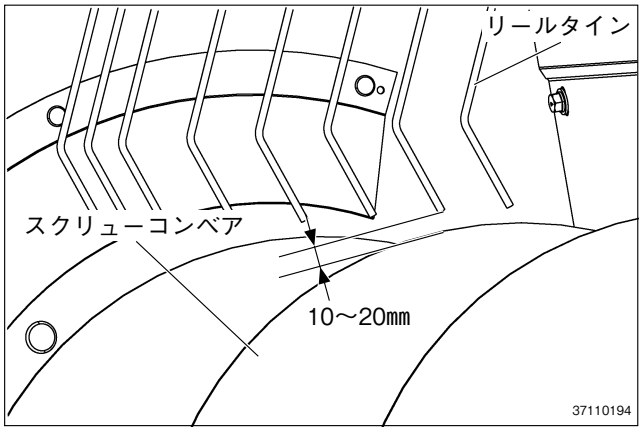
(6) エンジンを停止してください。

(7) 刈刃上面とリールタイン先端のスキマが，刈刃先端で10～15㎜になるように，リール上下シリンダのアイボルトで調節してください。





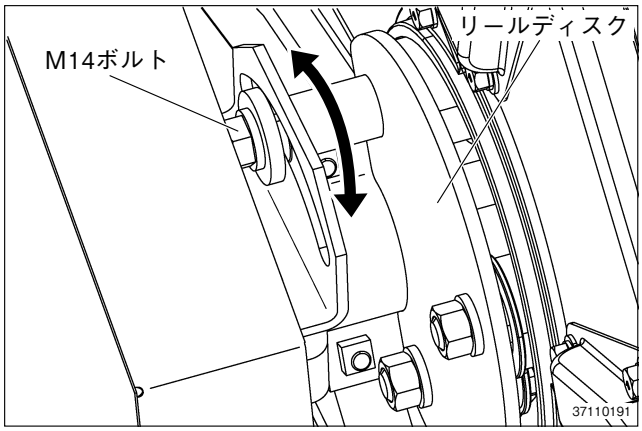
(8) リールを回転させて，プラットホームオーガのスクリューコンベアの外周とリールタイン先端のスキマが，10～20㎜でスクリューコンベアの外周と接触しないことを確認してください。

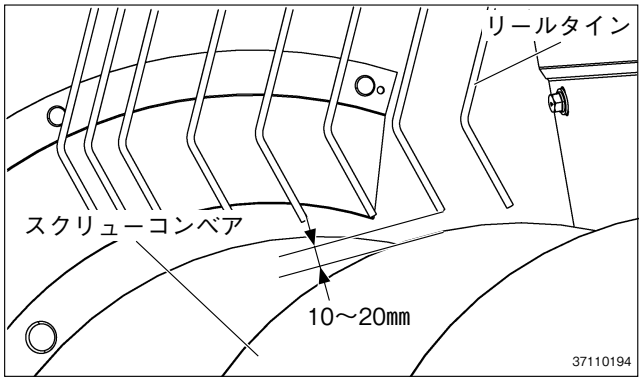


[スクリューコンベアの外周とリールタイン先端のスキマが，適正でない場合の調節のしかた]

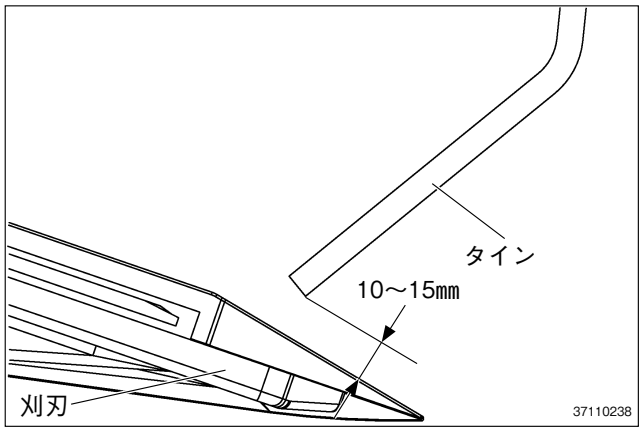
(1) M14ボルトをゆるめ，リールディスクを前または後に動かしてスキマが10～20㎜で，スクリューコンベアの外周と接触しないように調節してください。

(2) M14ボルトを締付けてください。





(3) 再度，刈刃上面とリールタイン先端のスキマを確認してください。

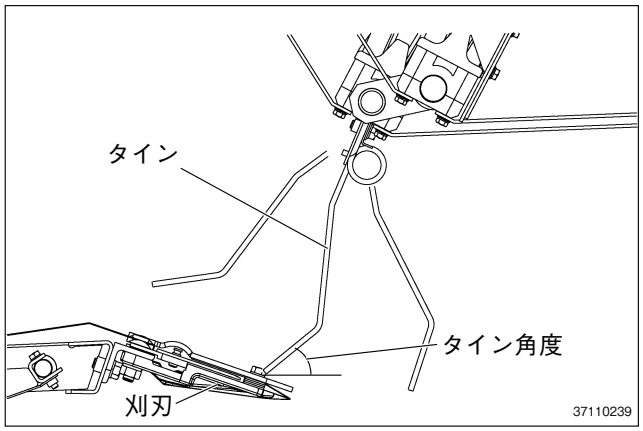


取扱いのポイント

●リールタインとオーガフィンガが接触し，音が出る場合は，リールタインが当たらないように，リールタインを左右方向に動かしてください。

[倒伏した作物で引起こし性能が不足する場合]

(1) リールディスクの位置を前に動かし，タイン角度を小さくしてください。



(2) 小さくしすぎると，プラットホームオーガと当たる場合がありますが，このときはリールを少し前へ出してください。

[立毛した作物で，リールの回転によりリールが稈を持ち回る場合]

リールディスクを後に動かし，タイン角度を大きくしてください。

12. チョッパスプレッダの点検・整備のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

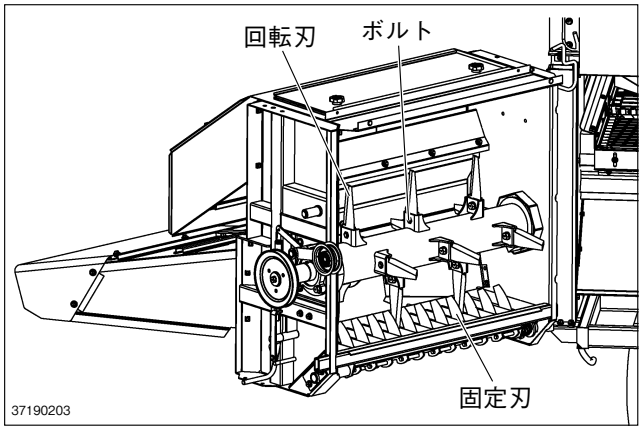
◆チョッパスプレッダの調節・点検・掃除を行うときは，必ずエンジンを停止させ，駐車ブレーキをかけてください。ケガをするおそれがあります。

◆固定刃および回転刃の点検・交換をするときは，エンジンを停止させ，回転部が完全に止まってから行ってください。

◆固定刃および回転刃の点検・交換をするときは，回転部が動かないように注意してください。刃先が当たり，ケガをするおそれがあります。

◆固定刃および回転刃の点検・交換をするときは，厚手の手袋を着用し，刃先に絶対にさわらないでください。ケガをするおそれがあります。

・回転のバランスを保つために，回転刃が摩耗した場合は，交換してください。
・交換する固定刃および回転刃取付ボルトなどは，純正部品を使用してください。
・固定刃および回転刃取付ボルトは，定期的に規定トルクで締付けてください。（締付トルク110～115N・m｛11.2～11.7kgf･m｝）



「レバー・ペダルの点検・調整」

1．走行クラッチペダル・駐車ブレーキ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆走行クラッチペダルやブレーキロッドの遊びが大きいと，クラッチの切れやブレーキの効きが悪くなり，事故を引起こす原因となることがあります。

❶ 点検

⑴ 走行クラッチペダルフリー状態でスプリングⒻ長さが 36～38㎜ ですか。

⑵ 走行クラッチペダルをブレーキフックにかけた状態でスプリングのⒻ寸法が 31～33㎜ ですか。

⑶ 坂道（17°）で駐車ブレーキをかけたときに，機械が停止していますか。

❷ 調整

・運転席横カバーを外します。

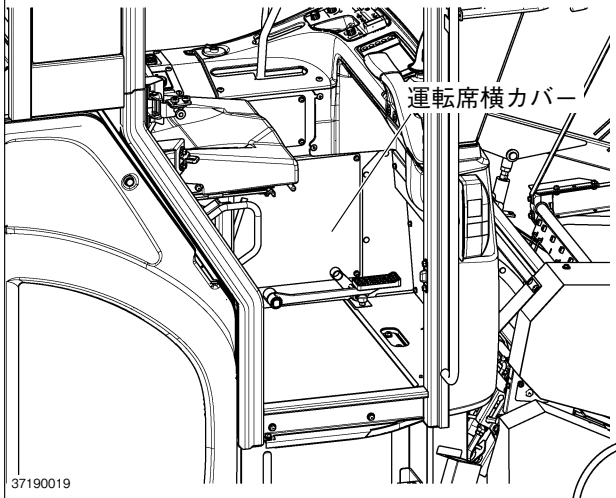
⑴ 走行クラッチペダルがフリーの状態でスプリングのⒻ寸法を 36～38㎜ になるようにロックナットCで調整します。

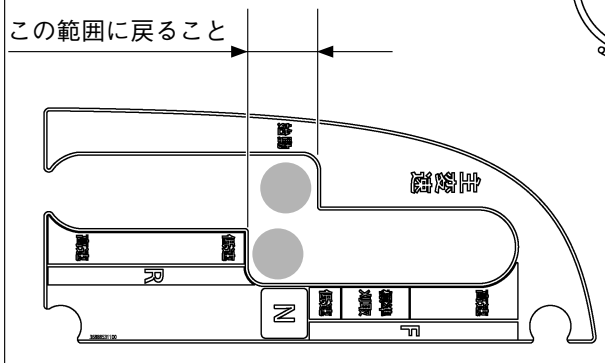
⑵ つぎに駐車ブレーキをかけた状態でスプリングのⒻ寸法を 31～33㎜ になるようにロッドAを調整します。

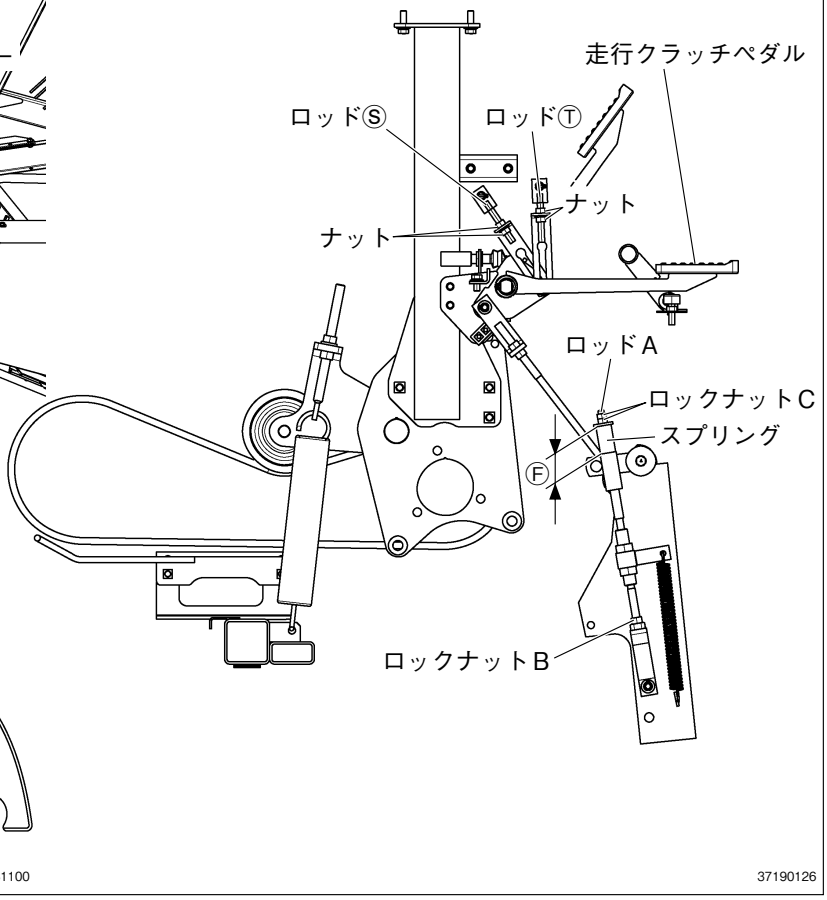
⑶ 調整後，ロックナットB，Cを締付けます。

⑷ 主変速レバーが前進・後進から中立位置に確実に戻るようロッドⓈ（前進から戻す）とロッドⓉ（後進から戻す）を調整してナットを締付けます。

⑸ 運転席左下カバーを取付けます。







2. 脱こく・刈取クラッチ

❶ 点検

[脱こくクラッチ]

エンジンを始動させパワークラッチ(脱こく・刈取)スイッチを《**脱こく**》にし,エンジンを停止させます。スプリング寸法が 139～141㎜ になっていますか。

[刈取クラッチ]

エンジンを始動させパワークラッチ(脱こく・刈取) スイッチを《**刈取**》にし，強制かき込みスイッチを押した状態または，副変速レバーを《**中立**》にし，主変速レバーを前進位置にしてエンジンを停止させます。このときスプリング寸法が 102～104㎜ になっていますか。

❷ 調整

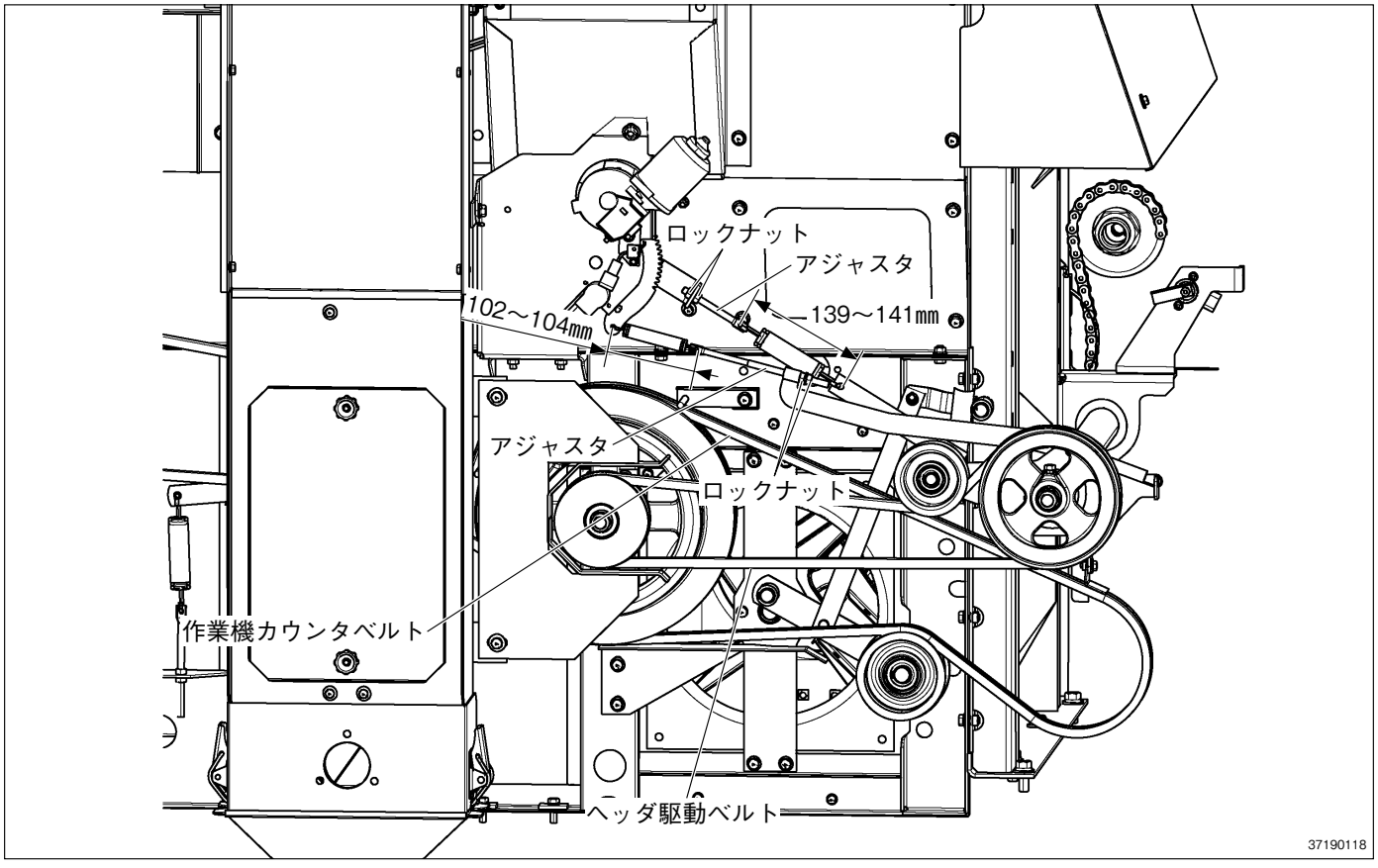
・グレンタンクを回動してください。(127～128ページ参照) 点検・調整後は元通りにしてください。

[脱こくクラッチ]

・ロックナットをゆるめてアジャスタ部で調整しスプリング長さを調整します。

[刈取クラッチ]

・ロックナットをゆるめてアジャスタ部で調整しスプリング長さを調整します。



「各部チェンの点検・調整」

3．リール変速入力チェン

リールチェンカバー右後とプラットホーム右カバーを取外してください。

点検・調整後は元通りに取付けてください。

❶ 点検

⑴ リール変速入力チェンカバーを取外してください。

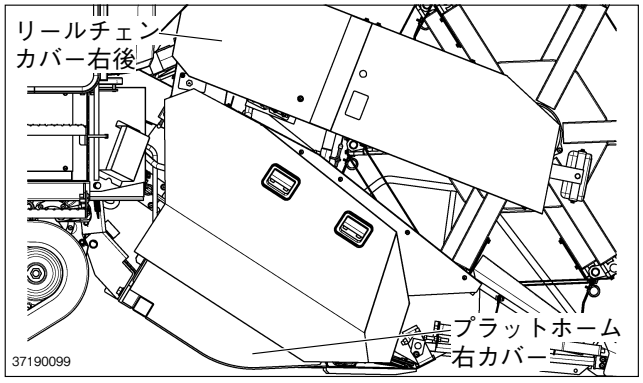
⑵ チェンの中央を，軽く指で押したときのたわみ量が，5～10㎜ であるか確認してください。

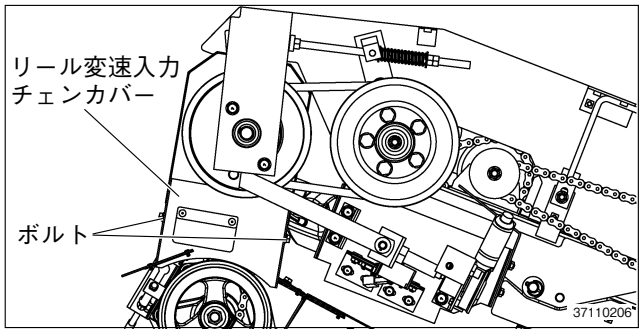
❷ 調整

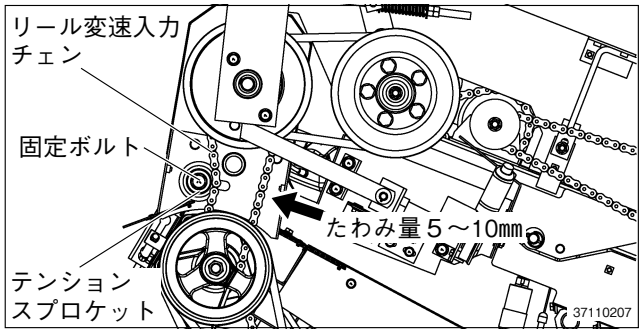
⑴ 固定ボルト（M12）をゆるめてください。

⑵ テンションスプロケットを移動させて，チェンを張ってください。

⑶ 固定ボルトを締付けて固定してください。







4．プラットホームオーガ駆動チェン

プラットホーム右カバーを取外してください。（117ページ参照）

点検・調整後は元通りに取付けてください。

❶ 点検

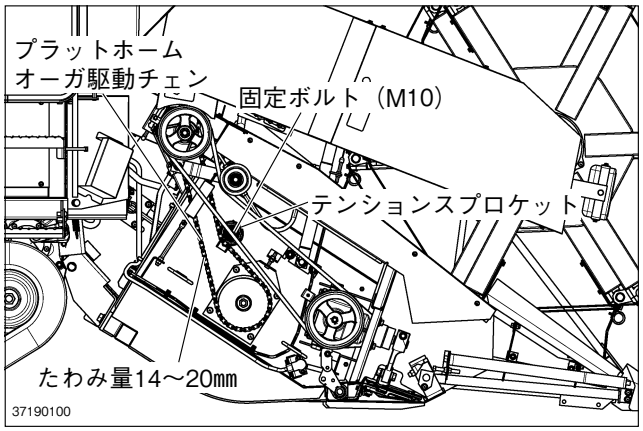
ＰＦオーガ駆動チェンの中央を指で押したとき，たわみ量が 14～20㎜ であるか確認してください。

❷ 調整

⑴ 固定ボルト（M10）をゆるめてください。

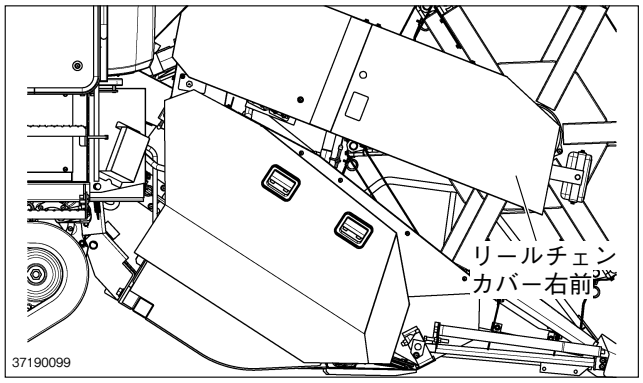
⑵ テンションスプロケットを移動させて，チェンを張ってください。

⑶ 固定ボルトを締付けて固定してください。



5．リール駆動チェン

リールチェンカバー右前を取外してください。
点検・調整後は元通りに取付けてください。

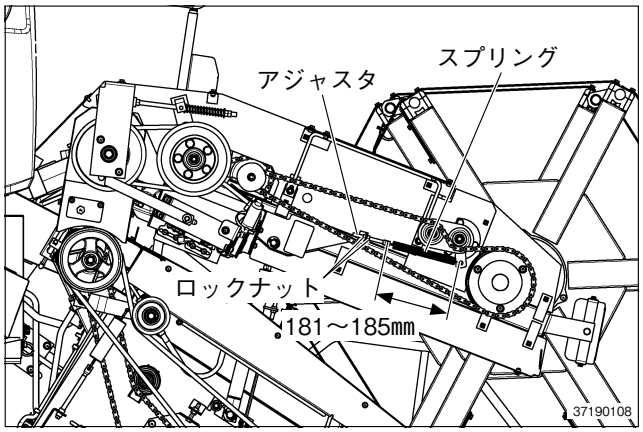


❶ 点検

テンション部のスプリング長さが 181～185㎜ であるか確認してください。

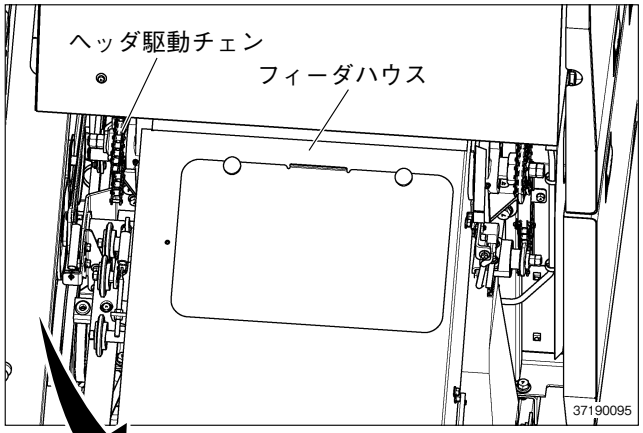
❷ 調整

(1) アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。
(2) ロックナットを締付けて固定してください。



6．ヘッダ駆動チェン

フィーダハウス右カバーを取外してください。
（118ページ参照）
点検・調整後は元通りに取付けてください。

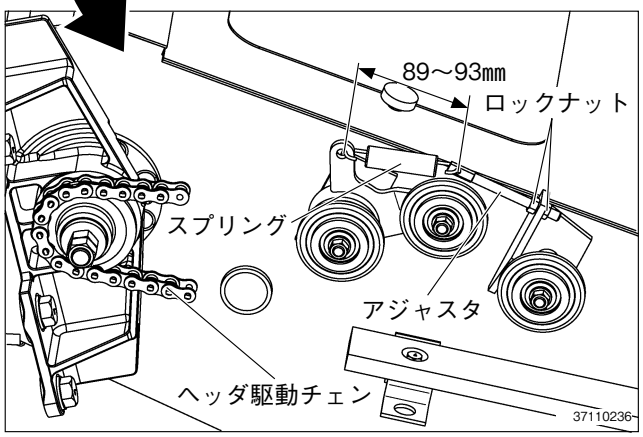


❶ 点検

テンション部のスプリング長さが 89～93㎜ であるか確認してください。

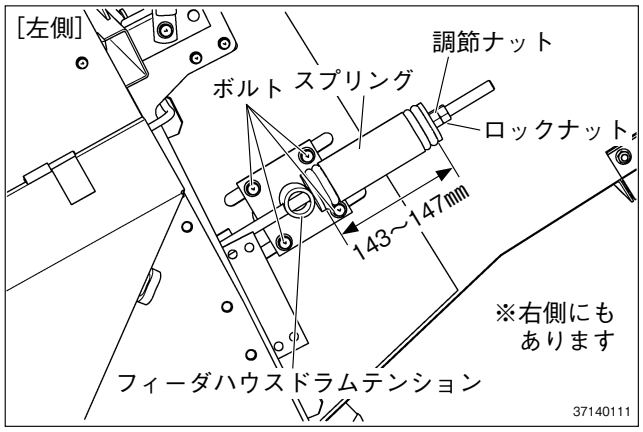
❷ 調整

(1) アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。
(2) ロックナットを締付けて固定してください。



7. フィーダチェン調整

チェンがゆるむとスラットがフィーダハウスに当たり騒音や破損の原因となります。



❶ 点検

(1) スプリングの長さが 143～147㎜ になっていますか。

❷ 調節

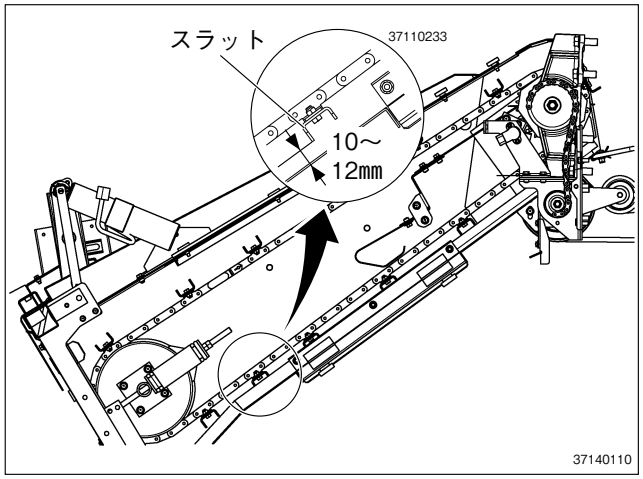
(1) ロックナットをゆるめてください。

(2) 調節ナットを左右交互に回して，スプリング長さを調整します。

(3) ロックナットを締付けて固定してください。

取扱いのポイント

●スラットとフィーダハウス底板のスキマが 10～12㎜ になっていることを確認してください。



8. 1番バケットコンベアチェン・2番スラットコンベアチェン

チェンがゆるむと，バケットおよびスラットが壁に当たり，騒音や破損の原因になります。

グレンタンクを回動してください。(127～128ページ参照)

点検・調整後は，元通りにしてください。

❶ 点検

ワッシャとカラーのスキマが 0～2㎜ であるか確認してください。

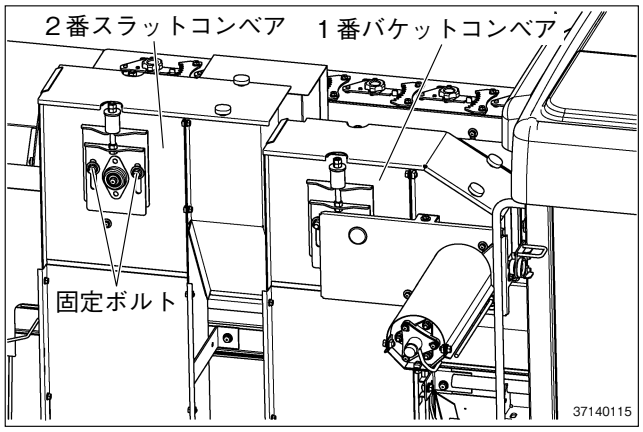
❷ 調整

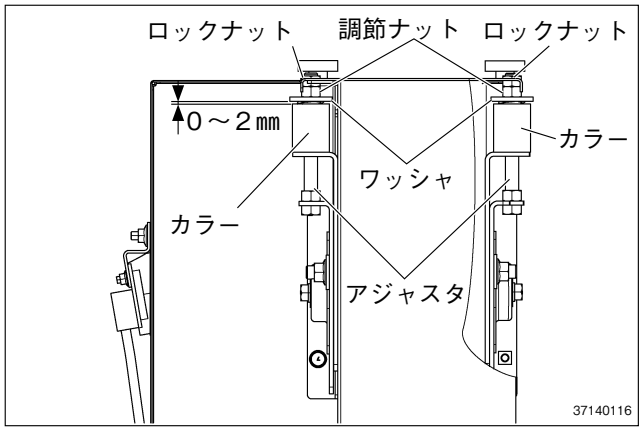
⑴ 固定ボルト（両側）をゆるめてください。

⑵ 調節ナットを左右交互に回して，チェンを引っ張ってください。

⑶ ワッシャとカラーのスキマを調整してください。

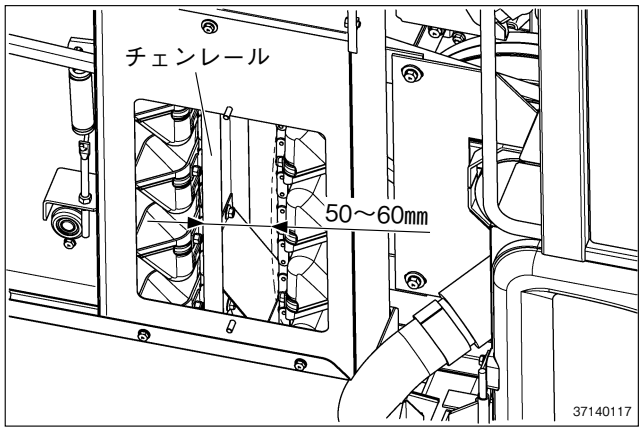
⑷ 固定ボルト（両側）を締付けて固定してください。





取扱いのポイント

●調節後に，コンベアチェンのたわみ量を，1番バケットコンベア，2番スラットコンベアの掃除口から確認してください。チェンとチェンレールを指でつまんで，50～60㎜ であるか確認してください。



「ベルトの点検・調整」

取扱いのポイント

●調整ができなくなったら，新しいベルトと交換してください。ベルトを新しいものに交換したときは，各スプリングの寸法や，ベルトガイドなどを正規の寸法に調整してください。

9. 走行ベルト

❶ 点検

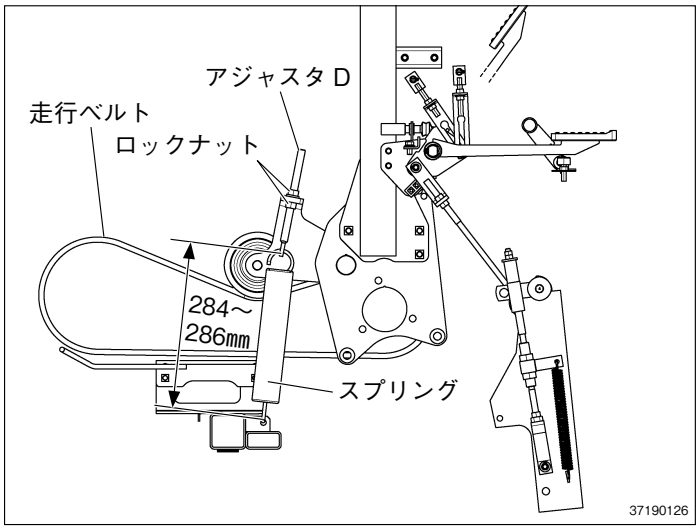
⑴ スプリング長さが 284～286㎜ になっていますか。

❷ 調整

・運転席左側の足元カバーを，ノブをゆるめて取外します。

⑴ アジャスタDのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。

⑵ 作業後足元カバーを取付けます。



10. コンプレッサ

❶ 点検

コンプレッサベルトの下側の中央部を[10kg]で押して，たわみ量が 7～10㎜ となっていますか。

❷ 調整

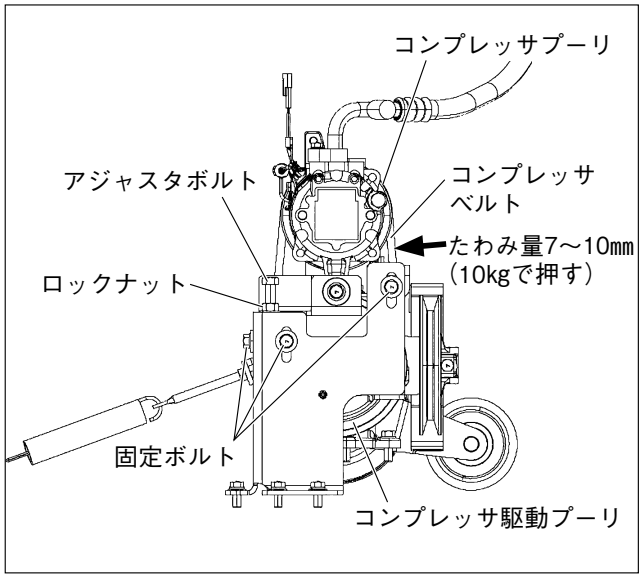
⑴ グレンタンクを回動し，ストッパをかけます。（127～128ページ参照）

⑵ コンプレッサ取付ブラケットの固定ボルトとロックナットをゆるめます。

⑶ アジャスタボルトを締込みコンプレッサベルトの張り調整をします。

⑷ 調整後固定ボルトとロックナットを締付けます。

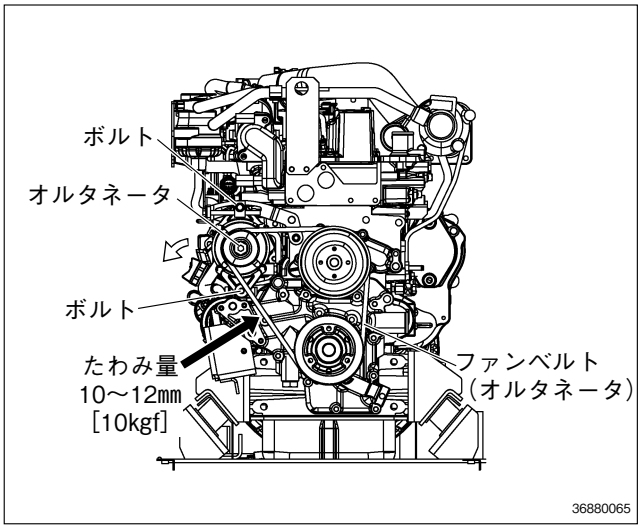
⑸ グレンタンクを閉じます。(127～128ページ参照)



11．エンジンファンベルト（オルタネータ）

⚠警告 火傷防止のために

◆ファンベルトの点検・調整は，エンジンが冷えてから行ってください。



❶ 点検

ファンベルト（オルタネータ）の中央部を指で押し［10kgf］，たわみ量が 10～12㎜ となっていますか。

❷ 調整

・グレンタンクを回動し，エンジンカバー（後）を取外します。

オルタネータ取付ボルト（２個）をゆるめ，オルタネータを矢印（⇨）側に倒しベルトを張ります。

調整後，取付ボルト，ナットを締付けます。作業後にカバーを取付けます。

12．エンジンファンベルト

⚠警告 火傷防止のために

◆ファンベルトの点検・調整は，エンジンが冷えてから行ってください。

❶ 点検

⑴ ファンベルト１の中央部を指で押し［10kgf］，たわみ量が ２～４㎜ となっていますか。

⑵ ファンベルト２のスプリング長さが 105～107㎜ となっていますか。

❷ 調整

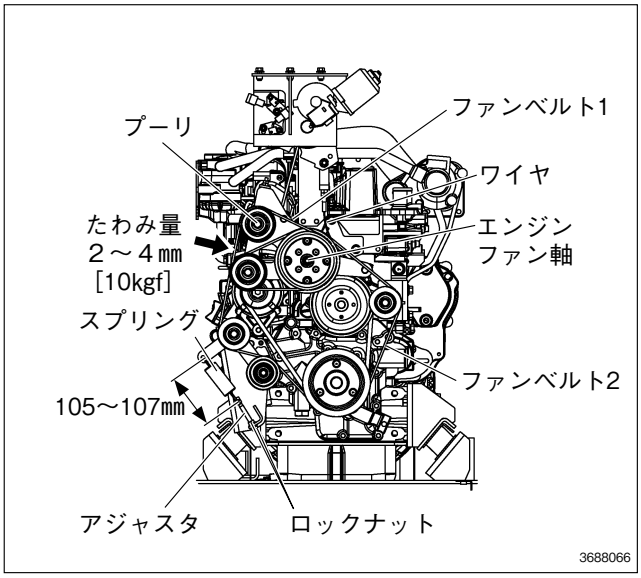
⑴ グレンタンクを回動し，エンジンカバー（後）を取外します。

⑵ プーリの後側にあるアジャスタ部で調整し，ファンベルト１を張ります。調整後，締付けます。

⑶ アジャスタのロックナットをゆるめ，スプリング長さを 105～107㎜ に調整し，ファンベルト２を張ります。調整後，締付けます。

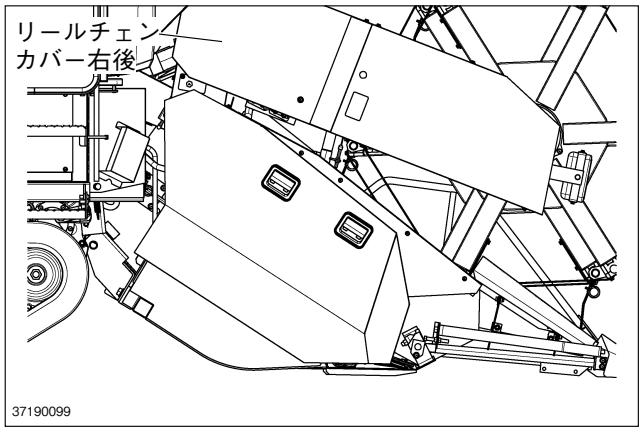
取扱いのポイント

●調整ができなくなったら，新しいベルトと交換してください。ベルトを新しいものに交換したときは，各スプリングの寸法や，ベルトガイドなどを正規の寸法に調整してください。



13. リール変速ベルト

リールチェンカバー右後を取外してください。
点検・調整後は元通りに取付けてください。

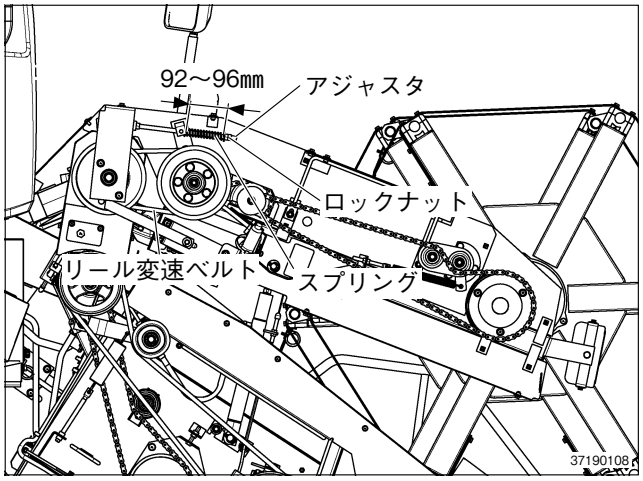


❶ 点検

・リール速度を最低速で回転させてからの点検となります。

最低速にする手順

1．副変速レバーを《**中立**》にします。
2．エンジンを始動し，回転を作業速度に合わせます。
3．パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを《**刈取**》にします。
4．リール回転ダイヤルスイッチを《**ＯＦＦ**》にし，ダイヤルを最左（低速）にします。
5．主変速レバーを前進側にします。（リールが回転し始める）
6．リールを10秒以上回転させます。
7．パワークラッチ（脱こく・刈取）スイッチを切り，エンジンを停止させます。
8．この状態でリールチェンカバー右後を取外し，スプリング長さを確認します。



スプリング長さが 92～96㎜ であるか確認してください。

❷ 調整

⑴ アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。
⑵ ロックナットを締付けて固定してください。

14. 刈刃駆動ベルト

プラットホーム右カバーを取外してください。

点検・調整後は元通りに取付けてください。

（117ページ参照）

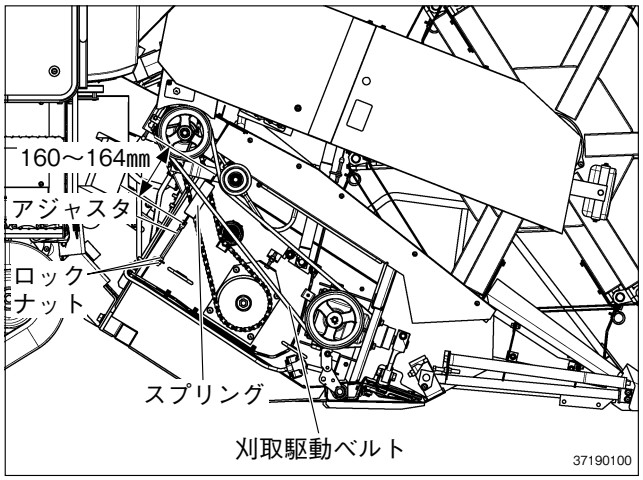
❶ 点検

スプリング長さが 160～164㎜ であるか確認してください。

❷ 調整

⑴ アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。

⑵ ロックナットを締付けて固定してください。



15. 脱こく駆動ベルト

グレンタンクを回動してください。

点検・調整後は元通りにセットしてください。

（127～128ページ参照）

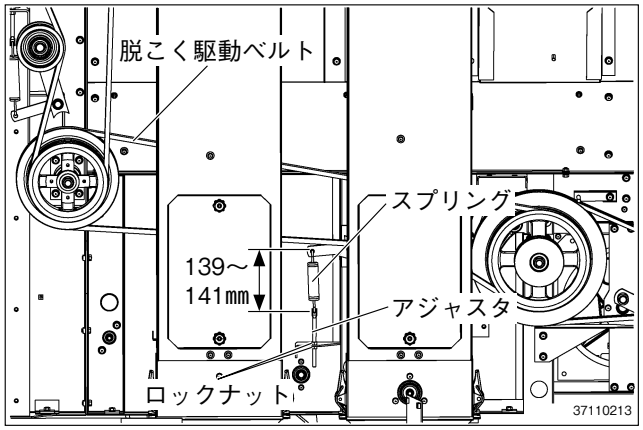
❶ 点検

スプリング長さが 139～141㎜ であるか確認してください。

❷ 調整

⑴ アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。

⑵ ロックナットを締付けて固定してください。



16. 脱こくカウンタベルト

グレンタンクを回動してください。

点検・調整後は元通りにセットしてください。

（127～128ページ参照）

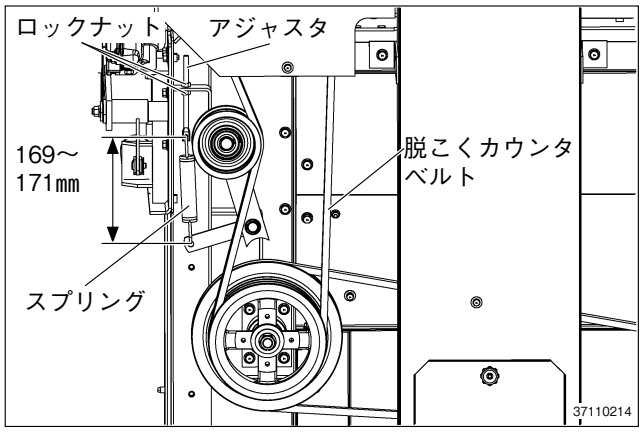
❶ 点検

スプリング長さが 169～171㎜ であるか確認してください。

❷ 調整

⑴ アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。

⑵ ロックナットを締付けて固定してください。



17. 1番上方横ラセン駆動ベルト

1番上方横ラセン駆動ベルトカバーを取外してください。

点検・調整後は元通りに取付けてください。

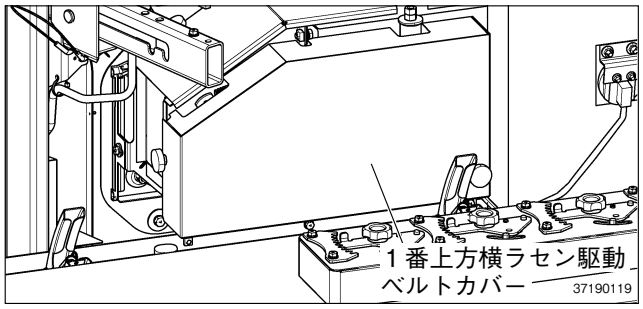
❶ 点検

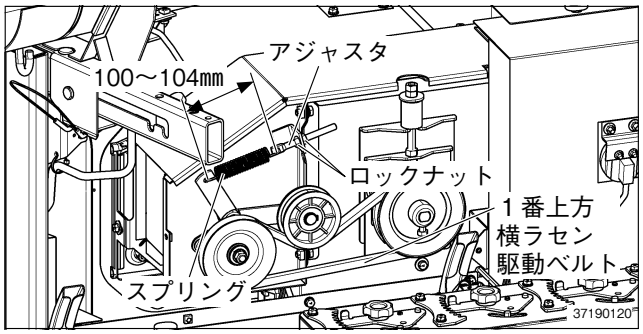
スプリング長さが 100〜104㎜ であるか確認してください。

❷ 調整

⑴ アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。

⑵ ロックナットを締付けて固定してください。





18. ロータ駆動ベルト

ロータ後カバーを取外してください。

点検・調整後は元通りに取付けてください。
(121ページ参照)

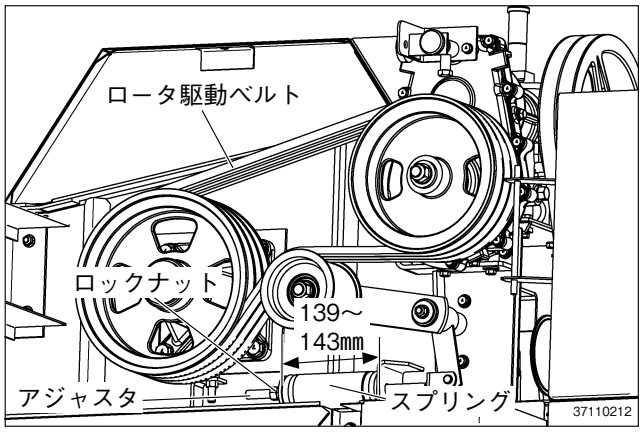
❶ 点検

スプリング長さが 139〜143㎜ であるか確認してください。

❷ 調整

⑴ アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。

⑵ ロックナットを締付けて固定してください。



19. トウミ駆動ベルト

脱こく左前カバーを取外してください。

点検・調整後は元通りに取付けてください。
(120ページ参照)

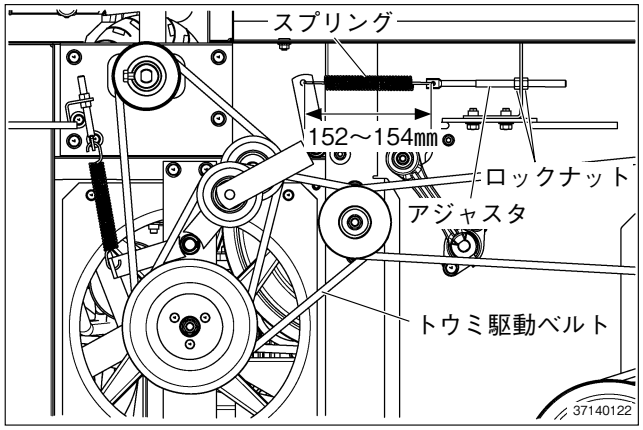
❶ 点検

スプリング長さが 152〜154㎜ であるか確認してください。

❷ 調整

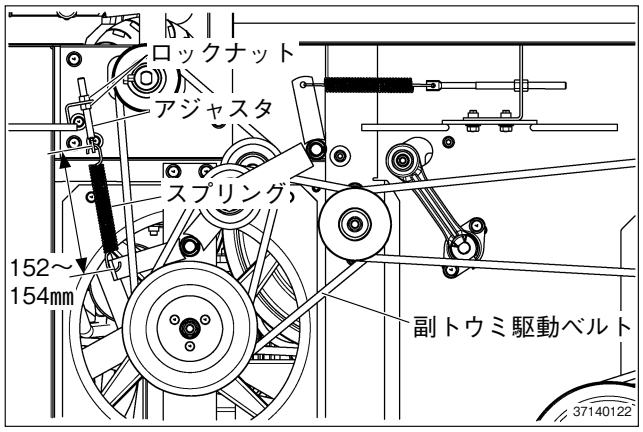
⑴ アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。

⑵ ロックナットを締付けて固定してください。



20. セレクションファン駆動ベルト

ロータサイドカバーを開いてください。
脱こく左前カバーを取外してください。
点検・調整後は元通りに取付けてください。
(120ページ参照)



❶ 点検

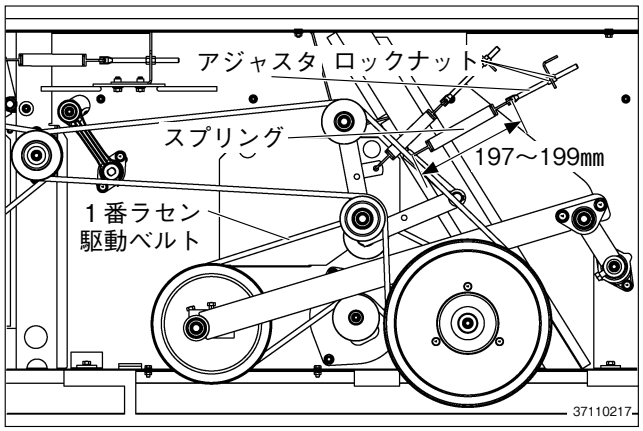
スプリング長さが 152～154mm であるか確認してください。

❷ 調整

(1) アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。
(2) ロックナットを締付けて固定してください。

21. 1番ラセン駆動ベルト

脱こく左前カバー，脱こく左後カバーを取外してください。(120ページ参照)
点検・調整後は元通りに取付けてください。



❶ 点検

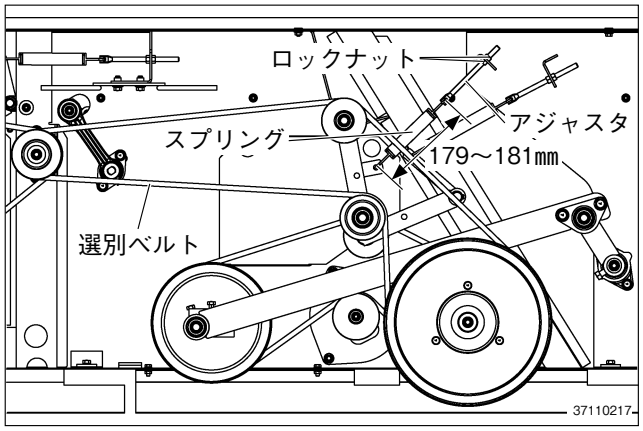
スプリング長さが 197～199mm であるか確認してください。

❷ 調整

(1) アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整してください。
(2) ロックナットを締付けて固定してください。

22. 選別ベルト

脱こく左前カバー，脱こく左後カバーを取外してください。(120ページ参照)
点検・調整後は元通りに取付けてください。



❶ 点検

スプリング長さが 179～181mm であるか確認してください。

❷ 調整

(1) アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整してください。
(2) ロックナットを締付けて固定してください。

23. グレン入力ベルト

グレンタンクを回動してください。

点検・調整後は元通りにセットしてください。(127～128ページ参照)

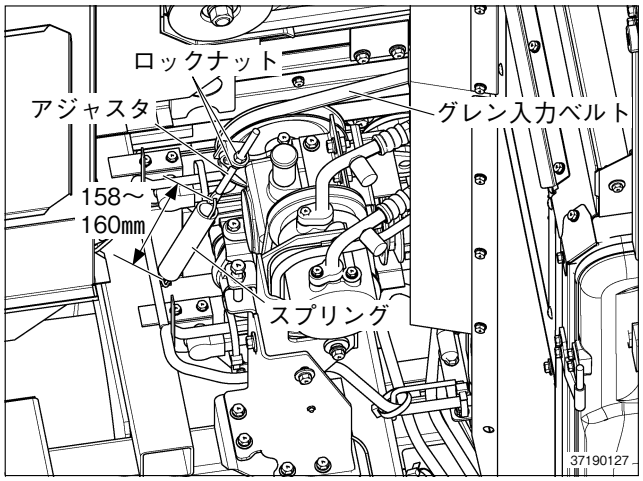
❶ 点検

スプリング長さが 158～160㎜ であるか確認してください。

❷ 調整

⑴ アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整してください。

⑵ ロックナットを締付けて固定してください。



24. グレンタンク横ラセン駆動ベルト

❶ 点検

⑴ エンジンを始動し周囲の障害物に注意して排出オーガをこく粒排出範囲に移動させます。(60ページ参照)

⑵ こく粒排出スイッチを《**入**》にします。このときグレンタンク内および排出オーガ内にこく粒が残っていると排出されるので注意してください。

⑶ こく粒排出スイッチが《**入**》の状態でエンジンを停止します。

⑷ モータブラケット下端～スプリング下側の長さが 120～124㎜ であるか確認してください。

❷ 調整

⑴ キースイッチを《**入**》にしスプリングの張りを元にもどします。(エンジンを始動する必要はありません。)

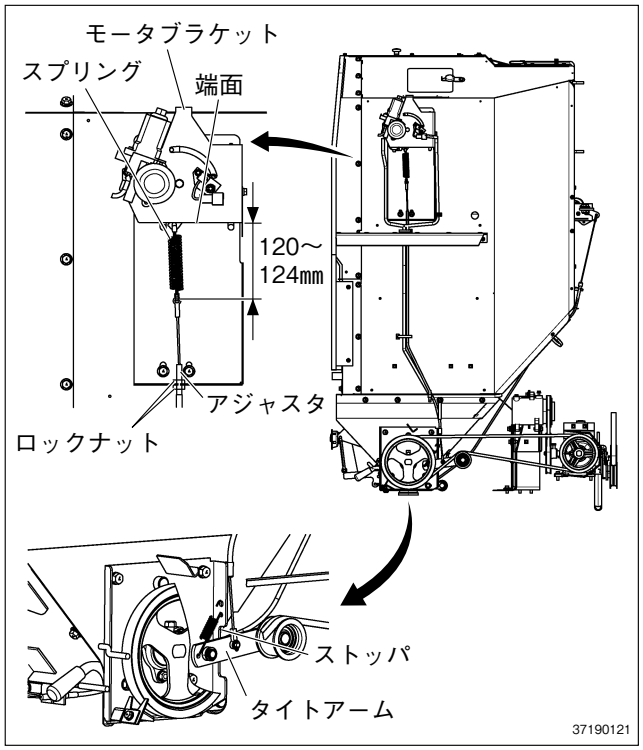
⑵ グレンタンクを回動してください。(127～128ページ参照)

点検・調整後は，元通りにセットしてください。

⑶ ワイヤのロックナットをゆるめアジャスタ部で調整します。

⑷ エンジンを始動しこく粒排出スイッチを《**入**》にします。

⑸ こく粒排出スイッチが《**入**》の状態でエンジンを停止し，スプリング長さを確認します。

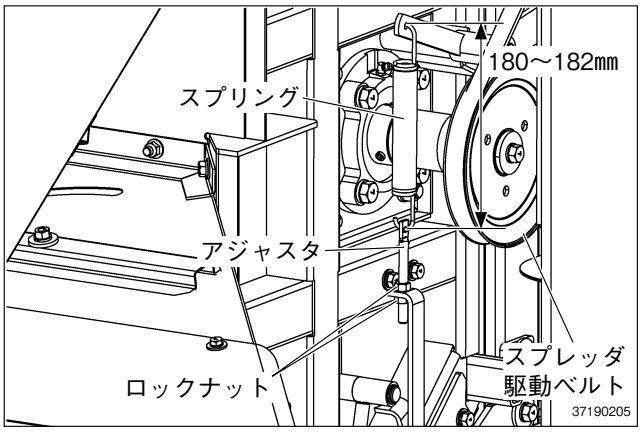


25. スプレッダ駆動ベルト

チョッパ右カバーを取外してください。

点検・調整後は元通りに取付けてください。

（121～122ページ参照）



❶ 点検

スプリング長さが 180～182㎜ であるか確認してください。

❷ 調整

⑴ アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整してください。

⑵ ロックナットを締付けて固定してください。

「クローラの点検・調整」

26. クローラ

クローラの点検・調整は「**お買いあげ先**」に依頼してください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ガレージジャッキがめり込んだり，移動したりしない，平坦な場所で行ってください。
◆ガレージジャッキは，２ｔ以上の仕様のものを使用してください。
◆ジャッキアップ（上げ・下げ）は，機械のバランスを確認しながらゆっくり行い，必要以上の高さに上げないでください。
◆ジャッキアップしたら，固定脚または安全ブロックを走行フレームに噛ませて，落下・転倒防止をしてください。
◆ジャッキアップされた機械の下に，入らないでください。

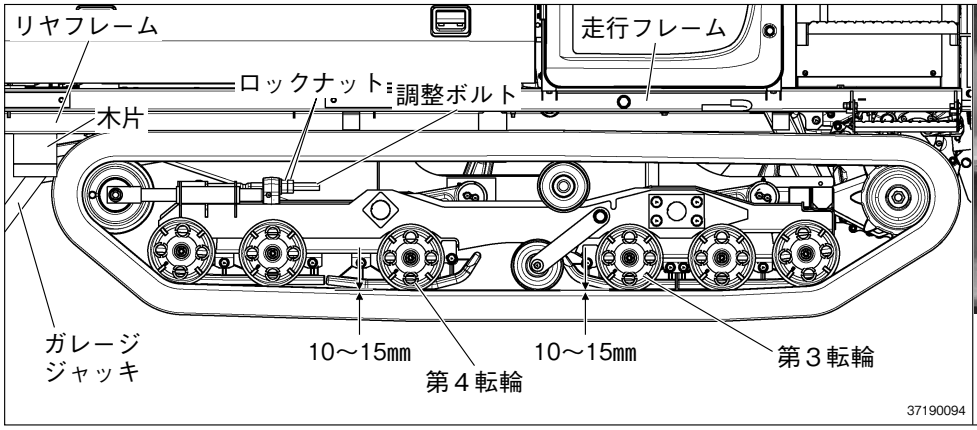
❶ 点検

(1) 図示のように，トランスミッション部後フレームとリヤフレーム部の右または左側に木片を介し，ガレージジャッキでジャッキアップし，片方のクローラを浮かせ，固定脚または安全ブロックを走行フレームに噛ませ固定します。

(2) クローラ下面を地面から浮かせた状態で，第３転輪および第４転輪とクローラのスキマ量が 10～15㎜ になっていますか。

❷ 調整

(1) 調整ボルトのロックナットをゆるめ，調整ボルトを締込んで，第３転輪および第４転輪とクローラのスキマが 10～15㎜ になるまで張ります。





取扱いのポイント

- **クローラの張り調整を行う前に，ガレージジャッキをかける部分や，クローラ回りに付着しているワラ泥などを取除いてください。**
- **トランスミッションケースに直接ガレージジャッキをかけると，ケースが破損するおそれがありますので，行わないでください。**

長期格納のしかた

・シーズンが終わったら，つぎの作業をして格納します。

⚠警告 火災や傷害事故防止のために

◆回転部・ヘッダ部（刈刃）などに付着した泥・ゴミ・ワラクズを取除くときは，エンジンを停止して，各部の動きが止まってから行ってください。

◆電気配線およびバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートや漏電で火傷や損傷することがあります。点検し，傷んだ配線は交換，修理してください。

◆燃料ホース，油圧ホースの劣化や，傷による漏れなどがあると火災の原因になります。作業前や作業後に点検し，傷や漏れがあれば，交換してください。

◆エンジン，マフラ，燃料タンク，バッテリ周囲のワラクズを取除いてください。火災の原因となることがあります。

◆高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

◆機械にシートカバーをかけるときは，エンジンが冷えてから行ってください。
エンジンが熱いときに，シートカバーをかけると火災の原因になることがあります。

1．機械の掃除と洗浄

❶ 泥・ワラクズ・雑草などを取除き，汚れをきれいに水洗いし，乾いた布で拭取ります。

❷ 脱こく内部およびグレンタンク・フィーダハウス・プラットホームのゴミ・残留こく粒などを，掃除口よりきれいに取除きます。
（116～134ページ各部の掃除の項を参照）

2．錆止めと注油

❶ 刈刃は掃除したのち，全面に食品機械用潤滑油を塗布し錆止めをします。

❷ チェン・ワイヤ類にも注油をし，錆びないようにします。

フィーダチェン，１番バケットコンベアチェン，２番スラットコンベアチェンなどについては，指定のグリス，オイルを用いてください。

❸ 塗装が剥げた箇所は，補修塗装を行います。

3．エンジンの手入れ

エンジンの手入れを行うときは，平坦な格納場所で駐車ブレーキをかけ，各クラッチを《**切**》にして，エンジンが冷えてから行います。

❶ エンジン回転ダイヤルを《🐢》(**低速**）にします。

❷ 新しい燃料を入れ，タンクの燃料を満量にしておきます。

❸ 冬期気温が０℃以下になるときは，エンジンの凍結割れを防ぐため，冷却水を交換し，不凍液を入れます。（94ページ参照）

4．点検・整備

「**定期点検整備表**」の項を参考に，該当する項目について点検・整備します。
（86～87ページ参照）

⚠注意 洗浄時の注意

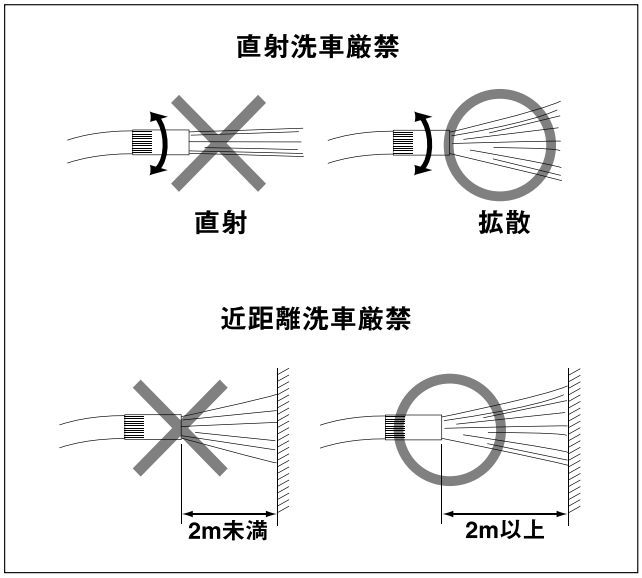
◆機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし，2m 以上離して洗車してください。もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，

1．電気配線部被覆の損傷・断線により火災を引起こすおそれがあります。
2．ホースの破損により，油・燃料が噴出して傷害を負うおそれがあります。
3．断熱材が損傷・剥離し，ワラクズが堆積すると，火災を引起こすおそれがあります。

取扱いのポイント

- エンジン部・脱こく部・運転操作部・電装部には，水をかけないでください。誤って水がかかりぬれた場合は，ただちに水分を除去してください。
- 機械の破損・損傷・故障の原因になります。

例）(1) シール・ラベルの剥がれ
(2) 電装部品，エンジン，ラジエータ，キャビン内などへの侵入による故障
(3) クローラ，オイルシールなどのゴム類，樹脂類，ガラスなどの破損
(4) 塗装，メッキ面の皮膜剥がれ



5．格　納

機械の掃除・点検・整備を終えたら，風通しのよい乾燥した屋内を選び，シートをかけて保管します。

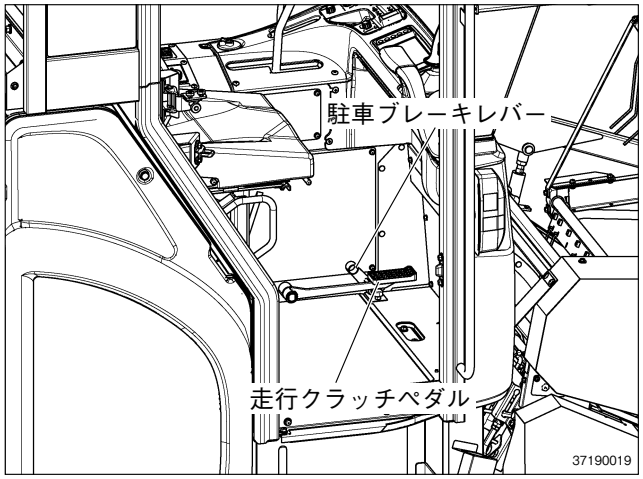
❶ 「**クローラ**」の下には板などを敷いておきます。

❷ 各レバーは《**切**》・《**中立**》の位置にします。

❸ 「**ナローガイド（左）**」を収納し，デバイダを取外し，プラットホーム左側に固定します。

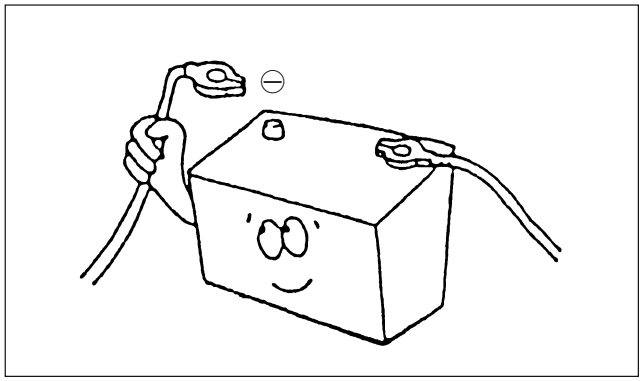
❹ ヘッダ部を下げて，スタータスイッチの「**始動キー**」を抜取ります。

❺ 走行クラッチペダルに駐車ブレーキレバーをかけます。



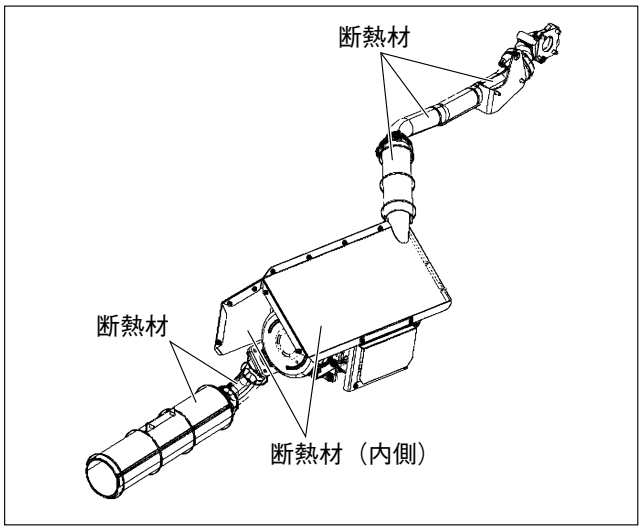
❻ クローラに「**車止め**」をします。

❼ 「**バッテリ**」は取外して，日陰の乾燥した場所に保管するか，㊀側のコードを外しておきます。1ケ月に1回，バッテリ補充電のため，エンジンを約10分間回します。



取扱いのポイント

- **錆の発生を防止するため，塩分の強い貯蔵物や肥料と，同じ場所に格納するのは避けてください。**
- **排気管部断熱材の損傷（破れ，剥れ）を確認し，損傷の場合は，火災の原因となりますので「お買いあげ先」にて交換してください。また，断熱材は，定期交換部品ですので，300時間毎または３年の早い方で交換してください。**



6．再使用にあたって

格納後，初めて使用するときには，各部の点検を入念に行った後に運転します。

❶ エンジンを回す前に，バッテリターミナルなど保管するときに，処置した項目を正しく復元します。

❷ 始業点検，注油を確実に行います。

取扱いのポイント

- **エンジンを回す前に，バッテリターミナルなど保管するときに，処置した項目を正しく復元してください。**

不調時の処置

・不調が発生したら，直ぐにその原因を調べて処置をし，故障を大きくしないようにします。
・原因がわからないときや修理調整しても再発するときは，「**お買いあげ先**」に相談し点検を受けます。
・そのときは，「**型式名**」，「**機械番号（製造番号）**」，「**エンジン番号**」を合わせてお知らせください。

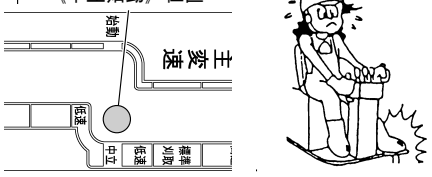
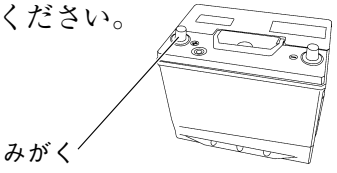
⚠警告 傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整は，機械を平坦な場所に置いて，駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止して，各部の動きが止まってから行ってください。点検処置は，参照ページの安全上の項目をよく読んでから行ってください。
◆ソレノイドバルブの操作をするときは，機械の周囲に人がいないことを確認してから行ってください。
◆調整を必要とするバルブ以外は，操作しないでください。他のバルブを操作すると，不意に他の装置が動いて事故になることがあります。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆外したカバー類は全て元の位置に取付けてください。

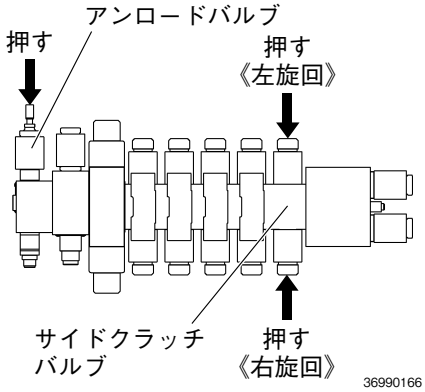
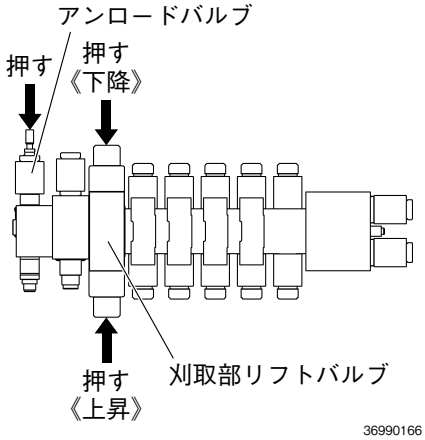
1．エンジン部

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
セルモータが回らない	❶ 主変速レバーを《**中立始動**》位置にしていない。 クラッチペダルをいっぱい踏込んでいない。	●主変速レバーを《**中立始動**》位置にし，走行クラッチペダルをいっぱい踏込んでください。 主変速レバー 《中立始動》位置 	19
	❷ バッテリターミナルのゆるみ。（接触不良）	●ターミナル部をよくみがき締付けてください。  みがく	111
	❸ メインヒューズが切れている。	●配線の短絡箇所を点検し，修正後，メインヒューズ（100A）を交換してください。	108～110
	❹ バッテリが放電している。	●バッテリを充電してください。	111～116
	❺ 《**スタータ**》ヒューズが切れている。	●スタータヒューズ（30A）を交換してください。	108～110

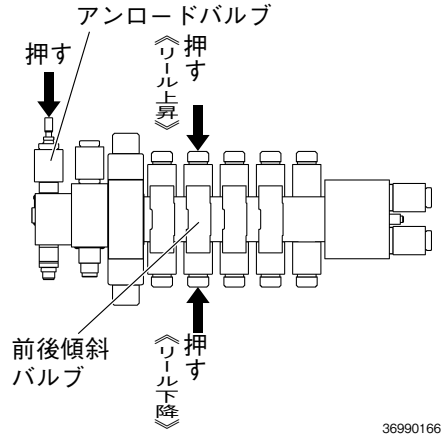
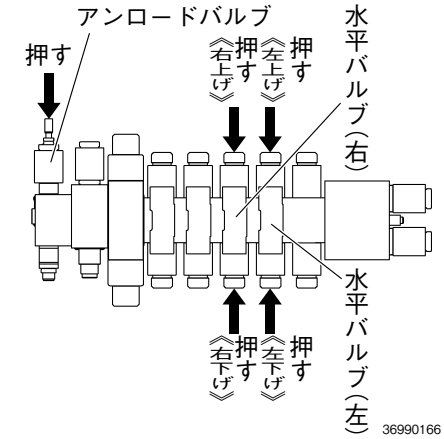
不調時の処置

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
セルモータは回るが始動しない	❶　燃料タンクに燃料がない。	●燃料を補給し，エア抜きをしてください。（ディーゼル軽油…60Ｌ）	90 106～107
	❷・燃料系統にエアが入っている。 ・フィルタにエアが溜まっている。	●エア抜きをしてください。	106～107
	❸　《**エンジン電源**》ヒューズが切れているため，燃料ポンプが作動しない。	●エンジン電源ヒューズ（20Ａ）を交換してください。	108～110
	❹　燃料コックが「**閉**」のままになっている。	●燃料コックを開けてください。	107
エンジンの馬力が出ない，または自然に止まる	❶　燃料系統に水・ゴミの混入。	●燃料系統の点検・掃除をしてください。 ●燃料フィルタを交換してください。	107
	❷　エアクリーナの目詰まり。	●掃除またはエアクリーナエレメントを交換してください。	104
	❸　エンジンオイルの不良(汚れ)または不足。	●指定のオイルを補給または交換してください。	91～92
	❹　冷却水の不足。	●冷却水を補給してください。	93～94
	❺　エンジンファンベルトのゆるみ。	●ファンベルトを調整してください。	148
	❻　《**エンジン電源**》ヒューズが切れているため，燃料ポンプが作動しない。	●エンジン電源ヒューズ（20Ａ）を交換してください。	108～110

2. 走行・運転操作部

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
主変速レバーを操作しても走行しない	❶ 副変速レバーが《**N**》（**中立**）位置になっている。	●条件に合わせ《**標準**》，または《**走行**》位置にセットしてください。	20
	❷ 油圧オイルタンクのオイル不足。	●規定量まで油圧作動油を補給してください。	96～97
マルチステアリングレバーを操作しても旋回しない	❶ 《**操向**》ヒューズまたは《**マイコン電源**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 操向ヒューズ……10A マイコン電源ヒューズ……15A	108～110
	❷ 油圧バルブへのゴミ噛み。  	●各操作レバーを《**中立**》にしてエンジンを始動してください。アンロードバルブを押しながら，サイドクラッチバルブの《**右旋回**》および《**左旋回**》の手動プッシュを数回押すと，ゴミ噛みが解消する場合があります。（バルブユニットは運転席ステップの下にあります。）	―
	❸ 副変速レバーのスピンドライブターンが確実に切替っていない。	●確実に切替えてください。	20
マルチステアリングレバーを操作してもヘッダ部が上昇または下降しない	❶ 《**リフト**》ヒューズまたは《**マイコン電源**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 リフトヒューズ……10A マイコン電源ヒューズ……10A	108～110
	❷ 油圧バルブへのゴミ噛み。  	●各操作レバーを《**中立**》にしてエンジンを始動してください。アンロードバルブを押したり，ヘッダ部リフトバルブの《**上昇**》および《**下降**》の手動プッシュを数回押すと，ゴミ噛みが解消する場合があります。（バルブユニットは運転席ステップの下にあります。）	―
	❸ 油圧固定スイッチが《**油圧固定**》位置になっている。	●油圧固定スイッチを《**作業時**》位置にしてください。	13

不調時の処置

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
リール上下スイッチを押しても作動しない	❶ **《マイコン電源》**ヒューズまたは**《リフト》**ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 マイコン電源ヒューズ……10A リフトリールヒューズ……15A	108〜110
	❷ 油圧バルブへのゴミ噛み。  	●各操作レバーを**《N》《中立》**にしてエンジンを始動してください。アンロードバルブを押したり，ヘッダ部リールバルブの**《上昇》**および**《下降》**の手動プッシュを数回押すと，ゴミ噛みが解消する場合があります。（バルブユニットは運転席ステップの下にあります。）	―
	❸ 油圧固定スイッチが**《油圧固定》**位置になっている。	●油圧固定スイッチを**《作業時》**位置にしてください。	13
水平操作レバーを操作しても作動しない 水平自動制御が作動しない	❶ **《水平》**ヒューズまたは**《マイコン電源》**ヒューズまたは**《操向》**ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 水平ヒューズ……10A マイコン電源ヒューズ……10A 操向ヒューズ……10A	108〜110
	❷ 油圧バルブへのゴミ噛み。  	●各操作レバーを**《N》《中立》**にしてエンジンを始動してください。メインバルブユニットのアンロードバルブを押しながら，水平制御用バルブユニットの手動押しボタンを数回押すと，ゴミ噛みが解消する場合があります。(バルブユニットは運転席ステップの下側にあります。)	―

3. 電気・自動制御部

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
インジケータ・前照灯・作業灯・バックブザー・ホーンが点灯または作動しない	❶ 《ランプ･計器》ヒューズ,《作業灯》ヒューズ,《マイコン電源》ヒューズ,《ＩＧリレー》ヒューズ,《前照灯》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 ランプ・計器ヒューズ……10Ａ 作業灯ヒューズ……20・30Ａ マイコン電源ヒューズ……15Ａ ＩＧリレーヒューズ……10Ａ 前照灯……15Ａ	108～110
	❷ バッテリの放電。	●バッテリを充電・交換してください。	111～116
方向指示器が点灯しない	《フラッシャ》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 フラッシャヒューズ……15Ａ	108～110
刈高さポジションコントロールが作動しない	《リフト》ヒューズまたは《マイコン電源》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 リフトヒューズ……10Ａ マイコン電源ヒューズ……15Ａ	108～110
選別調節が作動しない	❶ 《選別》ヒューズまたは《マイコン電源》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 選別ヒューズ……20Ａ マイコン電源ヒューズ……10Ａ	108～110
	❷ 揺動流板部にワラクズが溜まっている。	●ワラクズなどがきれいに排出されるまで，脱こく部の空運転をしてください。	14～15
リール変速作動しない	《リール変速》ヒューズまたは《マイコン電源》ヒューズまたは《ＩＧリレー》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 リール変速ヒューズ……20Ａ マイコン電源ヒューズ……15Ａ ＩＧリレーヒューズ……10Ａ	108～110
リール前後が作動しない	❶ 《リール前後》ヒューズまたは《マイコン電源》ヒューズ，または《ＩＧリレー》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 リール前後ヒューズ……30Ａ マイコン電源ヒューズ……15Ａ ＩＧリレーヒューズ……10Ａ	108～110
	❷ 油圧固定スイッチが《油圧固定》位置になっている。	●油圧固定スイッチを《作業時》位置にしてください。	13

4. ヘッダ部

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
ヘッダ部が作動しない	❶　搬送経路に詰まりがある。	●つぎの操作手順で処置してください。 ①パワークラッチ（脱こく･刈取）スイッチを**《切》**にしてください。 ②エンジンを停止してください。 ③ヘッダ部の詰まり箇所を取除いてください。 ④エンジンを始動してください。 ⑤パワークラッチ（脱こく･刈取）スイッチを**《刈取》**にして確認してください。 ※副変速**《中立･N》**で主変速を**《前進・低速》**にしてください。 **取扱いのポイント** **●デバイダが土中に突っ込んで，株抜けしないようにしてください。搬送詰まりの原因になります。**	52～53 134
	❷　刈取クラッチスプリングの調整不良。(ベルトがスリップしている)	●刈取クラッチスプリングの調整をしてください。	142
刈株の長さにムラがある	❶　刈刃の注油不足。	●刈刃に十分注油してください。	102
	❷　刈刃の調整不良。(刈刃のスキマが広い)	●調整ライナでスキマを調整してください。	136
	❸　刈刃の摩耗。	●刈刃を交換してください。	ー
	❹　マルチステアリングレバーの操作不良。	●急激な操作は避けてください。	22
ヘッダ部でロスが多い	❶　刈刃の前で作物が滞留している。	●リールの高さを低くセットし，作物が刈刃からプラットホームオーガへスムーズに送り込まれるようにしてください。	22，57
	❷　プラットホームが高すぎて，作物を短く刈りすぎている。	●作物をプラットホームオーガへ均一に送り込むのに必要な長さになるまでプラットホームを低くしてください。	22，57
	❸　向い刈りで，リールが作物を押さえつけている。	●リール高さを適正にしてください。	57
リールに巻き上げや巻き付きがある	❶　タイン角度が小さすぎている。	●タイン角度を適正にしてください。	138～139
	❷　リール高さが低すぎている。	●リール高さを適正にしてください。	57

5. 脱こく部

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
脱こく部１番，２番詰まりでエンジンが停止した	１番，２番に詰まりがある。（回転していない）	●つぎの手順により処置してください。 ①パワークラッチ（脱こく･刈取）スイッチを**《切》**にしてください。 ②脱こく部１番，２番関係の詰まり箇所を取除いてください。 ③エンジンを始動してください。 ④パワークラッチ（脱こく･刈取）スイッチを**《脱こく》**にして確認してください。 **取扱いのポイント** **●処置後，脱こく部の空運転をし，脱こく内部に溜まったワラクズをきれいに排出してから，刈取りを開始してください。**	131～133
グレンタンク内にこく粒が出ない（脱こく部の詰まり）	❶　こぎ胴回転が規定より低い。	●刈取り作物に合ったこぎ胴回転になっているか確認し回転計を見て，作業回転の各マークの範囲内になるようにして使用してください。	10，52
	❷　ベルトがスリップしている。	●脱こく駆動ベルトを張ります。 ●１番ラセン駆動ベルトを張ります。 ●選別ベルトを張ります。	150～153
	❸　作物が雨・露のために濡れている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除をしてください。	128～129
	❹　選別ダイヤルのセットを誤って使用している。	●作物の種類，作業条件に合わせてダイヤルをセットしてください。	10，52
	❺　１番ラセン底板，２番ラセン底板の掃除口が開いている。	●ノブナットをしっかり締付けてください。	132～133

不調時の処置

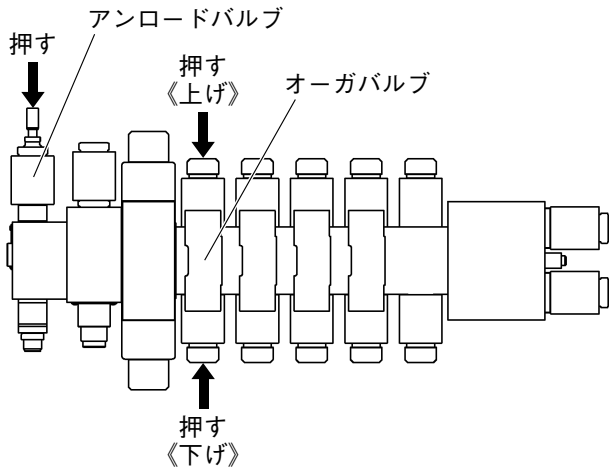
不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
能率が上がらない（こぎ室内で「ゴトゴト音」がする）	❶　作物が雨・露のために濡れている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除をしてください。	128〜129
	❷　こぎ胴回転が規定より低い。	●刈取り作物に合ったこぎ胴回転になっているか確認し回転計を見て，作業回転の各マークの範囲内になるようにして使用してください。	10，52
	❸　刈取り時期が早く，青い作物を刈取っている。	●刈取り適期まで待って刈取ります。 ●作業速度を下げ，できるだけ低能率で作業をしてください。	19〜20
	❹　送じんがスムースでない。	●送じん量調節位置を《**多い**》方向へ調節してください。 （必要に応じてガイドを固定します。）	76〜77
	❺　選別ダイヤルのセットを誤って使用している。	●作物の種類，作業条件に合わせてダイヤルをセットしてください。	52
	❻　作業速度が速すぎる。	●現在の速度より少し落として作業してください。	—
	❼　作物の不均一な送り込みがある。	●不均一な送りの原因を調べて，取除いてください。	—

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
スレッシングロスが多い	❶　エンジンの回転数が高くなっている。	●回転数を見ながら，エンジン回転ダイヤルで規定回転数にしてください。	18
	❷　作業速度の上げ過ぎにより，揺動流板にワラクズなどが停滞気味。	●脱こく能力以上の高能率作業であり，作業速度を下げて作業をしてください。	19〜20
	❸　作物が雨・露のために濡れている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除をしてください。	128〜129
	❹　刈取り時期が早く青い作物を刈取っている。	●刈取り適期まで待って刈取ります。 ●作業速度を下げ，できるだけ低能率で作業をしてください。	52〜53
	❺　選別ダイヤルのセットを誤って使用している。	●作物の種類,作業条件に合わせてダイヤルをセットしてください。	52
こぎ残しが多い	❶　ロータの回転が低い。	●回転計を見ながら，エンジン回転ダイヤルで規定回転に合わせて,マークの範囲内になるようにして作業をしてください。	18
	❷　デバイダで作物を押し刈りしている。	●押し刈りしないように，条間に沿ってデバイダを合わせます。 ●条合わせは，マルチステアリングレバーを小刻みに操作する。（強く操作すると，「**ブレーキ**」が効き，条を外れたり株元を押し倒したりし，高刈りとなります） ●雑草・ワラクズの詰まりを除去してください。 ●横刈りをするとき，刈幅いっぱいの刈取りは行わない。	52〜56
	❸　作物の供給量が不十分になっている。	●作業速度を少し速くしてください。	19〜20
	❹　送じん量調節が《**多い**》方向になっている。	●送じん量調節を《**少ない**》方向へ調節してください。	76〜77
	❺　作物の不均一な送り込みがある。	●作業速度を少し速くしてください。リールが前過ぎていれば，後に下げてください。	19〜20

不調時の処置

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
選別が悪い	❶　エンジンの回転数が低すぎる。	●回転を見ながら，エンジン回転ダイヤルで規定回転数にしてください。	10，52
	❷　トウミの風路，および風路入口にワラクズなどがたまっている。	●ワラクズなどを取除いてください。	—
	❸　トウミの回転数調節が適正でない。	●正しく調節してください。	50
	❹　作物の供給量が不充分になっている。	●作業速度を少し速くしてください。	19〜20
損傷粒が多い	❶　供給量が不適正になっている。	●作業速度を速くしてください。こぎ室内でゴトゴト音がしているときは，作業速度を落として作業してください。	19〜20
	❷　作物の不均一な送り込みがある。	●不均一な送りの原因を調べて，取除いてください。	—
	❸　１番，２番部に土が付着している。	●土をきれいに落としてください。	—
	❹　ロータ回転が高くなっている。	●回転計を見ながら，エンジン回転ダイヤルで規定回転数にしてください。	10，52

6. グレンタンク部

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
排出オーガを操作しても，動かない	❶ 《**オーガ排出**》ヒューズ，《**マイコン電源**》ヒューズ，《**オーガモータ**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 オーガ排出……10A マイコン電源ヒューズ……15A オーガモータヒューズ……30A	108～110
	❷ 油圧バルブへのゴミ噛み。	●エンジンを始動し，アンロードバルブを押しながら，オーガバルブの《**上げ**》および《**下げ**》の手動プッシュを数回押すと，ゴミ噛みが解消する場合があります。 （下図のバルブユニットは，運転席ステップの下にあります。）  	－
	❸ オーガレスト「**格納**」位置でリールが最下げになっていない。	●リール上下スイッチでリールを最下限まで下ろしてください。	22
こく粒排出スイッチを操作してもこく粒が出ない	❶ グレン入力ベルト・グレンタンク横ラセン駆動ベルトのスリップ。	●ベルトの張りを調整してください。	153
	❷ 《**排出クラッチ・フラップ**》，《**マイコン電源**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 排出クラッチ・フラップヒューズ…20A マイコンヒューズ……15A	108～110

取扱いのポイント

●各不調時の点検は，配線接続部の外れ，接触不良およびアース不良の点検も併せて行ってください。

●ヒューズの溶断が再発するときは，点検を受けてください。

7. キャビン部

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
ワイパが作動しない	❶ **《ワイパ》**ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 ワイパヒューズ……15A	108〜110
ウォッシャ液が出ない	❶ ウォッシャ液が不足している。	●ウォッシャ液を補給してください。	99
	❷ **《ワイパ》**ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 ワイパヒューズ……15A	108〜110
クーラが作動しない	❶ **《エアコン》**ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 エアコンヒューズ……20A	108〜110
クーラの風量が少ない	❶ 吸気口のフィルタが目詰まりしている。	●フィルタを掃除してください。	—
室内灯が点灯しない	❶ 電球（バルブ）が切れている。	●電球（バルブ）を交換してください。	—
	❷ **《室内灯・カーステ》**ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 室内灯・カーステヒューズ…10A	108〜110
作業灯が点灯しない	❶ 電球（バルブ）が切れている。	●電球（バルブ）を交換してください。	—
	❷ **《作業灯》**ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換してください。 作業灯ヒューズ……30A	108〜110
	❸ その他。	●**「お買いあげ先」**で点検を受けてください。	—
カーステレオが作動しない	❶ **《室内灯・カーステ》**ヒューズが切れている。	●運転席下のヒューズを交換してください。 室内灯・カーステヒューズ…10A	108〜110
シガライタが作動しない	❶ **《室内灯・カーステ》**ヒューズが切れている。	●運転席下のヒューズを交換してください。 室内灯・カーステヒューズ…10A	108〜110
クーラが冷えない	❶ ガスがない。	**「お買いあげ先」**で点検を受けてください。	—

取扱いのポイント

●各不調時の点検は，配線接続部の外れ，接触不良およびアース不良の点検も併せて行ってください。

●ヒューズの溶断が再発するときは，点検を受けてください。

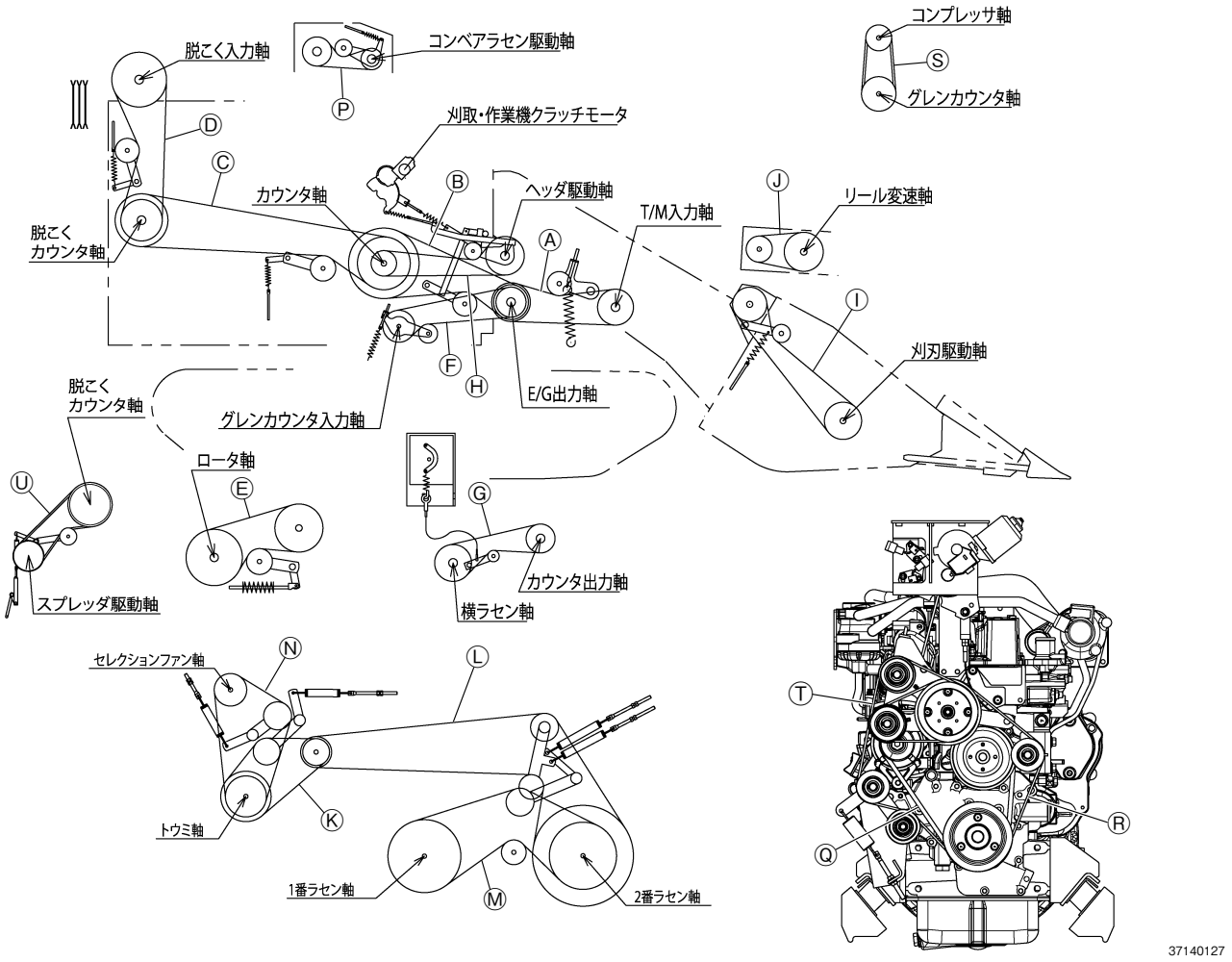
付　表

1．主要諸元

型式名				三菱 C2009	
名称				三菱 VCH750A	
区分				XS	XWS
車両型式名				三菱 YDN－VC75D	
機械寸法（格納時）	全長		(mm)	5520	
	全幅		(mm)	2150	2340
	全高		(mm)	2700	
機体質量（重量）			(kg)	3830	3870
エンジン	型式			V3307－CR－TE4B	
	種類			立形水冷４サイクルコモンレール式ディーゼル	
	総排気量		(L {cc})	3.331 {3331}	
	出力／回転速度		(kW {PS}/rpm)	55.4 {75.3} /2600	
	使用燃料			ディーゼル軽油	
	燃料タンク容量		(L)	60	
	始動方式			セルモータ式	
	バッテリ		(V・Ah)	12・64	
走行部	クローラ	幅×接地長	(mm)	450×1670	
		中心距離	(mm)	1105	
		平均接地圧	(kPa {kgf/cm²})	25.2 {0.26}	25.4 {0.26}
	変速方式			油圧モータ式（HST）	
	変速段数（段）			前進無段，後進無段（副変速２段）	
	走行速度 (m/s)	前進		標準０～1.60，走行０～2.60	
		後進		標準０～1.60，走行０～2.60	
ヘッダ部	デバイダ先端間隔		(mm)	1700	2080
	刈取装置形式			往復動刈刃式（シングル）	
	刃幅		(mm)	1590	1970
	リール	回転径×幅	(mm)	1000×1450	1000×1820
		回転速度	(rpm)	23～33	
	刈高さ範囲（最低～最高）		(mm)	－25～830	
脱こく部	形式			軸流式	
	ロータ径×幅		(mm)	600×1700	
	選別方式			揺動方式および順風選別	
	選別幅		(mm)	700	
こく粒処理部	こく粒処理方式			グレンタンク式（オーガ排出）	
	タンク容量		(L)	1300	
排わら処理装置				チョッパスプレッダ	
安全性検査合格番号				NARO 20/185	

2. ベルト一覧表

記号	伝動系統	本数	部品番号	仕様	
A	エンジン出力軸 ～ ﾄﾗﾝｽﾐｯｼｮﾝ入力軸	2	3592 9027 000	SB61	走行ベルト
B	エンジン出力軸 ～ 作業機カウンタ軸	2	3714 6281 000	LB81	作業機カウンタベルト
C	作業機カウンタ軸 ～ 脱こくカウンタ軸	1	3711 6282 000	SC120	脱こく駆動ベルト
D	脱こくカウンタ軸 ～ 脱こく入力軸	2	3711 6283 000	SC79	脱こくカウンタベルト
E	脱こく入力軸 ～ ロータ軸	3	3711 6125 000	LC63	ロータ駆動ベルト
F	エンジン出力軸 ～ グレンカウンタ入力軸	1	3583 9007 000	LB60	グレン入力ベルト
G	グレンカウンタ出力軸 ～ 横ラセン軸	1	3559 9023 000	SB69	横ラセン駆動ベルト
H	作業機カウンタ軸 ～ ヘッダ駆動軸	1	3574 6541 000	LC63	ヘッダ駆動ベルト
I	刈取カウンタ軸 ～ 刈刃駆動軸	1	3711 4926 000	SC75	刈刃駆動ベルト
J	リール変速入力軸 ～ リール変速出力軸	1	3711 4337 001	RPF16.7-11-877	リール変速ベルト
K	作業機カウンタ軸 ～ トウミ軸	1	0852 1500 035	SB35	トウミ駆動ベルト
L	作業機カウンタ軸 ～ 2番ラセン軸	1	3711 6658 000	LB98	選別ベルト
M	2番ラセン軸 ～ 1番ラセン軸	1	3711 6645 000	SB65	1番ラセン駆動ベルト
N	トウミ軸 ～ セレクションファン軸	1	0852 1500 039	SB39	セレクションファン駆動ベルト
P	1番上部ラセン入力軸 ～ 1番上方横ラセン軸	1	0852 1500 034	SB34	1番上方横ラセン駆動ベルト
Q	エンジンＰＴＯ軸 ～ エンジンファン軸	1	9982 0002 490	890㎜	ファンベルト（オルタネータ）
R	エンジンＰＴＯ軸 ～ エンジンファン軸	1	3685 0236 000	3PK1150	ファンベルト
S	コンプレッサ	1	3688 3959 000	FM27	コンプレッサベルト
T	エンジンＰＴＯ軸 ～ エンジンファン軸	1	3685 0223 000	3PK630	ファンベルト
U	脱こくカウンタ軸 ～ スプレッダ駆動軸	1	3553 0054 001	LB59	スプレッダ駆動ベルト



37140127

3. 主な消耗部品

No.	名　　称	部品番号	個数	備　　考
1	走行ベルト SB61（W800）	3592 9027 000	2	エンジン出力軸～トランスミッション入力軸
2	作業機カウンタベルト LB81（ベアバック）	3714 6281 000	2	エンジン出力軸～作業機カウンタ軸
3	脱こく駆動ベルト LC120	3711 6282 000	1	作業機カウンタ軸～脱こくカウンタ軸
4	脱こくカウンタベルト SC79	3711 6283 000	2	脱こくカウンタ軸～脱こく入力軸
5	ロータ駆動ベルト LC63（ベアバック）	3711 6125 000	3	脱こくカウンタ軸～ロータ軸
6	グレン入力ベルト LB60（AG8A）	3583 9007 000	1	エンジン出力軸～グレンカウンタ入力軸
7	横ラセン駆動ベルト SB69（W800）	3559 9023 000	1	グレンカウンタ出力軸～横ラセン軸
8	ヘッダ駆動ベルト LC63（W800）	3574 6541 000	1	作業機カウンタ軸～ヘッダ駆動軸
9	刈刃駆動ベルト SC75（W800）	3711 4926 000	1	刈取カウンタ軸～刈刃駆動軸
10	リール変速ベルト B34.5（コグ）	3711 4337 001	1	リール変速入力軸～リール変速出力軸
11	トウミ駆動ベルト SB35	0852 1500 035	1	作業機カウンタ軸～トウミ軸
12	選別ベルト LB98（AG8A）	3711 6658 000	1	作業機カウンタ軸～２番ラセン軸
13	１番ラセン駆動ベルト SB65（W600）	3711 6645 000	1	２番ラセン軸～１番ラセン軸
14	セレクションファン駆動ベルト SB39	0852 1500 039	1	トウミ軸～セレクションファン軸
15	１番上方横ラセン駆動ベルト SB34	0852 1500 034	1	１番上部ラセン入力軸～１番上方横ラセン軸
16	ファンベルト（オルタネータ）890㎜	9982 0002 490	1	エンジンPTO軸～エンジンファン軸
17	ファンベルト 1150㎜	3685 0236 000	1	エンジンPTO軸～エンジンファン軸
18	コンプレッサベルト FM27	3688 3959 000	1	コンプレッサ
19	ファンベルト 630㎜	3685 0223 000	1	エンジンPTO軸～エンジンファン軸
20	スプレッダ駆動ベルト LB59（AG8A）	3553 0054 001	1	脱こくカウンタ軸～スプレッダ駆動軸
21	チェン46L	3711 5831 000	1	ヘッダ入力軸～FH駆動軸
22	フィーダチェン79L	3711 5505 001	2	FH
23	チェン168L	3711 5795 000	1	FH駆動軸～ヘッダカウンタ軸
24	チェン110L	3711 5321 000	1	ヘッダカウンタ軸～PFオーガ
25	チェン64L	0871 2130 646	1	刈取カウンタ軸～リール変速入力軸
26	チェン41L	0870 2130 41A	1	リール変速入力軸～リールカウンタ軸
27	チェン130L	0870 9201 303	1	リールカウンタ軸～リール
28	エレベータチェン113L	3719 6341 000	1	１番バケットコンベアチェン
29	エレベータチェン118L	3711 6441 000	1	２番スラットコンベアチェン
30	タイン	3711 4011 000	72	リールタイン（1.7m）
31	タイン	3711 4011 000	87	リールタインW仕様（2.1m）
32	フィンガ	3711 5112 000	9	PFオーガ
33	刈刃駆動アイボルト	3711 4903 000	1	刈刃駆動用のボールジョイントボルト
34	刈刃	3711 4701 000	1	刈刃アッシ（1.7m）
35	刈刃	3715 4701 000	1	刈刃アッシW仕様（2.1m）
36	ワイヤー	3711 4622 000	1	リール高さ検出用ワイヤー
37	スラット	3711 5508 BN0	14	FHスラット
38	扱歯A	3711 6035 000	23	前側
39	扱歯B	3711 6035 500	42	後側
40	ボルト	H144 0106 012	18	シリンダスパイラル前側補強取付
41	六角穴ボルト	A544 0706 012	5	シリンダスパイラル
42	六角穴ボルト	A544 0706 016	138	シリンダスパイラル
43	六角穴ボルト	A544 0706 020	16	シリンダスパイラル
44	受網A	3711 7201 BN0	1	18P
45	受網B	3711 7202 BN0	1	25P
46	受網C	3711 7203 BN0	1	18P
47	受網D	3711 7204 BN0	1	25P
48	補強プレート前	3711 6038 000	2	シリンダスパイラル補強
49	補強プレート	3711 6036 000	1	シリンダスパイラル補強
50	補強プレート	3711 6037 000	1	シリンダスパイラル補強

No.	名　　称	部品番号	個数	備　　考
51	補強プレート	3711 6039 000	4	シリンダスパイラル補強
52	排稈羽根	3711 6041 000	3	シリンダ後側排わらフィンガ
53	フィン	3714 8244 000	3	撥水加工フィン（駆動）
54	フィン	3714 8248 001	11	撥水加工フィン（従動）
55	シール	3553 7609 001	2	シリンダカバー部
56	シール	3711 7405 000	2	シリンダカバー部
57	シール	3711 7621 000	2	シリンダサイドカバー部
58	シール	3711 7622 000	2	シリンダサイドカバー部
59	シール	1048 6284 000	1	２番コンベア上
60	シール	4356 6212 000	2	２番還元口
61	ラバーＢ	3556 7026 000	3	１番上部開口部（１個），２番上部開口部（２個）
62	シール	1048 6284 000	1	１番コンベア上
63	スパイラルシャフト１－１	3719 6601 000	1	１番コンベアラセン
64	スパイラルシャフト１－２	3714 9614 000	1	１番上方横ラセン
65	プレート	3711 6355 000	2	１番上方横ラセン終端の跳ね出し板
66	バケット	3711 6342 001	28	１番バケット
67	スパイラルシャフト２－１	3711 6651 002	1	２番コンベアラセン
68	プレート	3711 6443 000	29	２番スラット
69	スパイラルシャフト２－２	3711 6451 002	1	２番還元ラセン
70	プレート	3711 6452 ZB0	2	２番ラセン上ラセンの終端部の跳ね出し板
71	スパイラルシャフト	3583 9071 001	1	グレンタンク下コンベアラセン
72	スパイラスシャフトＡ	3574 9321 001	1	オーガ縦ラセン
73	スパイラルシャフトＢ	3583 9366 000	1	オーガ横ラセン
74	スパイラルシャフトＤ	3574 9385 000	1	オーガ横ラセン
75	フィルタ10	3544 1855 000	2	HST，油圧フィルタ
76	エアクリーナエレメント	9910 0021 380	1	エアクリーナエレメントアッシ
77	エアクリーナエレメント	K522 3126 150	1	エアクリーナ（インナー）
78	フィルタ	0980 6000 00B	1	油圧タンク注油口
79	フィルタ	3742 0041 100	1	燃料フィルタ
80	エンジンオイルフィルタ	9966 0008 020 9978 0006 870	1	
81	バッテリー	F985 195D 31R 2	1	
82	ナイフ　T5	3711 8415 000	12	チョッパの回転刃
83	ナイフ	3711 8425 000	11	チョッパの固定刃
84	ヒューズ	0980 1003 006	6	30A
85	ヒューズ	0980 1002 006	11	20A
86	ヒューズ	0980 1001 506	7	15A
87	ヒューズ	0980 1001 006	16	10A
88	ヒューズ	0980 2003 0A1	1	30A
89	ヒューズ	0980 2003 0B1	1	30A
90	ヒューズ	0980 2010 0B1	1	100A
91	ヒューズ	0980 2006 0B1	1	60A
92	ヒューズ	0980 2005 0B1	2	50A
93	ヒューズ	0980 2005 0A2	1	50A
94	ヒューズ	0980 2004 0A2	1	40A
95	ヒューズ	0980 2002 0A2	1	20A
96	ヒューズ	0980 2003 0A2	1	30A
97	マット	3688 0327 500	1	パイプ部断熱材
98	マット	3688 0327 600	1	パイプ部断熱材
99	マット	3688 0327 000	1	DPFカバー断熱材
100	マット	3688 0327 100	1	DPFカバー断熱材

No.	名　　称	部品番号	個数	備　　考
101	ランプバルブ	0980 8122 104	1	12V21W　後退灯
102	ランプバルブ	0980 8122 104	2	12V21W　フロントコンビ（方向指示器）
103	ランプバルブ	3688 3036 500	2	12V 5W　フロントコンビ（車幅灯）
104	ランプバルブ	1062 1121 200	4	12V25W　作業灯（キャビン）
105	ランプバルブ	0980 8120 508	1	12V 5W　室内灯
106	ランプバルブ	3565 0904 100	2	12V35W　前照灯
107	ランプバルブ	1035 6281 200	2	12V27W　作業灯（刈取部）
108	ランプバルブ	0980 8122 104	2	12V21W　リヤコンビ（方向指示器）
109	ランプバルブ	1956 6731 200	2	12V21/5W リヤコンビ（尾灯・制動灯）

4. 付属品一覧表

No.	品　　名	個　数	備　　考
1	取扱説明書	1	
2	コンバインシート	1	
3	保証書	1	
4	メンテナンスノート	1	

5. アタッチメント（別売り）

	型　　式	商　品　名	備　　考
基本作業機・部品	K－VCH65B1	大豆専用キット	大豆の作物条件に合わせて装着する専用交換部品
	K－VCH65B2	小径大豆専用キット	小径大豆などの作物条件に合わせて装着する専用交換部品
	K－VCH75K	標準共通キット	大豆・小径大豆などを収穫するときに装着する共通交換部品
	K－VCH65SLAT	ビーンスラットキット	大豆などのヘッドロス低減のためにリールに装着する専用追加部品
	K－VCH75WSLAT	ビーンスラットキット	[W仕様]大豆などのヘッドロス低減のためにリールに装着する専用追加部品
	K－VCH65PFDS	PFオーガ回転減速キット	大豆などのヘッドロス低減のためPF回転を低減する専用交換部品
	K－VCH65REDS	リール回転減速キット	大豆などのヘッドロス低減のためリール回転を低減する専用交換部品
	B1150－SM	大豆直接排出キット	大豆をバケットコンベアで排出する専用追加部品
	K－VCH75BHT	大豆直接排出取付キット	大豆直接排出キットを本機に取付るための専用追加部品
	K－VCH65M2IN	２インチ刈刃キット	大豆などのヘッドロス低減のため装着する専用交換部品
	K－VCH65J	対地平行・刈高さ自動キット	刈高さなどを一定に保つ制御を行うための専用追加部品
	K－VCH75WJ	対地平行・刈高さ自動キット	[W仕様]刈高さなどを一定に保つ制御を行うための専用追加部品
	K－VCH65FAN	防塵ファンキット	FH内部などのホコリなどを機外へ排出するための専用ファン
	部品No：9495-0006-320	リフタ	倒伏材収穫時などに追加装着するデバイダ 部品No：9495-0006-280　リフタコマ（別売り） 部品No：9495-0000-890　角ボルト（別売り）
	K－V6120CMR	オーガ先端カメラ	オーガの先端に追加するカメラとコントローラ
	K－RCVSVCH	オーガ無線リモコン	離れた場所からオーガを操作するための追加部品
	K－VCH65SN	そば・なたねキット	そば・なたねの作物条件に合わせて装着する専用交換部品
	K－V6120MNT	オーガ先端・バック専用モニタキット	専用外部モニタ部品
	部品No：3711 8150 000	はと麦キット	はと麦の作物条件に合わせて装着する専用交換部品
	K－VCH75COR	コーンキット	コーンの作物条件に合わせて装着する専用追加部品
	K－VCH75WCOR	コーンキット（ワイドヘッダ用）	
	K－VCH75CORG	長稈キット（コーン用）	

6. 潤滑油について

オイルは，三菱農業機械純正油をお奨めします。

1. エンジンオイル

メーカ	商品名
三菱農業機械純正油	スーパークリーンディーゼルオイル（SAE・10W－30，DH－2）
全農 ENEOS	ディーゼルDH－2/CF－4（SAE・10W－30）

・やむをえず他メーカのオイルを使用される場合は，APIサービス分類CJ－４またはJASO分類DH－２オイルをお使いください。

2. 油圧作動油

メーカ	商品名
三菱農業機械純正油	スーパーマルチSTOU2オイル（SAE・10W－30，CF・CF－4/SF/GL－4）
ENEOS	スーパーハイランド46

3. ギヤオイル

メーカ	商品名
三菱農業機械純正油	スーパーマルチSTOU2オイル（SAE・10W－30，CF・CF－4/SF/GL－4）※
	マルチSHPギヤオイル（SAE90，GL－5）
ENEOS	ギヤオイルGL－5（SAE90，GL－5　SAE140，GL－5）

※スーパーマルチSTOU2オイルのギヤオイルSAE粘度は80W－85です。

取扱いのポイント

●トランスミッションケースのオイルは，ギヤオイルAPI・GL－5，SAE・90を使用してください。

4. グリス

メーカ	商品名
三菱農業機械純正油	ヤナセのグリス

5. 防錆・潤滑油

メーカ	商品名
三菱農業機械純正油	NX-127

取扱いのポイント

●各部の潤滑，防錆などは，指定のオイルを使用してください。守らないと，焼付きや作動不良を起こすことがあります。

7. 専門用語

名称	略称	機能の説明
クイックアップ		ヘッダリフトと同時にリールを下降させる稈こぼれを低減するための自動機能
クイックセット		クイックアップ直前のヘッダ高さ，リール高さに自動で戻す自動機能
リフトシャット		ヘッダを一定高さ以上上昇させたときにヘッダ回転を止める機能
機体水平制御		機械を水平に保つ機能
対地平行制御		地面に対して刈刃が平行になるように機械を傾ける機能
オーガ自動収納		排出後，オーガレストのある位置にオーガを自動で戻す（収納する）機能
刈高さポジションコントロール	刈高ポジコン	地面の状態に関係なくヘッダの高さを一定以下に下がらない用にコントロールするための自動制御機能
対地刈高さコントロール	対地刈高	常に地面に対する刈刃の位置（地面と刈刃のスキマ）を一定にコントロールする自動制御機能
強制かき込み		ヘッダ高さ，車速信号の有無に関係なく，主変速レバーに取付けられたボタンを押している間はリールが下がり，ヘッダ全体が最高速で回転する機能
倒伏モード		主変速レバーに取付けられたボタンを押すとリールが下がり，前に出ると共にリール回転速度が上昇する機能。もう一度押すと元に戻る
ヘッダー（刈取部）	ヘッダ	作物を刈取り，脱こく部に供給する部分
フィーダハウス	FH	作物をプラットホームオーガから脱こく部に搬送する部分
プラットホームオーガ	PFオーガ	作物をフィーダ入口に寄せるラセンのついている円筒の部分
刈刃		ヘッダ部に取付けてある作物を切断する刃
デバイダ		ヘッダ部の左右の最前部にある作物を分草する部分
ナローガイド		デバイダ外側に取付けられている分草した作物の倒れ込みを防止するガイド
リール		回転して作物を引起こすヘッダ部の六角形状の部分
リール変速		リールの回転数を任意（あるいは自動）で変更する部分
脱こく部		ヘッダから供給された作物からこく物とわらを分離し，こく物だけを回収する装置
軸流式ラセンロータ	ロータ	FHから搬送された作物を脱こくするドラム
ロータ変速ギヤケース	ロータギヤケース	ロータの回転速度を切り替えるための変速機
ロータカバー		軸流ラセンロータを覆う送じんガイドが取付けられた開閉式のカバー
送じんガイド		ロータカバー内の被処理物の処理の度合いをコントロールするためのガイド
ロータサイドカバー		脱こく部の左面上側の跳ね上げ式のカバー
トウミファン		選別部最前部分に設置されている選別風を発生させるファン
ターボファン		一番ラセンと二番ラセンの間に設置されている選別風を発生させる補助ファン
サードファン		トウミファンの上方に設置されている選別風を発生させる補助ファン
バケットコンベア		一番ラセンから搬送されたこく粒をグレンタンクへ縦搬送するバケット付きコンベア
スラットコンベア		二番ラセンから搬送されたこく粒を二番上部ラセンに縦搬送するスラットコンベア
撥水揺動流板	撥水揺動	揺動のチャフシーブ（あるいは波板と両方）にフッ化樹脂コーティング塗装を施した揺動
グレンシーブ		こく物を選別する揺動の網状の部分
チャフシーブ		受網から漏下されたこく粒と茎などを選別する短冊状の部品
排じんケース		排稈，排じんをそのまま排出するときに取付ける部品
チョッパスプレッダ	チョッパ	排稈，排じんを切断し，ほ場に均一に拡散する装置
排出オーガ	オーガ	グレンタンクに入れたこく粒を排出するための筒
オーガレスト		オーガを格納するためのステー
オーガリモコン		運転シート後方に取付けられた排出オーガをコントロールするためのワイヤードリモコン
グレンタンク	タンク	脱こくされたこく粒をためておくタンク
ヘッドロス		ヘッダ部で発生する作物損失
スレッシングロス		脱こく部で発生する作物損失

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号（製造番号）は…？

型　　式

機械番号（製造番号）

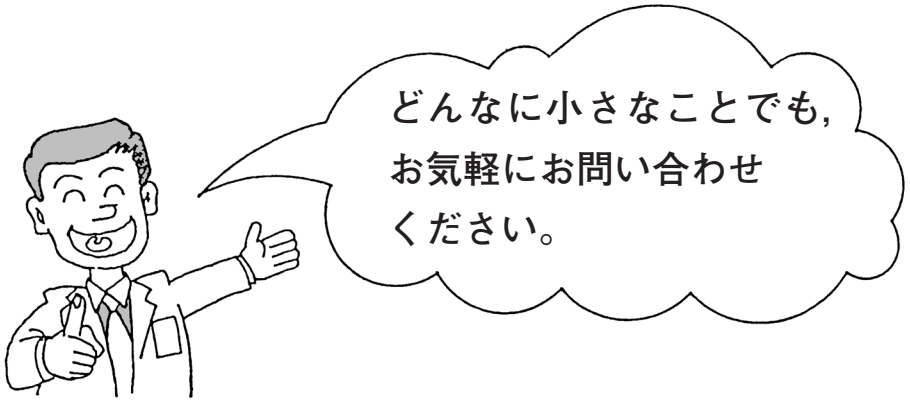
●ご使用状況は…？

（どんな作業のとき）

●どのくらい使用されましたか？

（約 _____ アール使用後）

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



（ご相談窓口）お買いあげ先

ＴＥＬ　　（　　）